Light you up

DAIHATSU

01999-B2468

TanTo

取扱説明書

ご使用の前によくお読みください

DAIHATSU

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

・本書は、タントの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・福祉車両（ウェルカム シート、スローパー）にお乗りの方は、本書とともに別冊の取扱説明書を参照ください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠警告	**警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。**
⚠注意	**注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。**
アドバイス	**お車のために守っていただきたい事項です。**
オプション/グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

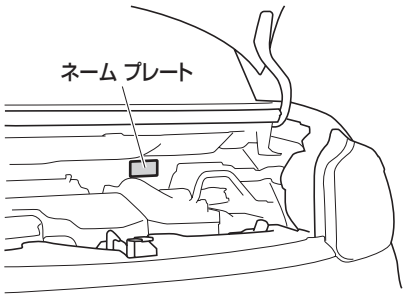
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のダイハツ サービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF-　　型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネーム プレートはエンジン ルームに貼り付けしてあります。



MEMO

目　　次

絵目次 2

必読！ドライバーのみなさまへ 11

走行する前に 12
エンジンをかけるときは 15
走行しているときは 16
駐停車するときは 19
安全な燃料給油のために 21
SRSエアバッグについて 23
CVT車について 25
お子さまを乗せるときは 27
お車を長持ちさせるには 31
こんなときは 33
知っておいていただきたいこと 36

安全装備 39

シート 40
シート ベルト 53
お子さま専用シート 59
SRSエアバッグ 73
ABS 87
エマージェンシー ストップ シグナル 89
VSC&TRC 90
ヒル ホールド システム 98
スマートアシストⅢ 100
コーナー センサー 136

車を運転する前に 141

車体各部の開閉 142
車体各部の調整 199

車を運転するにあたって 207

メーターのはたらき 208
表示灯、警告灯のはたらき 220
スイッチの使いかた 235
運転装置の使いかた 250
エンジンのかけかた 261
CVT車の運転 264
アイドリング ストップ システムの使いかた 274
エコ発電制御 285

装備品の使いかた 287

空調 288
オーディオ 306
室内装備品 318

いざというときに 347

工具類 348
いざというときの処置 354

車のお手入れ 397

車のお手入れ 398

積雪、寒冷時の取り扱い 423

積雪、寒冷時の取り扱い 424

サービス データ 431

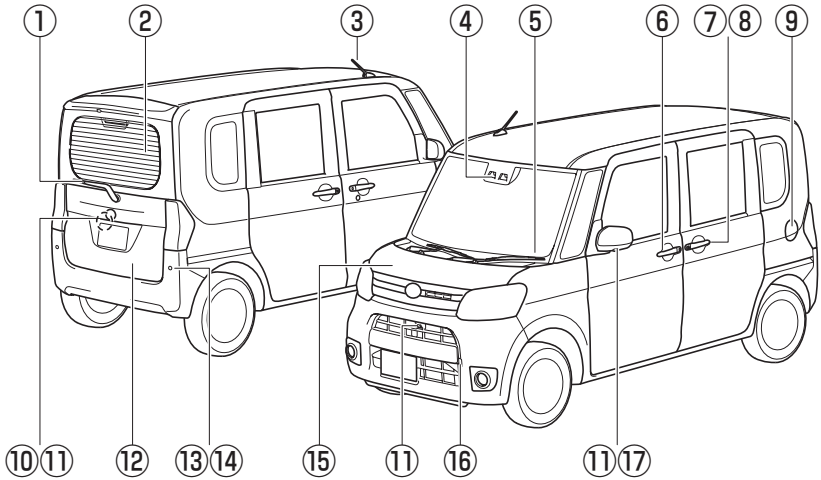
さくいん 437

絵目次

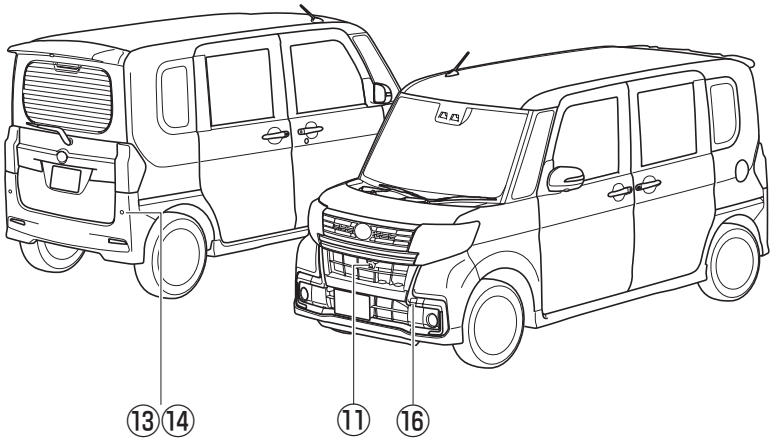
外観

グレードの違い、注文装備も記載しています。

標準車



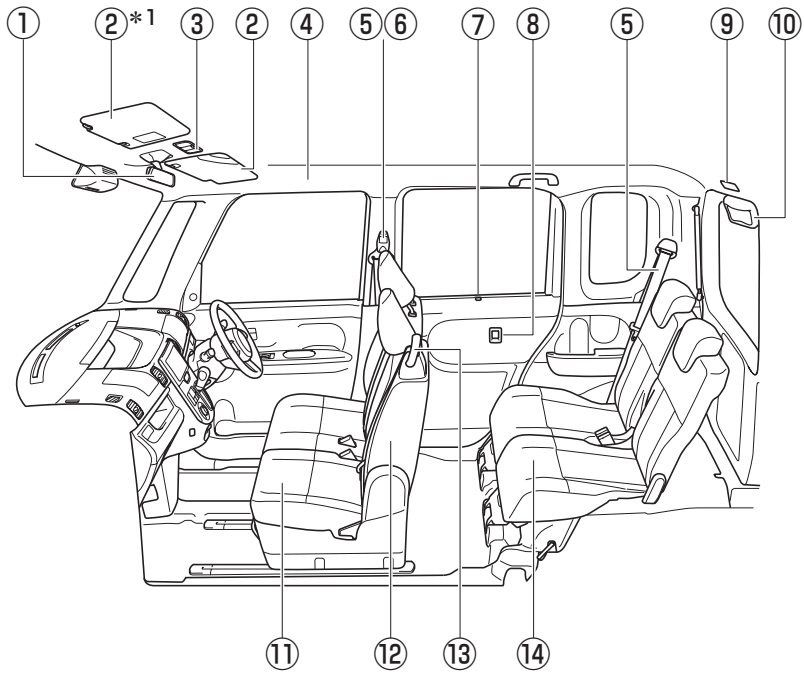
カスタム仕様車



①リヤ ワイパー ---------- 245
②リヤ ウインド デフォッガー ---------- 247
③ルーフ アンテナ ---------- 306
④ステレオ カメラ ---------- 102
⑤フロント ワイパー ---------- 245
⑥ドアの開閉 ---------- 163
⑦スライド ドア ---------- 171
⑧パワー スライド ドア ---------- 175
⑨フューエル リッド ---------- 192
⑩バック カメラ ---------- 308
⑪パノラマ モニター用カメラ ---------- 312
⑫バック ドア ---------- 186
⑬ソナー ---------- 105
⑭コーナーセンサー（リヤ） ---------- 136
⑮ボンネット ---------- 190
⑯けん引フック ---------- 358
⑰電動格納式ドア ミラー ---------- 199

内装（1）

グレードの違い、注文装備も記載しています。



＊1 助手席側サン バイザーに以下内容のラベルが貼られています

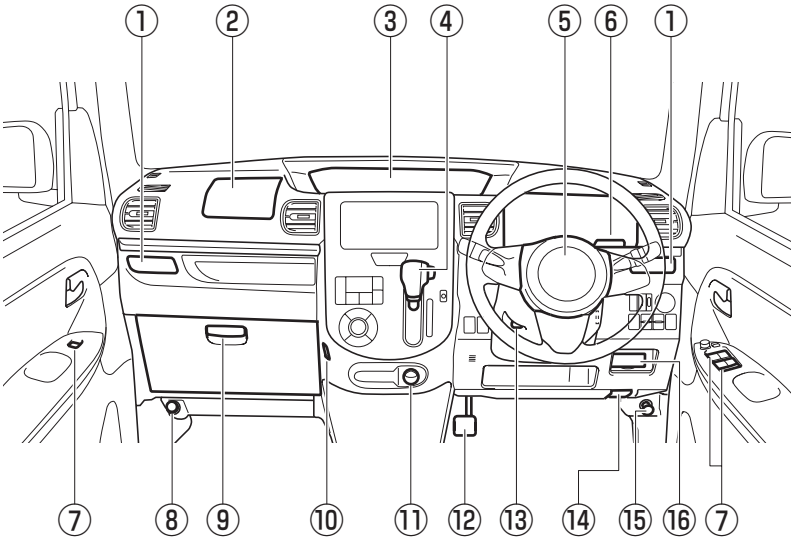
助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド
シートを後ろ向きに取り付けないでください。
SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（チャイルド シートの固定のしかた→ 66 ページ）

①ルーム ミラー ---------- 199
②サン バイザー ---------- 322
③ルーム ランプ ---------- 318
④SRSカーテン シールド エアバッグ ---------- 79
⑤シート ベルト ---------- 56
⑥アジャスタブル ショルダー ベルト アンカー ---------- 57
⑦格納式リヤ ドア サンシェード ---------- 323
⑧パワー ウインド ---------- 194
⑨ラゲージ ルーム ランプ ---------- 319
⑩リヤ アンダー ミラー ---------- 203
⑪フロント シート ---------- 41
⑫SRSサイド エアバッグ ---------- 79
⑬乗降グリップ ---------- 330
⑭リヤ シート ---------- 47

内装（2）

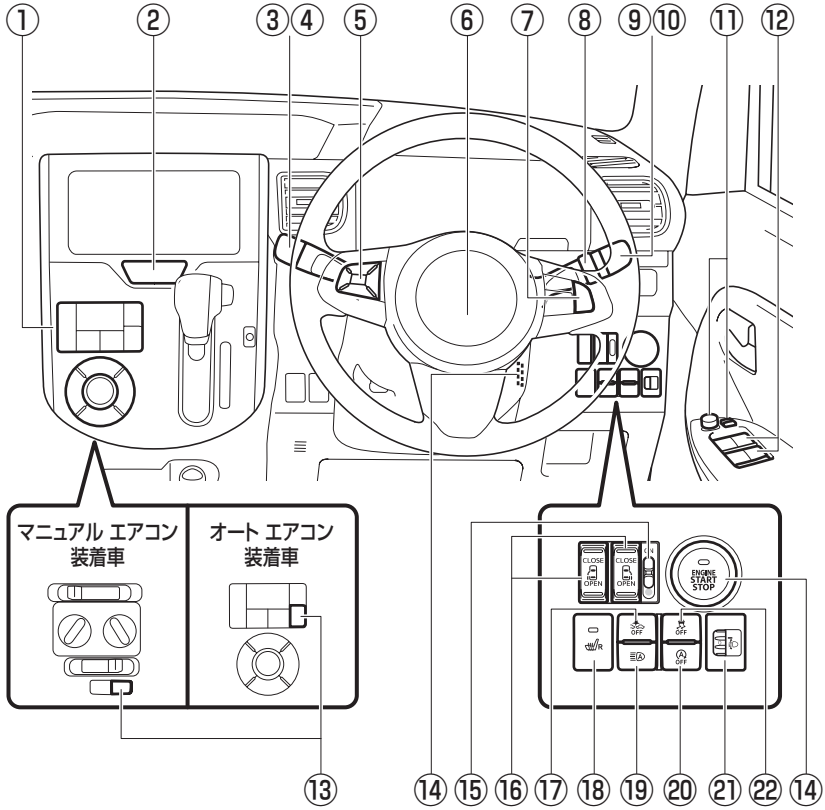
グレードの違い、注文装備も記載しています。



①ワンプッシュ式オート オープン カップ ホルダー（前席） -------327
②助手席SRSエアバッグ---------- 73
③メーター ----------208
④シフト レバー ----------264
⑤運転席SRSエアバッグ---------- 73
⑥インパネ アッパー ボックス ----------325
⑦パワー ウインド スイッチ----------194
⑧発炎筒----------356
⑨グローブ ボックス ----------325
⑩ショッピング フック----------329
⑪アクセサリー ソケット----------321
⑫駐車ブレーキ----------257
⑬チルト ステアリング レバー ----------204
⑭フューエル リッド オープナー----------193
⑮ボンネット オープナー----------190
⑯ETC----------331

運転席まわり

グレードの違い、注文装備も記載しています。



①エアコン
マニュアル エアコン----------288
オート エアコン----------296
②非常点滅灯スイッチ----------244
③フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ----------245
④リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ----------245
⑤オーディオ操作用ステアリング スイッチ----------307
⑥ホーン スイッチ----------249
⑦D assist切替ステアリング スイッチ ----------260
⑧フォグ ランプ スイッチ----------246
⑨ライト スイッチ----------235
⑩方向指示スイッチ ----------243
⑪ドア ミラー スイッチ ---------- 199
⑫パワー ウインド スイッチ---------- 194
⑬リヤ ウインド デフォッガー スイッチ ----------247
⑭エンジン スイッチ
プッシュ ボタン スタート スイッチ----------251
キー差込みタイプ ----------250
⑮パワー スライド ドア メイン スイッチ---------- 178
⑯パワー スライド ドア スイッチ（左側／右側）---------- 179
⑰スマートアシストOFFスイッチ ---------- 134
⑱運転席シート ヒーター スイッチ----------248
⑲オート ハイ ビーム スイッチ----------237
⑳eco IDLE OFFスイッチ ----------283
㉑ヘッド ランプ マニュアル レベリング スイッチ ----------242
㉒VSC&TRC OFFスイッチ ---------- 96

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう

必読！
ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

	警告に値する項目です
	注意に値する項目です

走行する前に ---------- 12
エンジンをかけるときは ---------- 15
走行しているときは ---------- 16
駐停車するときは ---------- 19
安全な燃料給油のために ---------- 21
SRSエアバッグについて ---------- 23
CVT車について ---------- 25
お子さまを乗せるときは ---------- 27
お車を長持ちさせるには ---------- 31
こんなときは ---------- 33
知っておいていただきたいこと ---------- 36

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

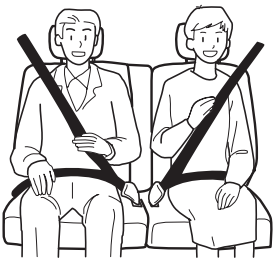
シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（シート→ 40 ページ）
（車体各部の調整→ 199 ページ）

シート ベルトはしっかりと着用してください

走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。
（リヤ シートでも必ずシート ベルトを着用してください。）
シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
必ず正しい着用方法を身に付けてください。

（正しい着用→ 53 ページ）



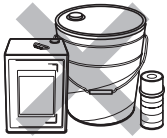
妊娠中の方もシート ベルトを着用してください

妊娠中の方も下記の要領でシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

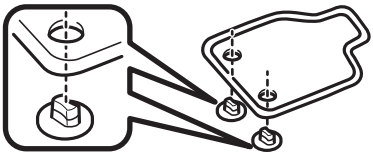
運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキ ペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセル ペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

フロア マットはダイハツ純正品を使用してください

フロア マットを使用するときは、以下の項目を必ず守って正しく装着してください。

- この車専用の純正品を使用してください。
- 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
- ずれないようにフロア マット付属の専用フックで必ず固定してください。



- 重ねて使用しないでください。
- 運転前にフロア マットが正しく固定されていることを確認してください。
- フックの破損などにより、フロア マットが固定できなくなったときは、すみやかにフロア マットの使用を中止してください。

これらを守らないと、ブレーキ ペダルやアクセル ペダルにフロア マットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。
タイヤ空気圧は、最低でも月に 1 回は点検を行ってください。
タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやバック ドアなど）やアルミ部分にとりつけることはできません。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

CVT車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でシフト レバーを必ずⓅレンジにして、ブレーキ ペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

（エンジンのかけかた→ 261 ページ）

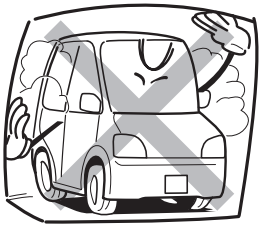
排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。



走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作動しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 394 ページ）

下り坂ではエンジン ブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂をⒹレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてシフト レバーをⓈレンジまたは、Ⓑレンジに入れてエンジン ブレーキを併用しましょう。
その際には、急激なエンジン ブレーキ（シフト レバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキ パッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確かめてください。
効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき
→ 354 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

走行しているときは

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。
また、リヤ シートの背もたれを前倒しした状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。
人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（シート→ 40 ページ）

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

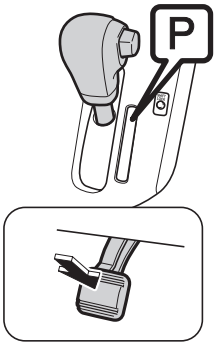
駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

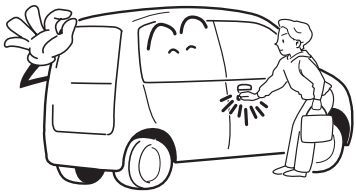


燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。
車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。



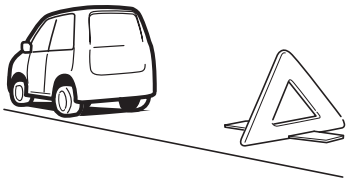
駐停車するときは

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、風通しの良くない所や風向きによっては、排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。
万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスク ホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスク ホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。ただし、eco IDLEが作動してアイドリング ストップしたときは、アイドリング運転は不要です。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。
よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

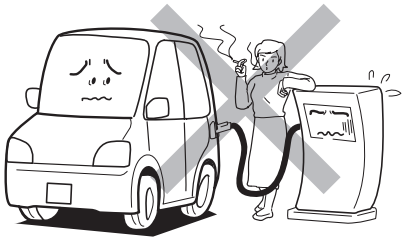
必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

燃料給油時には、必ず下記のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
必ず下記のことをお守りください。

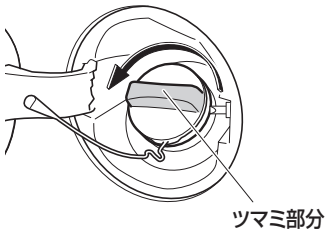
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。



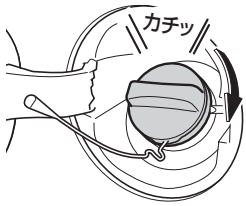
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。
  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。



- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオート ストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリン スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。



- 純正品のフューエル キャップ（指定）以外は使用しないでください。
- その他、ガソリン スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

シート ベルトを着用してください

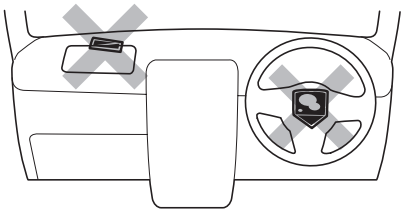
SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトと併用してください。
SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのダイハツ サービス工場にご連絡ください。

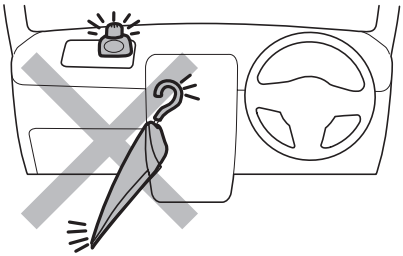
パッド部、インストルメント パネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーでおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



SRSエアバッグについて

走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。
また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ装着車について

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがありますので、下記のことを守ってください。

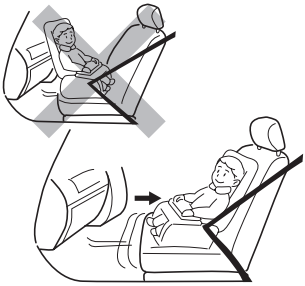
- ドア近辺にもたれかからないでください。
- ドアやその周辺にカップ ホルダーなどを取り付けないでください。
- フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがありますので、フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のダイハツ純正のシート カバー以外は取り付けないでください。

（SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ→ 79 ページ）

チャイルド シートは正しく取り付けてください

助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

（SRSエアバッグ→ 73 ページ）



CVT車について

CVT車の運転のページも併せてお読みください。

CVT車の特性や操作上で注意していただきたいこと

CVT車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置では、動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車が動き出します。
停車中は平坦路であっても車が動かないようにブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください

ペダルの踏み間違えがないように、右足でアクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を確認し、必ずシフト レバーがⓅレンジの位置になっていることを確認してください。

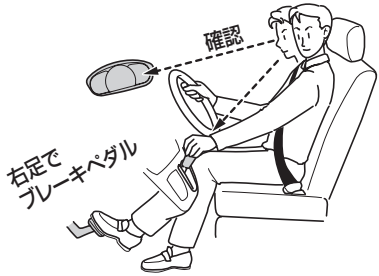
ブレーキ ペダルは右足で操作してください

ブレーキ ペダルはアクセル ペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。

スタートするときはブレーキペダルを踏んだままシフト レバーを操作してください

シフト レバーがどの位置にあるかをシフト レバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキ ペダルをしっかりと踏んだままシフト レバーを操作してください。
また、アクセル ペダルを踏んでのシフトレバー操作はしないでください。

（運転のしかた→ 268 ページ）



CVT車について

走行中はシフト レバーをⓃレンジの位置に入れないでください

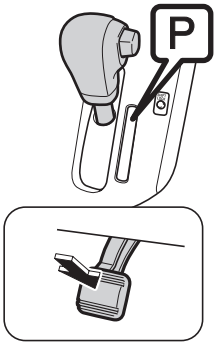
走行中はシフト レバーをⓃレンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。
また、下り坂などでは必ず路面状態やスピードに応じてシフト レバーをⓈレンジまたは、Ⓑレンジに入れてエンジン ブレーキを使用してください。ブレーキ ペダルを踏み続けることはやめてください。

坂道などで注意していただきたいこと

坂道などでは、シフト レバーをⒹ、ⓈレンジまたはⒷレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

駐停車するときは

駐停車するときは、必ずシフト レバーをⓅレンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。
また、車が完全に停止するまでシフト レバーをⓅレンジには入れないでください。



お子さまを乗せるときは

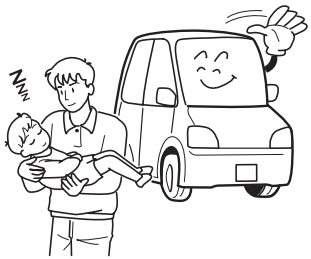
ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。
開閉、施錠、解錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド セーフティを使用してください。

（車体各部の開閉→ 142 ページ）

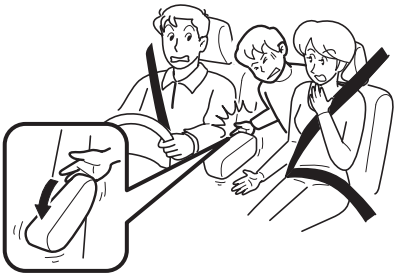
車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒に車を離れてください。



シート、アーム レストの操作は大人が注意しながら行ってください

操作を行うときは動いている部分にお子さまの手や足を挟まないように注意してください。
隙間に指などが挟まると、けがをするおそれがあります。



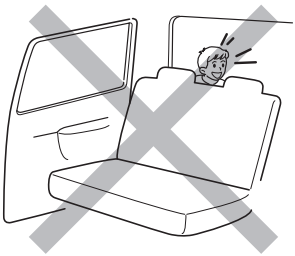
お子さまを乗せるときは

お子さまは大人と一緒に後部座席にお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



お子さまにもシート ベルトを着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。
  また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート ベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルド シート、ジュニア シートを使用してください。
  通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
  また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビー シートを使用してください。
- ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルド シート→ 59 ページ）

- ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
  シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップテザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

（チャイルド シートの固定のしかた
→ 66 ページ）

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

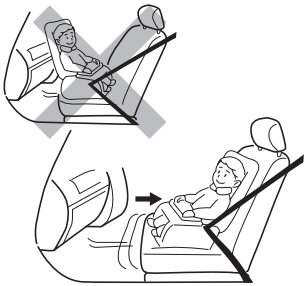
お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。

* ISOはInternational Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

お子さまを乗せるときは

チャイルド シートは正しく取り付けてください

助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。



パワー ウインドはお子さまに操作させないでください

パワー ウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にすると、運転席ウインド ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にしてください。

（パワー ウインドON-OFFスイッチ
→ 196 ページ）

お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。

お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、ダイハツが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

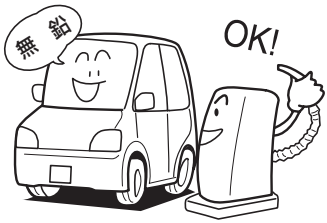
海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



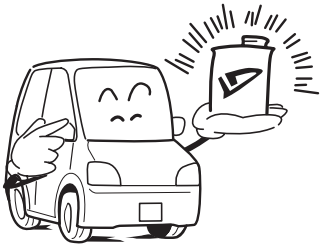
お車を長持ちさせるには

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機やダイハツ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- バッテリー端子にダイハツ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「ダイハツ純正部品」のご使用をおすすめします。



こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 226 ページ）

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。
また、あわててラジエーター キャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバー ヒートの処置→ 371 ページ）

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤ パンク応急修理セット→ 360 ページ）
（タイヤの交換→ 405 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

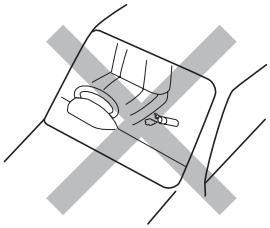
いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

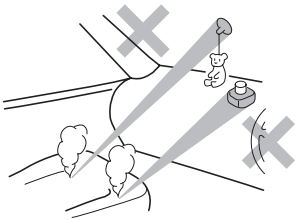
こんなときは

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。



- ウインド ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。



- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインド ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインド ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

  また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツ サービス工場にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズ フリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。

車止めなどに注意をしてください

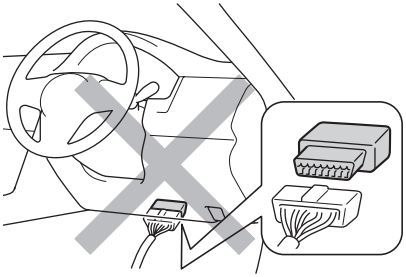
下記のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

知っておいていただきたいこと

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベント データ レコーダー

お車には、イベント データ レコーダー（EDR）が装備されています。EDRは一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエア バッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。
EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合せて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDRデータの情報開示

次の場合を除き、ダイハツはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

MEMO

安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢 ---------- 40
フロント シート ---------- 41
リヤ シート ---------- 47

■ シート ベルト

正しい着用 ---------- 53
3点式ELRシート ベルト ---------- 56
プリテンショナー&フォース
リミッター機構付 シート ベルト ------- 58

■ お子さま専用シート

チャイルド シート ---------- 59
チャイルド シートの選びかた ---------- 61
チャイルド シートの固定のしかた -------- 66

■ SRS エアバッグ

SRS エアバッグ ---------- 73
SRS サイド エアバッグ、
SRS カーテン シールド エアバッグ ------- 79
SRS エアバッグ警告灯 ---------- 84
SRS エアバッグ コンピューター -------- 85

■ ABS

ABS（EBD 機能付） ---------- 87

■ エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナル -------- 89

■ VSC&TRC

VSC ---------- 90
TRC ---------- 92
メーター表示 ---------- 94
VSC&TRC OFF スイッチ ---------- 96

■ ヒル ホールド システム

ヒル ホールド システム ---------- 98

■ スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢ ---------- 100
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者） ---------- 106
誤発進抑制制御機能（前方・後方） ----- 116
車線逸脱警報機能 ---------- 122
先行車発進お知らせ機能 ---------- 125
メーター表示 ---------- 127
スマートアシスト OFF スイッチ ------- 134

■ コーナー センサー

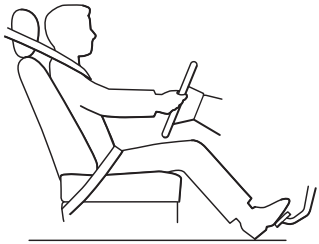
コーナー センサー（リヤ） ---------- 136
ブザー ---------- 139

シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッド レスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシート ベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（シート ベルト→ 53 ページ）

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。

フロント シート

⚠警告

- 助手席シートに専用のダイハツ純正用品以外を取り付けないでください。助手席シート ベルトの正常な作動のさまたげになるおそれがあります。
  また、ダイハツ純正シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。

SRSサイド エアバッグ、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車の場合

- フロント シートに専用のダイハツ純正用品以外を取り付けないでください。シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
  また、ダイハツ純正シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- フロント シート表皮の張り替えやフロント シートの取り付け、取り外し、修理などを行わないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。

シート スライド調整

ウェルカム シート（福祉車）以外

▼ 調整を行う前に

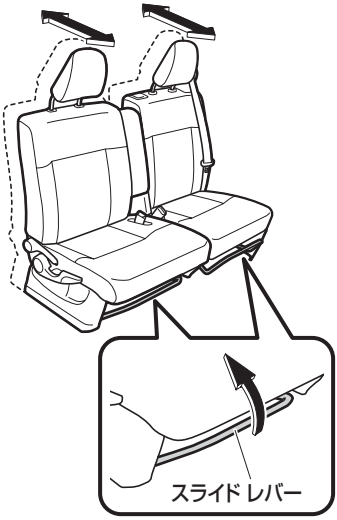
⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スライド レバー

▼ 調整方法

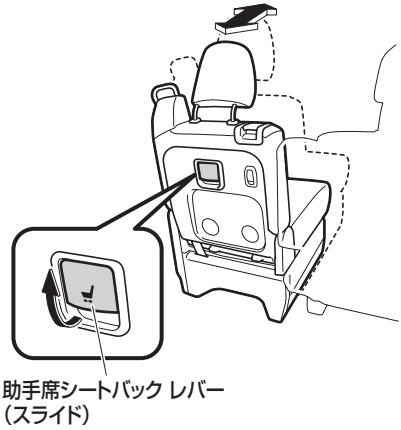
シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



■ 助手席シートバック レバー（スライド）

▼ 調整方法

助手席背もたれ裏側のスライド レバーを引き上げながら、背もたれを持って、前後にシートをスライドします。



リクライニング調整

ウェルカム シート（福祉車）以外

▼ 調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼ 背もたれを元に戻すときは

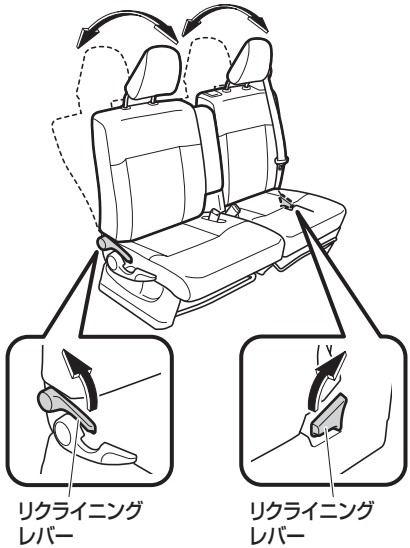
⚠注意

- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

■ リクライニング レバー

▼ 調整方法

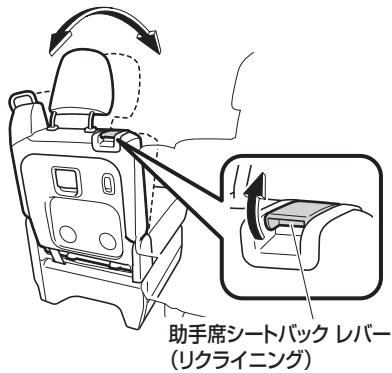
リクライニング レバーを引き上げながら背もたれの角度を調整します。



■ 助手席シートバック レバー（リクライニング）

▼ 調整方法

助手席背もたれ上側のリクライニング レバーを引き上げながら、背もたれ角度を調整します。



ヘッド レストの調整

▼ 調整を行う前に

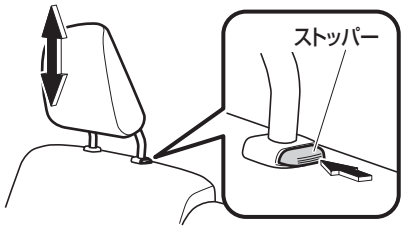
⚠警告

- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

- 下げるときは、ストッパーを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定します。
- 取り外すときは、ストッパーを押しながらヘッド レストを引き抜きます。

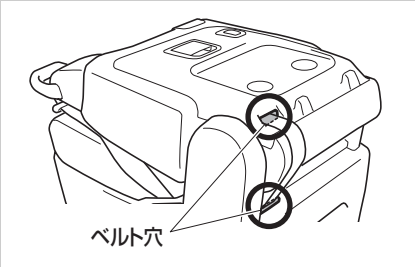


助手席背もたれの前倒し（シートバック テーブル）

助手席シートの背もたれを前に倒すと、テーブルとして利用したり、リヤ シートと併せて長い荷物を載せたりできます。

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はテーブルとして使用しないでください。急ブレーキをかけたときに置いている物が落ち、思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれるとやけどをするおそれがあります。
- 背もたれを前倒ししたあと、また元に戻したあとは背もたれを軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 助手席シート後ろのベルト穴にごみなどの異物を入れないでください。衝突時にシート ベルトが十分な効果を発揮できないおそれがあります。



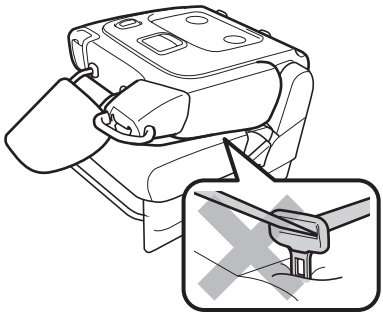
- 助手席シート後ろのベルト穴付近に足などをのせないでください。シート ベルトのプリテンショナー機構が作動したとき、やけどをするおそれがあります。

⚠注意

- 背もたれを操作するときは、手や足などを挟まないように注意してください。
  また、背もたれが急に動くことがあります。必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しないでください。シートが破損したり、思わぬけがをするおそれがあります。
- 運転席シートは無理に前倒ししないでください。前倒しできる機構ではないため、シートが破損するおそれがあります。

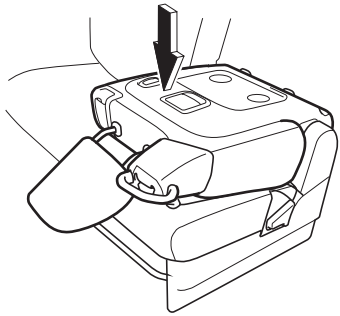
アドバイス

- 背もたれを前倒しするときは、シートベルトのプレートの向きに注意してください。シートにプレートのあとが残ることがあります。



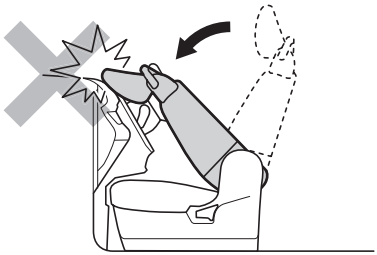
▼ 操作方法

1. 助手席シートを後方いっぱいまでスライドします。
2. ヘッド レストを一番低い位置に調整します。
3. リクライニング レバーを引いて、背もたれを前に倒します。
4. 背もたれを上から押して固定します。

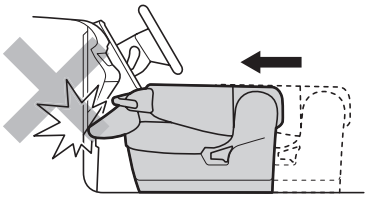


⚠注意

- 背もたれを前倒しするときは次のことに注意してください。シートがインストルメント パネルに当たり、破損するおそれがあります。
  - ヘッド レストを取り外した状態での前倒し、および前倒し後の前方スライドをしない。
  - シートを前方にスライドした状態で背もたれを前倒ししない。



  - 背もたれを前倒しした状態でスライドするときは、前方に注意する。



▼ 元に戻すとき

リクライニング レバーを引いて、背もたれを固定される位置まで引き上げます。

⚠注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

アドバイス

- シート ベルトがロックして背もたれが起こせないときは、途中まで起こしたあといったん倒し、再度起こしてください。
  または、一度シート ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

運転席シート リフター

オプション/グレード別装備

シート全体の高さ調整を行うことができます。

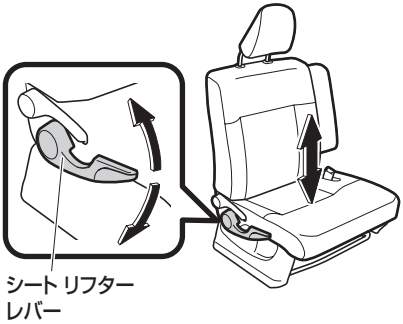
▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 調整は必ず運転前に行ってください。走行中に調整を行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

シート リフター レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇し、押し下げるごとにシート全体が下降します。



運転席シート ヒーター

オプション/グレード別装備

運転席シート ヒーター スイッチを“ON”にすると、運転席のシートを暖めることができます。

（運転席シート ヒーター スイッチ → 248 ページ）

アーム レスト

ウェルカム シート（福祉車）以外

▼ 使用方法

前に倒して使用します。

⚠注意

- アーム レストを操作するときは、シートとアーム レストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アーム レストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アーム レストが破損したりけがをするおそれがあります。

アドバイス

- 小物入れとして使用することもできます。
  （フロント センター アーム レスト ボックス→ 325 ページ）
- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。

リヤ シート

スローパー（福祉車）以外

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

シート スライド調整

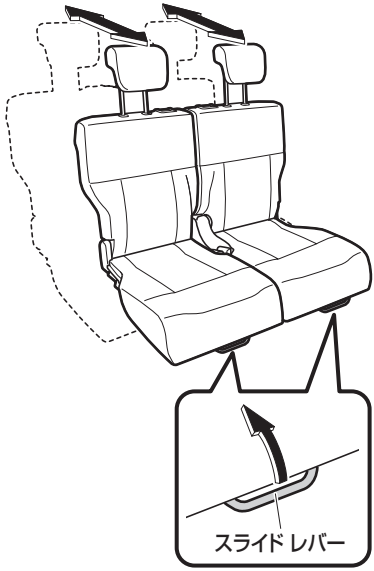
▼ 調整を行う前に

⚠注意

- スライド調整は必ず停車中に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



アドバイス

- 左右独立でスライド調整することができます。

リクライニング調整

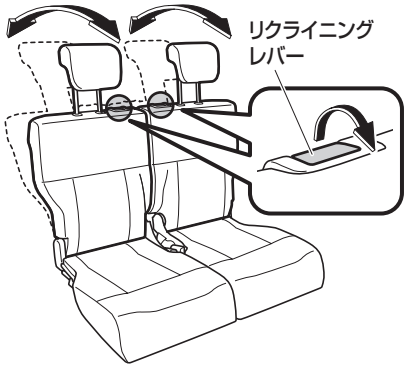
▼ 調整を行う前に

⚠注意

- リクライニング調整は必ず停車中に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

リクライニング レバーを引きながら、背もたれの角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング調整するときは、背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

ヘッド レストの調整

▼ 調整を行う前に

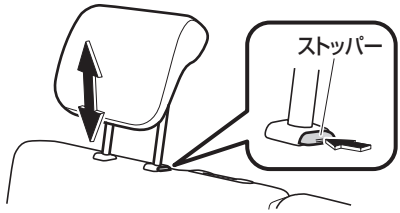
⚠警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

使用するときは、ヘッド レストを引き上げて「カチッ」という音がする位置で固定します。

- 下げるときは、ストッパーを押しながらヘッド レストを押し下げます。
- 取り外すときは、ストッパーを押しながらヘッド レストを引き抜きます。



背もたれの前倒し

リヤ シートを操作することで、ラゲージルームを広くすることができます。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

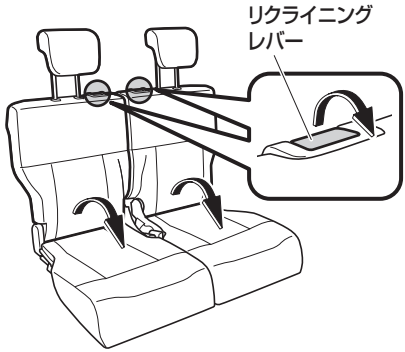
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

▼ 操作方法

リクライニング レバーを引きながら背もたれを前に倒します。



▼ 元に戻すときは

背もたれを引き起こします。

⚠注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

フル ラゲージ モードにするとき

リヤ シートを格納することで、荷室を広く使うことができます。左右独立して格納ができます。

アドバイス

ウェルカム シート（福祉車）

- 助手席後方のリヤ シートは格納できません。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

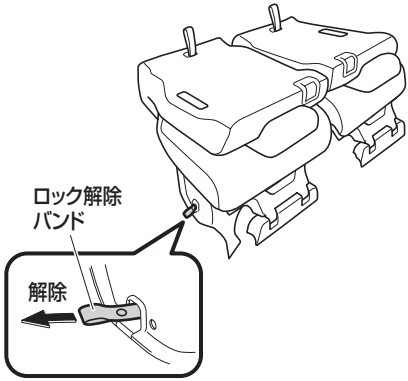
- リヤ シートをフル ラゲージ モードにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- 操作するときは、手や足などを挟まないように注意してください。

▼ 格納方法

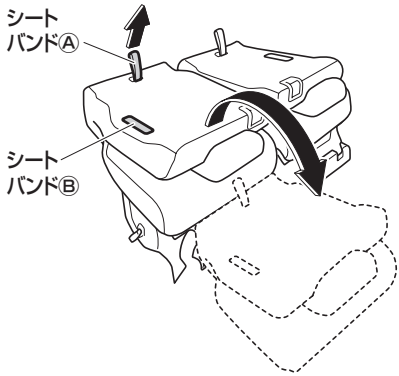
⚠注意

- 格納操作をするときは前（リヤ シート）側から行ってください。後ろ（ラゲージ ルーム）側から操作すると、体がシートの重みで前方に引っぱられ、けがをするおそれがあります。
- 格納するときは、シート クッション下を持たないでください。シート クッション下の部品でけがをするおそれがあります。

1. フロント シートを前方いっぱいまでスライドします。
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドします。
3. リヤ シートのヘッド レストを一番下まで下げます。
4. リヤ シートの背もたれを倒します。
5. ロック解除バンドを引いて、ロックを解除します。



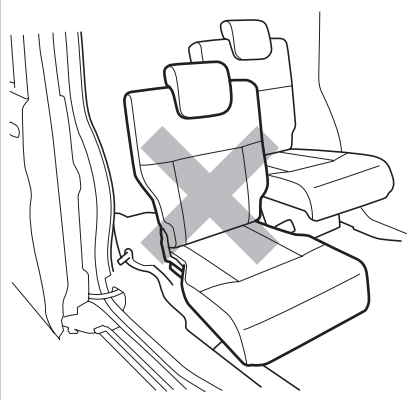
6. リヤ シート前方から、シート バンドⒶⒷ両方を持ってリヤ シートを持ち上げ、車両前方に格納します。



▼ 格納した後に

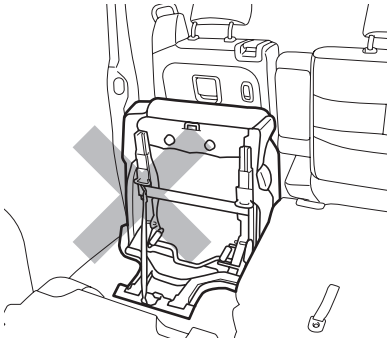
⚠警告

- 背もたれだけを元に戻して、人を乗せないでください。リヤ シートが固定されていないため、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠注意

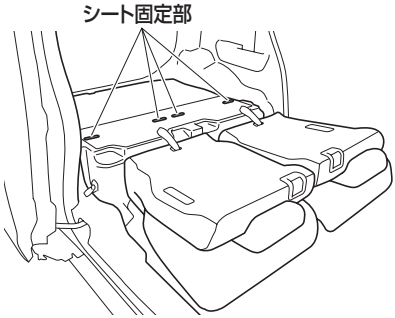
- リヤ シートは立てた状態にしないでください。リヤ シートが固定されていないためシートが急に倒れたり、シート クッション下の部品でけがをしたりするおそれがあります。



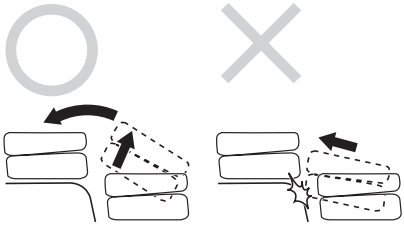
▼ 元に戻すときは

⚠注意

- リヤ シートを戻す前に、フロアのシート固定部に異物が入っていないことを確認してください。異物が入っていると、ロックができなかったり、ロック機構が損傷したりするおそれがあります。

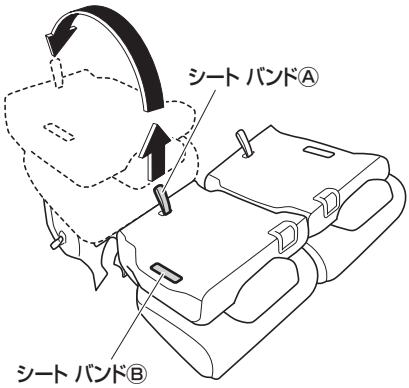


- 元に戻すときは、必ず前（リヤ シート）側からシート バンドを上方に引き上げて、元の位置に戻してください。後ろ（ラゲージ ルーム）側からシート バンドを後方に引き上げると、リヤ シートと車体が干渉し車両を損傷するおそれがあります。



- 元に戻すときは、シート クッション下を持たないでください。シート クッション下の部品でけがをするおそれがあります。

1. フロント シートを前方いっぱいまでスライドします。
2. リヤ シート前方から、シート バンドⒶⒷ両方を持ってシートを持ち上げ、後方へ戻します。



3. 上から押して、リヤ シートを固定します。
4. リクライニング レバーを引いて、背もたれを固定される位置まで起こします。

▼ 元に戻したときは

⚠警告

- シートを戻したときは、必ずシートを左右にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シート ベルト

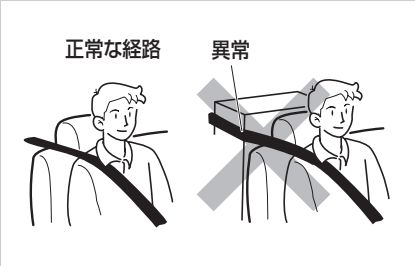
正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシート ベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
シート ベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シート ベルトにねじれがないこと
- シート ベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠警告

- シート ベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- シート ベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シート ベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シート ベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させるか、チャイルド シートを使用してください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。

シート ベルト

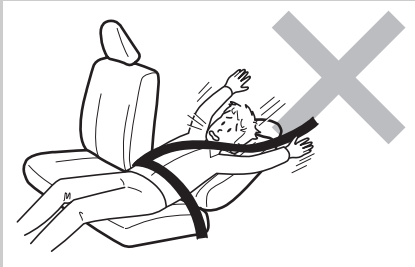
⚠警告

- シート ベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
  - 1 人で座ることのできない乳幼児の場合はベビー シート（別売）を使用してください。
  - シート ベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルド シートやジュニア シート（別売）を使用してください。
    （チャイルド シート→ 59 ページ）
    （チャイルド シートの固定のしかた → 66 ページ）
- 妊娠中の方もシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
  - 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

⚠警告

- シート ベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシート ベルトを使用しないでください。衝突時にシート ベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシート ベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシート ベルトの効果が発揮されません。
- シート ベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。

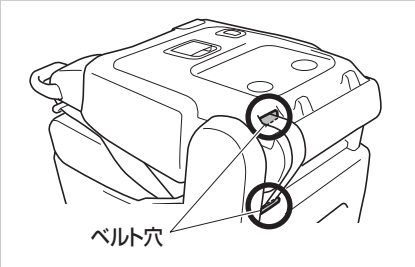
⚠警告

- シート ベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シート ベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシート ベルトの脱色や染色もやめてください。
- シート ベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、ダイハツ サービス工場でシート ベルト一式を交換してください。シート ベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシート ベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、ダイハツ サービス工場で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シート ベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

⚠警告

助手席シート ベルト

- 助手席シート後ろのベルト穴にごみなどの異物を入れないでください。衝突時にシート ベルトが十分な効果を発揮できないおそれがあります。



- 助手席シート後ろのベルト穴付近に足などをのせないでください。シート ベルトのプリテンショナー機構が作動したとき、やけどをするおそれがあります。

⚠注意

助手席シート ベルト

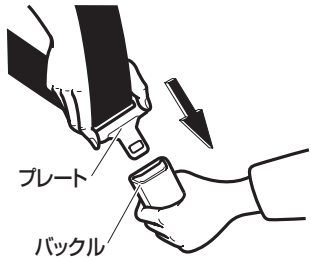
- 助手席シートの背もたれを倒した状態で、ベルトが巻き取りにくいときは、背もたれを起こしてください。
- 炎天下での駐車後は、シート ベルトのプレートが熱くなり、やけどをするおそれがあります。熱くないことを確認してから使用してください。
- 助手席シート後ろのベルトを引っ張ったり、物をひっかけないでください。シート ベルトがロックして引き出せなくなります。
  シート ベルトがロックした場合は、下記のように操作してください。
  - 背もたれが起きた状態でシート ベルトが引き出せない場合は、一度シートの背もたれを前に倒します。
  - 助手席シートがテーブルの状態でシート ベルトがロックして、背もたれが起こせない場合は、背もたれを途中まで起こしたあといったん倒し、そのあと、起こします。
    または、一度シート ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

3 点式ELRシート ベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートを調整します。
2. プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

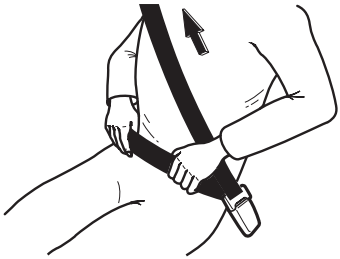
⚠注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

アドバイス

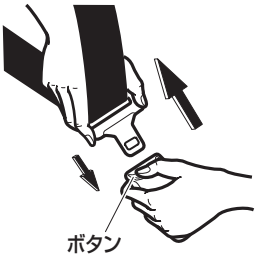
- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- フロント シート ベルトは、シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。
（シート ベルト締め忘れ警告灯 → 229 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、ベルトやプレートに手を添えてゆっくり戻します。



アジャスタブル ショルダー ベルト アンカー

■ 運転席

シート ベルトが肩に十分かかるように、シート ベルトの高さを調整することができます。

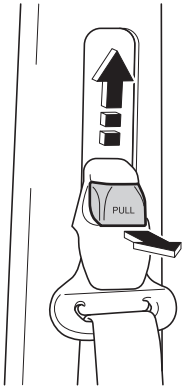
シート ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに使用します。

▼ シート ベルトを下げるとき

1. ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
2. シート ベルトを「カチッ」という音がする位置まで下げます。

▼ シート ベルトを上げるとき

1. ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
2. シート ベルトを「カチッ」という音がする位置まで上げます。



アドバイス

- 4 段階に調整できますので、最適な位置で固定してください。

プリテンショナー&フォース リミッター機構付シート ベルト

■ フロント シート

⚠警告

- プリテンショナー&フォース リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 無線機を取り付けるとき
  - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツ サービス工場で交換してください。

アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

フォース リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- フォース リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツ サービス工場で交換してください。

お子さま専用シート

チャイルド シート

シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルド シートをご使用ください。
車両に固定するチャイルド シートには、シート ベルトで固定するタイプとISO[*1] FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで固定するタイプがあります。

（チャイルド シートの固定のしかた → 66 ページ）

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルド シートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルド シートが不必要なお子さまは、リヤ シートに乗せてシート ベルトを着用させてください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

（チャイルド シートの種類→ 60 ページ）

チャイルド シートの質量グループについて

ECE R44[*2] の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

[*1] International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

[*2] チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。

チャイルド シートの種類

■ ベビー シート

質量グループ 0、0^+に相当します。

■ チャイルド シート

質量グループ 0^+、Ⅰに相当します。

■ ジュニア シート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

（チャイルド シートの質量グループについて→ 59 ページ）

チャイルド シートの選びかた

福祉車以外

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、チャイルド シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロント シート	リヤ シート
	助手席	左右席
0(10kgまで)	×	U
0+(13kgまで)	×	U
Ⅰ(9～18kg)	UF*	U*
Ⅱ(15～25kg)	UF*	U*
Ⅲ(22～36kg)	UF*	U*

●記号の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルド シートが取り付け可能です。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの前向きチャイルド シートが取り付け可能です。

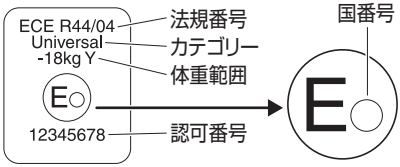
× ：チャイルド シートを取り付けることはできません。

＊ ヘッド レストとチャイルド シートが干渉して、チャイルド シートが正しく取り付けられない場合、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- ECE R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルド シートの認可であることを表します。



ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置 リヤ シート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0(10kgまで)	E	ISO/R1	IL*1*2
0+(13kgまで)	E	ISO/R1	IL*1*2
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I(9～18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF*1*2
	B1	ISO/F2X	IUF*1*2
	A	ISO/F3	IUF*1*2
II(15～25kg)		ー	×
III(22～36kg)		ー	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL ：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIX対応チャイルド シートのリスト」に示す準汎用カテゴリーのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

× ：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

*1 リヤ シートの背もたれを直立状態にしてください。

*2 ヘッド レストとチャイルド シートが干渉して、チャイルド シートが正しく取り付けられない場合、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外してください。

●ISO FIX対応チャイルド シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルド シート	カテゴリー
0(10kgまで)	E	ISO/R1	ダイハツ純正ISO FIXベビー シート(ユニバーサル)	準汎用
0+(13kgまで)	E	ISO/R1		

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。

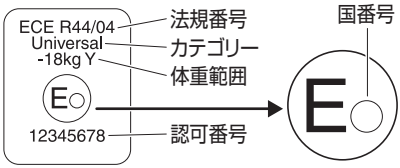
* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

アドバイス

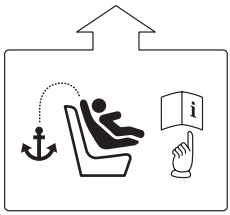
- この車のISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーは、2006年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合しています。
  これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。（表示されているマークや文字は、製品により異なります。）
  - ISO FIX対応チャイルド シートであることを示す表示です。
    文字はサイズ等級を表します。

A――サイズ等級

  - ECE R44 の認可マークです。
    汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



  - ISO FIX対応トップ テザー アンカーの位置を示すマークです。
    トップ テザー アンカーの位置により、意匠は異なります。



- ダイハツ純正の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルド シート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルド シート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルド シート (B-ISO/F2と別形状のもの)
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルド シート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルド シート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルド シート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルド シート(キャリコット)
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルド シート(キャリコット)

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビー シートのことです。詳しくはチャイルド シートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

チャイルド シートの固定のしかた

スローパー（福祉車）以外

⚠警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシート ベルト、またはチャイルド シートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジュニア シートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

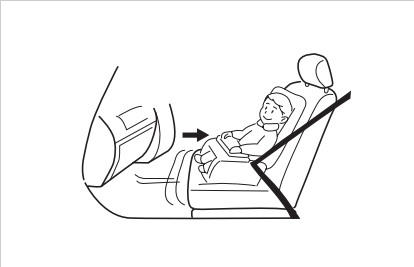
⚠警告

- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- シート ベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルド シートを取り付けたときは、チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルド シートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートに固定しておいてください。また、ラゲージ ルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。



⚠警告

SRSサイド エアバッグ、
SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

- チャイルド シートに座らせている場合でも、ドアやシート、フロント・センター ピラー、ルーフ サイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

お子さま専用シート

⚠注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。肩部ベルトが首にかかるような小さなお子さまにはシート ベルトの着用はさけ、チャイルド シートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

アドバイス

チャイルド シートをリヤ シートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルド シートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤ シートの助手席側に取り付けてください。

（正しい運転姿勢→ 40 ページ）

チャイルド シートを使用しないときは

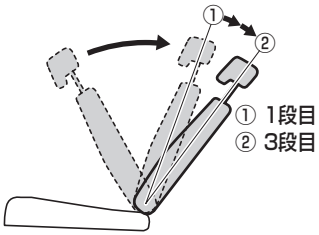
- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シート ベルトによる固定*

▼ 取り付けかた

1. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。
2. リヤ シートの背もたれの角度を調整します。

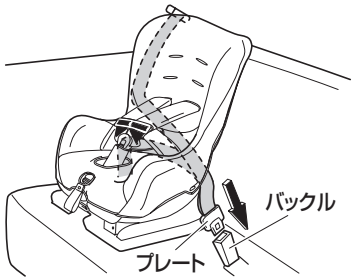
- 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置に起こしてから、②3 段目の固定位置まで調整します。
  （操作しづらいときは、チャイルド シートを置いたときに、チャイルド シートの背面とリヤ シートの背もたれとの間にすき間ができないように調整します。）



3. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。

- ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

4. シート ベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。



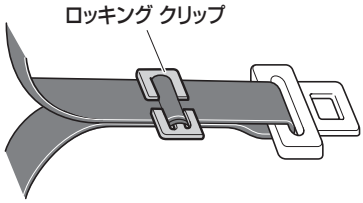
5. バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- **プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。**

* 固定のしかたは代表例です。
また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。

6. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキング クリップを使用して固定します。



アドバイス

- ロッキング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
  また、ロッキング クリップの購入については、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

7. チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

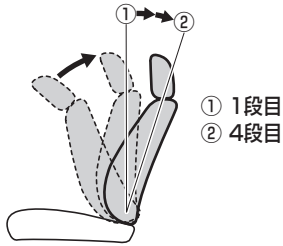
⚠注意

- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

アドバイス

助手席にチャイルド シートを取り付けるときは*

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときは、助手席シートを以下のように調整し、必ず前向きにチャイルド シートを取り付けてください。
  - シートを後方いっぱいまでスライドさせる
  - 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置に起こしてから、②4 段目の固定位置まで調整する



  - ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく

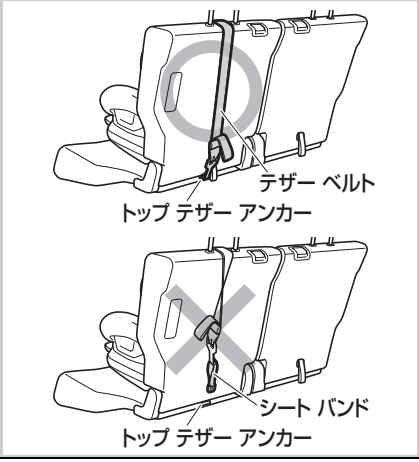
* ウェルカム シート（福祉車）の助手席に、チャイルド シートは取り付けできません。

ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーによる固定

▼ チャイルド シートを取り付ける前に

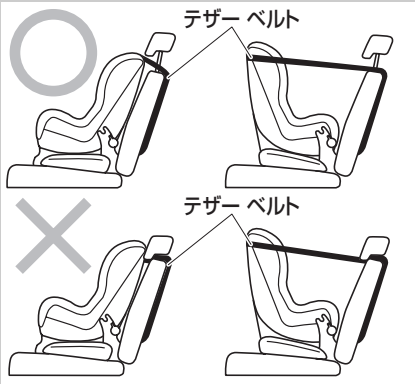
⚠警告

- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシート ベルトなどをかみ込むとチャイルド シートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- テザー ベルトのフックは、必ずトップ テザー アンカーに固定してください。
  誤ってシート バンドなどで固定すると、衝突したときなどにシートが損傷したり、チャイルド シートが正しく固定されず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠警告

- チャイルド シートのテザー ベルトがヘッド レストに干渉しないように、ヘッド レストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップ テザー アンカーに固定してください。
  それでもヘッド レストに干渉する場合は、ヘッド レストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。
  ヘッド レストを下げたままだと、テザー ベルトがヘッド レストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルド シートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

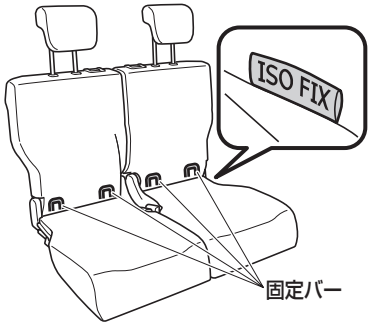


お子さま専用シート

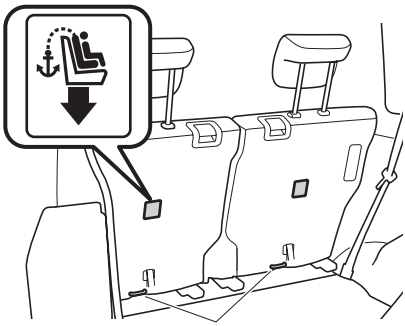
▼ 取り付けかた

1. ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーの位置を確認します。

- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

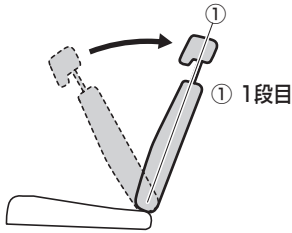


- トップ テザー アンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。



2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。
3. リヤ シートの背もたれの角度を調整します。

- 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置まで起こします。



4. 適合するチャイルド シートの取り付け金具をISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーに連結して取り付けます。（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください。）

- ヘッド レストにチャイルド シートやテザー ベルトが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

5. 取り付けたチャイルド シートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認します。

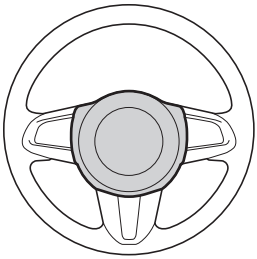
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

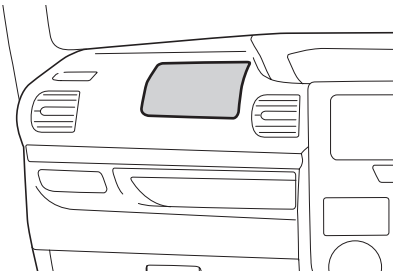
運転席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



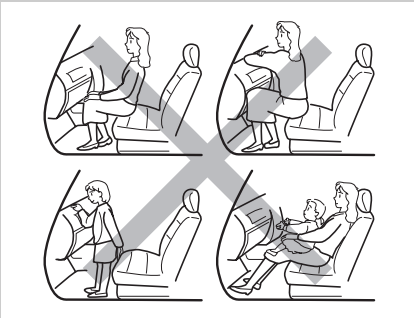
* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です。

⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
  （正しい着用→ 53 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメント パネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。
    助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

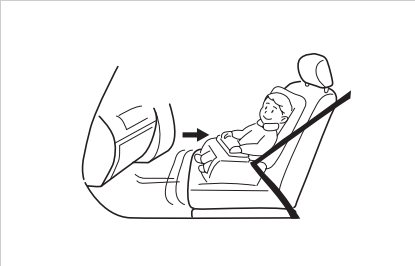


⚠警告

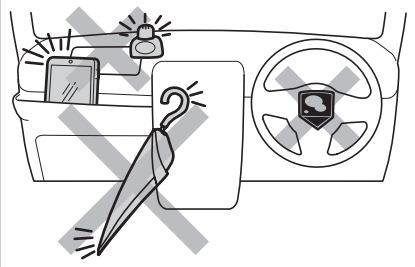
- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートなどをリヤ シートに装着して使用してください。
- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。
  （チャイルド シート→ 59 ページ）



- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグの上やその周辺に物を置いたり、取り付けたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



⚠警告

- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインド ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずダイハツ サービス工場で交換してください。

⚠注意

- 下記のような場合は必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツ サービス工場で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

アドバイス

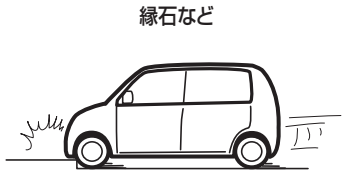
SRSサイド エアバッグ、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車の場合

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRSエアバッグのみ作動
  - SRSサイド エアバッグのみ作動
  - SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動

作動する場合

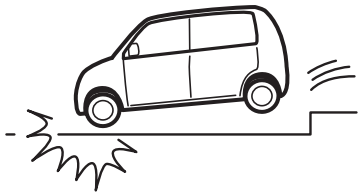
SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にシート ベルトのプリテンショナー機構も作動します。
走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき

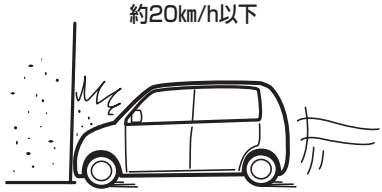
- ジャンプして地面に衝突したとき



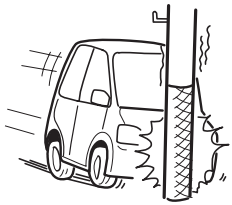
作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

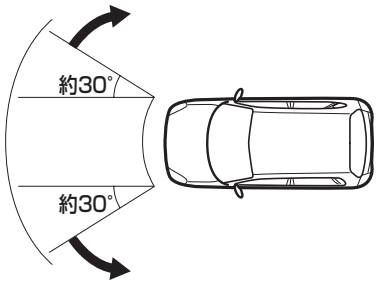
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき



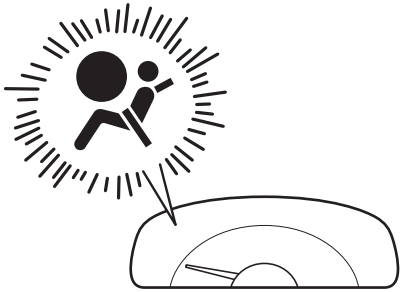
- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



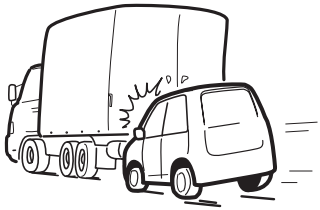
- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガード レールなどに衝突したとき



- SRSエアバッグ警告灯点灯時

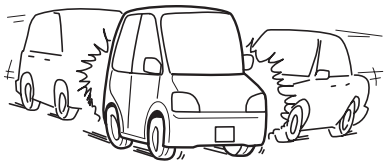


- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

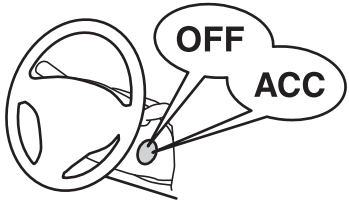
- 側面や後方から衝撃を受けたとき



- 車両が横転、転覆したとき

下記のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- 電源が“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき



SRS*サイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ

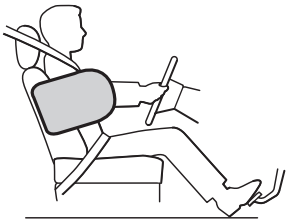
オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、車両側方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

SRSサイド エアバッグ

SRSサイド エアバッグ装着車、
SRSサイド エアバッグ&
SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

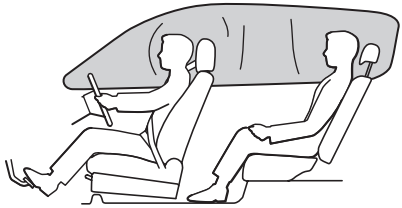
シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。



SRSカーテン シールド エアバッグ

SRSサイド エアバッグ&
SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者・助手席同乗者・リヤ シート左右席同乗者のおもに頭部への衝撃をやわらげる装置です。



* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です。

⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
（正しい着用→ 53 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

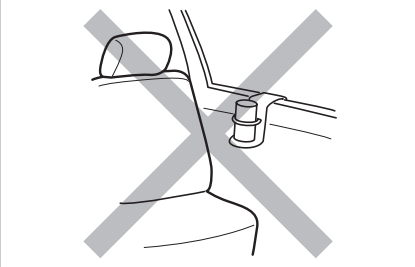
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートなどをリヤ シートに装着して使用してください。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが作動しないおそれがあります。

⚠警告

- フロント シート表皮の張り替えをしたり、フロント シート（SRSカーテン シールド エアバッグ装着車はフロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部も含む）を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のダイハツ純正シート カバー以外は取り付けないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうと、SRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

⚠警告

- ドアやその周辺に専用のダイハツ純正用品以外を取り付けないでください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



- SRSカーテン シールド エアバッグ装着車は、フロント ガラス、フロント・リヤ ドア ガラス、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部などにアクセサリー、ハンズ フリー マイクなどを付けないでください。SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRSエアバッグ

⚠警告

- フロント シート側部（SRSカーテン シールド エアバッグ装着車はフロント・センター・リヤ ピラー、ルーフサイド部も含む）などSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずダイハツ サービス工場で交換してください。

⚠注意

- 下記のような場合は必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - シート（SRSカーテン シールド エアバッグ装着車はフロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部も含む）を取り外すとき
  - 車両側部を修理するとき
- 車やSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグを廃棄するときは必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSカーテン シールド エアバッグが収納されている、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツ サービス工場で交換してください。衝突したときなどにSRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

アドバイス

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRSエアバッグのみ作動
  - SRSサイド エアバッグのみ作動
  - SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動

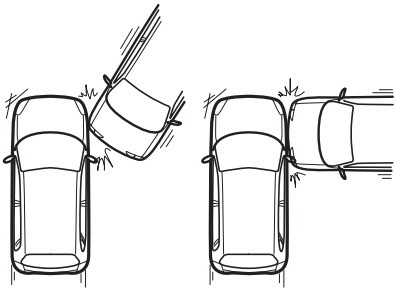
作動する場合

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたとき作動します。

作動しない場合

下記のような衝撃が弱いときには、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき



SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
  （SRSエアバッグ→ 73 ページ）
- SRSサイド エアバッグ
  （オプション/グレード別装備）
- SRSカーテン シールド エアバッグ
  （オプション/グレード別装備）
  （SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ→ 79 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構 → 58 ページ）

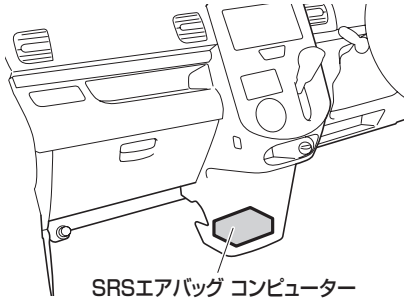
⚠注意

点灯した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



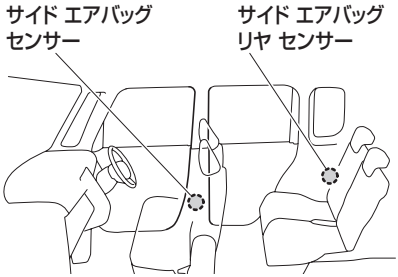
⚠注意

- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSエアバッグ、SRSサイド エアバッグ（オプション）、SRSカーテン シールド エアバッグ（オプション）が誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、飲み物などをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。ダイハツ サービス工場で交換してください。

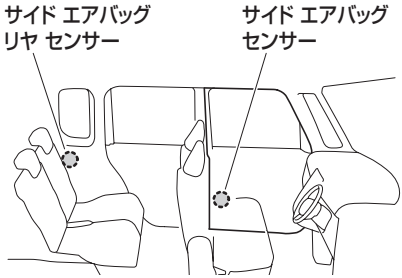
SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ用センサー

オプション/グレード別装備

▼ 運転席側



▼ 助手席側



■ サイド エアバッグ センサー

SRSサイド エアバッグ装着車、
SRSサイド エアバッグ&
SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

運転席側のピラー内部と、助手席側ドアパネル内部に取り付けられています。

■ サイド エアバッグ リヤ センサー

SRSサイド エアバッグ&
SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

リヤ シート付近の車体左右両側に取り付けられています。

⚠注意

- サイド エアバッグ センサー、サイド エアバッグ リヤ センサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- サイド エアバッグ センサー、サイド エアバッグ リヤ センサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。

ABS

ABS（EBD機能付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤ チェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- 電源を“ON”にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

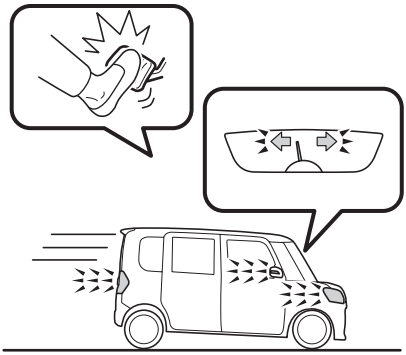
* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅することで後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



⚠注意

- エマージェンシー ストップ シグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

■ エマージェンシー ストップ シグナルの作動条件について

エマージェンシー ストップ シグナルは、自車が下記の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h以上で走行中
- ブレーキ ペダルを踏み、急減速した、またはABSが作動した

⚠注意

- ABS警告灯、またはVSC&TRC警告灯が点灯しているときは、エマージェンシー ストップ シグナルが作動しないことがあります。

■ エマージェンシー ストップ シグナルの作動停止について

エマージェンシー ストップ シグナルは、下記のいずれかのときに作動が停止します。

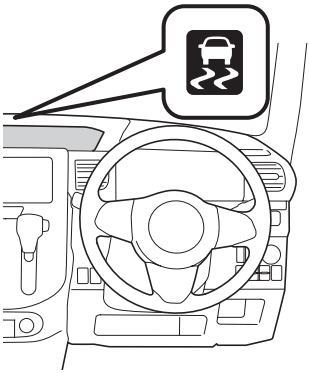
- 非常点滅灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキ ペダルから足を離した
- 急減速でなくなった
- ABSが作動停止した

VSC&TRC

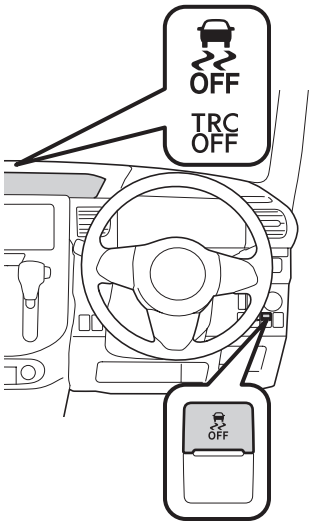
VSC*

VSCは、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。
また緊急制動時など、ブレーキ ペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキ アシストを備えています。

- VSCが作動すると、スリップ インジケーターが点滅します。
（スリップ インジケーター→ 95 ページ）



- VSC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押して、メーター内のVSC OFF表示灯とTRC OFF表示灯が点灯しているときは、VSC（TRCを含む）は作動しません。
（VSC&TRC OFFスイッチ→ 96 ページ）



- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
（タイヤの点検→ 403 ページ）

* “VSC”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。（使用許諾済）

⚠警告

- VSCを過信しないでください。VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップ インジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

（スリップ インジケーター
→ 95 ページ）

⚠注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッド パターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとVSCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはVSCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

アドバイス

- VSCは、車速が約 15km/hを超えると作動するようになります。
- VSC（TRCを含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ブレーキ アシストについて

- VSCの“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキ ペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキ アシストが作動してブレーキが強くかかり、作動音とともにブレーキ ペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

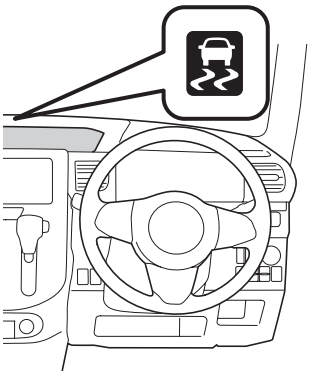
TRC*

■ TRCのはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイール スピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

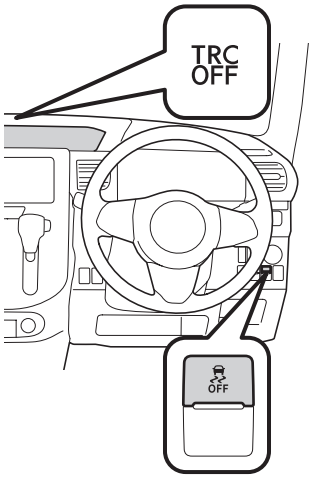
- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRCが作動すると、スリップ インジケーターが点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

（スリップ インジケーター
→ 95 ページ）



- VSC&TRC OFFスイッチを押して、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯しているときは、TRCは作動しません。

（VSC&TRC OFFスイッチ→ 96 ページ）



- ぬかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRCが作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VSC&TRC OFFスイッチを操作することで、TRCを停止することができます。

（スタック（立ち往生）
したとき→ 354 ページ）

■ TRCのしくみ

タイヤのスリップは 4 輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

* “TRC”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。（使用許諾済）

■ TRCとタイヤの関係

TRCは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 403 ページ）

⚠警告

- TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップ インジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

（スリップ インジケーター → 95 ページ）

⚠注意

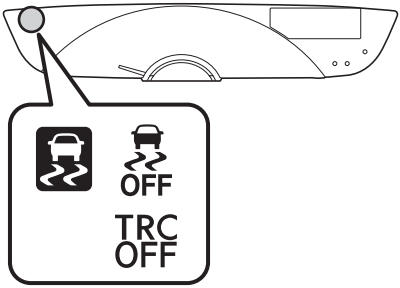
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッド パターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

アドバイス

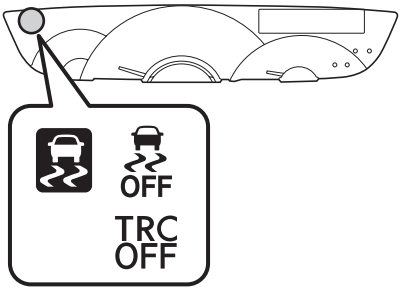
- TRCは、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

メーター表示

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車



VSC＆TRC警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
  - VSC
  - TRC
  - ヒル ホールド システム

（ヒル ホールド システム → 98 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

点滅した場合

- VSC、またはTRCが作動しています。

（スリップ インジケーター → 95 ページ）

スリップ インジケーター

（点滅）

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。
  - VSC
  - TRC

⚠注意

- 電源を“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  （VSC＆TRC警告灯→ 94 ページ）
- スリップ インジケーターが点滅した場合は、VSC、またはTRCが作動していますので特に慎重に運転してください。

VSC OFF表示灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRCを含む）が作動停止状態となり点灯します。
  （VSC&TRC OFFスイッチ→ 96 ページ）

TRC OFF表示灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC&TRC OFFスイッチを押すと、TRCが作動停止状態となり点灯します。
  （VSC&TRC OFFスイッチ→ 96 ページ）

VSC&TRC OFFスイッチ

VSCやTRCは新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときはVSC&TRC OFFスイッチを押してVSCとTRCを“OFF”にします。

⚠警告

- VSCやTRCは自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
  そのため、必要なとき以外はVSCやTRCを作動停止状態にしないでください。VSCやTRCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

アドバイス

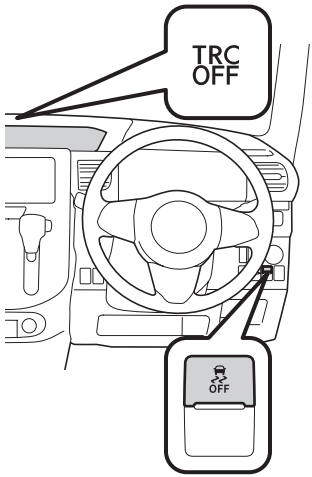
- VSCやTRCを作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的にVSCとTRCは作動可能状態に戻ります。
- TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。ただし、VSCとTRCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ TRCを“OFF”にする場合

▼ 操作方法

電源が“ON”のとき、VSC&TRC OFFスイッチを押すとTRCが“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯します。

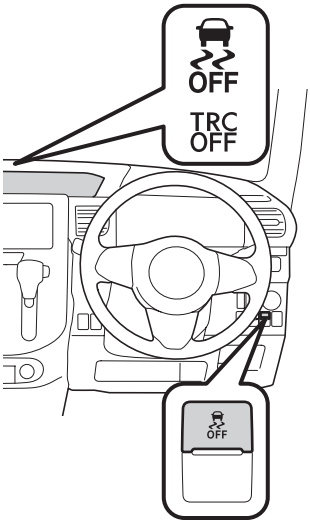
作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯が消灯します。



■ TRCとVSCを“OFF”にする場合

▼ 操作方法

電源が“ON”で車両が停止しているとき、VSC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRCを含む）が“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯とVSC OFF表示灯が点灯します。
作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯とVSC OFF表示灯が消灯します。



ヒル ホールド システム

ヒル ホールド システム

ヒル ホールド システムは、急な上り坂で発進するときに起こる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。
ブレーキ ペダルからアクセル ペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約 2 秒間保持します。

作動条件

以下の状態のとき、ヒル ホールド システムは作動します。

- 前進、または後退での上り坂発進時
- ブレーキ ペダルをしっかり踏んで停車しているとき
- 駐車ブレーキを解除しているとき

⚠警告

- ヒル ホールド システムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル ホールド システムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

⚠注意

- VSC＆TRC警告灯が点灯すると、ヒル ホールド システムが作動しない場合があります。特に慎重に発進してください。
- 極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など、路面の状態や乗員の人数、荷物の重さなどによっては車両が後退することがあります。
- 停車するときのブレーキ ペダルの踏みかたが不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さによっては、ヒル ホールド システムが作動しない場合があります。
- ヒル ホールド システムは、2 秒以上車両の後退を軽減することができません。

アドバイス

- ヒル ホールド システムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキ ペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する

スマートアシストⅢ

オプション/グレード別装備

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能
  （対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オート ハイ ビーム
  （オート ハイ ビーム→ 237 ページ）

⚠警告

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけください。

⚠警告

- 以下の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
  （スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）
  - タイヤの空気圧が適正でないとき
  - スペア タイヤやタイヤ チェーンを装着しているとき
  - 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
  - タイヤ パンク応急修理セットを使用したとき
  - サスペンションを改造したとき
    （ダイハツ純正品を含む）
  - ステレオ カメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
  - ヘッド ランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
  - ヘッド ランプの光軸がずれているとき
  - ヘッド ランプ、フォグ ランプなどのランプ類を改造したとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - けん引されるとき
  - キャリア カーに積載するとき
  - シャシー ダイナモ メーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフト アップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニール カーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき

⚠警告

- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

⚠注意

- 以下のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時的に機能停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は作動します。
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 車を炎天下で放置した後など、ステレオ カメラの温度が極端に高くなった場合
  - エンジンの始動直後
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッド ランプの光など）を受けたとき
  - 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
  - ステレオ カメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
  - 重い荷物を積んでいるとき
  - 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃など視界が十分でないとき
- 機能によって認識性能の低下する条件や機能停止条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセル ペダルの操作状況
- ブレーキ ペダルの操作状況
- ハンドル、シフト レバーの操作状況
- 車速などの車両の情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオ カメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

▼ データの取扱いについて
ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

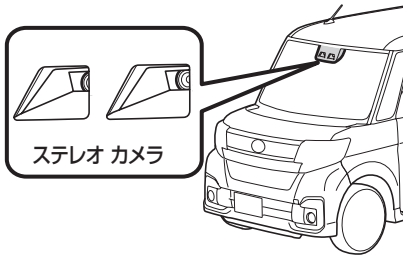
- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオ カメラ

ステレオ カメラは、以下の機能で使用します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オート ハイ ビーム



⚠警告

- ステレオ カメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオ カメラも同様に前方車や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオ カメラによる前方車や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。

⚠警告

- 次のことをお守りください。お守りいただかないと、ステレオ カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ステレオ カメラ前面のフロント ガラスは常にきれいにしてください。
  - フロント ガラス外側に汚れ、油膜、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - フロント ガラスにダイハツが指定したガラス コーティング剤以外は使用しないでください。フロント ガラスにガラス コーティング剤を使用していても、ステレオ カメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - フロント ガラス内側のステレオ カメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
  - フロント ガラスのステレオ カメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオ カメラの前面に重ならないようにしてください。

⚠警告

- フロント ガラスが曇った場合は曇りをとってください。
  （ガラスの曇りを取るとき
  マニュアル エアコン→ 294 ページ
  オート エアコン→ 304 ページ）
- フロント ガラスのステレオ カメラ前面の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパー ラバーまたはワイパー ブレードを交換してください。ワイパー ブレードの交換が必要な場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
  （ワイパーの交換→ 409 ページ）
- フロント ガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオ カメラ周辺が変形した場合はダイハツ サービス工場にご相談ください。
- フロント ガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオ カメラ前面のフロント ガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。フロント ガラスの交換が必要な場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

⚠警告

- ダイハツ純正品以外のフロント ガラスに交換しないで下さい。
- ステレオ カメラに液体をかけないでください。
- ステレオ カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- ステレオ カメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオ カメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオ カメラを分解しないでください。

⚠警告

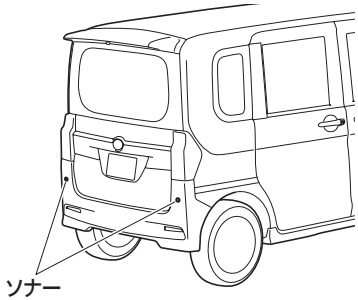
- ステレオ カメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ルーム ミラーなどのステレオ カメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメント パネル上部に物を置かないでください。フロント ガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメント パネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロント ガラスへの映りこみにより、ステレオ カメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット、フロント グリル、フロント バンパーなどに、ステレオ カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオ カメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のルーム ミラー（ワイド タイプ ミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

ソナー

ソナーは、以下の機能で使用します。

- 誤発進抑制制御機能（後方）
- コーナー センサー（リヤ）

（コーナー センサー（リヤ）
→ 136 ページ）



⚠警告

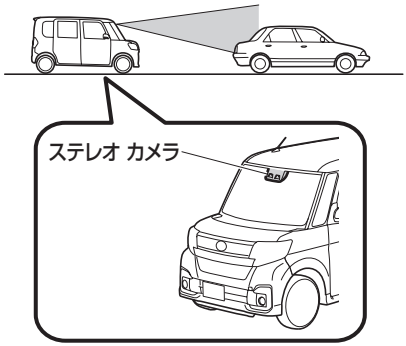
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が自動的に停止します。

⚠警告

- 次のことをお守りください。
  お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
  - ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかに拭き取ってください。
  - ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
  - ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
  - スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
  - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
  - ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
  - ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
  - ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。
  - リヤ バンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
  - リヤ バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオ カメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



衝突警報機能

以下の場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約 4～100km/hで走行中、自車との速度差が約 4～100km/h の前方車に対して衝突のおそれがあるとき
  - 状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約 4～50km/hで走行中、自車との速度差が約 4～50km/hの前方の歩行者に対して衝突のおそれがあるとき

衝突回避支援ブレーキ機能

以下の場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約 4～80km/hで走行中、自車との速度差が約 4～80km/hの前方車に対して衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4～50km/hで走行中、自車との速度差が約 4～50km/hの前方の歩行者に対して衝突のおそれがあるとき

被害軽減ブレーキ アシスト

緊急ブレーキ作動中、以下の場合にブレーキ ペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30～80km/hで走行中、自車との速度差が約 30～80km/hの前方車に対して衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30～50km/hで走行中、自車との速度差が約 30～50km/hの前方の歩行者に対して衝突のおそれがあるとき

⚠警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  （衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき→ 112 ページ）
（機能が正常に作動しないおそれがあるとき→ 110 ページ）

⚠警告

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオ カメラが認識した前方車や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセル ペダルを操作しても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルペダルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。

⚠警告

- 運転者がブレーキ ペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキ機能が作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車との速度差が約 30km/hを超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約 50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキ機能が作動したときに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 53 ページ）

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキ アシストの作動条件について

次の条件を全て満たすと衝突警報機能および衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキ アシストが作動できる状態になります。

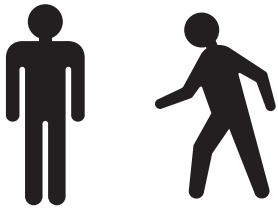
- 車両電源が“ON”
- スマートアシストOFF表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- シフト レバーがⓅ、Ⓡレンジ以外
- 下表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差*1
衝突警報機能	対車両	約4～100km/h
	対歩行者	約4～50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約4～80km/h
	対歩行者	約4～50km/h
被害軽減ブレーキアシスト*2	対車両	約30～80km/h
	対歩行者	約30～50km/h

*1 自車と前方車、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。
*2 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合

⚠注意

- ステレオ カメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土埃など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

⚠注意

- ステレオ カメラが認識しにくい状態（特に以下のような場合）
  - フロント ガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土埃、シールなどでステレオ カメラ前面が覆われているとき
  - ダイハツ指定以外のガラス コーティング剤を使用したとき
  - フロント ガラスにフィルムを貼ったとき
  - フロント ガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - フロント ウォッシャーの使用中または使用後で、フロント ガラスが充分に拭き取れていないとき
  - フロント ガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオ カメラの視界がさえぎられたとき
  - ダイハツ純正品以外のワイパー ブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - 雨滴やウインド ウォッシャーの水滴、またはワイパー ブレードがステレオ カメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ステレオ カメラの前を手でふさぐなどしたとき
  - ステレオ カメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき

⚠注意

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオ カメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
- 前方車や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車、歩行者に接近したとき
- 前方車の一部しかステレオ カメラの認識範囲内に入っていないとき

⚠注意

- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオ カメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車や対向車による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃などがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリア カー、サイド カーなどを含む）のとき
- 前方車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車が傾いているとき

⚠注意

- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオ カメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオ カメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオ カメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッド ランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

⚠注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETCゲート、狭いガード レール、雪溜まりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車に接近して走行するときや、前方の壁や前方車ぎりぎりに接近して停止するとき
- 停止車両などの横すれすれを通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニール カーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃などで前方の視界が悪いとき
- ステレオ カメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガード レールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツ アイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき

⚠注意

- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車などが重なってみえるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車の方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやライト反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のライト群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車の二車線変更など、二つの物が交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

⚠注意

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシストOFF表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止”が点灯しているとき（機能停止）

緊急ブレーキについて

- 緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

アドバイス

- 緊急ブレーキ作動中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオ カメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に、①～③の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

①衝突警報

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性があると判断した場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

② 1 次ブレーキ

前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高いと判断した場合に、ブザー音を変化させブレーキ制御を行います。

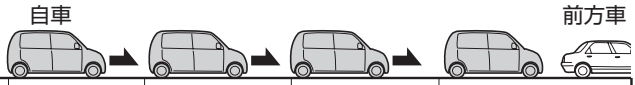
・前方車、歩行者と認識していない場合、またはブレーキ ペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
・運転者の衝突回避操作（ブレーキ ペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③ 2 次ブレーキ

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断した場合に、 1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

・停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）
・停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。

- システム作動中は、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起します。
- 緊急ブレーキ作動中は制動灯、ハイマウント ストップ ランプが点灯します。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキ アシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。



	①衝突警報	②1次ブレーキ	③2次ブレーキ	（停止保持）
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
被害軽減ブレーキアシスト	—	作動*1		—
ブザー音	ピピピピピピッ	ピピピピピピ・・・		ピピピッ・・・*2
スマートアシスト作動灯	点滅			点滅*2
マスターウォーニング	消灯	点灯		消灯

＊1 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合に作動
＊2 運転者操作で終了

アドバイス

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシストOFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ）

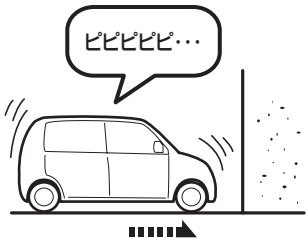
アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

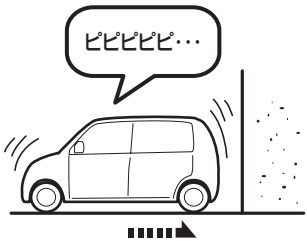
誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセル ペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

- 前方は、ステレオ カメラが約 4m 以内に障害物を認識している場合に作動します。



- 後方は、ソナーが約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



車速が約 4km/h 以下で、アクセル ペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセル ペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセル ペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。
- 後方で作動したとき、ブザーはリバース音よりも早い間隔で鳴ります。

（スマートアシストⅢの作動状態について → 133 ページ）

⚠警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフト レバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。

⚠警告

- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセル ペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能（後方）とコーナー センサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナー センサーのブザー音が鳴っていても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナー センサーのブザー音が鳴っていなくても、誤発進抑制制御（後方）が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオ カメラ、またはソナーが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセル ペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。

（スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ）

⚠警告

- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRCを“OFF”またはVSC ＆ TRCを“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセル ペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

■ 誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシストOFF 表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- ブレーキ ペダルを踏んでいない
- 車速が 0～約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- TRC OFF表示灯、VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフト レバーがⒹ、Ⓢ、Ⓑレンジ
- 後方の場合は、シフト レバーがⓇレンジ

⚠注意

以下の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペア タイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- ステレオ カメラが認識しにくい状態（特に以下のような場合）
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッド ランプの光など）を受けたとき
  - フロント ガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土埃などが付着して覆っているとき
  - ステレオ カメラの温度が極端に高いとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ヘッド ランプ照射範囲外に障害物が存在するとき

⚠注意

- 雨滴やウインド ウォッシャーの水滴、またはワイパー ブレードがステレオ カメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオ カメラの視界がさえぎられたとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃など視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフ ロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオ カメラの認識エリア外に障害物が存在するとき

⚠注意

- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガード レール、車高の低い車両、縁石など）
- しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車（トレーラーや対向車など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が充分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

⚠注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車に接近して走行するときや、前方障害物ぎりぎりに接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニール カーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土埃などを通過するとき
- 停止車両などの横すれすれを通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口にガード レールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリア カーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

⚠注意

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき

⚠注意

- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に以下のような場合）
  - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - 動いているもの
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエア ブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物ぎりぎりに接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニール カーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横すれすれを通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエア ブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

⚠注意

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシストOFF表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止”が点灯しているとき（機能停止）

（メーター表示→ 127 ページ）

誤発進抑制制御機能を“OFF”にするとき

スマートアシストOFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能

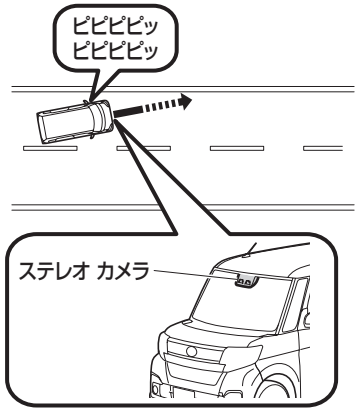
（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）

アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロント ガラス上部に設置されたステレオ カメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促します。



⚠警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。
- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を作動させない場合があります。
  - 車線内を走行していないとき
  - カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
  - 車線幅が狭いとき
  - 方向指示器を使用しているとき
  - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
  - 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

■ 車線逸脱警報機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- 車両電源が“ON”
- 車線逸脱警報OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- 車速が約 60km/h以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

⚠注意

以下の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッド ランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガード レールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

⚠注意

- 道路の状態（特に以下のような場合）
  - 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
  - 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
  - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
  - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
  - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
  - 路上のもの（縁石、ガード レール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
  - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
  - 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
  - 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
  - 分岐・合流路などを走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
  - ガード レールの影などがあるとき
  - 区画線が二重に描かれているとき

⚠注意

- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオ カメラが認識しにくい状態（特に以下のような場合）
  - フロント ガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオ カメラの視界がさえぎられたとき
  - フロント ガラス内側が曇っているとき
  - フロント ウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロント ガラスが十分に拭き取れていないとき
  - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
  - 先行車との車間距離が短いとき
  - 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
  - ステレオ カメラが高温になったとき

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

スマートアシストOFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）

アドバイス

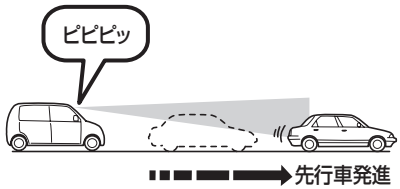
- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、車両電源をいったん“OFF”にして、再度“ON”にしても維持されます。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザー音とメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10 m以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

（スマートアシストⅢの作動状態について → 133 ページ）



⚠警告

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

アドバイス

ブザー音について

- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。
  詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ 先行車発進お知らせ機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- 車両電源が“ON”
- スマートアシストOFF 表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- シフト レバーがⒹ、Ⓢ、Ⓑレンジでブレーキ ペダルを踏んでいる、またはⓃレンジ
- 停止してから数秒経過

⚠注意

- 次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。
  - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
  - 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
  - ステレオ カメラが先行車を見失ったとき
  - 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
  - 自車が停止した時に先行車が動いている場合
  - 先行車との距離が極端に短いとき
  - 先行車が急発進や急旋回した場合
  - 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイド カーなどを含む）の場合
  - 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
  - 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような車両のとき
  - 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
  - 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
  - 車高の低い先行車のとき
  - 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
  - ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
  - 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

スマートアシストOFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

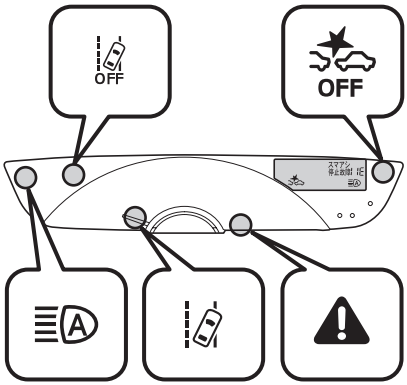
（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）

アドバイス

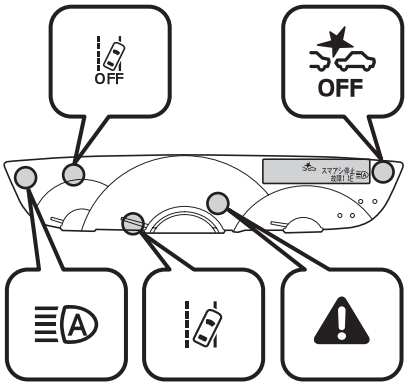
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

メーター表示

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車



マスター ウォーニング

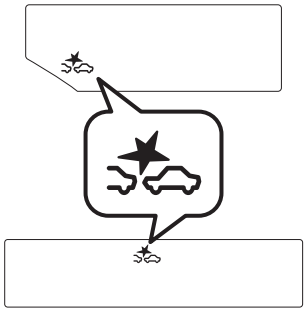
- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。
  - スマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
  - 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、2 次ブレーキが作動したとき
  - 誤発進抑制制御機能が作動したとき

⚠注意

点灯した場合

- 同時に、スマートアシストOFF表示灯と車線逸脱警報OFF表示灯が点灯したときは、オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。通常走行に支障ありませんが、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

スマートアシスト作動灯



- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、下記の機能が作動したときに点滅します。
  - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
  - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
  - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
  - 先行車発進お知らせ機能

アドバイス

- 緊急ブレーキが作動中または、誤発進抑制制御機能がエンジン出力を抑制しているときは、同時にマスター ウォーニングも点灯します。

スマートアシストOFF表示灯

- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。
  - スマートアシストOFFスイッチで下記の機能を“OFF”にしたとき
    - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
    - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
    - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
    - 先行車発進お知らせ機能
  - オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）

アドバイス

- オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスター ウォーニングと車線逸脱警報OFF表示灯も点灯します。

（マスター ウォーニング→ 128 ページ）

車線逸脱警報作動灯

- 車両電源を“ON”にすると車線逸脱警報作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに点滅します。

車線逸脱警報OFF表示灯

- 車両電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。
- スマートアシストOFFスイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
- オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）

アドバイス

- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、車両電源をいったん“OFF”にして、再度“ON”にしても維持されます。
- “ON”の状態を維持しているときは、車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）

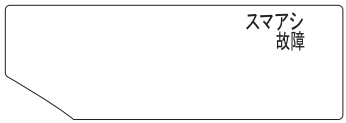
- オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスター ウォーニングとスマートアシストOFF表示灯も点灯します。

（マスター ウォーニング→ 128 ページ）

オート ハイ ビーム 作動灯

- 車両電源が“ON”でオート ハイ ビームが作動したときに点灯します。

スマートアシスト“故障”表示



〈タコ メーターなし車〉

〈タコ メーター付き車〉

- 車両電源が“ON”で、オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があると表示します。

⚠注意

- 表示されたときは、オート ハイ ビームを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。 通常走行に支障ありませんが、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

オート ハイ ビーム “故障”表示

〈タコ メーターなし車〉

〈タコ メーター付き車〉

- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、オート ハイ ビームに異常があると点灯します。

⚠注意

- 点灯したときは、同時にマスター ウォーニングも点灯し、オート ハイ ビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

スマートアシスト“停止”表示

〈タコ メーターなし車〉

〈タコ メーター付き車〉

- 車両電源が“ON”で、スマートアシストⅢの機能が一時的に停止したときに“スマアシ停止”と機能停止コードを表示します。
- “スマアシ停止”が表示されているときは、スマートアシストⅢは作動しません。

アドバイス

- “スマアシ停止”が表示されても、オート ハイ ビームは作動することがあります。
- 機能停止コードごとに適切な処置を行ってください。

（機能停止コード→ 132 ページ）

■ 機能停止コード

機能停止コード	原因	処置
11E	ステレオ カメラが視界不良により前方を認識できない	原因状態が解消されると、復帰します。
12E	ステレオ カメラの作動条件を満たさなくなった（ステレオ カメラ内が高温になったなど）	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、車両電源を“OFF”にした後、再度車両電源を“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E	ソナー部（車両後側）に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E	フロント ワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。

⚠注意

- 処置をしても、機能停止コードが表示したままのときは、システムの異常が考えられます。
  通常走行に支障ありませんが、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」はⓇレンジ以外、「15E」「16E」はⓇレンジのときに表示します。

スマートアシストⅢの作動状態について

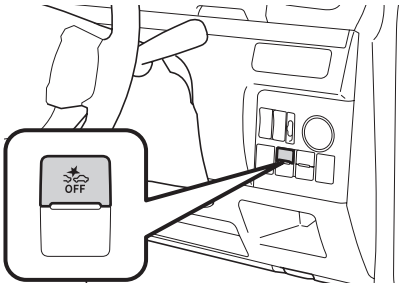
スマートアシストⅢの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

		インジケーター	液晶部	ブザー音
スマートアシストOFFスイッチで、以下の機能を停止したとき ・衝突警報機能（対車両・対歩行者） ・衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者） ・誤発進抑制制御機能（前方・後方） ・先行車発進お知らせ機能		OFF が点灯	―	ピピッ
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき		OFF が点灯	―	ピピッ
オート ハイ ビームを除くシステム異常時		⚠ OFF OFF が点灯	以下のシステムに異常がある場合、“スマアシ故障”を表示 ・ステレオ カメラ ・ソナー	―
オート ハイ ビーム異常時		⚠ が点灯	Ⓐ が点灯	―
機能一時停止時		―	“スマアシ停止”と機能停止コードを表示	―
衝突警報機能		―	が点滅	ピピピピピピッ
衝突回避支援ブレーキ機能	1次ブレーキ	⚠ が点灯		ピピピピピ…
	2次ブレーキ			ピピピピピ…
	停止保持	―		ピピピッ…
誤発進抑制制御機能（前方）	警報			ピピピピピピッ
	制御	⚠ が点灯		ピピピピピ…
誤発進抑制制御機能（後方）	警報	―		ピピピピピッ
	制御	⚠ が点灯		ピピピピピ…
先行車発進お知らせ機能		―		ピピピッ
車線逸脱警報機能		が点滅	―	ピピピピッ ピピピピッ
オート ハイ ビーム		Ⓐ が点灯	―	―

スマートアシストOFFスイッチ

車両電源が“ON”のとき、スマートアシストOFF スイッチを操作することで、スマートアシストⅢの以下の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能



■衝突警報機能、
衝突回避支援ブレーキ機能、
誤発進抑制制御機能、
先行車発進お知らせ機能を
“OFF”にするとき

- スマートアシストOFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、“OFF”になります。
  - メーター内のスマートアシストOFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

- “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを約 2 秒以上押し続けます。
  - メーター内のスマートアシストOFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

■ 車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

● スマートアシストOFF スイッチを押すと、“OFF”になります。
- メーター内の車線逸脱警報OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

● “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを押します。
- メーター内の車線逸脱警報OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

アドバイス

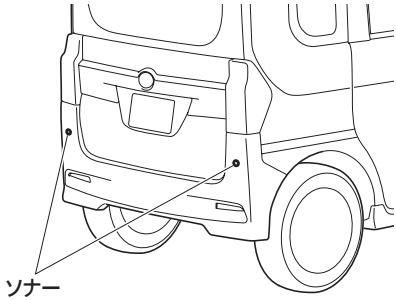
● 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、車両電源をいったん“OFF”にして、再度“ON”にしても維持されます。

コーナー センサー

コーナー センサー（リヤ）

オプション/グレード別装備

コーナー センサーは、徐行（車速約10km/h以下）状態で後退しているときに、リヤ バンパーの左右ソナーで障害物とのおおよその距離を認識して、ブザーで障害物の接近を運転者にお知らせする装置です。



（ソナー→ 105 ページ）

⚠警告

コーナー センサーをお使いになる前に

- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - 車速が約 10km/hを超えないようにしてください。
  - ソナーの認識エリア、コーナー センサーの作動速度には限界があります。車を後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）やソナーの認識エリア外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
  - ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。

コーナー センサーについて

- 次のような場合は、コーナー センサーが作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
  - 路面の状態（勾配、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペア タイヤなど）
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
  - 後方障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき

⚠警告

- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
  - 地面から高い位置に存在する障害物のとき
  - 背の低い障害物のとき
  - 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
  - 動いているもの（急に後方に現れたり、車両後方を横切るものなど）
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
  - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのとき
  - 地面に対して垂直でない壁のとき
  - 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
  - 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
  - ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき

⚠警告

  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- コーナー センサーと誤発進抑制制御機能（後方）では作動の対象とする障害物が異なります。コーナー センサーが作動していても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナー センサーが作動していなくても、誤発進抑制制御（後方）が作動する場合があります。

⚠注意

- 次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
  - ビニール カーテン、旗などをくぐって通過するとき
  - 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - 障害物の横すれすれを通過するとき

コーナー センサー

⚠注意

- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエア ブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

コーナー センサーの異常について

- 次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  - 障害物を認識していない状態で、ブザーが鳴ったとき
  - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき

⚠注意

- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストⅢに異常があるとき、または“スマアシ停止”と機能停止コード “15E”が表示しているとき

（スマートアシスト“停止”表示 → 131 ページ）
（機能停止コード→ 132 ページ）

- ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴ったときは、コーナー センサーが一時停止、または故障しています。
  ソナーに氷・雪・泥などが付着していないか確認して、取り除いてください。
  氷・雪・泥などが付着していない場合は、ソナーの異常が考えられます。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- ソナーの認識エリアはリヤ バンパーの左右ソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、ブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、ブザーが鳴る前に障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

作動条件

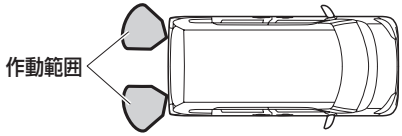
次の条件をすべて満たしたときにコーナーセンサーは作動します。

- 電源が“ON”のとき
- シフトレバーがⓇレンジのとき
- 車速が約 10km/h以下のとき

作動条件をすべて満たした状態で、駐車ブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

（ブザー→ 139 ページ）

作動範囲



ブザー

作動条件をすべて満たした状態で、駐車ブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が短くなると、ブザーが下表のとおり変化します。

ブザー	ソナーと障害物との距離
ピッピッピッ…（断続音）	約60～45㎝
ピピピ…（断続音）	約45～30㎝
ピー（連続音）	約30㎝以内

- ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、最も近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

MEMO

車を運転する前に

車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検について説明しています。

■ 車体各部の開閉

キー ---------- 142
キーレス エントリー ---------- 145
キー フリー システム---------- 146
セキュリティ アラーム ---------- 158
ドアの開閉---------- 163
衝撃感知ドア ロック解除 システム ---- 168
オート ドア ロック機能／
オート ドア アンロック機能 ---- 168
スライド ドア ---------- 171
パワー スライド ドア
（ワンタッチ オープン機能、
予約ロック機能付） ---------- 175
バック ドア---------- 186
ボンネット ---------- 190
フューエル リッド ---------- 192
パワー ウインド---------- 194

■ 車体各部の調整

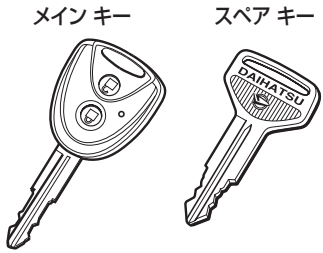
ルーム ミラー---------- 199
電動格納式ドア ミラー ---------- 199
電動格納式ヒーテッド
ドア ミラー ---------- 202
リヤ アンダー ミラー ---------- 203
チルト ステアリング ---------- 204

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠、解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

キーレス エントリー装着車



アドバイス

- スペア キーは、いざというときのために予備として使用してください。
- メイン キーは 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

メイン キーの取り扱い

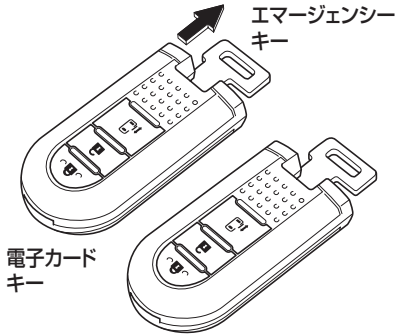
- メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 直射日光や高温下に放置しない
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
  - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

航空機に乗るときは

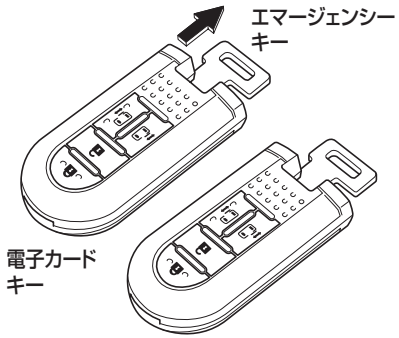
- 航空機にメイン キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

キー フリー システム装着車

左側パワー スライド ドア装着車

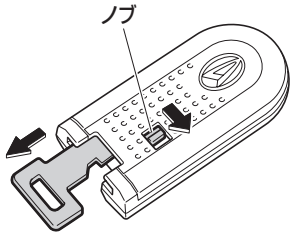


両側パワー スライド ドア装着車



■ エマージェンシー キーの取り出しかた

電子カード キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、電子カード キーから、エマージェンシー キーを引いて取り出します。



アドバイス

- 使用後は元に戻し、必ず電子カードキーと一緒に所持してください。
  電子カードキーが電池の消耗などで使用できなくなったときに必要になります。
- 電子カード キーは最大 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

キーの取り扱い

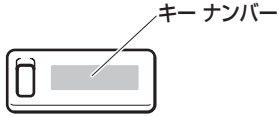
- 電子カード キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
  - 電子カード キーをズボンなどの後ろポケットに入れない
  - 直射日光や高温下に放置しない
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
  - 水にぬらさない
  - 分解をしない
  - 超音波洗浄機などにかけない
  - 磁気を帯びたキー ホルダーなどを付けない

航空機に乗るときは

- 航空機に電子カード キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

キー ナンバー プレート

お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。



- プレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一キーを紛失したときは、キー ナンバーをダイハツ サービス工場にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーレス エントリー

オプション/グレード別装備

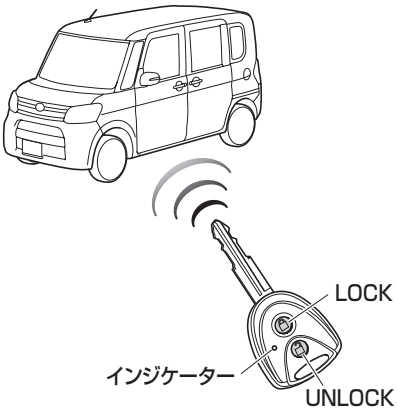
メイン キーのボタンを押すことで、ドアの施錠、解錠ができます。

▼ 操作方法

ドアが施錠された状態で、メイン キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、すべてのドアは解錠されます。

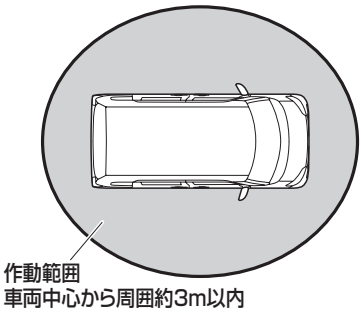
“LOCK”ボタンを押すと、すべてのドアは施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケーターが点滅します。



▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m以内です。



アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- メイン キーのボタンは、凸側が“LOCK”、凹側が“UNLOCK”になっています。

施錠、解錠ができない状況

- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれているとき

施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

施錠、解錠ができないおそれのある状況

- メイン キーと車両中心の距離が約 3m以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

電池の消耗について

- メイン キーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 414 ページ）

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明により、キーレス エントリーの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチ付きは“DOOR”のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）
これにより、キーレス エントリーの作動完了を確認してください。

アンサー バック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	消灯 （点灯中は減光後に）	約15秒間 点灯後に消灯

アドバイス

- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

キー フリー システム

オプション/グレード別装備

電子カード キーを所持するだけで、キーを取り出すことなく下記の操作ができます。

- ドアの施錠、解錠
  （キー フリー操作→ 149 ページ）
- エンジンの始動、停止（イモビライザー機能付）
  （エンジン スイッチ→ 250 ページ）
（イモビライザー機能→ 257 ページ）

また、電子カード キーのボタンを操作して、ドアの施錠、解錠をすることができます。
（キーレス操作→ 151 ページ）

アドバイス

電子カード キーの所持について

- 電子カード キーは必ず運転者が所持し、管理してください。
- 電子カード キーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

システムが作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
  - TV塔
  - 発電所
  - 放送局
  - 電光掲示板
  - ガソリン スタンド
  - コイン パーキング

アドバイス

- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブル オーディオ、または他車の電子カード キーと一緒に携行したとき
- 電子カード キー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
- 電子カード キーの電池が消耗しているとき

電池の消耗について

- 電子カード キーの電池寿命は、1 日 10 回程度の乗降で約 2 年です。（電子カード キーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています）
  ただし、電子カード キーのキーレスボタン操作（ドアの施錠・解錠など）の使用頻度が高い場合、または電子カード キーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。
- 電子カード キーの電池残量が少なくなると、警告灯とブザー音でお知らせします。
  （キー フリー電池残量警告 → 155 ページ）

アドバイス

- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くに電子カード キーを置かないでください。電子カード キーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
  - テレビ
  - オーディオ
  - パソコン
  - ACアダプター
  - 携帯電話、コードレス電話
  - 充電器
  - 電気スタンド
  - 低周波治療器などの医療用電気機器
  - 液晶表示器
  - モーター類
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。
  （キーの電池交換→ 414 ページ）

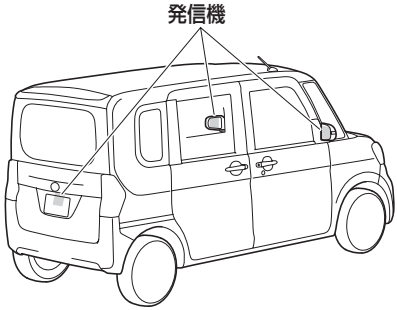
電子カード キーが使用できないときは

- 電池の消耗などにより電子カード キーが使用できないときは、エマージェンシー キーを使用してください。
  （電子カード キーが使用できないとき → 390 ページ）

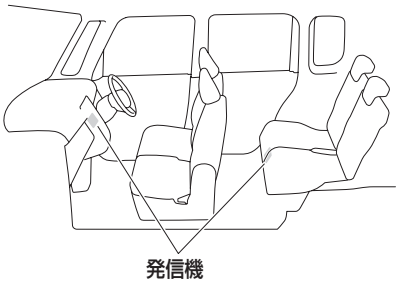
発信機

車両の発信機から発せられる電波を電子カード キーが感知することによって、キー フリー システムが作動します。

▼ 車室外発信機
ドア ミラー左右とバック ドア中央付近にあります。（3 カ所）



▼ 車室内発信機
インストルメント パネル中央とリヤ シート中央付近にあります。（2 カ所）



⚠警告

植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近付かないようにしてください。ドア開閉時、各ドアのリクエスト スイッチ・ワンタッチ スイッチ操作時、エンジン始動時などに車両の発信機から発せられる電波により、植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

アドバイス

発信機の電波について

- 発信機から発する電波を停止（キー フリー システムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 発信機から発する電波を停止させたときは、プッシュ ボタン スタート スイッチに電子カード キーを接触させなければエンジンを始動できません。
（キーレス操作によるドアの施錠・解錠は行えます）
（エンジンのかけかた→ 392 ページ）

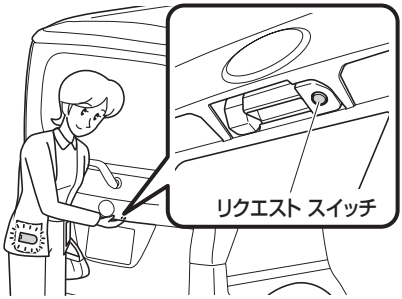
ドアの施錠、解錠

■ キー フリー操作

フロント ドア

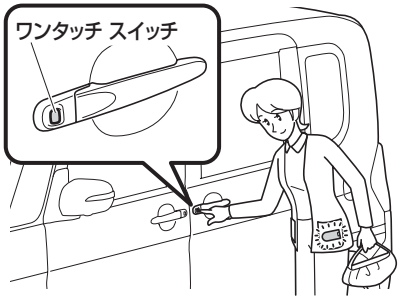
電子カード キーを所持して作動範囲内に入り、フロント ドア またはバック ドアのリクエスト スイッチを押すと、すべてのドアが施錠、解錠されます。

バック ドア



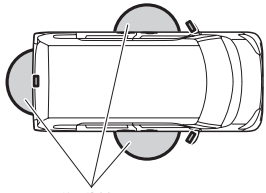
スライド ドア

電子カード キーを所持して作動範囲内に入り、スライド ドアのワンタッチ スイッチを押すと、すべてのドアが解錠し、スライド ドアが開きます。



▼ リクエスト スイッチ・ワンタッチ スイッチの作動範囲

リクエスト スイッチから約 80cm以内です。



⚠注意

- フロント ドア、バック ドアのリクエスト スイッチ、およびスライド ドアのワンタッチ スイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 施錠、解錠するときは、フロント ドアまたはバック ドアのスイッチを確実に押して施錠・解錠されたことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠がされないことがあります。
- パワー スライド ドア装着車は、スライド ドアが全閉するまで施錠されないので、自動で全閉したことを確認したあと、フロント ドア、またはバック ドアのリクエスト スイッチで施錠してください。

作動範囲について

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。
- 電子カード キーを所持している人が作動範囲にいるときは、所持していない人でも、同じ作動範囲での施錠・解錠が可能です。

アドバイス

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき

施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- 電子カード キーの所持のしかたにより、キー フリー操作をしても施錠・解錠しない場合があります。
- 下記のような場合は、電子カード キーが作動範囲にあっても、正常に施錠・解錠がされない場合があります。
  - 電子カード キーをドア ガラスやドア ハンドル周辺に近付けすぎたとき
  - 地面の近く、もしくは高い場所に電子カード キーがあるとき

自動ロック機能

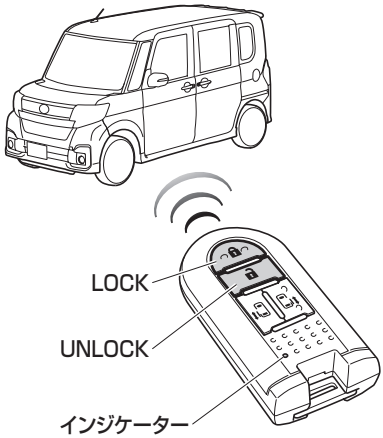
- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

■ キーレス操作

ドアが施錠された状態で、電子カード キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、すべてのドアが解錠されます。

“LOCK”ボタンを押すと、すべてのドアが施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケーターが点滅します。

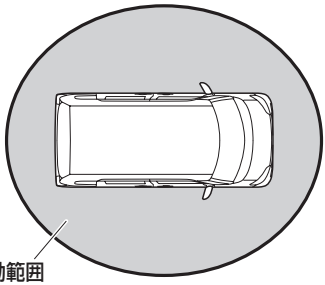


パワー スライド ドアの自動開閉を電子カード キーで行うことができます。

（電子カード キーによる自動開閉
→ 181 ページ）

▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m以内です。



アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- パワー スライド ドア装着車は、スライド ドアが全閉するまで施錠されないので、自動で全閉したことを確認したあと、電子カード キーの“LOCK”ボタンで施錠してください。

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき

施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- 電子カード キーと車両中心の距離が約 3m以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

■ 作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明とブザーにより、キー フリー操作・キーレス操作の作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチ付きは“DOOR”のとき）とブザーが下表の通り作動します。（アンサー バック）
これにより、キー フリー操作・キーレス操作の作動完了を確認してください。

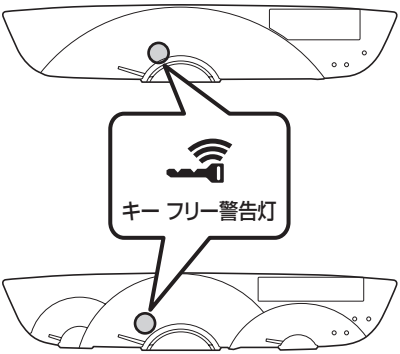
アンサー バック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	消灯（点灯中は減光後に）	約15秒間点灯後に消灯
ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴

アドバイス

- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

警告ブザー、メーター表示による警告

キー フリー システムでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。



■ 電子カード キー持ち出し警告

電源が“ACC”、または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カード キーを車外に持ち出してドアを閉めると、車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、キー フリー警告灯が高速点滅し、車内に電子カード キーがないことを警告します。

▼ 対処方法

電子カード キーを所持して乗車してください。

アドバイス

- 窓から電子カード キーを車外に持ち出したときは警告は行われません。
- 電子カード キーを車外に置いたまま、いずれかのドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われることがあります。

■ 電源切り忘れ警告①

電源が“ACC”のときに、運転席ドアを開けると、車内で「ピッピッピッ•••」と警告ブザーが鳴り続け、電源の切り忘れを警告します。

▼ 対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。

■ 電源切り忘れ警告②

電源が“ACC”、または“ON”のときに、フロント ドア、またはバック ドアのリクエスト スイッチを押してドアを施錠しようとすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電源の切り忘れを警告します。

▼ 対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。

■ 電子カード キー置き忘れ警告

車内に電子カード キーが放置された状態で、フロント ドア、またはバック ドアのリクエスト スイッチを押してドアを施錠しようとすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電子カード キーの置き忘れを警告します。

▼ 対処方法

電子カード キーを所持して、ドアを施錠してください。

■ 半ドア警告

いずれかのドアが開いているとき（半ドア警告灯が点灯時）に、フロント ドア、またはバック ドアのリクエスト スイッチを押すか、電子カード キーの“LOCK”ボタンを押して、ドアを施錠しようとすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、ドアが開いていることを警告します。

▼ 対処方法

すべてのドアを閉めて、施錠してください。

■ 電子カード キー閉じ込み警告

車内に電子カード キーが放置された状態で、下記の方法で施錠すると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電子カード キーの閉じ込みを警告します。
同時にすべてのドアが解錠されます。

▼ 施錠方法

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席アウターハンドルを引いたままドアを閉める。
- 電源が“OFF”のとき、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉める。

▼ 対処方法

電子カード キーを所持して、ドアを施錠してください。

■ キー フリー電池残量警告

電源を“OFF”にしたときに、車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、キーフリー警告灯が点滅し、電子カード キーの電池残量が少ないことを警告します。

▼ 対処方法

電子カード キーが使用できなくなる前に、新しい電池と交換をしてください。

（キーの電池交換→ 414 ページ）

アドバイス

- 電源を“ON”にしたとき、システムチェックのために、警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 電子カード キーの電池残量が少ない状態を継続すると、電源を“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも警告します。

■ ハンドル ロック未完了警告

運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にすると、車内で「ピッピッピッ•••」と警告ブザーが鳴り続け、ハンドルがロックされていないことを警告します。

▼ 対処方法

運転席ドアを閉めてください。

■ キー無し警告

電子カード キーを所持せずプッシュ ボタン スタート スイッチを押すと、キーフリー警告灯が点滅し、キーがないことを警告します。

▼ 対処方法

- 電子カード キーを所持して、プッシュ ボタン スタート スイッチを押してください。
- 電子カード キーを所持してスイッチを押しても、キー フリー警告灯が点滅する場合は、電子カード キーの電池が切れています。新しい電池と交換してください。（一時的な対処として、電子カード キーをプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させると、エンジン始動が可能です）

（キーの電池交換→ 414 ページ）
（電子カード キーが使用できないとき → 390 ページ）

■ キー フリー システム異常

キー フリー システムに異常がある場合、キー フリー警告灯が点灯します。

▼ 対処方法

ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

■ 警告一覧

警告ブザー		メーター表示	何をしたときに警告しましたか?	対処方法
車内	車外			
ピピピピピ	ピッピッピッ	高速点滅	ドアを閉めたとき	電源が“ＡＣＣ”、または“ON”のときに、電子カード　キーを車外に持ち出しています。 電子カード　キーを所持して乗車してください。
—	ピーッ	—	フロント　ドア、またはバック ドアのリクエスト スイッチを押したとき	電源が“ＡＣＣ”、または“ON”になっています。 電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。
				いずれかのドアが開いています。 すべてのドアを閉めて、施錠してください。
				電子カード　キーを車内に置き忘れています。 電子カード　キーを所持して、ドアを施錠してください。
			車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席アウター　ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠したとき	電子カード　キーを車内に置き忘れています。 電子カード　キーを所持して、ドアを施錠してください。
			電源が“OFF”のとき、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき	
			電子カード キーの“LOCK”ボタンを押したとき	いずれかのドアが開いています。 すべてのドアを閉めて施錠してください。

警告ブザー		メーター表示	何をしたときに警告しましたか?	対処方法
車内	車外			
ピッピッピッ	—	点滅	電源を“OFF”にしたとき	電子カード キーの電池残量が少なくなっています。 新しい電池と交換をしてください。
ピッピッピッ…	—	—	運転席ドアを開けたとき	電源が“ACC”になっています。 電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。
			電源を“OFF”にしたとき	運転席ドアが開いているためハンドル ロックがされていません。 運転席ドアを閉めてください。
—	—	点滅	プッシュ ボタン スタートスイッチを押したとき	電子カード キーを所持していない状態でスイッチを押しています。 電子カード キーを所持して、スイッチを押してください。
				所持している電子カード キーの電池が消耗しています。 新しい電池と交換をしてください。 一時的な対処として電子カード キーをスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です。
—	—	点灯	—	ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

キー フリー警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源に関係なく、キーフリー システムに異常があると点灯します。
- 下記の場合に点滅します。
  - 電源が“ACC”または“ON”で、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき
  - 電子カード キーの電池残量が少ない状態で、電源を“OFF”にしたとき
    （電池残量が少ない状態を継続すると、電源を“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも点滅します。）
  - 電子カード キーを所持せずにプッシュ ボタン スタート スイッチを押したとき

（警告ブザー、メーター表示による警告 → 153 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

セキュリティ アラーム

セキュリティ アラームは、すべてのドアを閉め、キーレス エントリー、またはキー フリー システムの操作でドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。

キーレス エントリー、またはキー フリー システム以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

アドバイス

- セキュリティ アラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、セキュリティ アラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティ アラームについて十分ご説明ください。
  セキュリティ アラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- セキュリティ アラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため以下のことを必ず確認してください。
  - 車内に人が乗っていないか
  - ドアガラスが閉じているか
  - 車内に貴重品などを放置していないか

セキュリティ アラームのセット方法

1. すべてのドアを閉めます。
2. 下記のいずれかの方法ですべてのドアを施錠します。（セキュリティ インジケーターが点灯）

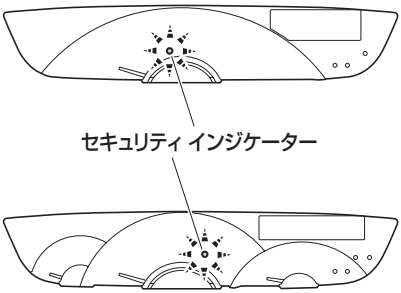
キーレス エントリー装着車

メイン キーの“LOCK”ボタンを押す
（キーレス エントリー→ 145 ページ）

キー フリー システム装着車

- フロント ドア、バック ドアのリクエスト スイッチを押す
（キー フリー操作→ 149 ページ）
- 電子カード キーの“LOCK”ボタンを押す
（キーレス操作→ 151 ページ）

3. 30 秒以上経過すると、自動的にセットします。
（セットされると、セキュリティ インジケーターが点灯から点滅に変わる）



アドバイス

- キーレス エントリー、またはキー フリー システムの操作以外の操作でドアを施錠した場合、セキュリティ アラームはセットされません。（キーレス エントリー・キー フリー システムの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ インジケーターが点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をした場合、セキュリティ アラームのセットは中断されます。
  - 運転席ドアを解錠したとき
  - ドアを開けたとき
  - キーレス エントリー装着車で、キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
  - キー フリー システム装着車で、電源を“ON”にしたとき

キー フリー システム装着車の場合

- セキュリティ インジケーターは、イモビライザー機能と兼用しているため、セキュリティ アラームを解除しても、電源を“ACC”にするまで消灯しません。
また、電源を“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

警戒中の作動

セキュリティ アラームがセットされた状態で下記の操作以外で解錠し、ドアを開けるとセキュリティ アラームが作動します。

キーレス エントリー装着車

メイン キーの“UNLOCK”ボタンを押す

キー フリー システム装着車

- フロント ドア、バック ドアのリクエスト スイッチを押す
- スライド ドアのワンタッチ スイッチを押す
- 電子カード キーの“UNLOCK”ボタンを押す

アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、セキュリティ アラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

■ セキュリティ アラーム警報

セキュリティ アラームは 2 段階で作動します。

▼ 1 次警報

- セキュリティ インジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

1 次作動の間に警報が解除されなかった場合、2 次作動に入ります。

▼ 2 次警報

- セキュリティ インジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

セキュリティ アラームの解除方法

下記のいずれかの操作でセキュリティーアラームのセット（警戒状態）を解除できます。

キーレス エントリー装着車

- メイン キーの“UNLOCK”ボタン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”の位置にする

キー フリー システム装着車

- リクエスト スイッチ、またはワンタッチ スイッチを押して、ドアを解錠する
- 電子カード キーの“UNLOCK”ボタン操作でドアを解錠する
- 電源を“ON”にする

アドバイス

- セキュリティ アラームは、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドガラスが開いているときにも作動します。セキュリティ アラームを誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインド ガラスが開いているときは、セキュリティ アラームをセットしないでください。

警報の停止方法

下記のいずれかの操作で警報を停止できます。

キーレス エントリー装着車

- メイン キーの“LOCK”、または“UNLOCK”ボタンを押す
- エンジン スイッチを“ON”の位置にする

キー フリー システム装着車

- 電子カード キーの“LOCK”、または“UNLOCK”ボタンを押す
- 電子カード キーを所持してリクエスト スイッチを押す
- 電子カード キーを所持して乗車する
- 電源を“ON”にする

■ 電子カード キーが使用できないとき

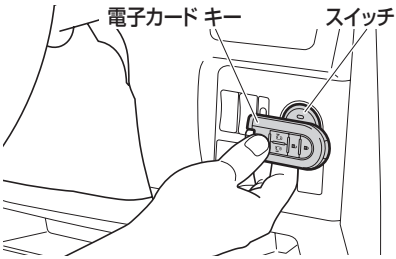
キー フリー システム装着車

電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できないときは、キーをプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させて、警報を停止してください。

▼ 操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを図のようにプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させます。
   キーが認識されると、警報が停止します。

- 電子カード キーの中心をスイッチの中心に接触させます。



アドバイス

電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できないときは

- 電子カード キー（エマージェンシー キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行うことができます。
  （電子カード キーが使用できないとき → 390 ページ）

セキュリティ アラームの作動履歴の確認

セキュリティ アラームのセット中に警報（2 次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼ 確認方法

電源を“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴り、2 次警報まで作動したことを知らせます。

アドバイス

- 作動履歴の確認は、2 次警報作動後、1 回のみ行うことができます。

セキュリティ アラームのメンテナンスについて

セキュリティ アラーム システムのメンテナンスは不要です。

⚠注意

- セキュリティ アラーム システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

ドアの開閉

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

アドバイス

- ドアを解錠した直後にドア ハンドルを引くと、ドアが開かないことがあります。その場合は、もう一度ドアを解錠し直してから、ドア ハンドルを引いてください。

車を離れるときは

- キーは必ず運転者が携帯し、車内に置き忘れないようにしてください。
- ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

キーレス エントリーによる施錠、解錠

（キーレス エントリー
→ 145 ページ）

キー フリー システムによる施錠、解錠

（キー フリー システム
→ 146 ページ）

車外からキーによる施錠、解錠

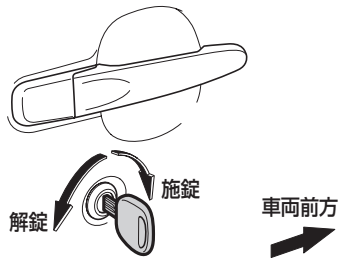
アドバイス

セキュリティ アラームがセットされている場合

- キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キーフリー操作）以外でドアを解錠してドアを開けると、セキュリティ アラームの警報が作動します。
  警報が作動した場合は、ただちに「警報の停止方法」にしたがって、警報を停止させてください。
  （警報の停止方法→ 161 ページ）

▼ 操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前方に回すと施錠され、後方に回すと解錠されます。



アドバイス

- ドアのキー挿入口は助手席側には設定していません。

車外からキーを使用しない施錠

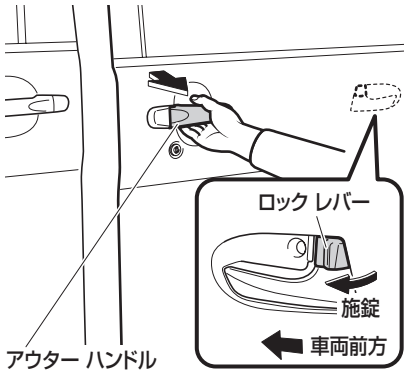
アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにキーを手に持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付ければ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。

■ 運転席ドア

▼ 操作方法

ロック レバーを車両前方に押し込み、アウター ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。

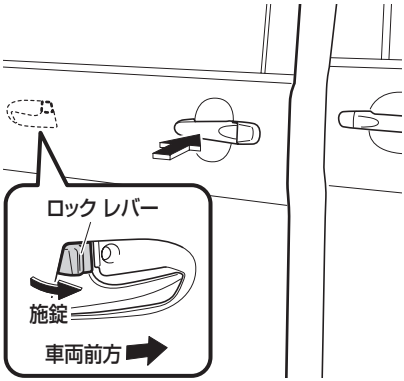


■ 助手席ドア、スライド ドア

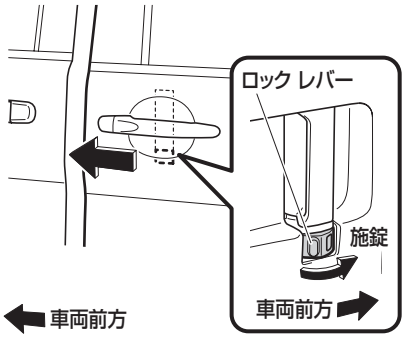
▼ 操作方法

ロック レバーを車両前方に押し込み、ドアを閉めて施錠します。

助手席ドア



スライド ドア

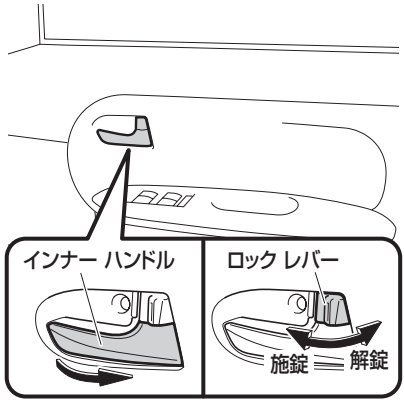


車内からの施錠、解錠

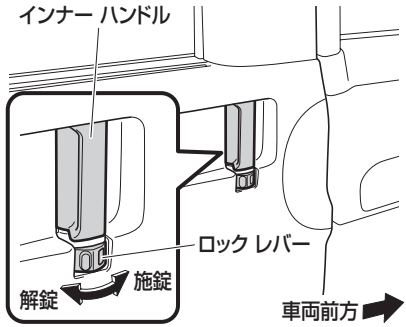
▼ 操作方法

ロック レバーを車両前方に押し込むと施錠できます。ロック レバーを車両後方に引くと解錠でき、インナー ハンドルを引くとドアが開きます。

フロント ドア

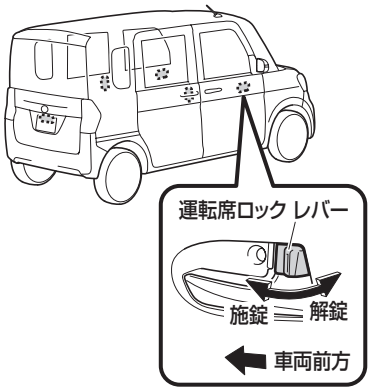


スライド ドア



パワー ドア ロック

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動して助手席ドア・スライド ドア・バック ドアが施錠、解錠されます。

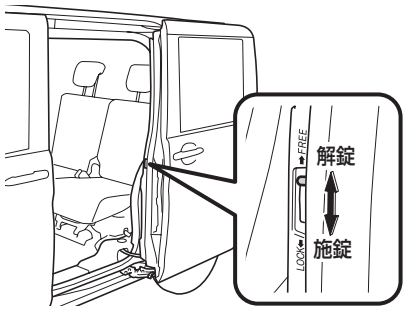


チャイルド セーフティ

お子さまの安全のため、チャイルド セーフティを左右スライドドアに設けています。

▼ 操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。
ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。



⚠注意

- お子さまを後部座席に乗せるときは必ずチャイルド セーフティを使用してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。
以下の状態で作動します。

キーレス エントリー装着車

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき

キー フリー システム装着車

電源が“ACC”か“ON”のとき、または車内に電子カード キーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき
以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席アウターハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（車両の電源が“ON”のときは作動しません）

アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

キー フリー システム装着車

- 電子カード キーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、キー閉じ込み防止機能が作動せず、施錠されることがあります。

衝撃感知ドア ロック解除システム

車両の電源が“ON”のとき、車両の前後方向から強い衝撃を受けてSRSエア バッグが作動すると、約 10 秒後に全てのドアが自動的に解錠されます。

- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ装着車は、側面から強い衝撃を受けてSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが作動しても解錠されます。

アドバイス

- 衝撃の加わりかたや大きさによっては、ドア ロックを解除しない場合があります。

オート ドア ロック機能／オート ドア アンロック機能

車両の状況に応じて、全てのドアを自動的にロック／アンロックする機能です。

オート ドア ロック機能

■ 車速感応オート ドア ロック

車速が約 20km/h以上になると、全てのドアが施錠されます。

- 以下の設定に切り替えることができます。

▼ シフト連動オート ドア ロック

- エンジン回転中にシフト レバーをⓅ以外の位置にすると、全てのドアが施錠されます。

▼ オート ドア ロック機能停止

- 自動では施錠されません。

アドバイス

- オート ドア ロック機能で施錠された後に解錠すると、再度施錠はされません。
  ただし、以下のいずれかの状態になると再作動します。
  - 停車中にいずれかのドアを開けた
  - 車両の電源を“ACC”または“OFF”にした
  - オート ドア アンロック機能で解錠された

オート ドア アンロック機能

■ シフト連動オート ドア アンロック

運転席ドアを施錠した状態で、シフト レバーをⓅの位置にすると、全てのドアが解錠されます。

- 以下の設定に切り替えることができます。

▼ 電源“OFF”連動オート ドア アンロック

- 運転席ドアを施錠した状態で、車両の電源を“ACC”または“OFF”にすると、全てのドアが解錠されます。

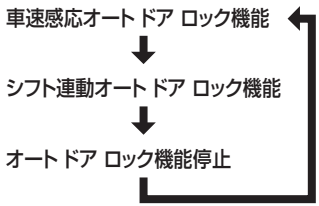
▼ オート ドア アンロック機能停止

- 自動では解錠されません。

オート ドア ロック機能／オート ドア アンロック機能の切り替え方法

■ オート ドア ロック機能の切り替え方法

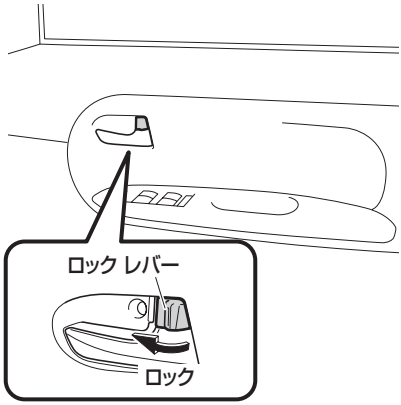
オート ドア ロック機能の切り替え操作を完了するごとに、次の順で設定を切り替えます。



▼ 切り替え操作の前に

車両を次の状態にしてください。

- 車幅灯を消灯する
- 車両の電源を“OFF”にする
- 全てのドアを閉める
- 運転席のドア ロック レバーを“ロック”にする



▼ 切り替え方法

1. 車両の電源を“ACC”にします。
2. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、車幅灯を点灯・再度消灯します。
3. 消灯してから約 5 秒以内に、運転席のドア ロックを“アンロック”にする。

▼ 切り替え完了確認

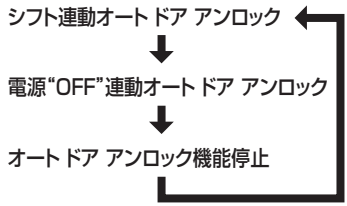
ドア ロックを“アンロック”後、約 3 秒以内に全てのドアが“ロック”されます。

アドバイス

- 操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。

■ オート ドア アンロック機能の切り替え方法

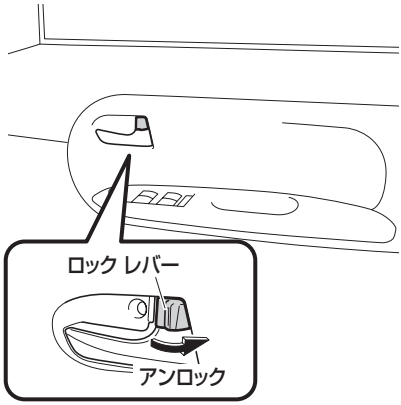
オート ドア アンロック機能の切り替え操作を完了するごとに、次の順で設定を切り替えます。



▼ 切り替え操作の前に

車両を次の状態にしてください。

- 車幅灯を消灯する
- 車両の電源を“OFF”にする
- 全てのドアを閉める
- 運転席のドア ロック レバーを“アンロック”にする



▼ 切り替え方法

1. 車両の電源を“ACC”にします。
2. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、車幅灯を点灯・再度消灯します。
3. 消灯してから約 5 秒以内に、運転席のドア ロックを“ロック”します。

▼ 切り替え完了確認

ドア ロックを“ロック”後、約 3 秒以内に全てのドアが“アンロック”されます。

アドバイス

- 操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。

スライド ドア

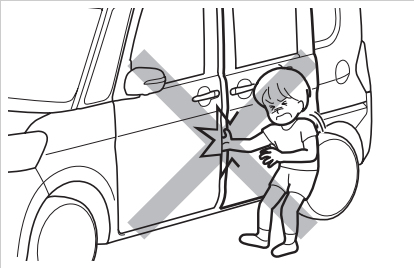
⚠警告

走行する前は

- スライド ドアが確実に閉まっていることを確認してください。半開のまま走行すると、ドアが全開または全閉方向に動き、手足や顔を挟んだり、車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

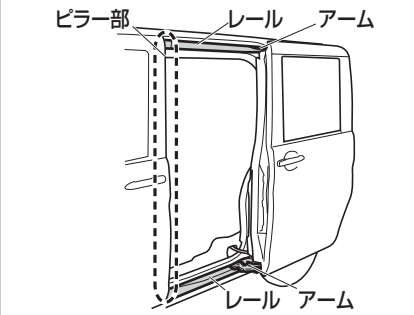
ドアを開閉するときは

- お子さまにはスライド ドアの開閉操作をさせないでください。不意にドアが動き出したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあり危険です。



⚠警告

- スライド ドアを開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアで手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - スライド ドア周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - ドア ハンドルをしっかりと持ち、スライド ドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - スライド ドアのレール、アーム、およびピラー部には手足をかけないでください。



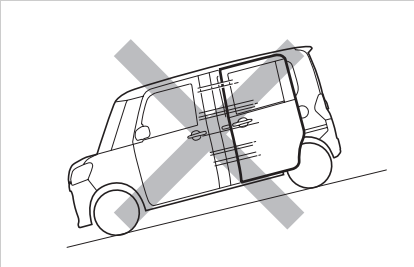
  - スライド ドアのウインド ガラスを開けたまま開閉するときは、ウインドから手足や顔を出さないでください。
  - スライド ドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。開け方が不完全で固定されていないと、不意に動き出すことがあり危険です。
  - スライド ドアを閉めるときは指などを挟まないよう、十分に注意してください。

車体各部の開閉

⚠警告

傾斜地では

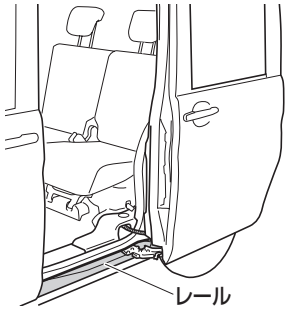
- 傾斜地でスライド ドアを開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアが不意に動き出すことがあり、手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - スライド ドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。
  - スライド ドアを開けたままにしないでください。



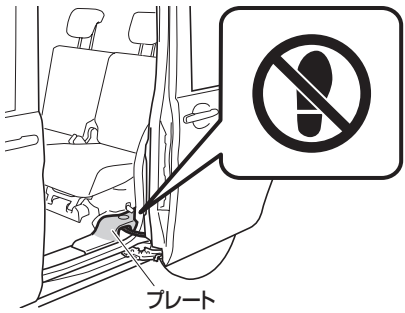
  - 乗り降りの途中でドア ハンドルを操作しないでください。
  - スライド ドアの開閉スピードが速くなりますので、注意してください。

⚠注意

- スライド ドアのリヤ ステップ下のレールに、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライド ドアを開閉すると、スライド ドアの故障の原因になります。



- 乗り降りするときは、リヤ シート下のプレートを踏まないようにしてください。プレート下の配線類が損傷するおそれがあります。



アドバイス

- フューエル リッドが開いている状態で、左側スライド ドアを手動で開けると、途中でストッパーがかかり全開することができません。
- 途中でストッパーがかかった状態のスライド ドアを全開にするときは、一度フューエル リッドを閉めたあと、再度スライド ドアを開けてください。

スライド ドアの施錠、解錠

（車外からキーを使用しない施錠 → 164 ページ）
（車内からの施錠、解錠→ 165 ページ）

スライド ドアの開閉

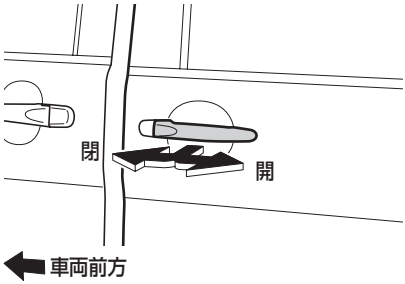
アドバイス

パワー スライド ドア

- パワー スライド ドア メイン スイッチが“OFF”のとき、スライド ドアを手動で開閉できます。
（パワー スライド ドア メイン スイッチ→ 178 ページ）

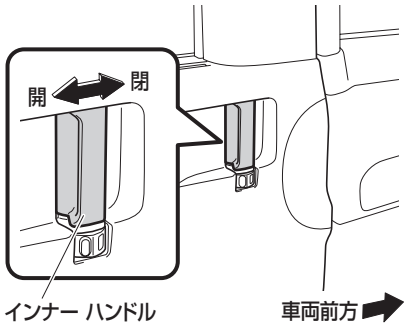
■ 車外からの開閉

- 開けるときは、車外のドア ハンドルをロックが解除するまで手前に引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、車外のドア ハンドルをロックが解除するまで手前に引いて、ストッパーを解除させてから、スライド ドアを車両前方に操作します。



■ 車内からの開閉

- 開けるときは、インナー ハンドルをロックが解除するまで車両後方に引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、インナー ハンドルをロックが解除するまで車両前方に押して、ストッパーを解除させてから、スライド ドアを車両前方に操作します。



アドバイス

- チャイルド セーフティが施錠状態になっているときは、インナー ハンドルでスライド ドアを開くことはできません。

イージー クローザー（左右）

オプション/グレード別装備

スライド ドアを閉めたとき、半ドア状態でも、自動的にドアを閉めることができます。

⚠警告

- お子さまには、スライド ドアの開閉操作をさせないでください。
- 半ドア状態のとき、スライド ドアが自動的に閉まるため、同乗者など周囲の安全を十分に確認し、指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- イージー クローザー作動中は、ドアに無理な力をかけないでください。また、イージー クローザーを繰り返し作動させないでください。無理な力をかけると、故障の原因になります。

アドバイス

- イージー クローザー作動中に車外または車内のドア ハンドルを引くと、作動を停止することができます。
- ドア ハンドルを引いたままスライドドアを閉めると、イージー クローザーは作動しません。

パワー スライド ドア装着車

- パワー スライド ドア メイン スイッチが“OFF”のときでも、イージー クローザーは作動します。

パワー スライド ドア（ワンタッチ オープン機能、予約ロック機能付）

オプション/グレード別装備

左側パワー スライド ドア装着車

ドア ハンドルやスイッチの操作により、左側のスライド ドアを自動で開閉することができます。

両側パワー スライド ドア装着車

ドア ハンドルやスイッチの操作により、左右両側のスライド ドアを自動で開閉することができます。

⚠警告

- スライド ドアの警告および注意もお守りください。
  （スライド ドア→ 171 ページ）
- 乗降するときは、必ずパワー スライド ドアを全開にしてください。
- パワー スライド ドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。
  車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドア ハンドルやスイッチ操作により、スライド ドアを完全に閉めてください。

⚠警告

- パワー スライド ドアを自動開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアで手足や顔を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ドアを自動開閉するときは

- お子さまには、パワー スライド ドアの開閉操作をさせないでください。
- 自動開閉している間は、同乗者や荷物など周囲の安全を十分に確認して注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- ブレーキを確実にかけて、車が完全に停止している状態で行ってください。
- 自動開閉中に警報ブザーが鳴り、ドアが途中で緊急停止したときは、周囲の安全を十分に確認して停止原因を解消し、すみやかに開閉操作をしてください。坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあります。
- エンジン停止中に、パワー スライドドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドア ハンドルの操作で途中停止した場合は、約 3 分後（挟み込みで停止した場合は約 30 分後）にブザーが鳴り、停止保持状態を解除して手動状態になるため、坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあります。

車体各部の開閉

⚠警告

傾斜地では

- パワー スライド ドアを開ける場合は、全開にして静止していることを確認してください。全開でないと、不意に動き出すおそれがあります。
- 急な傾斜地ではパワー スライド ドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。

タイヤ交換や洗車機を使用するときは

- パワー スライド ドア メイン スイッチを“OFF”にしてください。“ON”にしていると、誤ってスライド ドア ハンドルやワンタッチ スイッチなどに触れ、スライド ドアが動き出すおそれがあります。

⚠注意

- エンジン停止時の自動開閉中に、エンジンを始動しないでください。パワー スライド ドアが正常に作動しなくなる場合があります。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中にパワー スライド ドアを作動させると、エンジンが再始動することがあります。しっかりとブレーキを踏み続けてください。

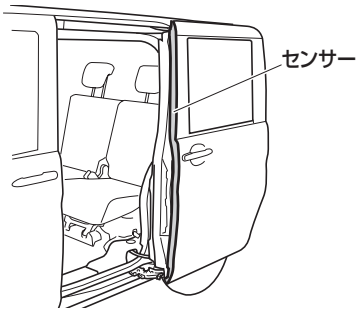
（eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）

ドアが凍結しているときは

- パワー スライド ドアが開閉可能かを手動で確認してから自動開閉操作をしてください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因になります。

⚠注意

- スライド ドアの側面部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、パワー スライド ドアはただちに停止します。



アドバイス

- 車外または車内のドア ハンドルによる自動開操作の際、ドア ハンドル操作が不十分な場合にパワー スライド ドア後端付近で「ガコッ」と音がしてブザーが約 10 秒間鳴ることがありますが、故障ではありません。
  もう一度ドア ハンドルを引くと、パワー スライド ドアが正常に作動します。

■ パワー スライド ドアの作動条件について

パワー スライド ドアは、電源に関係なく作動します。

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワー スライド ドア メイン スイッチが“ON”の状態
- フューエル リッドが閉まっているとき（左側パワー スライド ドア開閉時）
- 電源が“ON”のときは、車速が約3km/h以下で、次のいずれかの条件を満たしているとき
  - ・シフト レバーがⓅレンジの位置
  - ・駐車ブレーキがかかっている
  - ・ブレーキ ペダルを踏んでいる

アドバイス

- スライド ドアが施錠された状態で、ワンタッチ スイッチ以外の操作をしたときは、自動開作動ができません。自動開作動の前に解錠してください。
- ワンタッチ スイッチは、解錠してドアを開くことはできますが、施錠することはできません。
- 電源が“ACC”または“ON”のときは、電子カード キーによる自動開閉はできません。
- パワー スライド ドア メイン スイッチが“ON”のとき、作動可能条件を満たしていない状態でパワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて手動で開けると、警報ブザーが鳴ります。その際、スライド ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなると、警報ブザーが鳴ることがあります。
- 下記のようなときは、パワー スライド ドアが作動しない場合があります。
  - ・バッテリーの電圧が低下しているとき
  - ・坂道などの傾斜地で駐車しているとき
- 以下の状態でワンタッチ スイッチにバッグなどが当ってしまうと、スライド ドアが自動で開くことがあります。
  - ・施錠状態で電子カード キーを所持しているとき
  - ・解錠状態のとき

パワー スライド ドアの自動開閉

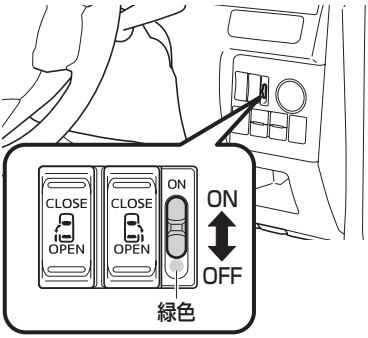
■ パワー スライド ドア
メイン スイッチ

▼ スイッチが“ON”のとき

- スライド ドアを自動で開閉できる状態です。
- スイッチ下部に緑色のマークが表れます。

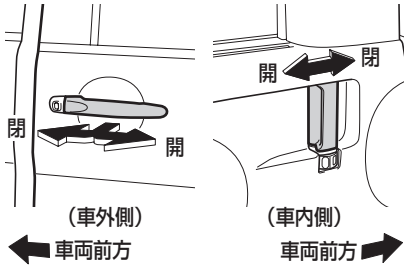
▼ スイッチが“OFF”のとき

スライド ドアを自動で開閉できません。



アドバイス

- スイッチが“OFF”のときは、自動開閉はできませんが、車外または車内のドア ハンドルで手動による開閉はできます。



- スイッチが“OFF”のときでもイージー クローザーは作動します。

■ パワー スライド ドア スイッチによる自動開閉

▼ 開けるとき

- 左側（右側）スイッチの“OPEN”側を約 0.5 秒以上押し続けると、ブザーが鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全開します。

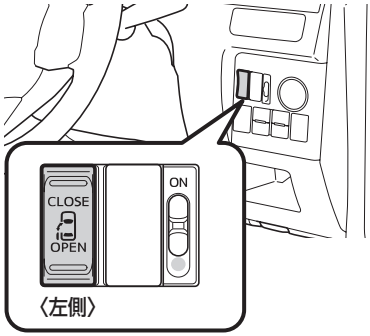
▼ 閉めるとき

- 左側（右側）スイッチの“CLOSE”側を約 0.5 秒以上押し続けると、ブザーが断続的に鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全閉します。

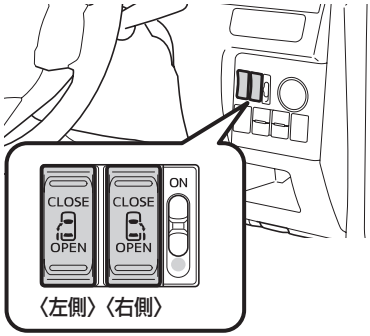
アドバイス

- 自動開閉作動中に左側（右側）スイッチの“OPEN”またはCLOSE”側を押すとブザーが鳴り、左側（右側）ドアが停止します。

左側パワー スライド ドア装着車



両側パワー スライド ドア装着車



アドバイス

- スイッチを押している時間が短いと自動開閉できません。
- パワー スライド ドア メイン スイッチが“OFF”のときにパワー スライド ドア スイッチを押すと、ブザーが“ピピッ”と鳴り、パワー スライド ドアが作動しないことをお知らせします。

（パワー スライド ドア メイン スイッチ→ 178 ページ）

■ 車内のドア ハンドルによる自動開閉

▼ 開けるとき

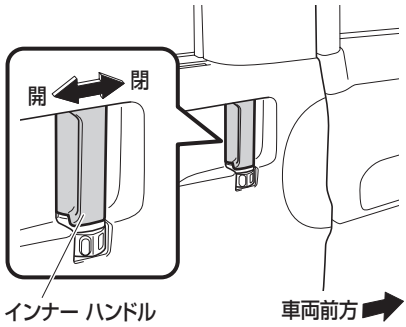
- パワー スライド ドアが全閉のとき、インナー ハンドルをロックが解除するまで車両後方に引くと、ブザーが鳴り、自動でドアが全開します。

▼ 閉めるとき

- パワー スライド ドアが全開のとき、インナー ハンドルをロックが解除するまで車両前方に押すと、ブザーが断続的に鳴り、自動でドアが全閉します。

アドバイス

- 自動開閉作動中にインナー ハンドルを操作するとブザーが鳴り、ドアが停止します。



アドバイス

- チャイルド セーフティが施錠状態になっているときは、インナー ハンドルでスライド ドアを自動で開くことはできません。

■ 車外のドア ハンドルによる自動開閉

ワンタッチ スイッチ操作

▼ 開けるとき

- パワー スライド ドアが全閉のとき、電子カード キーを所持し、キーフリー システムの作動範囲内でワンタッチ スイッチを押すとすべてのドアが解錠し、スライド ドアが自動で全開します。
- ドアが解錠されていれば、電子カード キーを所持していなくてもワンタッチ スイッチを押すことでスライド ドアを開けることができます。

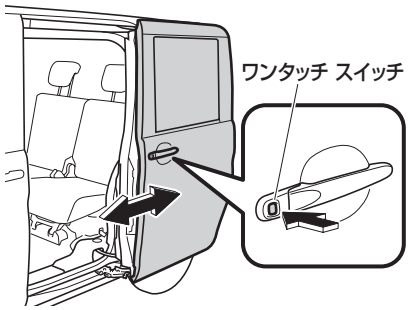
（リクエスト スイッチ・ワンタッチ スイッチの作動範囲→ 150 ページ）

▼ 閉めるとき

- パワー スライド ドアが全開のとき、ワンタッチ スイッチを押すと、スライド ドアが自動で全閉します。

アドバイス

- 自動開閉作動中にワンタッチ スイッチを押すとブザーが鳴り、作動停止します。
  もう一度ワンタッチ スイッチを押すとドアが反対方向に作動します。
- ワンタッチ スイッチでドアを施錠することはできません。



ドア ハンドル操作

▼ 開けるとき

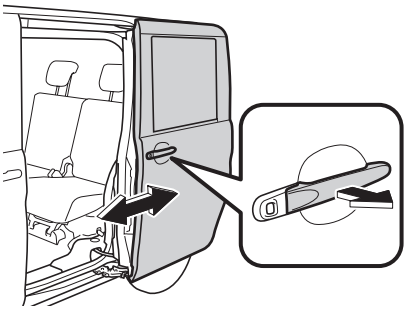
- パワー スライド ドアが全閉のとき、パワー スライド ドアのドア ハンドルをロックが解除するまで引くと、ブザーが鳴り、自動でドアが全開します。

▼ 閉めるとき

- パワー スライド ドアが全開のとき、パワー スライド ドアのドア ハンドルをロックが解除するまで引くと、ブザーが断続的に鳴り、自動でドアが全閉します。

アドバイス

- **自動開閉作動中にパワー スライド ドアのドア ハンドルを引くとブザーが鳴り、ドアが停止します。**
  もう一度ドア ハンドルを引くとドアが反対方向に作動します。



■ 電子カード キーによる自動開閉

電源が“OFF”のときに操作できます。

▼ 開けるとき

- 左側（右側）パワー スライド ドアが全閉のとき、電子カード キーの左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを約 1 秒以上押し続けると、ブザーが鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全開します。

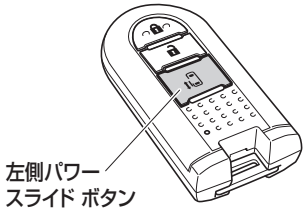
▼ 閉めるとき

- 左側（右側）パワー スライド ドアが全開のとき、電子カード キーの左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを約 1 秒以上押し続けると、ブザーが断続的に鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全閉します。

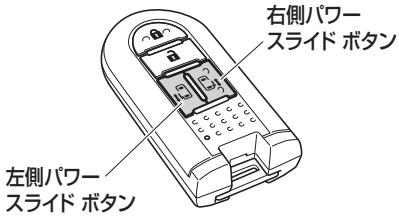
アドバイス

- **自動開閉作動中に電子カード キーの左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを押すとブザーが鳴り、ドアが停止します。**
  もう一度左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを約 1 秒以上押し続けると自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全開します。
- **パワー スライド ドアが途中まで開いた状態から閉じる場合は、ドアを全開にした後に再度ボタン操作をしてください。**

左側パワー スライド ドア装着車



両側パワー スライド ドア装着車



アドバイス

- ボタンを押している時間が短いと自動開閉できません。

予約ロック機能

スライド ドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、スライド ドア以外のすべてのドアが施錠され、スライド ドアが閉まると同時にスライド ドアも施錠されます。

▼ 予約ロック方法

1. スライド ドア以外のすべてのドアを閉じます。
2. スライド ドアの自動閉作動中に、電子カード キーで施錠操作を行います。
   - アンサー バックでお知らせします。（ブザーと非常点滅灯の点滅が 1 回）

   （キーレス操作→ 151 ページ）
3. スライド ドアが閉まると同時に施錠されます。
   - アンサー バックでお知らせして、予約ロックが完了します。（ブザーと非常点滅灯の点滅が 1 回）

アドバイス

- 予約ロックをしてスライド ドアが自動閉作動中に、キー フリー システムで解錠したり、挟み込み防止機構が働くなどの停止操作が行われたりすると、予約ロック機能を解除してすべてのドアが解錠されます。
  - ・アンサー バックでお知らせします。（ブザーと非常点滅灯の点滅が 2 回）
- 予約ロックをしてスライド ドアが自動閉作動中に、運転席側ドアのロックレバーを解錠方向へ操作したり、電源を“ACC”にしたりすると、予約ロック機能を解除してすべてのドアが解錠されます。
  - ・アンサー バックのお知らせはありません。
- 予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子カード キーを車内に戻すと、車内に電子カード キーが閉じ込められることがあります。予約ロック機能を使用するときは、必ず電子カード キーを携帯した状態で行ってください。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。
- ドアのリクエスト スイッチでは、予約ロックはできません。

自動開閉中の緊急停止について

以下のような状態になると、警報ブザーが鳴り、ドアを途中で緊急停止します。

- パワー スライド ドア メイン スイッチを“OFF”にした
- フューエル リッドを開いた（左側パワー スライド ドア開閉時）
- 自動開作動中に車速約 3 km/h以上になった

⚠警告

- 自動開閉中にパワー スライド ドア メイン スイッチを“OFF”にしたり、フューエル リッドを開いたりしたときは、警報ブザーが鳴り、スライドドアが途中で緊急停止し、約 3 秒間停止を継続します。その後、坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して停止原因を解消し、すみやかに開閉操作をしてください。
- 自動開作動中に車速が約 3 km/h以上になったときは、警報ブザーが鳴り、ドアを途中で緊急停止し、そのまま停止し続けます。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドア ハンドルやスイッチ操作により、スライド ドアを完全に閉めてください。

▼ 緊急停止後に自動開閉を再開するには
停止したパワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて、全閉にしてください。

アドバイス

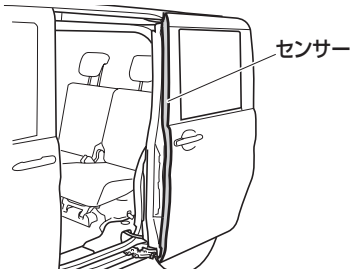
- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

挟み込み防止機構

パワー スライド ドアの自動開閉作動中に、挟み込みを検知したドアを少し反転作動した後に途中で停止させる機構です。

次のような場合に作動します。

- 自動で閉めているときに、パワー スライド ドアの前端部にあるセンサーが、異物などの挟み込みを検知した
- 自動開閉中に異物を挟み込むなどして、ドアに一定以上の負荷がかかった



⚠警告

- パワー スライド ドアが自動開閉している間は、同乗者など周囲の安全を十分に確認し、手・頭・首などを挟まないように十分に注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
  - 全開直前または全閉直前の位置では、挟み込み防止機構が作動しない領域があります。
  - 挟まれる異物の形状、硬さ、挟まれ方によっては、異物を検知できずに挟み込み防止機構が作動しないことがあります。

アドバイス

- センサーに手などを強く触れたままにしていると、自動閉作動ができません。
- 挟み込みを検知してスライド ドアが途中で停止しているときは、電子カード キーのリモコン操作による自動開閉ができません。
- 挟み込みを検知したドアが反転作動している間に再度挟み込みを検知すると、即停止します。

▼ 自動開閉ができないときは

停止したパワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて、全閉にしてください。

アドバイス

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

初期設定

パワー スライド ドアが全閉していない時に、ヒューズ切れやバッテリーあがりが起きたときは、パワー スライド ドアの初期設定をしてください。

パワー スライド ドアが初期設定されていないと、下記の機能が作動しません。

- パワー スライド ドアの自動開閉
- 挟み込み防止機構

■ 初期設定のしかた

パワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて全閉にすると、初期設定が完了します。

アドバイス

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

バック ドア

▼ 操作を行う前に

⚠警告

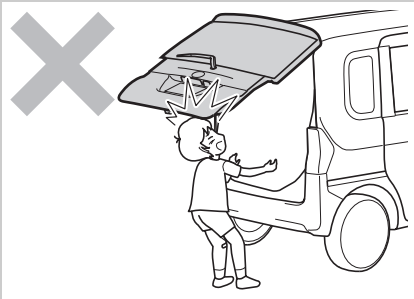
走行するときは

- 走行中はバック ドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 走行前はバック ドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはバック ドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。



- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。

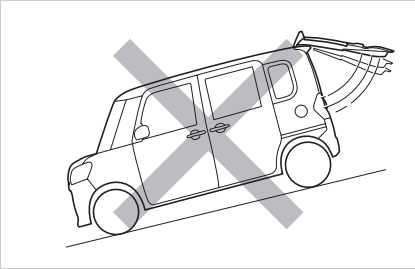
⚠警告

バック ドアを開閉するときは

- バック ドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。ドアで頭をぶつけたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - バック ドア周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - バック ドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - バック ドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
  - バック ドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバック ドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

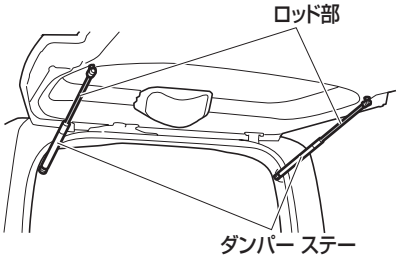


- バック ドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バック ドアを支えているダンパー ステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- バック ドアにダイハツ純正用品以外のアクセサリーを取り付けないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

⚠注意

ダンパー ステーについて

- バック ドアには、ドアを支えるためのダンパー ステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
  - ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
  - ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。

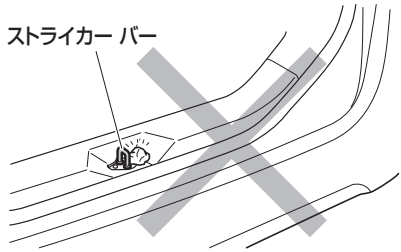


  - 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

⚠注意

ストライカー バーについて

- バック ドアを閉めるときはストライカー バーに異物がかみ込まないようにしてください。
  バーが破損し、バック ドアが閉まらなくなるおそれがあります。



車内からの施錠、解錠

■ バック ドア連動パワー ドア ロック

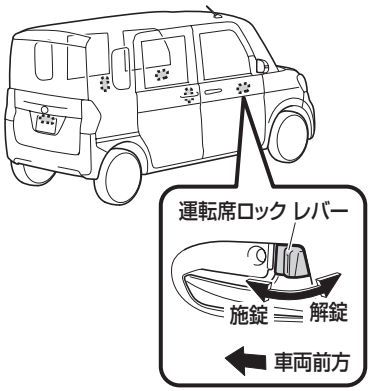
運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動してバック ドアが施錠、解錠されます。このとき助手席ドア、スライド ドアも同時に施錠、解錠されます。

▼ 施錠方法

運転席ドアのロック レバーを押し込むと施錠できます。

▼ 解錠方法

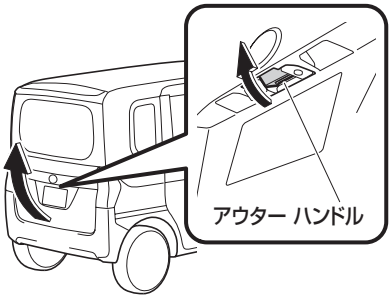
運転席ドアのロック レバーを手前に引くと解錠できます。



バック ドアの開閉

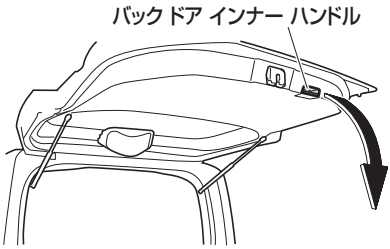
▼ 開けるとき

解錠したあとでアウター ハンドルを引いて、バック ドアをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。



▼ 閉めるとき

1. バック ドア インナー ハンドルを持ってバック ドアを途中までゆっくりと下げます。



⚠注意

- バック ドア インナー ハンドルで直接バック ドアを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。バック ドアは、必ず外から押して閉めてください。

2. ハンドルから手を離して、バック ドアを上から手で押さえつけるように閉めます。
3. 半ドアでないことを確認します。

車体各部の開閉

ボンネット

▼ 操作を行う前に

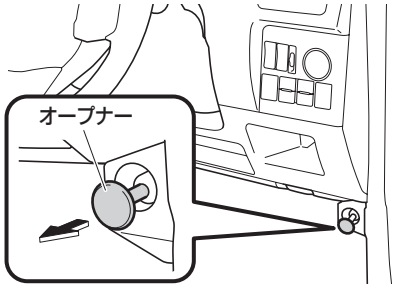
⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあり大変危険です。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。

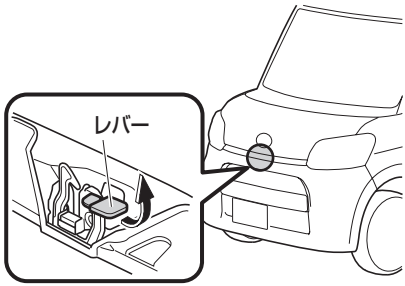
開けかた

▼ 操作手順

1. インストルメント パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。



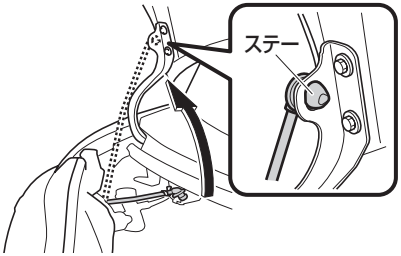
2. ボンネット前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。



⚠注意

- エンジン回転中や停止後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。

3. ボンネットをステーで確実に支えます。



⚠注意

- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

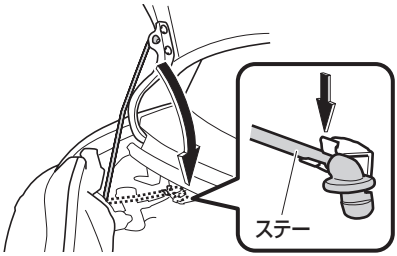
アドバイス

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

閉めかた

▼ 操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステーを元の位置へ戻します。



2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

アドバイス

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。

フューエル リッド

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - 車のドア、窓は閉めてください。
  - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
  - フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
  - フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
  - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
  - フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
  - フューエル キャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。

⚠警告

- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオート ストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリン スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- ダイハツ純正フューエル キャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリン スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠注意

- 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンです。
  - 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
  - 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

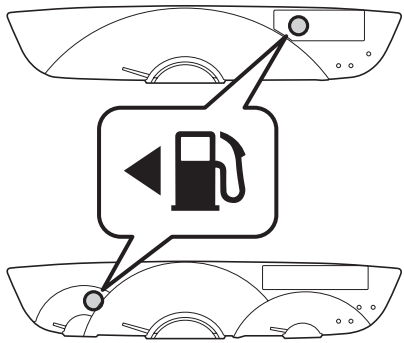
フューエル リッドの開閉

⚠注意

- 左側スライド ドアが全開、またはフューエル リッド付近まで開いているときに、フューエル リッドを開けないでください。左側スライド ドア、またはフューエル リッドが破損するおそれがあります。

アドバイス

- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。

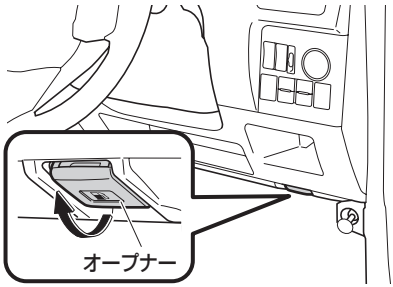


アドバイス

- フューエル リッドが開いている状態で、左側スライド ドアを手動で開けると、途中でストッパーがかかり全開することができません。
- フューエル リッドが開いている状態で、左側スライド ドアを自動（パワー スライド ドア）で開けることはできません。
- パワー スライド ドアの自動開閉中に、フューエル リッドを開けると、ブザーが鳴り、左側スライド ドアの作動を停止します。

▼ 開けるとき

インストルメント パネルの右下にあるオープナーを引き上げます。



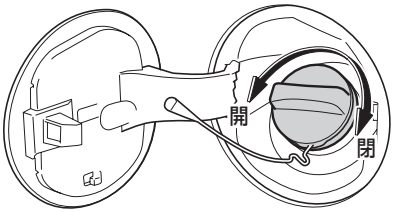
▼ 閉めるとき

リッドを押して閉めます。

フューエル キャップの開閉

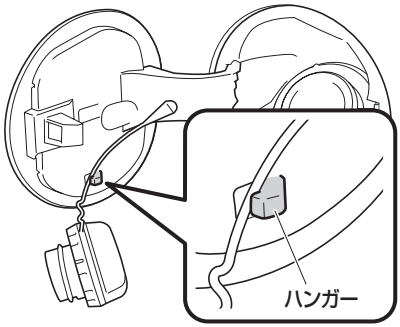
▼ 開けるとき

左に回して開けます。



▼ 給油するとき

外したフューエル キャップをフューエル リッド裏側にあるハンガーにかけておくことができます。



▼ 閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。

パワー ウインド

スイッチ操作により運転席、助手席、後席のウインドの開閉ができます。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- パワー ウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワー ウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にしてください。

⚠注意

バッテリーあがりを防ぐために

- パワー ウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

アドバイス

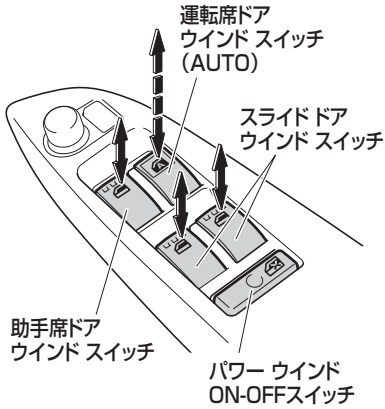
- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインド スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。
- 電源を“ON”にすると、運転席ドア側ウインド スイッチのスイッチ照明が点灯します。

パワー ウインド モーターの過熱保護機能について

- パワー ウインド モーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワー ウインド モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワー ウインドが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

運転席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。



■ 運転席ドア ウインド スイッチ (AUTO)

▼ 操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウインド ガラスは開き、軽く引き上げている間ウインド ガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。
「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウインド ガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

▼ 電源“OFF”後作動機能

電源を“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ウインド ガラスを開閉できます。

■ 助手席ドア ウインド スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

■ スライド ドア ウインド スイッチ

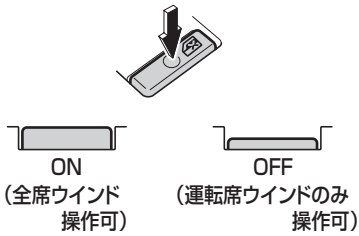
▼ 操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

■ パワー ウインドON-OFF スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押し込むと“OFF”になり、運転席ウインド ガラス以外は操作できなくなります。
スイッチをもう一度押すと解除されます。

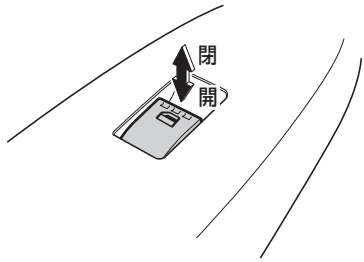


助手席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。

▼ 操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。



スライド ドア側スイッチ

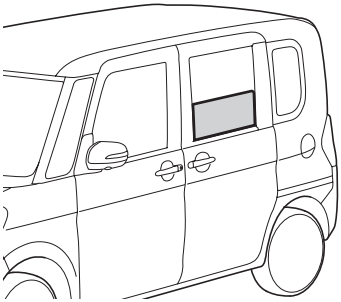
電源が“ON”のとき、使用できます。

▼ 操作方法

スイッチの上側を押している間ウインドガラスは閉まり、スイッチの下側を押している間ウインド ガラスは開きます。
手を離すとその位置で止まります。

アドバイス

- 左右スライド ドアのドア ウインドは全開になりません。



挟み込み防止機構（運転席）

運転席ドア ウインド ガラスを閉めるときに、窓枠とウインド ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインド ガラスの上昇を停止し、自動的にウインド ガラスが下降します。

アドバイス

- 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウインド ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

運転席ドア ウインド ガラスが全閉しないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ウインド ガラスを全閉できないときは、運転席ドア ウインド スイッチで、下記の操作を行ってください。

▼ 操作方法

1. 車を停止し、電源を“ON”にします。
2. 運転席ドア ウインド スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインド ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上に引き続けます。

アドバイス

- 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。
- 上記の操作を行っても運転席ドア ウインド ガラスが全閉しない場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワー ウインドの初期設定をしてください。
パワー ウインドの初期設定がされていないと、下記の機能は作動しません。

- 運転席ドア ウインド ガラスの
  - 自動開閉機能
  - 挟み込み防止機構
  - 電源“OFF”後作動機能

▼ 操作手順

1. 電源を“ON”にします。
2. 運転席ドア ウインド スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインド ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約２秒間スイッチを上に引き続けます。

車体各部の調整

ルーム ミラー

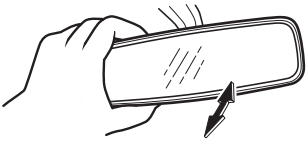
▼ 操作を行う前に

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

▼ 調整のしかた

ルーム ミラー全体を動かして角度を調整します。



電動格納式ドア ミラー

ミラーの格納、角度調整をスイッチまたはノブの操作で行うことができます。
電源が“ACC”または“ON”のときに使用できます。

▼ 操作を行う前に

⚠注意

- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

▼ 格納のしかた

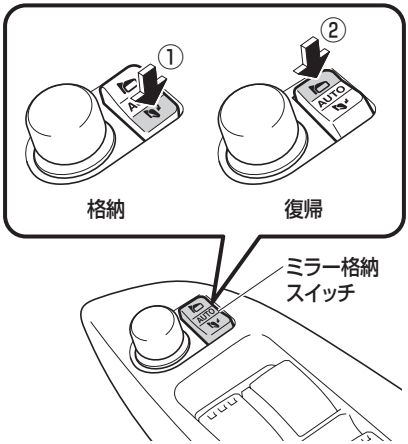
キーレス エントリー装着車

ミラー格納スイッチを押すと、ミラーを格納することができます。もう一度押すと元に戻ります。走行するときは、必ず元に戻してください。

車体各部の調整

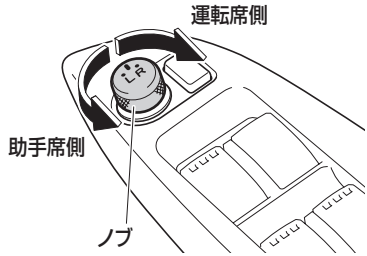
キー フリー システム装着車

ミラーを格納するには、①のスイッチを押します。
ミラーを復帰するには、②のスイッチを押します。

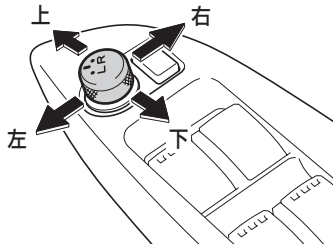


▼ 調整のしかた

1. ノブを調整する側にまわします。



2. ノブを動かして、ミラーの角度を調整します。



⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

アドバイス

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 調整ノブを中立（中央）の位置にすると操作することができません。

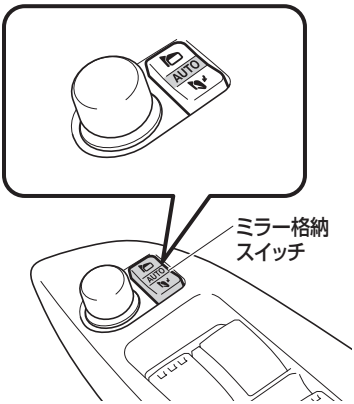
オート格納式ドア ミラー（キー フリー システム連動）

キー フリー システム装着車

キー フリー システムによるドアの施錠に連動して、ドア ミラーが自動的に格納します。

▼ 格納のしかた

1. ミラー格納スイッチを“AUTO”（中立）の位置にします。
2. リクエスト スイッチを押す、または電子カード キーの“LOCK”ボタンを押してドアを施錠します。



▼ 復帰のしかた

電源を“ACC”または“ON”にします。

⚠注意

- ミラーを復帰するときは、ドア ミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドア ミラーが当たり、破損するおそれがあります。

アドバイス

- ドア ミラーを自動で格納（または復帰）させたくないときは、ミラー格納スイッチを復帰側（または格納側）の位置にしてください。
- 電源を“ON”にしたときのみ、ドア ミラーを復帰するようにできます。（ミラー格納スイッチの操作も、電源を“ON”にしたときのみ可能になります。）ダイハツ サービス工場にご相談ください。

電動格納式ヒーテッド ドア ミラー

オプション/グレード別装備

曇り取り機能を装備した電動格納式ドアミラーです。

雨天時などに、ドア ミラーが曇ったとき、ドア ミラーの曇りを取ることができます。

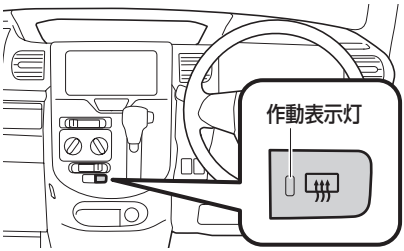
（電動格納式ドア ミラー→ 199 ページ）

▼ 操作方法

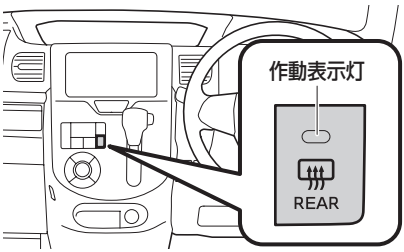
リヤ ウインド デフォッガー スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ドア ミラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、リヤ ウインド デフォッガー スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車



オート エアコン装着車



⚠注意

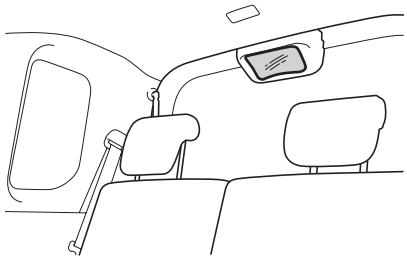
バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

リヤ アンダー ミラー

オプション/グレード別装備

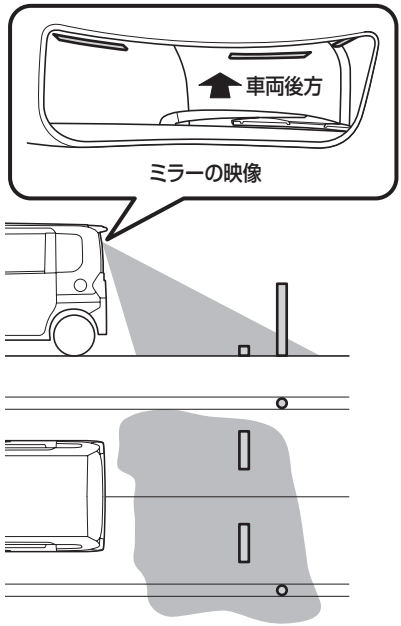
バック ドア内部に装着されているミラーにより、車両後方付近を確認することができます。



アドバイス

- リヤ アンダー ミラーの角度調整は不要です。

▼ 見える範囲



- ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。
- バンパーから約 40cmまでの範囲は映りません。

⚠注意

- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視でするか、ルーム ミラー、ドア ミラーなども併用して十分行ってください。

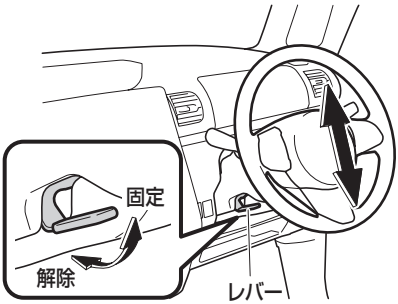
チルト ステアリング

オプション/グレード別装備

ハンドルの位置を調整することができます。

▼ 調整のしかた

レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整します。その状態でレバーを引き上げると固定されます。



⚠警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

MEMO

車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

メーター ---------- 208

■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯---------- 220
警告灯---------- 226

■ スイッチの使いかた

ライト スイッチ---------- 235
ヘッド ランプ マニュアル
レベリング スイッチ---------- 242
方向指示スイッチ---------- 243
非常点滅灯スイッチ ---------- 244
ワイパー・ウォッシャー スイッチ ---- 244
フォグ ランプ スイッチ --------- 246
リヤ ウインド デフォッガー
スイッチ ---------- 247
運転席シート ヒーター
スイッチ ---------- 248
ホーン スイッチ---------- 249

■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ---------- 250
駐車ブレーキ---------- 257
ターボ車---------- 258
４WD車---------- 259
D assist切替ステアリングスイッチ ----- 260

■ エンジンのかけかた

CVT車 ---------- 261

■ CVT車の運転

CVT車 ---------- 264
シフト レバーの操作 ---------- 266
運転のしかた---------- 268

■ アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE（エコ アイドル） ------- 274

■ エコ発電制御

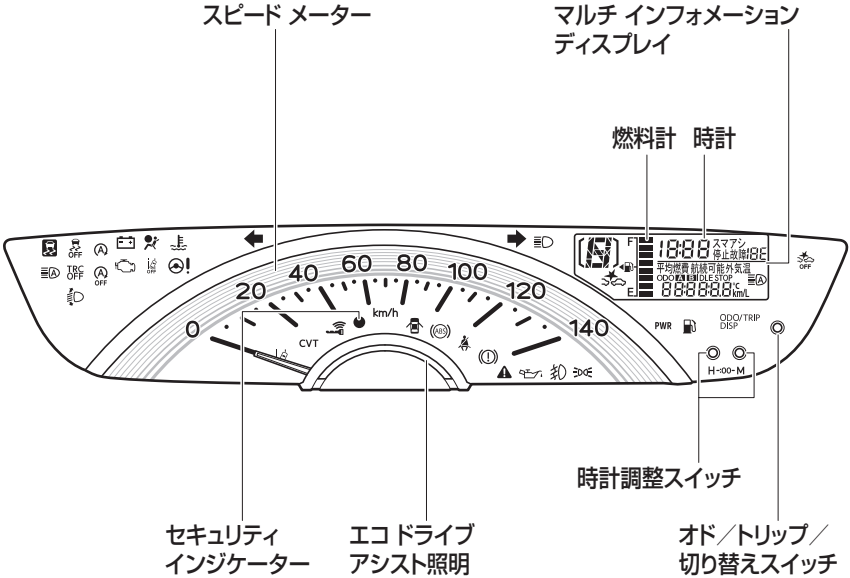
エコ発電制御---------- 285

メーターのはたらき

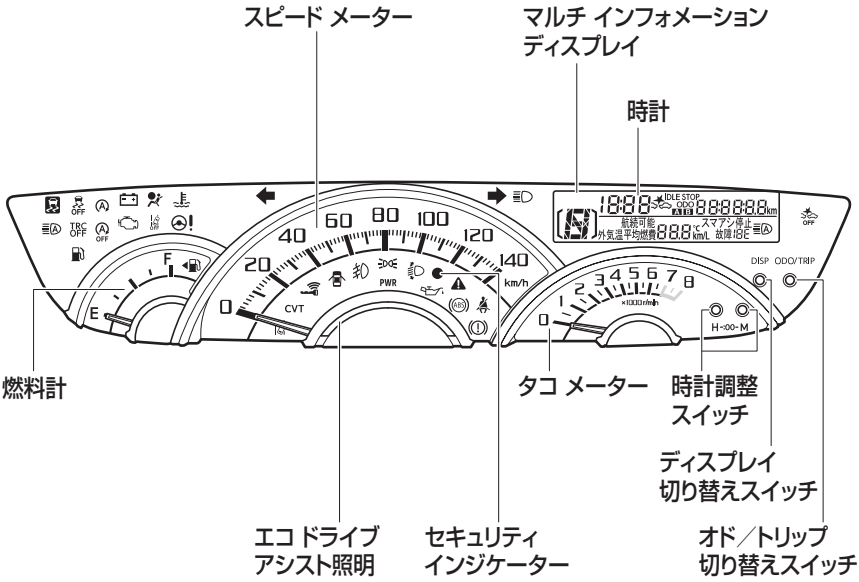
メーター

表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車



アドバイス

電源“ON”時のメーター演出

- メーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。

メーターのはたらき

スピード メーター

走行速度をkm/h で表示します。

タコ メーター

オプション/グレード別装備

1 分間当たりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

電源が“ON”のとき、燃料残量を表示します。

- 燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

（燃料残量警告灯→ 231 ページ）

⚠注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

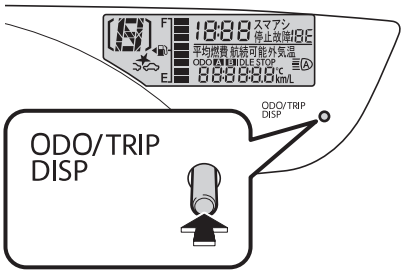
- ただちに燃料を給油してください。
  燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

マルチ インフォメーション ディスプレイ

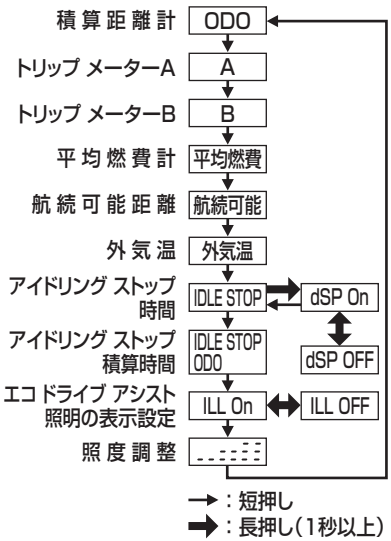
電源が“ON”のとき表示します。

タコ メーターなし車

オド／トリップ切り替えスイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

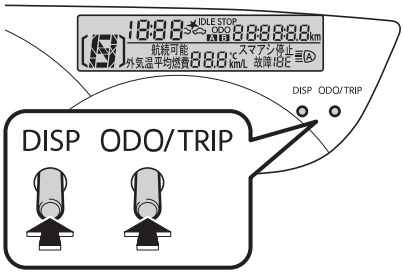


▼ オド／トリップ切り替えスイッチによる切り替わりかた

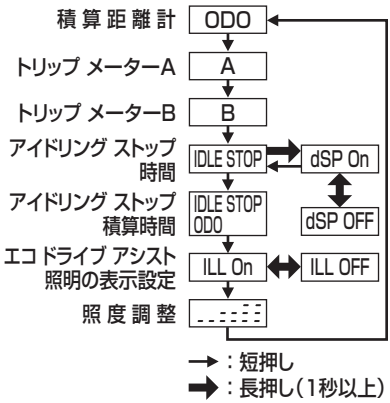


タコ メーター付き車

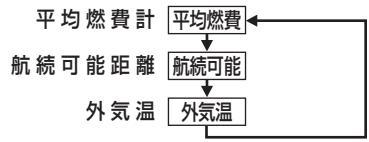
オド／トリップ切り替えスイッチ、またはディスプレイ切り替えスイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



▼ オド／トリップ切り替えスイッチによる切り替わりかた



▼ ディスプレイ切り替えスイッチによる切り替わりかた



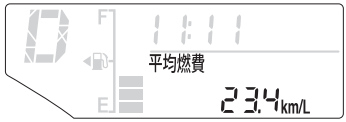
■ オド メーター（積算距離計）
走行した総距離を表示します。

■ トリップ メーター（区間距離計）
リセットした地点からの走行距離を表示します。
トリップ メーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

▼ トリップ メーター表示をリセットするには
リセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、オド／トリップ切り替えスイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

■ 平均燃費
表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車

▼ 平均燃費表示をリセットするには
平均燃費を表示させ、タコ メーターなし車はオド／トリップ切り替えスイッチ（タコ メーター付き車はディスプレイ切り替えスイッチ）を約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

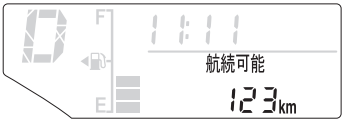
アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車

⚠注意

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を給油してください。

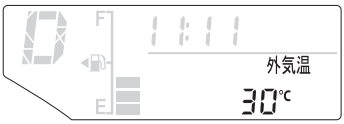
アドバイス

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされます。

■ 外気温

外気温度を表示します。

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車

▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3℃以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

（点滅）

アドバイス

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- 電源を“ON”にした直後は、外気温が表示されないことがあります。
- 表示範囲は、「－30～50℃」です。
- 異常検出したときの表示は、「－－℃」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
  - 停車しているときや低速走行しているとき
  - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

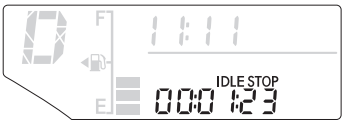
路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- 電源を“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

■ アイドリング ストップ時間

電源を“ON”にしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ時間を表示します。

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車

▼ アイドリング ストップ時間表示のリセットについて

電源を“OFF”にすると、表示がリセットされます。リセット後、電源を“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼ アイドリング ストップ時間の自動表示について

アイドリング ストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、eco IDLEによるアイドリング ストップ中に、自動でアイドリング ストップ時間を表示します。

アドバイス

アイドリング ストップ時間自動表示を解除するには

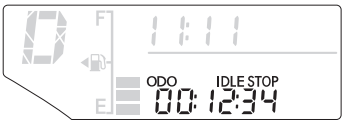
- アイドリング ストップ時間を表示させ、オド／トリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	eco IDLEによるアイドリング ストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

■ アイドリング ストップ積算時間

表示をリセットしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ積算時間を表示します。

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車

▼ アイドリング ストップ積算時間表示をリセットするには

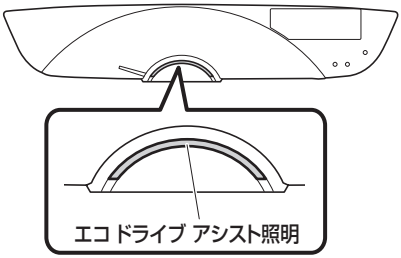
アイドリング ストップ積算時間を表示させ、オド／トリップ切り替えスイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

■ エコ ドライブ* アシスト照明の表示設定

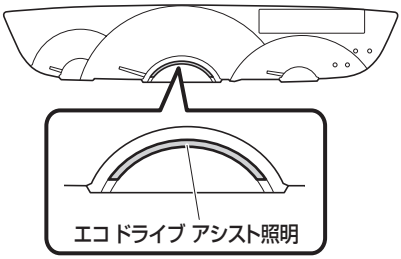
ILL On（またはILL OFF）を表示させて、オド／トリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“ILL On”、“ILL OFF”が切り替わります。

（エコ ドライブ アシスト照明 → 219 ページ）

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車



■ 照度調整

照度調整表示中、オド／トリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい		レベル1
		レベル2
		レベル3
		レベル4
暗い		レベル5

▼ 照度調整

メーター照明は、昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

車幅灯を消灯して調整します。

夜間用

車幅灯を点灯して調整します。

アドバイス

- 夜間用の設定を“レベル 1”にすると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。

* エコ ドライブ：二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転

時計

電源が“ON”のとき、時計を表示します。

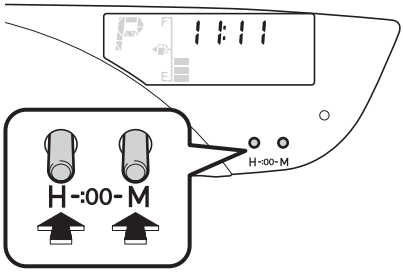
- 時計調整スイッチを押して、時計を調整します。

アドバイス

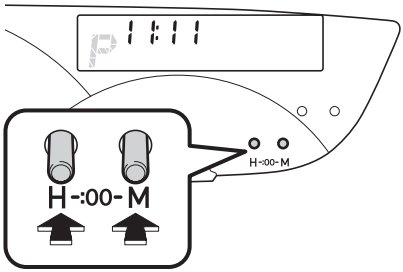
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。

▼ 時計調整スイッチ

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車



■ “時”を調整する

時計調整“H”スイッチを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
  （押し続けると、早送りします）

■ “分”を調整する

時計調整“M”スイッチを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
  （押し続けると、早送りします）

■ 時報“:00”に合わせる

時計調整“H”スイッチと“M”スイッチを同時に約 1 秒以上押します。

（例） 1:00～1:29→1:00

（例） 1:30～1:59→2:00

- 時報合わせが完了すると、
  “時”“分”が 2 回点滅します。

（点滅）

メーター照明

- 電源を“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

アドバイス

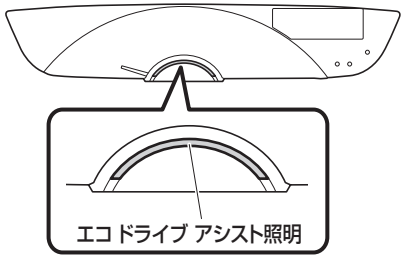
- ライトの点灯・消灯の確認は、テールインジケーターで行ってください。
（テール インジケーター→ 221 ページ）
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。
（照度調整→ 217 ページ）

■ エコ ドライブ アシスト照明

エコ ドライブ アシスト照明の設定が“ILL On”のときに、走行状態に応じてエコ ドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、メーター照明の一部が変化します。

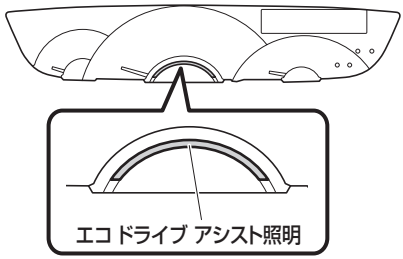
- “ILL OFF”のときは、
  タコ メーターなし車はアンバー、
  タコ メーター付き車はブルー
  のまま照明色は変化しません。
（エコ ドライブ アシスト照明の表示設定→ 217 ページ）
- 電源を“ON”にすると数秒間、グリーン色に点灯します。
- シフト レバーがⒹレンジのとき、走行速度にあったアクセル ペダルの操作でエコ運転をしていると、エコ ドライブ アシスト照明色が変化します。

タコ メーターなし車



エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	アンバー	イエロー	グリーン	
低	←→			高

タコ メーター付き車



エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	ブルー	スカイブルー	グリーン	
低	←→			高

アドバイス

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中はグリーン色になります。
（eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）

表示灯、警告灯のはたらき

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

■ 方向指示表示灯

電源が“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

■ 非常点滅表示灯

- 電源に関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h以上で走行中に急ブレーキをかけて、自動で非常点滅灯が高速点滅すると、同時に左右の表示灯が高速点滅します。
  （エマージェンシー ストップ シグナル → 89 ページ）

アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッド ランプ上向き表示灯

電源に関係なく、ヘッド ランプを上向きの状態にすると点灯します。

テール インジケーター

電源に関係なく、車幅灯が点灯しているときに点灯します。

フォグ ランプ表示灯

オプション/グレード別装備

電源に関係なく、フォグ ランプを点灯させると点灯します。

（フォグ ランプ スイッチ → 246 ページ）

水温表示灯（青色）

電源が“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

エンジン冷却水温が異常に高いときは

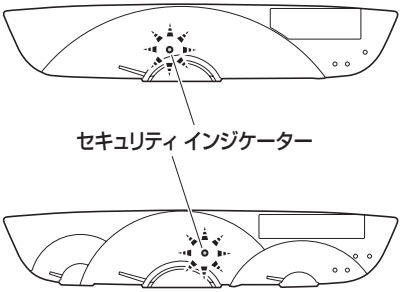
- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。
  （水温警告灯（赤色）→ 228 ページ）

セキュリティ インジケーター

キーレス エントリー装着車

（セキュリティ　アラーム
→ 158 ページ）

キー フリー システム装着車



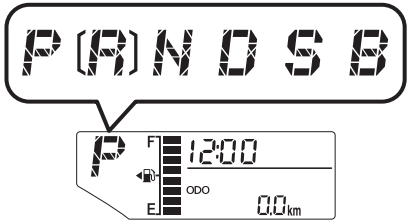
- 電源を“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- 電源を“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。
  （イモビライザー機能→ 257 ページ）

アドバイス

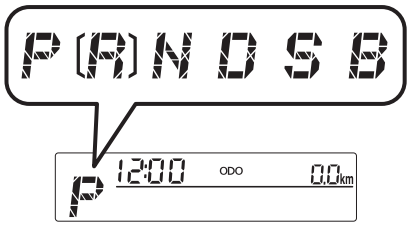
- セキュリティ インジケーターはセキュリティ アラームと兼用しているため、キー フリー操作・キーレス操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
  また、セキュリティ アラームが解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。

CVTシフト インジケーター

タコ メーターなし車



タコ メーター付き車



- 電源が“ON”のとき、使用中のシフト レバーの位置が点灯します。
- Ⓡレンジにすると、“[ ]”が点滅します。

eco IDLE表示灯

（eco IDLE表示灯→ 281 ページ）

eco IDLE OFF表示灯

（eco IDLE OFF表示灯→ 282 ページ）

スリップ インジケーター

（点滅）

（スリップ インジケーター→ 95 ページ）
（VSC→ 90 ページ）
（TRC→ 92 ページ）

VSC OFF表示灯

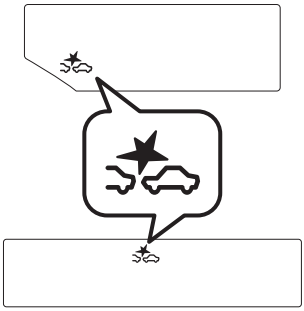
（VSC OFF表示灯→ 95 ページ）
（VSC→ 90 ページ）

TRC OFF表示灯

（TRC OFF表示灯→ 95 ページ）
（TRC→ 92 ページ）

スマートアシスト作動灯

スマートアシストⅢ装着車



（スマートアシスト作動灯
→ 128 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

スマートアシストOFF表示灯

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシストOFF表示灯
→ 129 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

車線逸脱警報作動灯

スマートアシストⅢ装着車

（車線逸脱警報作動灯→ 129 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

車線逸脱警報OFF表示灯

スマートアシストⅢ装着車

（車線逸脱警報OFF表示灯
→ 130 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

スマートアシスト“故障”表示

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト“故障”表示
→ 130 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

スマートアシスト“停止”表示

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト“停止”表示
→ 131 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

オート ハイ ビーム 作動灯

スマートアシストⅢ装着車

（オート ハイ ビーム作動灯
→ 130 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

オート ハイ ビーム “故障”表示

スマートアシストⅢ装着車

（オート ハイ ビーム“故障”表示
→ 131 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

表示灯、警告灯のはたらき

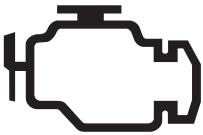
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

⚠注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 電源を“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

油圧警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠注意

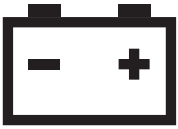
点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）

充電警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。

▼ 点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

（ABS（EBD機能付）→ 87 ページ）

▼ 駐車ブレーキが解除されている場合

電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

■ 警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキ パッドの摩耗が考えられます。
  ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
  効きが悪いときは、ブレーキ ペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

水温警告灯（赤色）

- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバー ヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。
  （オーバー ヒートの処置 → 371 ページ）

アドバイス

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。
  （水温表示灯（青色）→ 221 ページ）

■ 警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

アドバイス

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

CVT警告灯

CVT

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、CVTシステムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

シート ベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）

▼ 運転席

- 電源が“ON”で、運転席の乗員がシート ベルトを着用していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

▼ 助手席

ウェルカム シート（福祉車）以外

- 電源が“ON”で、助手席に乗車時、助手席シート ベルトを着用していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

アドバイス

- 助手席の乗員検知センサーは、座面にある一定の重量がかかったときに検知します。このため、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

■ 警告ブザー*

オプション/グレード別装備

シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯

電源に関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- 警告灯が点灯、または点滅したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 警告灯が点灯、または点滅した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
  消灯しないときや、再び点灯、または点滅するときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

助手席側ドアについて

- ドアの上下にロックがあり、それぞれで半ドアを検知しているため、上下どちらかが半ドア状態になると、警告灯が点灯・点滅します。

* ウェルカム シート（福祉車）仕様には助手席シート ベルト用警告ブザーは装備していません。

燃料残量警告灯

電源が“ON”のとき、燃料残量が 2 WD 車は約 6.0ℓ、4 WD車は約 5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が 5 回点滅した後、点灯します。

（燃料計→ 210 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
  燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■ 警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが 2 回鳴ります。

ABS警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- 走行中に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

SRSエアバッグ警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
  （SRSエアバッグ→ 73 ページ）
- SRSサイド エアバッグ
  （オプション/グレード別装備）
- SRSカーテン シールド エアバッグ
  （オプション/グレード別装備）
  （SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ→ 79 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構 → 58 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

ロー ビーム・オート レベリング警告灯

LEDヘッド ランプ装着車

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ロー ビーム・オート レベリング機能に異常があると点灯します。
  （ロー ビーム・オート レベリング機能 → 241 ページ）

⚠注意

走行中に点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。
  再度電源を“ON”にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。
  消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

電動パワー ステアリング警告灯

- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワー ステアリング システムに異常があると赤色に点灯します。
- 電源が“ON”で、電圧不足、電動パワー ステアリング システム過熱によりパワー ステアリング制御が制限されると、黄色に点灯します。

⚠注意

赤色に点灯した場合

- パワー ステアリング制御が停止し、ハンドル操作が非常に重くなります。
  ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

黄色に点灯した場合

- パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。
  消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワー ステアリング モーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなることがあります。
  しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

■ 警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。

表示灯、警告灯のはたらき

VSC＆TRC警告灯

（VSC＆TRC警告灯→ 94 ページ）
（VSC→ 90 ページ）
（TRC→ 92 ページ）
（ヒル ホールド システム→ 98 ページ）

マスター ウォーニング

スマートアシストⅢ装着車

（マスター ウォーニング
→ 128 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 100 ページ）

キー フリー警告灯

キー フリー システム装着車

（キー フリー警告灯→ 158 ページ）

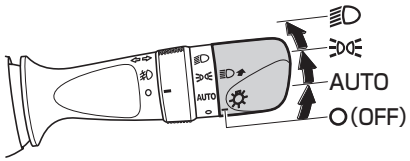
スイッチの使いかた

ライト スイッチ

ライトの点灯

▼ 操作方法

スイッチを回すと、下表のライト類が点灯します。



ライト / スイッチ位置	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
	点灯	点灯
	ー	点灯
AUTO※	自動点灯・消灯	
O(OFF)	ー	ー

※：オプション/グレード別装備

⚠注意

バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、ライト類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライト スイッチを“OFF”にしてください。

ライトの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

オート ライト機能

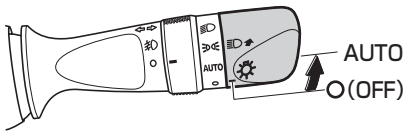
オート ライト装着車

電源が“ON”でライト スイッチが“AUTO”の位置のとき、周囲の明るさに応じてヘッド ランプ、車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

▼ 操作方法

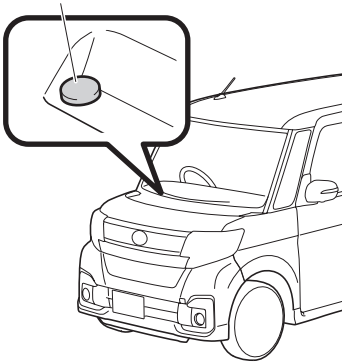
スイッチを“AUTO”の位置にします。

- エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。
  電源を“ON”にすると、再び点灯します。



アドバイス

- 自動で点灯・消灯するタイミングを変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。
- オート ライト センサーの上に物を置いたり、ガラス クリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。



フロントLEDイルミネーション ランプ（オールデイ）装着車

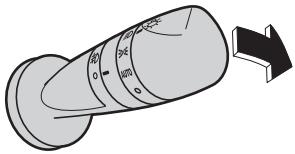
- 電源が“ON”でライト スイッチが“AUTO”の位置のときは、周囲の明るさに関係なくフロント バンパーのLEDイルミネーションが点灯します。

（フロントLEDイルミネーション ランプ（オールデイ）→ 241 ページ）

ヘッド ランプの切り替え

▼ ライト点灯時ハイ ビームに切り替える

ライト スイッチが“≡D”または“AUTO”の位置のときレバーを押します。（戻すと下向き（ロー ビーム）になります）



⚠注意

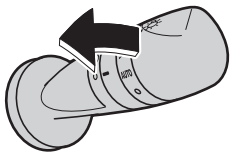
- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼ 一時的に使用する

アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。



オート ハイ ビーム

スマートアシストⅢ装着車

フロント ウインド ガラス上部に設置されたステレオ カメラにより、対向車、または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイ ビームとロービームを切り替えます。

（ステレオ カメラ→ 102 ページ）

⚠警告

安全にお使いいただくために

- オート ハイ ビームを過信しないでください。オート ハイ ビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイ ビームとロー ビームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイ ビームとロー ビームを切り替えてください。

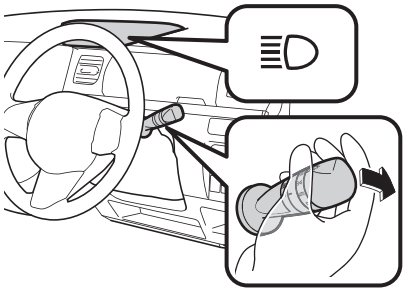
⚠注意

オート ハイ ビームを正しく作動させるために

- 荷物を積みすぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

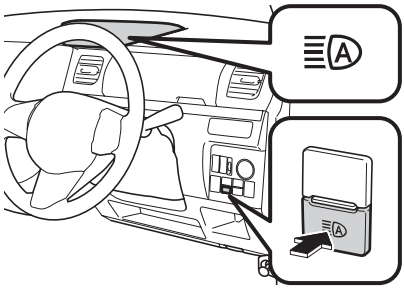
▼ 使用方法

1. 電源が“ON”で、ライト スイッチが“ ”または“AUTO”の位置のときレバーを前方へ押します。
   - ヘッド ランプ上向き表示灯が点灯します。



2. オート ハイ ビーム スイッチを押します。
   - オート ハイ ビームが作動すると、オート ハイ ビーム作動灯が点灯します。

（オート ハイ ビーム作動灯
→ 130 ページ）



■ 自動切り替え条件について

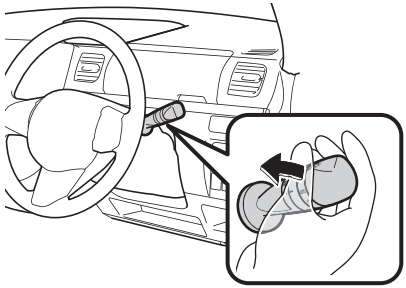
- 次の条件をすべて満たすと、ハイ ビームに切り替わります。
  - 車速が約 25km/h以上
  - 車両前方が暗い
  - 対向車、または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
  - 前方の街灯が暗い

- 次のいずれかの条件になると、ロー ビームに切り替わります。
  - 車速が約 20km/h以下
  - 車両前方が明るい
  - 対向車、または先行車がランプを点灯している
  - 前方の街灯が明るい

■ 手動切り替え方法

▼ ロー ビームへの切り替え

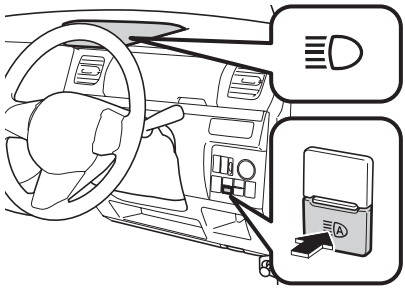
- レバーを元の位置に戻します。
  - オート ハイ ビーム作動灯が消灯します。



- オート ハイ ビームに戻すには、再度レバーを前方に押します。

▼ ハイ ビームへの切り替え

- オート ハイ ビーム スイッチを押します。
  - オート ハイ ビーム作動灯が消灯し、ヘッド ランプ上向き表示灯が点灯します。



- オート ハイ ビームに戻すには、再度スイッチを押します。

⚠注意

- オート ハイ ビーム“故障”が表示されたときは、オート ハイ ビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  （オート ハイ ビーム“故障”表示 → 131 ページ）

アドバイス

- 次の状況では、ハイ ビームが自動でロー ビームに切り替わらない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
  - 他車が前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロー ビームに切り替わる場合や、ロー ビームが継続する場合があります。

アドバイス

- 次の原因により、ハイ ビームとロー ビームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の動きや向き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 対向車または先行車が二輪車のとき
  - 道路状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量
- オート ハイ ビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識するため、ハイ ビームとロー ビームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は認識しない場合があります。

アドバイス

- 次の状況では、周囲の明るさが正しく認識されず、ハイ ビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロー ビームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイ ビームとロー ビームを切り替えてください。
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - フロント ガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオ カメラ前方が覆われているとき
  - ステレオ カメラの温度が高いとき
  - 周囲にヘッド ランプや尾灯などに似た光があるとき
  - 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
  - 急激な明るさの変化が連続するとき
  - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
  - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
  - パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

ライト自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、ライト類を点灯したまま、電源を“OFF”または“ACC”にして、運転席のドアを開けると、ライト類が自動で消灯します。

再びライトを点灯させる場合は、以下の操作をします。

- 電源を“ON”にする

または

- ライト スイッチを“OFF”に戻し、再度“≡DC≡”、または“≡D ”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、電源が“OFF”または“ACC”の状態でライト類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ライト類が点灯します。

- 電源を“ON”にする

または

- ライト スイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ライト消し忘れ警告ブザー

電源が“OFF”または“ACC”の状態で、ライトを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

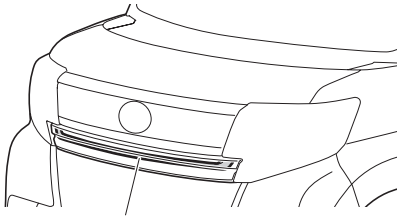
アドバイス

- 運転席ドアを開けたときに、ランプ類が自動消灯機能により消灯した場合、警告ブザーは鳴りません。

フロント グリルLED イルミネーション

オプション/グレード別装備

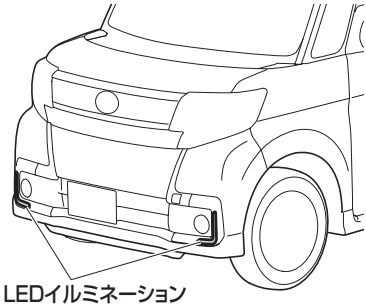
車幅灯に連動して、点灯・消灯します。



フロントLEDイルミネーション ランプ（オールデイ）

オプション/グレード別装備

- ライト スイッチが“AUTO”の位置で周囲が明るいときは、電源を“ON”にすると点灯し、“OFF”または“ACC”にすると消灯します。
- 上記以外のときは車幅灯に連動して、点灯・消灯します。



ロー ビーム・オート レベリング機能

LEDヘッド ランプ装着車

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する機能です。

アドバイス

- エンジンを始動して、初めてヘッド ランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッド ランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッド ランプの光軸に異常を感じたときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

ヘッド ランプ マニュアル レベリング スイッチ

ハロゲン ヘッド ランプ装着車

ヘッド ランプが点灯しているときに使用できます。
乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

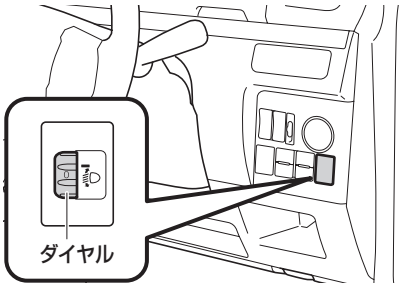
アドバイス

LEDヘッド ランプ装着車

- ヘッド ランプの光軸は自動的に調整されるため、ヘッド ランプ マニュアル レベリング スイッチは装着されていません。

▼ 操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプの光軸が上下に変わります。
ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。



アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

スローパー（福祉車）以外

乗車や荷室の積載状況		ダイヤル位置 2WD	ダイヤル位置 4WD
運転席のみ乗車時		0	0
運転席と助手席に乗車時		0	0
4名乗車時		1	1
4名乗車で荷室満載時		2	1.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	Lグレード	3	2.5
	上記を除く	2.5	2.5

スローパー（福祉車）

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
運転席と車いす乗車時（リヤ シートは格納状態）	0.5
4名乗車時	1
4名乗車で荷室満載時	1.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	2.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

方向指示スイッチ

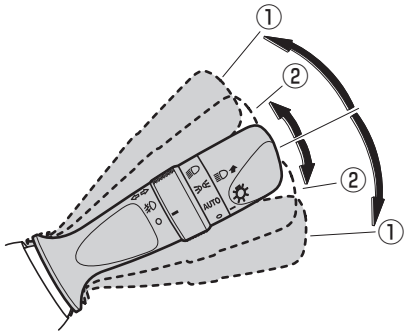
▼ 操作方法

スイッチを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

- スイッチは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。
  消灯しないときは、レバーを②の位置まで軽く操作してください。

車線変更などのときは、レバーを②の位置まで軽く上下に操作します。

- スイッチを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- ②の位置まで操作したあと、すぐに手を離したときは、3 回点滅します。



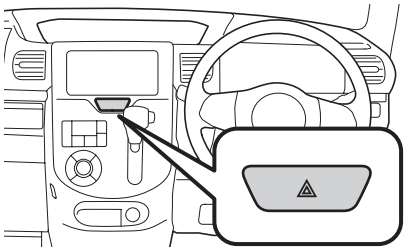
アドバイス

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。
- 下記のように機能を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
  - ②の位置まで操作したときの 3 回点滅を停止する
  - 3 回点滅するときのスイッチ操作の時間を変更する
  - 右左折後に消灯するハンドル角度を変更する

非常点滅灯スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



⚠注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

ワイパー･ウォッシャースイッチ

⚠注意

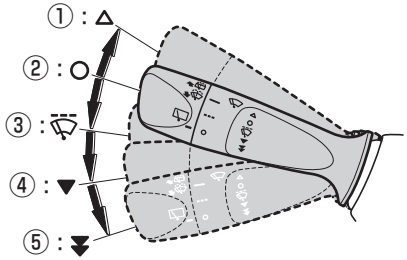
- 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

電源が“ON”のとき使用できます。

■ ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



△	一時作動
○	停止
	間欠作動
▼	低速作動
▼▼	高速作動

▼ 一時作動の使いかた

レバーを②から①の位置に押し上げている間、ワイパーが低速作動します。
手を離すと②の位置に戻ります。

▼ 車速感応式ワイパー

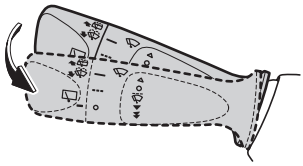
レバーを③の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

アドバイス

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が速くなります。
- 車速感応作動の機能を停止することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



アドバイス

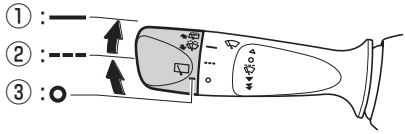
- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

リヤ

電源が“ON”のとき使用できます。

■ ワイパーの使いかた

ツマミを回すと、リヤ ワイパーが作動します。



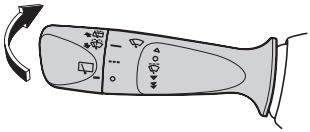
―	低速作動
---	4秒間低速作動した後、間欠作動
○	停止

アドバイス

- 下記のように、②の間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。
  - 間欠作動の間隔を変更する
  - 約 4 秒間の低速作動を停止する

■ ウォッシャー液の噴射

レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。



アドバイス

- リヤ ワイパーが停止しているときにリヤ ウォッシャーを作動させると、リヤ ワイパーが作動するように機能を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ リバース連動リヤ ワイパー

フロント ワイパーが作動中に、シフトレバーをⓇレンジにすると、リヤ ワイパーが数回作動します。

アドバイス

- フロント ワイパーが停止後、約 10 秒間はシフト レバーをⓇレンジに入れると、リヤ ワイパーが数回作動します。
- 機能を停止することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

フォグ ランプ スイッチ

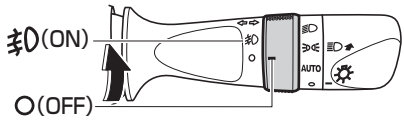
オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。

▼ 操作方法

車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にすると、メーター内のフォグランプ表示灯が点灯し、フォグ ランプが点灯します。

消灯するときは、スイッチを“OFF”にしてください。フォグ ランプ表示灯も消灯します。

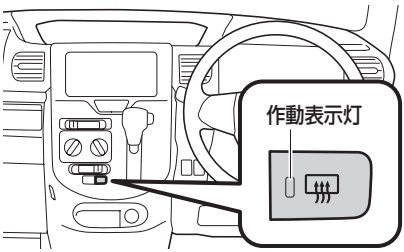


リヤ ウインド デフォッガー スイッチ

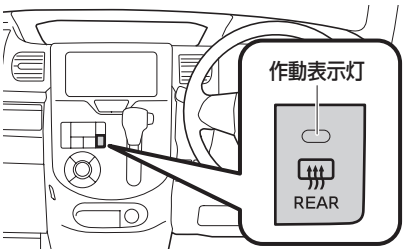
リヤ ウインド ガラスの曇りを取るときに使用します。
電源が“ON”のとき使用できます。

▼ 操作方法
スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウインド ガラスと、電動格納式ヒーテッド ドア ミラー装着車はドア ミラーが暖められ曇りが取れます。
作動を停止するときは、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車



オート エアコン装着車



⚠注意

バッテリーあがりを防ぐために
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

アドバイス

- リヤ ウインド ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

オート エアコン装着車
- スイッチを押すと、約 15 分～60 分後に自動的に作動が停止します。
（外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります）

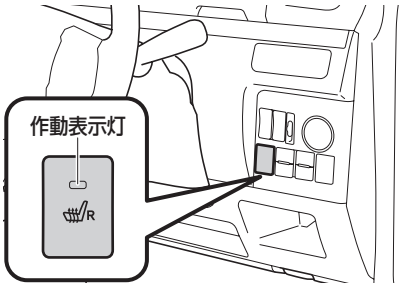
運転席シート ヒーター スイッチ

オプション/グレード別装備

運転席のシートの背もたれと座面を暖めることができます。
電源が“ON”のときに使用することができます。

▼ 操作方法

スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、シートを暖めます。
もう一度スイッチを押すと、作動表示灯が消灯し、作動が停止します。



⚠注意

- 下記に相当される方がご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
  - お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
  - 皮膚の弱い方
  - 疲労の激しい方
  - ねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
- 毛布や座布団など保温性の良い物をかけた状態で使用しないでください。
  シートが異常加熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
- シート ヒーターを必要以上に使用しないでください。低温やけどを負ったり、シート ヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。
- 凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利な物を突き刺したりしないでください。故障の原因となります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- 液体をこぼしたときは、すみやかに乾いた布でふき取ってください。
- 使用中に異常が発生したときは、ただちに作動を停止して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

ホーン スイッチ

ハンドルの☜マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くときなどに使用します。

⚠注意

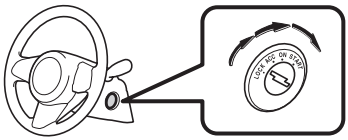
バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、電源を“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。

キー差し込みタイプ

キー フリー システム装着車以外

挿入口にキーを差し込んで回し、エンジンの始動、停止を行います。



位置	はたらき
LOCK	・電源“OFF”エンジン停止 キーを抜き差しする位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	・電源“ACC”エンジン停止 オーディオが聞ける位置です。
ON	・電源“ON”エンジン停止 すべての電装品が使用できます。 ・電源“ON”エンジン回転 通常走行中の位置です。
START	・電源“ON”エンジン始動 エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。

アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

プッシュ ボタン スタート スイッチ

キー フリー システム装着車

⚠注意

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドル ロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。
- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。
- スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにダイハツ サービス工場にご連絡ください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、スイッチの表面が熱くなる場合がありますので、やけどをしないように気をつけてください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

⚠注意

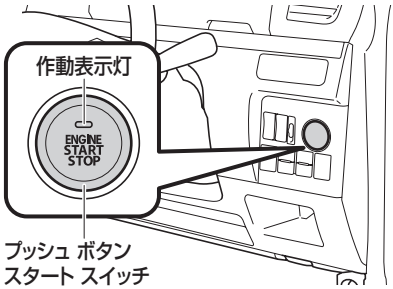
- 車両は常に電源の状態（“ACC”または“ON”）を記憶しているため、車両のバッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前の電源の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ず電源を“OFF”にしてから行ってください。
  車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の電源の状態がわからないときは、一度電源を“OFF”にしてください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

電源自動OFF 機能

- シフト レバーがⓅレンジのとき、電源が“ACC”、または“ON”のまま放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的に電源が“OFF”になります。
  - “ACC”のときは約 1 時間放置すると“OFF”になります。
  - “ON”のときは約 20 分放置すると“OFF”になります。

発信機から発する電波を電子カード キーが感知することによって、電源のロックが解除され、エンジンの始動、停止を行うことができます。

- 電子カード キーを所持して車室内発信機の作動範囲に入ると、プッシュ ボタン スタート スイッチを押して、電源を“OFF”から“ACC”にすることができます。



電源の状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	はたらき
OFF	消灯	停止	ハンドルがロックされ、キー フリー システムの通信を開始します。
ACC	緑色点滅	停止	オーディオが聞ける状態です。
ON	緑色点滅	停止	すべての電装品が使用できます。
ON	消灯	回転中またはeco IDLEによるアイドリング ストップ中	通常走行中の状態です。

⚠注意

- プッシュ ボタン スタート スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん電源を“OFF”にすると、エンジンを始動できなくなることがありますので、ただちに、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

■ ハンドル ロック

電源を“OFF”にしたあとにバック ドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドル ロック機能によりハンドルがロックされます。
スイッチを操作すると、ハンドル ロックは自動で解除されます。

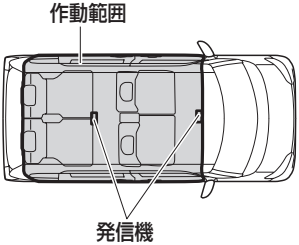
アドバイス

ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュ ボタン スタート スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
  ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■ 作動範囲

車室内です。



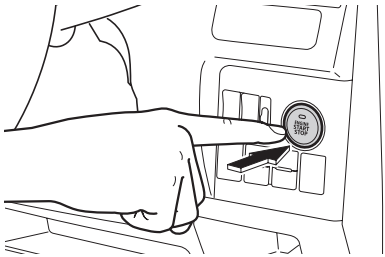
アドバイス

- インストルメント パネルの上や中（グローブ ボックス内など）・荷室・ドア ポケット・アーム レスト ボックス内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドア ハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。
- エンジン始動後に電子カード キーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、電子カード キーが車内に無いためにエンジンの始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓から電子カード キーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

（セキュリティ インジケーター → 222 ページ）

■ 電源の切り替え

1. 電子カード キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルを踏まずに、スイッチを押します。
   スイッチを押すごとに電源が「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- 車両が停止していないときは、電源を“ON”から“OFF”にしないでください。
- 電源を“ACC”にするとセキュリティ インジケーターが消灯します。

（セキュリティ インジケーター → 222 ページ）

⚠注意

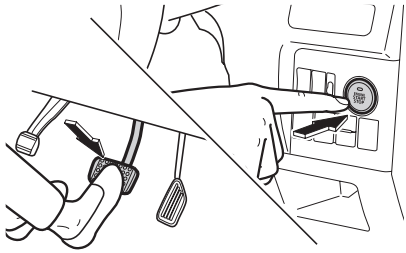
- スイッチを押したとき、キー フリー警告灯が消灯せず、高速で点滅したときは、電子カード キーが作動範囲外にある可能性があります。電子カードキーを確認してください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドル ロックが作動しません。

アドバイス

- 電源が“ACC”または“ON”のときは、作動表示灯が緑色に点滅します。
- スイッチを早押しした場合、電源が切り替わらないことがあります。目的の電源の状態になるまで、1 回ずつ確実に押してください。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
  このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

■ エンジンの始動

1. 電子カード キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
   スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
3. ブレーキ ペダルを踏みながら、スイッチを押します。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- エンジンを始動するとセキュリティ インジケーターが消灯します。
  （セキュリティ インジケーター → 222 ページ）
- エンジンを始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ブレーキ ペダルを踏みながらスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。

アドバイス

- エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せずに、スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅しているときは、ハンドル ロックが解除されていません。
  ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキ ペダルを踏み、スイッチを押し直してください。

■ エンジンの停止

車両を完全に停止させ、シフト レバーをⓅレンジにし、スイッチを押します。

- 電源が“OFF”になり、エンジンが停止します。

⚠警告

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にプッシュ ボタン スタート スイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - プッシュ ボタン スタート スイッチを 3 秒以上押し続ける
  - プッシュ ボタン スタート スイッチを 3 回以上連打する

（車両を緊急停止するには → 394 ページ）

⚠注意

- シフト レバーがⓅレンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。シフト レバーがⓅレンジ以外でエンジンを停止した場合、電源が“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

- シフト レバーがⓅレンジ以外でスイッチを押すと、電源は“ACC”になります。シフト レバーをⓅレンジにして、電源を“OFF”にしてください。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
  このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

■ 電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できないとき

プッシュ ボタン スタート スイッチに電子カード キーを接触させてスイッチを押すことで、電源を“ON”にすることができます。

（電子カード キーが使用できないとき → 390 ページ）

キー インター ロック

キー フリー システム装着車以外

誤操作防止のため、シフト レバーがⓅレンジ以外のときに、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼ 操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、シフト レバーをⓅレンジにしてから行います。

アドバイス

- シフト レバーがⓅレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

イモビライザー機能

キー フリー システム装着車

車両の盗難防止のため、電子カード キーには信号発信機が内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- 電源を“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ インジケーターが点滅します。
  （セキュリティ インジケーター → 222 ページ）
- 電源を“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ インジケーターが消灯します。

アドバイス

- セキュリティ インジケーターはセキュリティ アラームと兼用しているため、キー フリー操作・キーレス操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
  また、セキュリティ アラームが解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- 電子カード キーに登録された信号はキーごとに異なります。

■ メンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

⚠注意

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

駐車ブレーキ

⚠注意

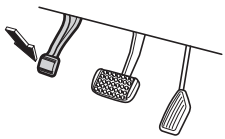
- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
  駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ かけるとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルをいっぱいまで踏み込みます。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。
  （ブレーキ警告灯→ 227 ページ）

▼ 解除するとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキング ペダルをゆっくり戻します。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。



⚠注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキ ペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキング ペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。
  （ブレーキ警告灯→ 227 ページ）

坂道に駐車するとき

▼ 操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、シフト レバーをⓅレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。

ターボ車

オプション/グレード別装備

⚠注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコ メーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイル フィルターの交換を必ず行ってください。

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。ただし、eco IDLEが作動して、アイドリング ストップしたときは、アイドリング運転は不要です。

運転状態	アイドリング時間
一般走行後	–
高速走行後、登坂走行後	約1分

アドバイス

- アイドリング運転をするときは駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れてください。

4 WD車

オプション/グレード別装備

⚠注意

- 4WD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
  また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
  万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- 4WD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

フル タイム 4 WDシステム

アドバイス

- フル タイム 4WDシステムは、2WDと4WDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また 4WD表示灯もありません。

4WD車のタイヤ交換

4WD車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。
タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

⚠注意

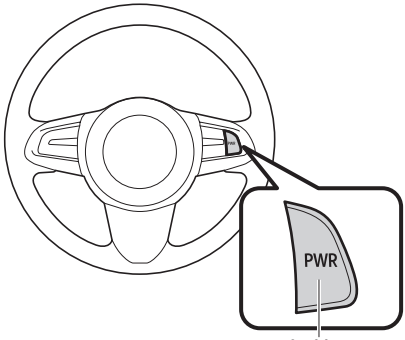
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4 輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッド パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に 1 回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤのローテーションは 5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤ チェーンは必ず前輪に装着してください。

D assist切替ステアリング スイッチ

D assist切替ステアリング スイッチを“ON”にすると、エンジンとCVT の制御が切り替わりパワー モードになります。シフト レバーがⒹ、Ⓢ レンジのときに軽快な走行をすることができます。



D assist切替
ステアリング スイッチ

- スイッチを押して“ON”にすると、メーター内のパワー モード インジケーターが点灯します。
- スイッチをもう一度押すと“OFF”になり、メーター内のパワー モード インジケーターが消灯します。

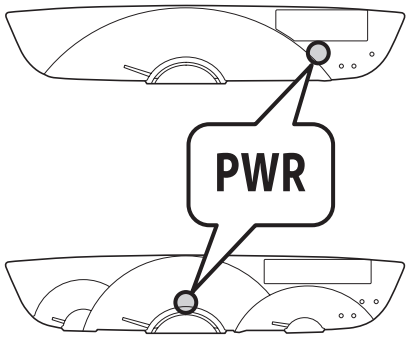
⚠注意

- エンジン警告灯、CVT 警告灯が点灯しているときは、パワー モード制御に切り替わりません。

アドバイス

- Ⓡ、Ⓑレンジでの走行時は、パワーモード制御は行われません。
- D assist切替ステアリング スイッチを“ON”にしても、電源を“ON”にするたびに、D assist切替ステアリングスイッチは“OFF”になります。

パワー モード インジケーター



アドバイス

- パワー モード インジケーターが点灯しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

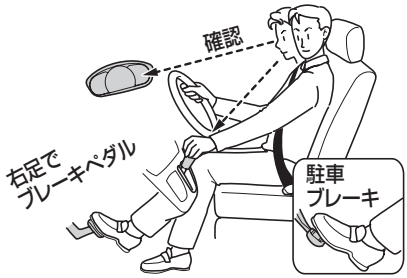
エンジンのかけかた

CVT車

エンジン始動の準備

▼ 操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーがⓅレンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。



エンジンをかけるとき

▼ 操作方法

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置まで回します。

プッシュ ボタン スタート装着車

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、スイッチを押します。

（プッシュ ボタン スタート スイッチ → 251 ページ）

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤ ウインド デフォッガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。
- プッシュ ボタン スタート装着車で電子カード キーを使用してエンジン始動する場合、通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、ブレーキ ペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。

■ イージー スタート サポート

イージー スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。
エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する（プッシュ ボタン スタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。

アドバイス

- イージー スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置（プッシュ ボタン スタート装着車は電源を“ACC”または“OFF”）にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージー スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジンを止めるとき

▼ 操作方法

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

プッシュ ボタン スタート装着車

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからスイッチを押します。

（プッシュ ボタン スタート スイッチ → 251 ページ）

⚠注意

- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約 1 分程度行ってください。（ただし、eco IDLEが作動してアイドリング ストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

CVT車の運転

CVT車

CVT車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になりますが、いくつかの特性があります。CVT車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

CVT車の特性

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキ ペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

シフト レバー

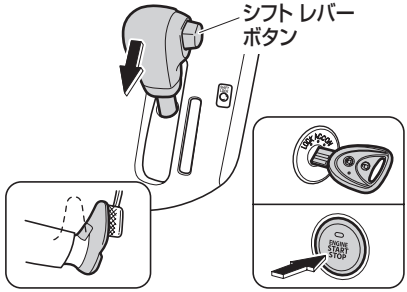
シフト レバーの操作は確実に行ってください。

■ シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼ シフト ロック解除方法

電源を“ON”にし、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーの操作ができます。



アドバイス

- シフト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでないと、Pレンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にシフト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。
- 電源が“ON”以外では、ブレーキ ペダルを踏んでもシフト レバーはPレンジからほかのレンジへは動きません。
- 万一、電源を“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもシフト レバーをPレンジからほかの位置へ動かせないときは、シフト ロック解除ボタンを使用してロックを解除してください。この場合はシフト ロック システムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けて下さい。

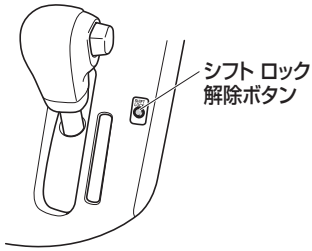
■ シフト ロック解除ボタン

シフト ロックを解除するためのボタンです。バッテリーあがりなどで、シフト レバーがPレンジからほかのレンジへ動かないときに使用します。

▼ シフト ロック解除方法

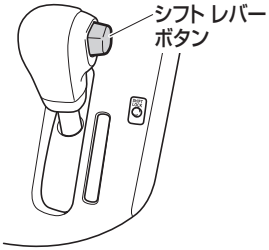
ブレーキ ペダルを踏んだ状態で、シフト ロック解除ボタンを押しながら、シフト レバーを操作します。

- 必ずブレーキ ペダルを踏みながら操作してください。



シフト レバーの操作

シフト レバー部には、シフト レバーを動かすときに使用するシフト レバー ボタンが装着されています。



▼ 操作する前に

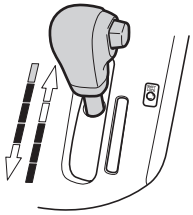
⚠警告

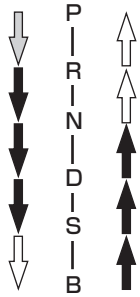
- Pレンジから Rレンジへシフト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、シフト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	車を後退させるときの位置 （車が完全に止まってから入れてください）
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置［前進］ （速度に応じて無段階で自動的に変速されます）
Sレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置［前進］ （エンジン ブレーキが必要なときの位置）
Bレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置［前進］ （強いエンジン　ブレーキが必要なときの位置）

シフト レバーの動かしかた





ブレーキ ペダルを踏みながらシフト レバー ボタンを押して動かします。

シフト レバー ボタンを押して動かします。

そのまま動かします。

⚠警告

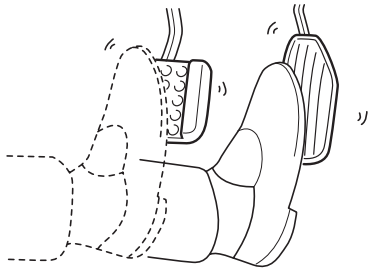
- ➡の操作は誤作動を防ぐため、シフト レバー ボタンを押さずに動かしてください。常にシフト レバー ボタンを押して操作していると、Ⓟ・Ⓡ・Ⓑレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中にⓃレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちにⓅレンジに入れないでください。また、前進走行中にⓇレンジ、および後退走行中にⒹ・Ⓢ・Ⓑレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転のしかた

エンジン始動前

▼ 操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



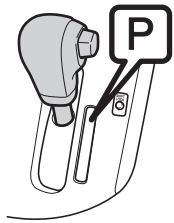
⚠注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼ 操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. シフト レバーがⓅレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。（プッシュ ボタン スタート装着車は、ブレーキ ペダルを踏んだままスイッチを押します。）



発進時

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- Ⓟレンジから Ⓡレンジへシフト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、シフト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼ 操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままシフト レバーを前進であればⒹレンジに、状況に応じてⓈ、Ⓑレンジに、また後退のときはⓇレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠注意

- シフト レバーがどの位置にあるかをシフト レバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドル アップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでⒹレンジからⓇレンジ、ⓇレンジからⒹレンジと何度もシフト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
  完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにⓅレンジからⓇレンジ、ⓃレンジからⒹレンジ、ⓃレンジからⓇレンジにシフト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかり踏んでから行ってください。
- 坂道発進時など、アクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

アドバイス

- シフト レバーをⓇレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にシフト レバーがⓇレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

▼ 坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、シフト レバーをⒹレンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

アドバイス

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがありますが故障ではありません。

走行時

▼ 操作手順

1. 通常はⒹレンジで走行します。
2. 急加速が必要な場合は、アクセル ペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じてⓈレンジまたはⒷレンジに切り替えます。

⚠警告

- 坂道などでは、シフト レバーをⒹ、ⓈレンジまたはⒷレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

⚠注意

- 走行中はⓃレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中にⓅレンジ、また前進走行中にⓇレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂をⒹレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
  このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
  Ⓢレンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、Ⓑレンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行中にアクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏まないでください。同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Ⓓレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
  CVT車は、軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。

一時停止時

▼ 操作手順

1. シフト レバーは走行位置のままでブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓃレンジに入れます。
3. 発進するときは、シフト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠注意

- 上り坂での停止はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

後退時

▼ 操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、シフト レバーをⓇレンジに入れます。

⚠注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはⓇレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでⒹレンジからⓇレンジ、ⓇレンジからⒹレンジと何度もシフト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

アドバイス

- シフト レバーをⓇレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にシフト レバーがⓇレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。

駐車時

▼ 操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回してキーを抜きます。（プッシュ ボタン スタート装着車は、スイッチを押して電源を“OFF”にします）

⚠注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。（プッシュ ボタン スタート装着車は、スイッチを押して電源を“OFF”にします）
  “ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- Ⓟレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずⓅレンジにあることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにⓅレンジに入れないでください。トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

- キー インター ロック装置により、シフト レバーがⓅレンジ以外のときは、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。
  （キー インター ロック→ 256 ページ）

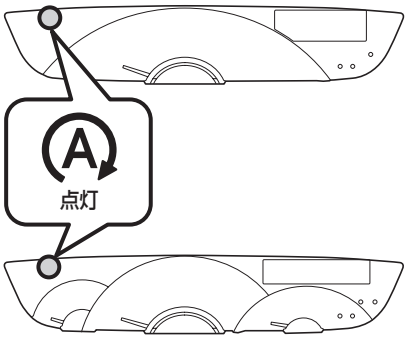
アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE（エコ アイドル）

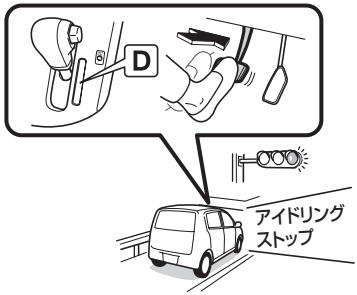
eco IDLEは、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約9km/h以下）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリング ストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリング ストップ、エンジンの再始動のしかた

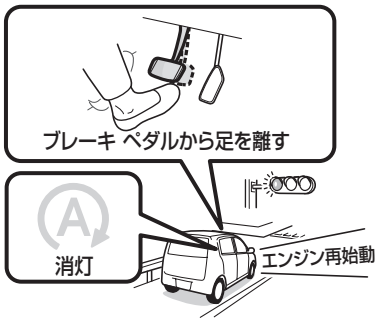
1. 走行中にアイドリング ストップする条件を満たすと、eco IDLE表示灯が点灯します。
   <スタンバイ状態>
   （スタンバイ条件→ 276 ページ）



2. Ⓓレンジのままブレーキ ペダルを踏み減速すると、停車前（約 9km/h以下）もしくは停車後に、アイドリング ストップします。
   eco IDLE表示灯はアイドリング ストップ中も点灯し続けます。
   <アイドリング ストップ状態>
   （アイドリング ストップ条件 → 277 ページ）



3. ブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。
   eco IDLE表示灯は消灯します。
   <エンジン再始動>
   （エンジン再始動条件→ 278 ページ）

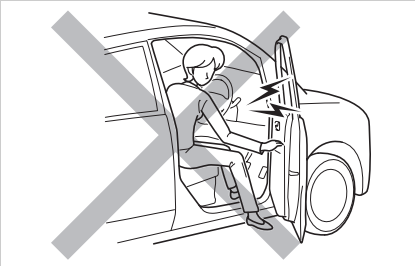


4. しばらく走行して、再びアイドリング ストップする条件を満たすと、eco IDLE表示灯が点灯します。

⚠警告

- アイドリング ストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席シート ベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
  - 警告ブザーは約 5 秒間鳴ります。ただし運転席シート ベルトと運転席ドアを元に戻すと警告ブザーが止まります。

(警告ブザー→ 280 ページ)



⚠注意

- アイドリング ストップ中は、ブレーキ ペダルを踏んだまま、アクセル ペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジン スイッチを操作してエンジンを停止させてください。

⚠注意

eco IDLEを正常に作動させるために

- 下記の場合、eco IDLEが正常に作動しないおそれがあります。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  - 運転席シート ベルトを着用していても、シート ベルト締め忘れ警告灯が点滅するとき
  - 運転席シート ベルトを外していても、シート ベルト締め忘れ警告灯が点滅しないとき
  - 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
  - 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

アイドリング ストップ システムの使いかた

アドバイス

アイドリング ストップ中の操作について

- アイドリング ストップ中に、シフトレバーをⒹからⓃレンジ（またはⓈ・Ⓑレンジ）に操作してもアイドリングストップは継続します。
  ただし、シフト レバーをⓃレンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - ハンドル操作をする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す
  （eco IDLE OFFスイッチ→ 283 ページ）

アイドリング ストップ中のエアコンの作動について

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。
  通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

システムの作動条件について

■ スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE表示灯が点灯し、アイドリング ストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFFスイッチを押して、eco IDLEの作動を停止していないとき
  （eco IDLE作動停止中は、eco IDLE OFF表示灯が点灯します）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッション オイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h以上でしばらく走行したあと
  （走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリング ストップしません）
- シフト レバーがⒹレンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シート ベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
  （走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります）
- フロント デフロスター スイッチが“OFF”のとき（オート エアコン装着車）
- 車内温度が快適なとき（オート エアコン装着車の冷房時）

- システム（eco IDLE、エンジン電子制御、CVT、ABS、VSC、エアコン、電動パワー ステアリング）が正常なとき

アドバイス

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
  - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
  - バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子をはずしたあと
  - 冷房初期（オート エアコン装着車）

■ アイドリング ストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE表示灯が点灯したまま、停車前もしくは停車後にアイドリング ストップします。

アドバイス

- 停車前と停車後のアイドリング ストップ条件が異なるため、停車前にアイドリング ストップしなくても、停車後にアイドリング ストップすることがあります。

停車前アイドリング ストップ条件

- 車速が約 9km/h以下になったとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ライト スイッチが“OFF”のとき
- フロント ワイパー•ウォッシャー スイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSCが作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）

アドバイス

- 下記の場合、停車前アイドリング ストップしない場合があります。
  - ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
  - 勾配のある坂道を走行しているとき
  - ゆるやかに減速しているとき

アイドリング ストップ システムの使いかた

停車後アイドリング ストップ条件

- 車両が停車しているとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSCが作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）

アドバイス

- 下記の場合、停車後アイドリング ストップしない場合があります。
  - ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
  - 急勾配の坂道で停車したとき

■ エンジン再始動条件

アイドリング ストップ中に、下記のいずれかの操作を行うと、エンジンが再始動します。

- ブレーキ ペダルから足を離す
- ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
- アクセル ペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- シフト レバーをⓇ・Ⓟレンジに操作する
- シフト レバーをⓃレンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFFスイッチを押して、システム作動を停止する
- フロント デフロスター スイッチを“ON”にする（オート エアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シート ベルトを外す

アドバイス

エンジンの再始動について

- 下記の場合でも、アイドリング ストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。
  - アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE表示灯は点滅後消灯）
    - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
    - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
    - ・停車前アイドリング ストップ中に下り坂などで加速したとき
    - ・バッテリーの放電量が多いとき（パワー スライド ドアを自動開閉したとき等）
    - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS、VSC&TRC、電動パワー ステアリング）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
    - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オート エアコン装着車）
    - ・冷房時にエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オート エアコン装着車）
    - ・アイドリング ストップしてから約3分経過したとき

* エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

アドバイス

- アイドリング ストップ中に、eco IDLEシステムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE OFF表示灯は点滅）

アイドリング ストップ時間が短くなる場合

- 下記の場合、アイドリング ストップ時間が短くなる場合があります。
  - 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリング ストップしたとき（オート エアコン装着車）
  - 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

- 下記の場合、警告ブザーが鳴ってeco IDLE表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキ ペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
  - アイドリング ストップ中にボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 280 ページ）

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリング ストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
  - オーディオ
  - ナビゲーション システム
- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

警告ブザー

アイドリング ストップ中に、運転席シート ベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザー（断続音）が約 5 秒間鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

■ 運転席シート ベルトを外したとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

運転席シート ベルトを確実に着用してください。

（警告ブザーが止まります）

■ 運転席ドアを開けたとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。

（警告ブザーが止まります）

■ ボンネットを開けたとき

安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

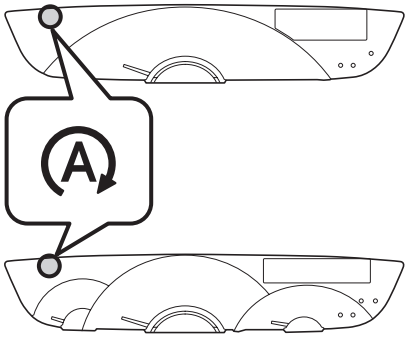
▼ 対処方法

ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。

シフト レバーをⓅレンジに操作してから、ブレーキペダルを踏んだままエンジン スイッチを操作して、エンジンを始動してください。

アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE表示灯



eco IDLEに関する操作状況、車両の状態をお知らせします。

■ 点灯

- 電源を“ON”にしたとき
  （数秒後消灯）
- アイドリング ストップが可能な条件を満たしたとき
  <スタンバイ条件成立>
- アイドリング ストップ中

■ 消灯

- アイドリング ストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリング ストップが可能な条件を満たしていないとき
  <スタンバイ条件不成立>

■ 低速点滅後、消灯

アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

■ 高速点滅

アイドリング ストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが約 5 秒間鳴ります。

- 運転席シート ベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

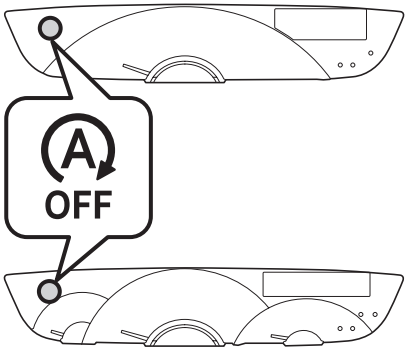
（警告ブザー→ 280 ページ）

アドバイス

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE OFF表示灯



- eco IDLE OFFスイッチを押して、eco IDLE作動を停止すると点灯します。
  （eco IDLE OFFスイッチ→ 283 ページ）
- 下記の状態になると、電源が“ON”のときに点滅します。
  - ・eco IDLEシステムに異常があるとき
  - ・エンジン部品（スターター）が交換時期のとき
- バッテリーが交換時期になると、電源を“ON”にしたときに点滅し、数秒後に消灯します。

⚠注意

点滅した場合

- ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

アイドリング ストップ時間表示

アイドリング ストップ時間を、メーターのディスプレイに表示できます。

（オド／トリップ切り替えスイッチ → 211 ページ）

アイドリング ストップ システムの使いかた

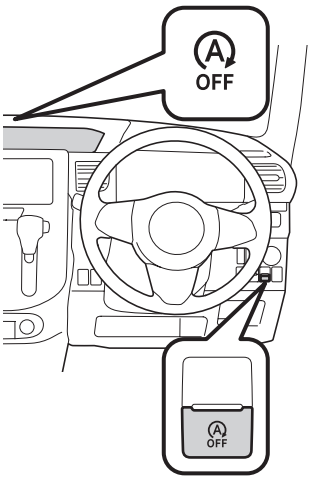
eco IDLE OFFスイッチ

eco IDLEの作動を停止したいときにスイッチを押します。

▼ 操作方法

スイッチを押すと、eco IDLEの作動停止状態になり、メーター内のeco IDLE OFF表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、eco IDLE作動停止状態が解除され、eco IDLE OFF表示灯が消灯します。

（eco IDLE表示灯→ 281 ページ）
（eco IDLE OFF表示灯→ 282 ページ）



アドバイス

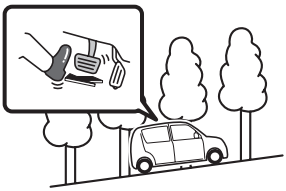
- アイドリング ストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE作動停止状態になります。（eco IDLE OFF表示灯は点灯します）
- eco IDLEはエンジン スイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

ヒル スタート システム

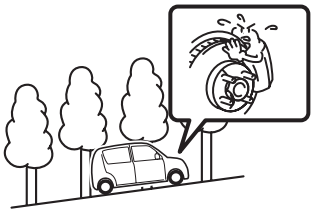
アイドリング ストップからブレーキ ペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。
坂道発進時の後退を軽減します。

▼ 作動の流れ

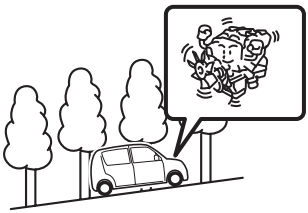
1. ブレーキ ペダルを踏む力をゆるめる



2. ブレーキ力保持



3. エンジン再始動



4. 発進

アイドリング ストップ システムの使いかた

⚠警告

- ヒル スタート システムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル スタート システムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリング ストップしたあと、車両が停止する前にアクセル ペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
  車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキ ペダル、アクセル ペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒル スタート システムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

アドバイス

- ヒル スタート システムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキ ペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する
- ヒル スタート システムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

eco IDLE専用バッテリー

eco IDLE装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。
バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。

⚠注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やeco IDLEが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLEが正常に作動しなくなります。

アドバイス

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

エコ発電制御

エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

MEMO

装備品の使いかた

車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

マニュアル エアコン---------- 288
オート エアコン---------- 296

■ オーディオ

ルーフ アンテナ---------- 306
ステアリング スイッチ ---------- 307
バック カメラ ---------- 308
パノラマ モニター ---------- 312

■ 室内装備品

室内照明 ---------- 318
アクセサリー ソケット ---------- 321
サン バイザー ---------- 322
格納式リヤ ドア サンシェード----- 323
収納装備 ---------- 324
ドリンク ホルダー ---------- 327
ショッピング フック---------- 329
助手席シート バック テーブル----- 329
格納式アシスト グリップ-------- 330
乗降グリップ ---------- 330
ETC---------- 331

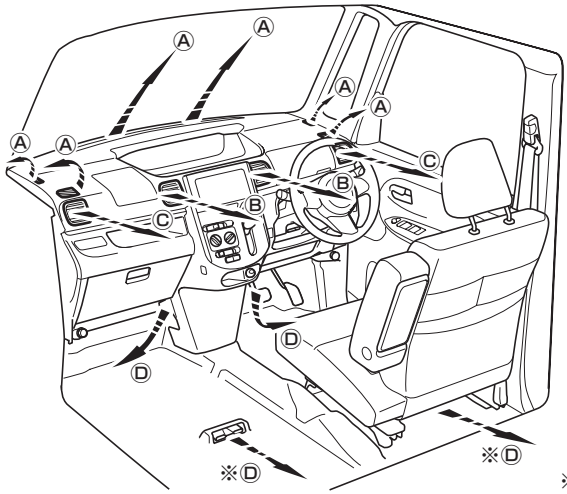
空調

マニュアル エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。
コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠警告

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 294 ページ）

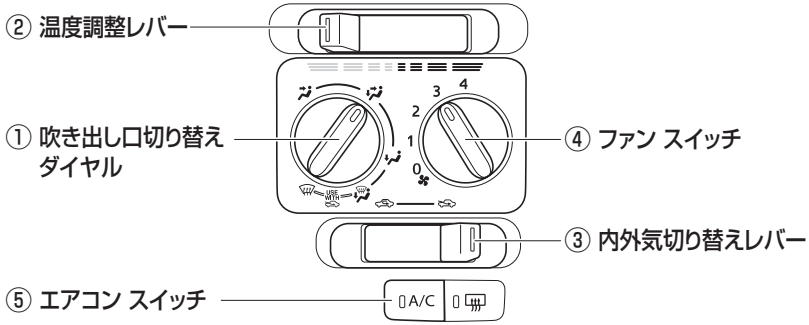
アドバイス

eco IDLEによるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）

マニュアル エアコン コントロール パネル



■ 各ダイヤル／レバー／スイッチの使いかた

①吹き出し口切り替えダイヤル

イラストの方向へ風が出てきます。風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル					
吹き出し口	Ⓑ Ⓒ	Ⓑ Ⓒ Ⓓ	Ⓓ (Ⓐ) (Ⓒ)	Ⓐ Ⓓ (Ⓒ)	Ⓐ (Ⓒ)

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼ 操作方法

ダイヤルを左右に回して、切り替えます。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

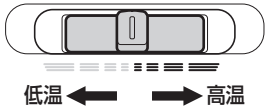
- 湿度が高いときにエアコンを低い温度で作動させている場合は、吹き出し口を、または に切り替えないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

アドバイス

USE
WITH

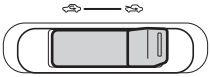
- このマークは、①吹き出し口切り替えダイヤルを⁂または⊞に合わせるときに③内外気切り替えレバーを（外気導入）に合わせて使用することをおすすめするためのものです。（外気導入）に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

②温度調整レバー
風の吹き出し温度を調整します。



▼ 操作方法
レバーを左右に動かして、調整します。

③内外気切り替えレバー
内気循環、外気導入の切り替えを行います。



内気循環		外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
外気導入		外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼ 操作方法
レバーを左右に動かして切り替えます。

⚠注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- ①のダイヤルが、または のとき“内気循環”にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

アドバイス

- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

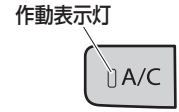
④ファン スイッチ
吹き出し口からの風の強さを切り替えます。
スイッチにより 4 段階の切り替えができます。

▼ 操作方法
スイッチを回して操作します。

アドバイス

- “0”の位置にすると、ファンが停止します。

⑤エアコン スイッチ
冷房、除湿機能の作動と停止を行います。



▼ 操作方法
ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。
もう一度押すとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。

アドバイス

- 停車時（eco IDLEによるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。
  （CVT車の運転→ 264 ページ）
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

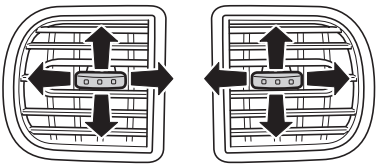
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 吹き出し口

▼ 操作方法

ツマミを動かして調整します。

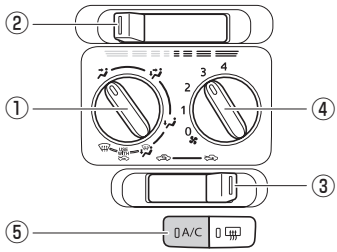


マニュアル エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、レバー、スイッチのセット位置を説明します。

■ 通常の冷房

室内を冷やしたいときに使用します。



① ⁂
② 低温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

アドバイス

急速に冷房したいときは

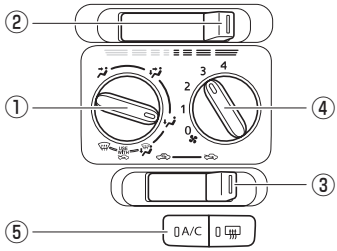
- ②のレバーを最低温に、③のレバーを“内気循環”に、⑤のスイッチを“ON”にしてください。
  ただし“内気循環”で長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき“外気導入”にしてください。
  冷えてきたら②のレバーを高温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

車内の温度が高いときは

- 駐車のあと車内の温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

■ 通常の暖房

室内を暖めたいときに使用します。



① ② ③ ④ ⑤

①
② 高温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

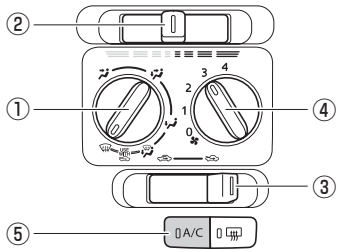
アドバイス

急速に暖房したいときは

- ②のレバーを最高温に、③のレバーを“内気循環”にしてください。
  ただし“内気循環”で長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
  暖かくなってきたら②のレバーを低温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

■ ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



① ② ③ ④ ⑤

①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ②のレバーを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ①のダイヤルをにすると、曇り取りと同時に足元にも送風されます。

外気が汚れているときは

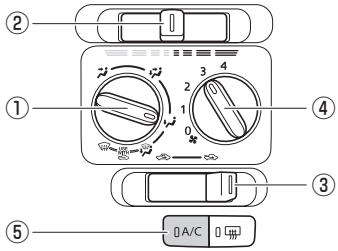
- 一時的に③のレバーを“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ④のスイッチを操作して、風量を増す
  - ②のレバーを操作して、設定温度を上げる

■ 除湿暖房するとき（曇り止め）

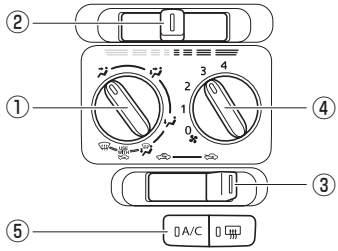
雨の日など湿気が多く、ガラスが曇りやすいときに使用します。



① ⁂
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

■ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



① ⁂
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

アドバイス

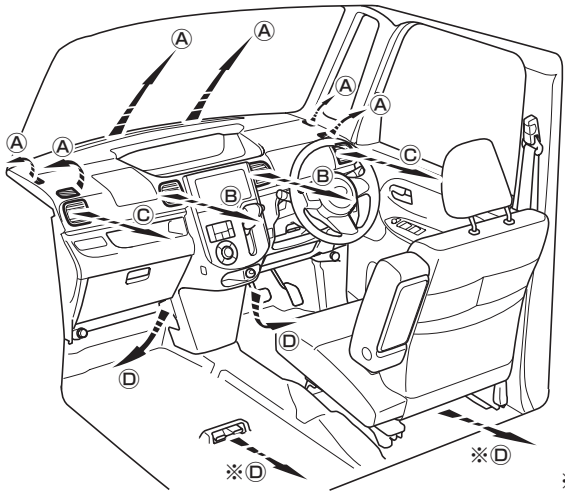
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

オート エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。
コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠警告

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 304 ページ）

アドバイス

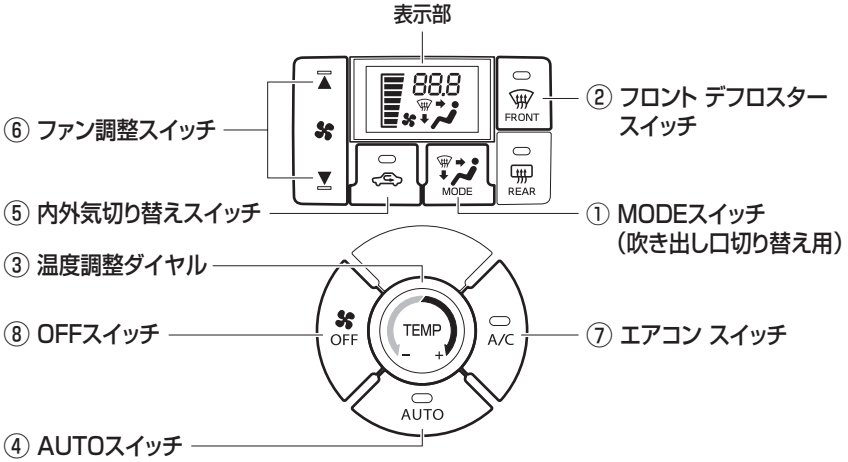
- エアコンの操作や室内温度により、eco IDLEによるアイドリング ストップをしない場合や、アイドリング ストップ中にブレーキ ペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

eco IDLEによるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）

オート エアコン コントロール パネル



■ 各ダイヤル／スイッチの使いかた

①MODE（吹き出し口切り替え用）
　スイッチ

吹き出し口を選択します。

選択された吹き出し口が表示部に表示されます。

選択された吹き出し口から風が出てきます。

風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	Ⓑ Ⓒ	Ⓑ Ⓒ Ⓓ	Ⓓ (Ⓐ) (Ⓒ)	Ⓐ Ⓓ (Ⓒ)

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼ 操作方法

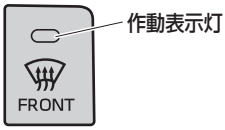
スイッチを押すごとに、吹き出し口が「→→→」の順に切り替わります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口をに切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

②フロント デフロスター スイッチ
ガラスの曇りを取ります。



▼ 操作方法

- スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時に内外気切り替えが外気導入に切り替わり、作動表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと作動表示灯が消灯し、元の状態に戻ります。

⚠警告

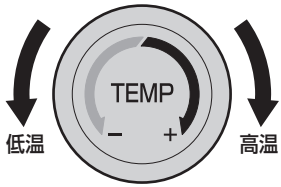
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

アドバイス

- スイッチが“ON”のときは、eco IDLEによるアイドリング ストップをしません。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。
  （eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）

③温度調整ダイヤル
室内の設定温度を調整します。
設定温度が表示部に表示されます。



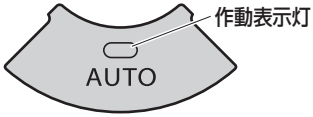
▼ 操作方法
ダイヤルを左右に回して、調整します。

アドバイス

- 設定温度を 18℃～32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

④AUTOスイッチ

スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。



▼ 操作方法

スイッチを押すと“ON”になります。
“ON”のときは作動表示灯が点灯します。

アドバイス

- AUTOスイッチが“ON”のときは、下記のようになります。
  - 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、AUTOスイッチの作動表示灯が消灯しますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度AUTOスイッチを押してください。
  - 吹き出し口が または で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
  - 吹き出し口が または で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
  - エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
  - AUTOスイッチが“ON”のときで、eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
    エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

（eco IDLE（エコ アイドル）
→ 274 ページ）

⑤内外気切り替えスイッチ
内気循環、外気導入の切り替えを行います。

- 内気循環
  外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
- 外気導入
  外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼ 操作方法
スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

- 作動表示灯が点灯している状態が“内気循環”
- 作動表示灯が消灯している状態が“外気導入”

⚠注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

アドバイス

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

⑥ファン調整スイッチ
吹き出し口からの風の強さを調整します。
風量が表示部に表示されます。

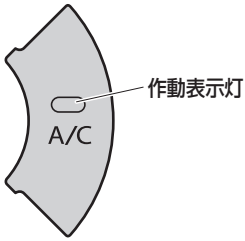
▼ 調整方法
スイッチを押して調整します。

- 風量を強くするには▲側のスイッチ、弱くするには▼側のスイッチを押します。
- ファンを停止させたいときは、OFFスイッチを押します。

アドバイス

- 吹き出し口が⁛または⁛で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

⑦エアコン スイッチ
冷房、除湿機能の作動と停止を行います。



▼ 操作方法
ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。
もう一度押すとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。

アドバイス

- 停車時（eco IDLEによるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。
  （CVT車の運転→ 264 ページ）
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

⑧OFFスイッチ
空調機能の停止を行います。

▼ 操作方法
スイッチを押します。

風向きの調整

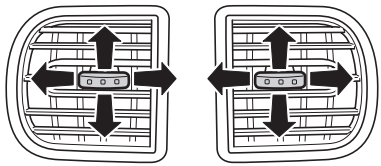
左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 吹き出し口

▼ 操作方法
ツマミを動かして調整します。

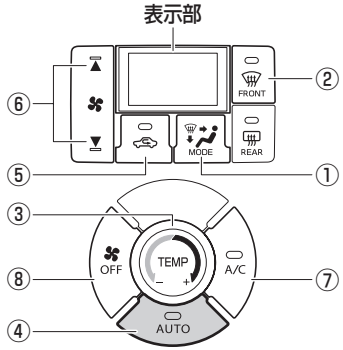


オート エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、スイッチのセット位置を説明します。

■ 通常の使いかた

室内温度を一定に保ちたいときに使用します。



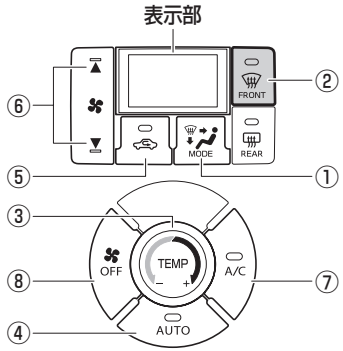
① 操作不要
② OFF
③ お好みの温度
④ ON
⑤ 操作不要
⑥ 操作不要
⑦ お好みの設定
⑧ 操作不要

アドバイス

- ④のスイッチを“ON”にすることにより、状況に応じて①・⑤・⑥のスイッチが最適な状態に自動的に選択されます。
- 設定温度は 25℃を目安に、お好みで調整してください。
  乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を 25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- 冷房、除湿をするときは、⑦のスイッチを“ON”にします。

■ ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



① 操作不要
② ON
③ お好みの温度
④ OFF
⑤ 操作不要(外気導入)
⑥ お好みの風量
⑦ 操作不要
⑧ 操作不要

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ③のダイヤルを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ②のスイッチが“ON”のときは、eco IDLEによるアイドリング ストップをしません。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中に②のスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）

外気が汚れているときは

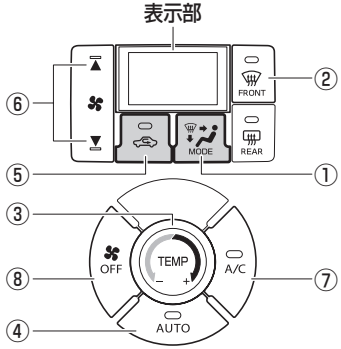
- 一時的に“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ⑥のスイッチを操作して、風量を増す
  - ③のダイヤルを操作して、設定温度を上げる

■ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



① ⌇
② OFF
③ お好みの温度
④ OFF
⑤ 外気導入
⑥ お好みの風量
⑦ OFF
⑧ 操作不要

温度調節センサー

オート エアコンには、自動的に温度調節を行うために、日射センサーと内気センサーが取り付けられています。

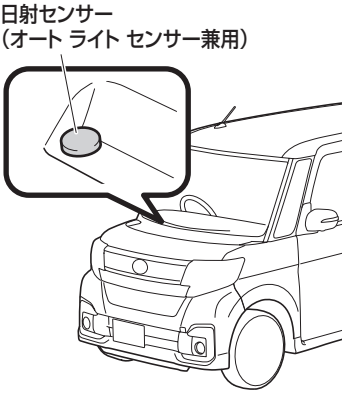
アドバイス

- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

■ 日射センサー

日射量を検知します。

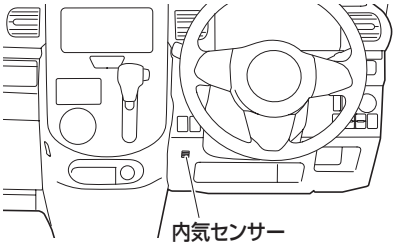
インストルメント パネル上部に取り付けられています。



■ 内気センサー

室内温度を検知します。

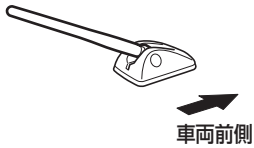
インストルメント パネル中央部（運転席側）に取り付けられています。



オーディオ

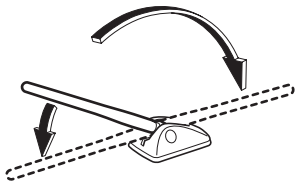
ルーフ アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。



アンテナは、倒すことと取り外すことができます。

▼ 倒しかた



▼ 取り外しかた、取り付けかた

アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回します。

- 取り付け時はしっかりと締め付けてください。

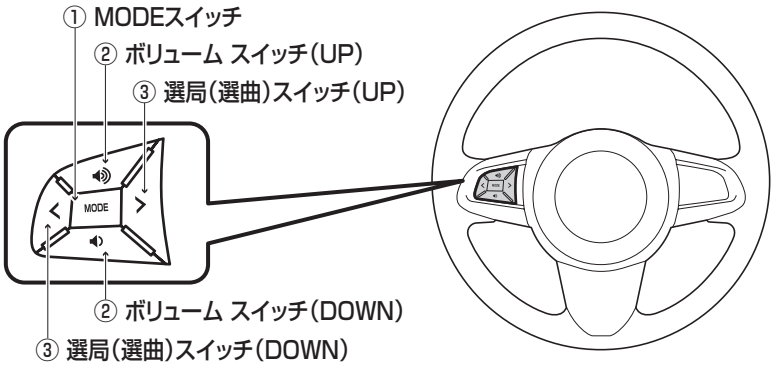
⚠注意

- アンテナを取り扱うときは、無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。
- アンテナは横方向への調整はできません。
- 下記のようなときは、アンテナを取り外してください。破損したり、変形したりする場合があります。
  - 自動洗車機使用時
  - ボデー カバーをかけるとき
  - 降雪時に長時間駐車するとき
- 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるときは、アンテナを倒してください。
- 洗車時などアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。

ステアリング スイッチ

オプション/グレード別装備

車両の電源が“ON”または“ACC”のとき、ハンドルにあるスイッチでオーディオを操作することができます。



アドバイス

- オーディオ、ナビゲーション システムにより、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属している各取扱説明書をお読みください。

バック カメラ

オプション/グレード別装備

アドバイス

- ナビゲーションに付属している取扱説明書もあわせてお読みください。

バック カメラは車を後退させるとき、ナビゲーションの画面に車両後方の映像を表示します。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- バック カメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。
- バック カメラを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。
  特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
- 映像だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後退すると車両をぶつけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。

⚠警告

- 下記のような状況では使用しないでください。
  - 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - タイヤ チェーン、応急用スペア タイヤを使用しているとき
  - バック ドアが完全に閉まっていないとき
  - 坂道など平坦でない道路
- 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。

⚠注意

- バック カメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、下記のことにご注意ください。
  - バック カメラ周辺にはカメラの視野に影響を及ぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
  - バック カメラ周辺を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃をあたえないでください。バック カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - バック カメラは取り外したり、分解、改造をしないでください。
  - バック カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
  - バック カメラ周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
  - バック カメラのカバーは樹脂部品ですので、ワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。
    付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - 寒いときに、お湯をかけるなどして急激な温度変化をあたえないでください。
  - バック カメラ周辺をぶつけたときは、バック カメラが故障しているおそれがありますので、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

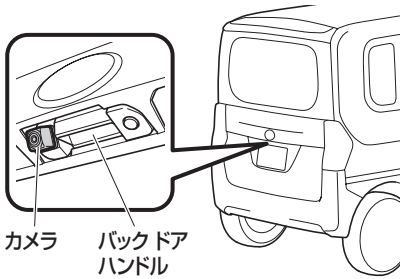
- バック カメラ装着車は、字光式ナンバー プレートを取り付けることができません。

バック カメラのレンズが汚れている場合

- バック カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を映すことができません。
  水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

バック カメラの位置

バック ドア ハンドルの横に取り付けられています。



バック カメラの使い方

車両の電源が“ON”のときに、シフト レバーをⓇレンジにすると、ナビゲーションのバック モニター画面に車両後方の映像を表示します。

- シフト レバーをⓇレンジ以外にすると、元の画面に戻ります。

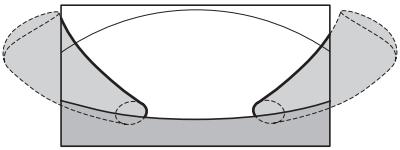
アドバイス

- バック カメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

画面に映る範囲

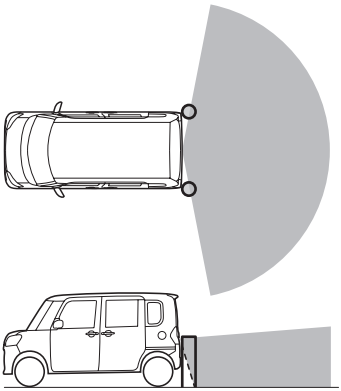
リヤ バンパー後端から車両の後方（下図の範囲）が映ります。

■ 映像



バンパーの両端付近は映りません

■ 映る範囲



アドバイス

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バック カメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バック カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
  - 暗いところ（夜間など）
  - レンズ付近の温度が高い、または低いとき
  - バック カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
  - バック カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
  - 太陽やヘッド ランプの光が直接バック カメラのレンズに当たったとき

パノラマ モニター

オプション/グレード別装備

アドバイス

- ナビゲーションに付属している取扱説明書もあわせてお読みください。

パノラマ モニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バック カメラの映像を合成してナビゲーションの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。
画面を左右 2 分割して表示し、左側にトップ ビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。
また、レフト& ライト サイド ビューやレフト サイド& リヤ ビュー、フロントワイド ビュー、リヤ ワイド ビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

- 画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。

（**画面に映る範囲**→ 315 ページ）

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

⚠警告

- パノラマ モニターを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず周辺の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
- 映像だけを見ながら運転することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て運転すると車両をぶつけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
- 次のような状況では使用しないでください。
  - 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - タイヤ チェーンを使用しているとき
  - バック ドアが完全に閉まっていないとき
  - ドア ミラーを格納しているとき
  - 坂道など平坦でない道路
- 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。

⚠注意

- カメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - カメラ周辺にはカメラの視野に影響を及ぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
  - カメラ周辺を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃をあたえないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - カメラは取り外したり、分解、改造をしないでください。
  - カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
  - カメラ周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
  - カメラのカバーは樹脂部品ですので、ワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - 寒いときに、お湯をかけるなどして急激な温度変化をあたえないでください。

⚠注意

- 次の場合は、カメラが故障しているおそれがありますので、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  - カメラ周辺をぶつけたとき
  - トップ ビューの映像が大きくずれているとき

アドバイス

- バック カメラ装着車には、字光式ナンバー プレートを取り付けることができません。
- パノラマ モニター対応純正ナビゲーション以外を装着した場合は、パノラマモニターが正常に作動しないことがあります。

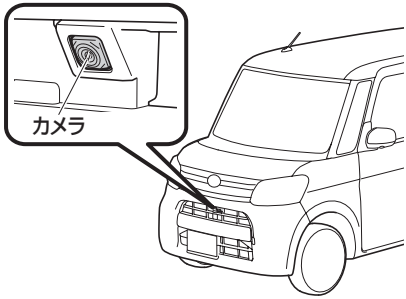
カメラのレンズが汚れている場合

- カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を映すことができません。水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

カメラの位置

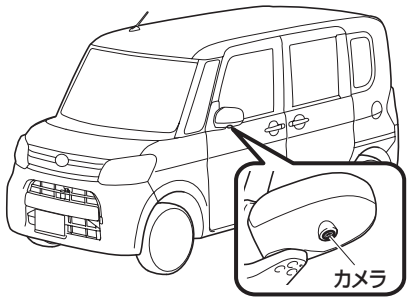
フロント カメラ

フロント グリル センター部に取り付けられています。



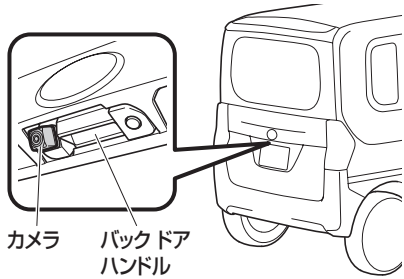
サイド カメラ

ドア ミラー下部に取り付けられています。



バック カメラ

バック ドア ハンドルの横に取り付けられています。



パノラマ モニターの使いかた

電源が“ON” のときに、シフト レバーの位置や車速、ナビゲーションの操作に応じて、ナビゲーションの画面に映像を表示します。詳しくはナビゲーションに付属している取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- バック カメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

画面に映る範囲

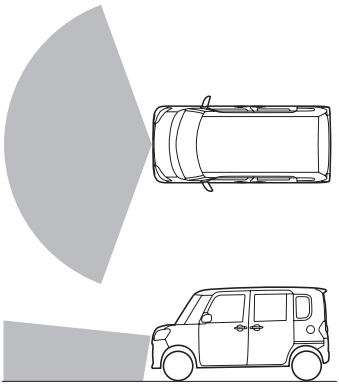
■ フロント ビュー

車両の前方（下図の範囲）が映ります。

フロント ビュー

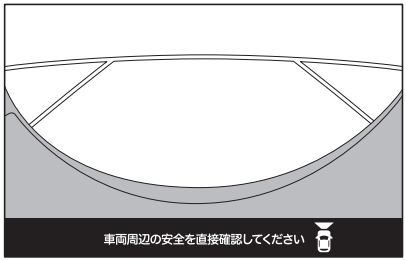
▼ 映像

▼ 映る範囲

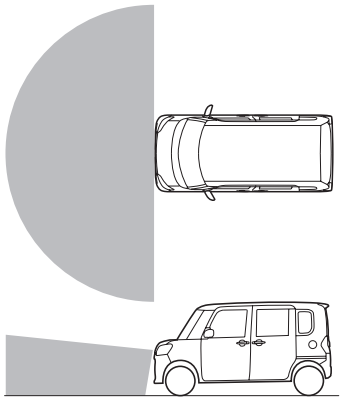


フロント ワイド ビュー

▼ 映像



▼ 映る範囲



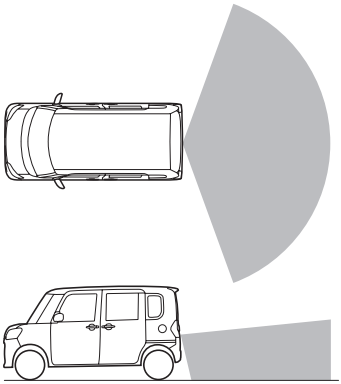
■ リヤ ビュー

車両の後方（下図の範囲）が映ります。

リヤ ビュー

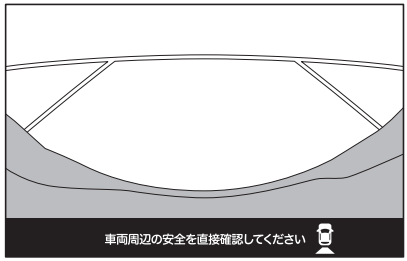
▼ 映像

▼ 映る範囲

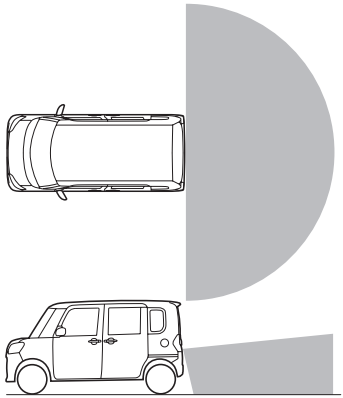


リヤ ワイド ビュー

▼ 映像



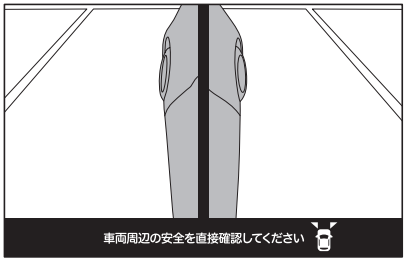
▼ 映る範囲



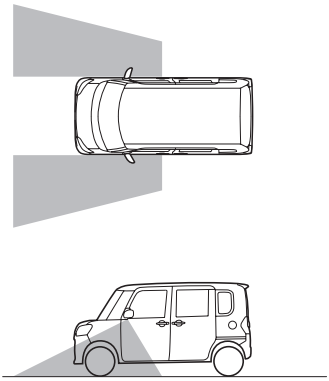
■ サイド ビュー

車両の側方（下図の範囲）が映ります。

▼ 映像

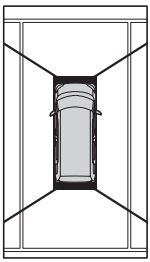


▼ 映る範囲



■ トップ ビュー

車両の周囲が下図のように映ります。



アドバイス

- トップ ビューは、フロント カメラ、サイド カメラ（左右）およびバック カメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗員人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマ モニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップ ビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマ モニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
  - 暗いところ（夜間など）
  - レンズ付近の温度が高い、または低いとき
  - カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
  - カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
  - 太陽やヘッド ランプの光が直接カメラのレンズに当たったとき

室内装備品

室内照明

⚠注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

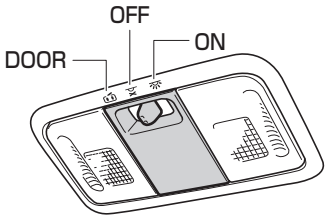
ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

▼ スイッチが“ON”のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼ スイッチが“OFF”のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

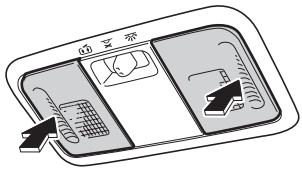
▼ スイッチが“DOOR”のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 319 ページ）



フロント パーソナル ランプ

運転席、助手席の手元を照らすときに使用します。

▼ 操作方法
フロント パーソナル ランプを押し込むと点灯します。
もう一度押し込むと消灯します。



ラゲージ ルーム ランプ

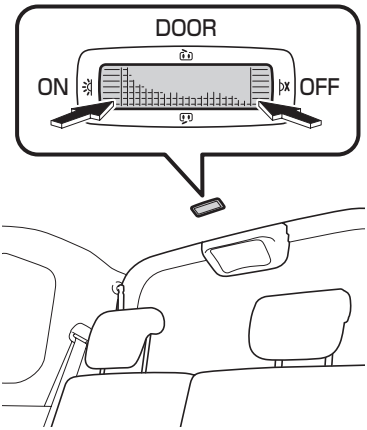
スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

▼ スイッチが“ON”のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼ スイッチが“OFF”のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 319 ページ）

ランプの状態	操作
(ON)	押し込む
(OFF)	押し込む
(DOOR)	中間位置



ドア連動機能

室内照明は、ドア操作、電源操作に連動して、点灯・消灯します。

- スイッチ付き室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。

アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ タイマー機能

- すべてのドアが閉まっているとき、電源の操作により照明が点灯・消灯します。

電源	室内照明
ON	消灯
ACC または OFF	約15秒間点灯後に消灯

アドバイス

- **電源の操作による室内照明のタイマー機能を停止することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。**

- 電源が“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席ドア ロック	室内照明
施錠	消灯(点灯中は減光後に)
解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
いずれか開	点灯
全閉	約15秒後に消灯

■ バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

▼ ドア連動機能による点灯時

- 電源が“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
  - すべてのドアを閉めて、再度開ける
  - 電源を“ON”にする

▼ 室内照明のスイッチが“ON”のとき

電源が“OFF”で、室内照明のスイッチが“ON”のまま約 12 分経過すると、自動的に消灯します。

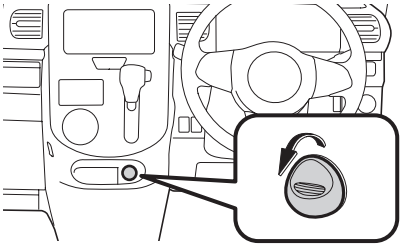
- 下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
  - キーレス エントリーによる施錠・解錠
  - キー フリー システムによる施錠・解錠
  - ドアの開閉
  - 電源を“ACC”、または“ON”にする

アクセサリー ソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

▼ 使用方法

カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。



⚠注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- アクセサリー ソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止した状態で使用しないでください。
- エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

アドバイス

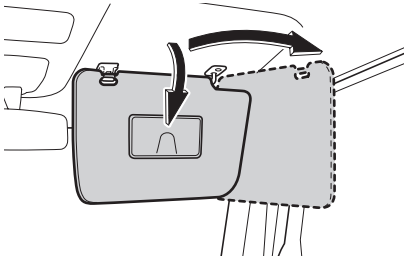
- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
  （eco IDLE（エコ アイドル）→ 274 ページ）
- 故障を防ぐため、電化製品はダイハツ純正用品をおすすめします。

サン バイザー

直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用するときは

図中の矢印の方向に動かします。

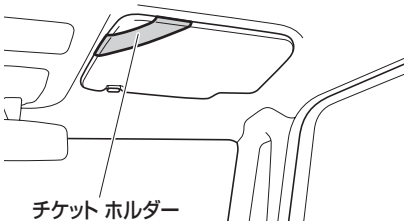


アドバイス

- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

チケット ホルダー

チケット類を収納することができます。



アドバイス

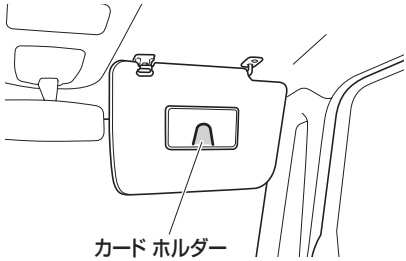
- チケット ホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

カード ホルダー

カード類を収納することができます。

アドバイス

- カード ホルダーにカード類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。



バニティー ミラー

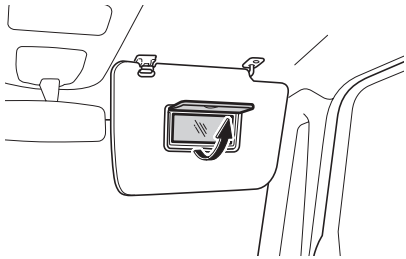
鏡として使用できます。

⚠注意

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 使用方法

カバーを矢印の方向に開けます。

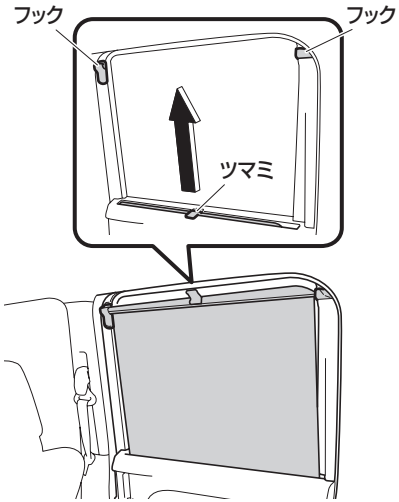


格納式リヤ ドア サンシェード

後席の両側にあります。

▼ 使用方法

ツマミをしっかり持って上方向にゆっくり引き出し、フックに引っ掛けます。



▼ 格納するとき

ツマミをしっかり持ってフックから外し、ゆっくり下げて元の位置に格納します。

⚠注意

- 操作するときは、ツマミを最後までしっかり持って操作してください。
  途中で手を離すと、巻き戻ったサンシェードで手や指をはさむなど思わぬけがをするおそれがあります。
- サンシェードを上以外の方向に引っ張らないでください。破損の原因になります。

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキ ペダルやアクセル ペダルにものがはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセル ペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

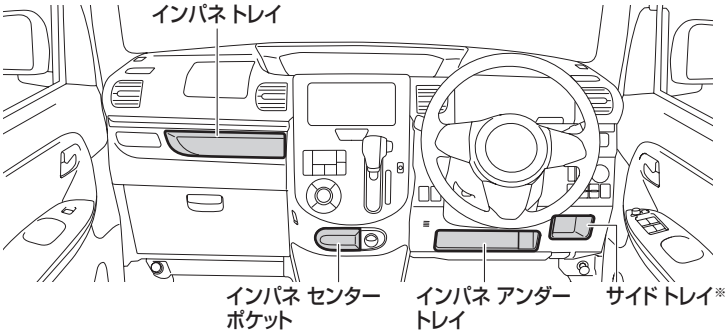
⚠注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。

インパネ トレイ、インパネ ポケット

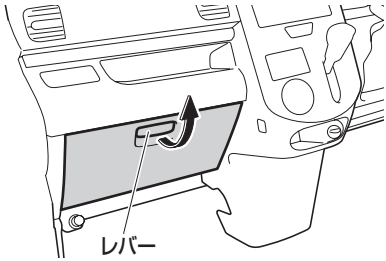


※ オプション/グレード別装備

グローブ ボックス

▼ 開閉方法

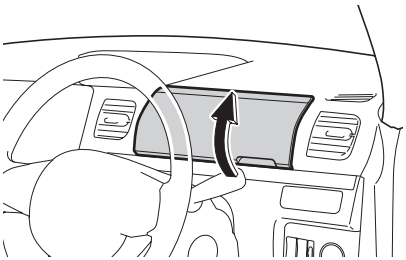
- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



インパネ アッパー ボックス

▼ 開閉方法

- フタを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



フロント センター アーム レスト ボックス

ウェルカム シート（福祉車）以外

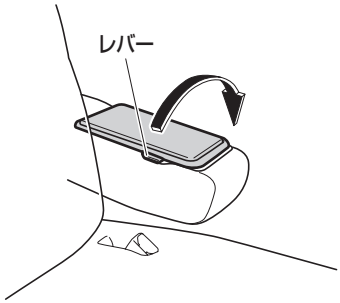
▼ 使用方法

- アーム レストを倒します。

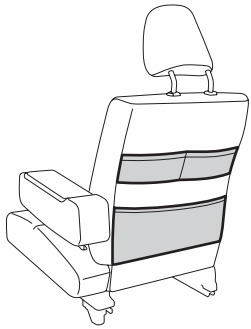
（アーム レスト→ 46 ページ）

▼ 開閉方法

- レバーを押して上に開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



運転席シートバック ポケット

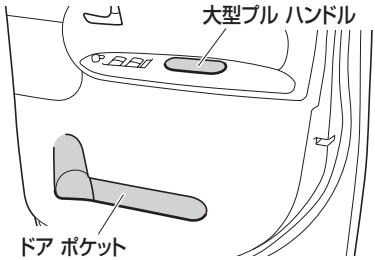


⚠注意

- シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

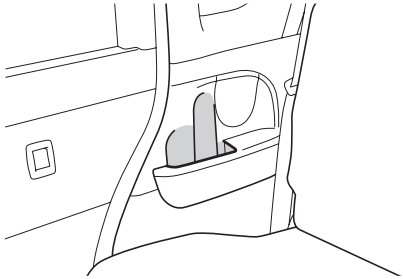
大型プル ハンドル、ドア ポケット

運転席ドア、助手席ドアにあります。



後席クォーター ポケット

リヤ シート左右にあります。



ラゲージ アンダー ボックス

スローパー（福祉車）以外

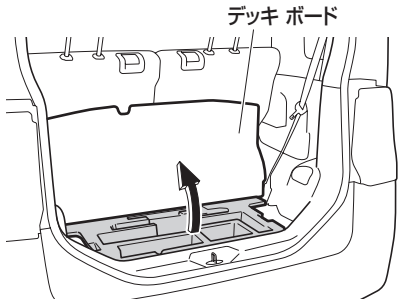
収納スペースとして利用できます。

- ジャッキ、工具などが格納されています。

（格納場所→ 348 ページ）

▼ 使用方法

デッキ ボードを持ち上げて使用します。



⚠注意

- ラゲージ ルームでの作業時は、リヤシートをスライドさせないでください。手を挟むなどけがをするおそれがあります。

ドリンク ホルダー

⚠注意

- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
  また、カップ ホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ペット ボトルは形状によって、しっかり固定されない場合があります。
  しっかり固定されないままで走行すると、振動でペット ボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

アドバイス

- ペット ボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

ワンプッシュ式オート オープン カップ ホルダー（前席）

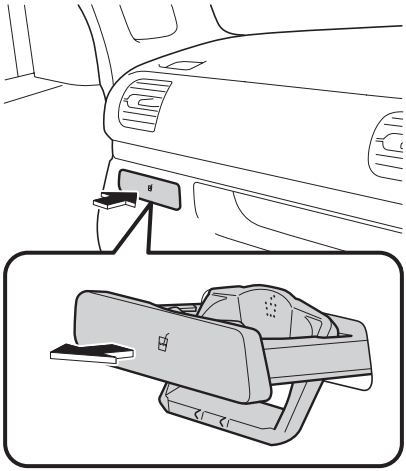
ペット ボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

⚠注意

- カップ ホルダーには、ペット ボトルやカップ、飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
- 下記のような異物が入ると、カップ ホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
  - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
  - タバコの灰
  - 芳香剤の液体
- 使用しないときは、カップ ホルダーを必ず格納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップ ホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。

▼ 使用方法

- 使用するときは、トレイを押すと開きます。
- 格納するときは、そのままトレイを押し込みます。

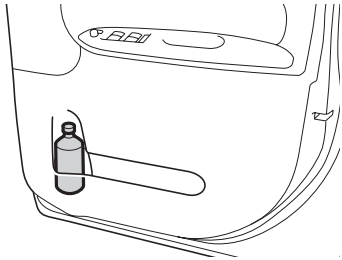


ボトル ホルダー

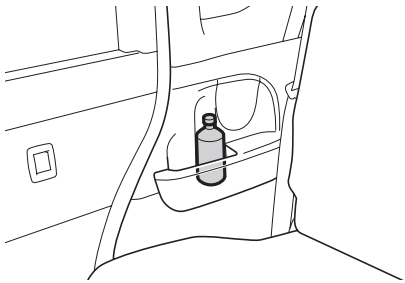
ペット ボトルなどを置くときに便利です。

- フロント ドア、リヤ シート左右にあります。

フロント



リヤ



アドバイス

- カップや飲料缶を置かないでください。
- 飲み物が入ったまま栓をしていないペット ボトルを置かないでください。
  ブレーキ時に、飲み物がこぼれるおそれがあります。

ショッピング フック

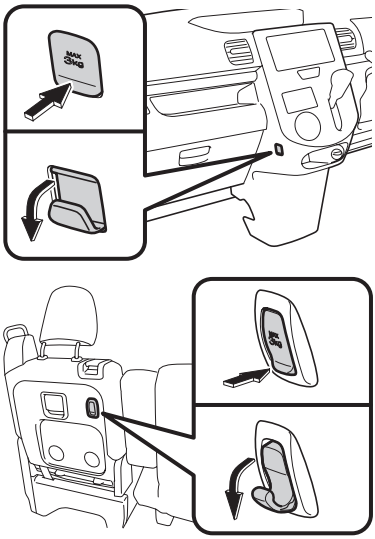
軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
インストルメント パネル中央（助手席側）・助手席シートバック*にあります。

⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をショッピング フックにかけないでください。
  （最大荷重量約 3kg）
  フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

▼ 使用方法

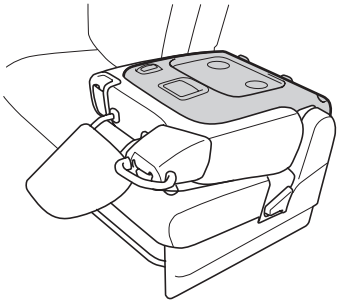
- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。



* ウェルカム シート（福祉車）の助手席シートバックには、装備していません。

助手席シート バック テーブル

（助手席背もたれの前倒し（シート バック テーブル）→ 43 ページ）



格納式アシスト グリップ

引き起こして使用します。

▼ 使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。

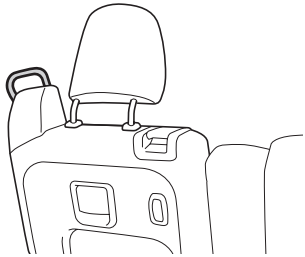
⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物を格納式アシスト グリップにかけないでください。格納式アシスト グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

乗降グリップ

ウェルカム シート（福祉車）以外

後席に乗り降りするときに使用します。



⚠注意

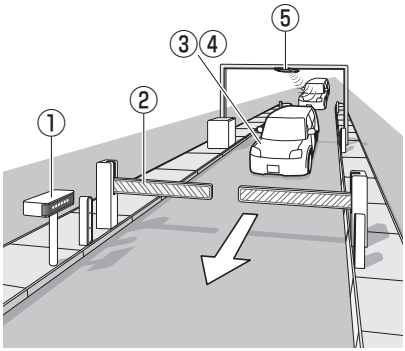
- 特に重たい物や、大きな物を乗降グリップにかけないでください。乗降グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

ETC

オプション/グレード別装備

ETCシステムについて

ETC（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両のETCユニットとの間で通信を行い、料金はお客さまが登録したETCカードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



①路側表示器
料金所のETCレーンに設置されています。進入車両に対し、メッセージが表示されます。

②発進制御装置（開閉バー）
料金所のETCレーンに必要に応じて設置されています。通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

③ETCユニット
車両に装着されています。ETCカードに格納されている、料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

④ETCカード
ETCユニットに装着します。ＩＣチップを搭載した、ETCユニット用カードのことです。このＩＣチップに料金精算に必要なデータが保持されています。

⑤路側無線装置
料金所のETCレーンに設置されています。料金精算のため、車両のETCユニットとの通信を行うためのアンテナです。

ETCを利用する前に

ETCシステムを利用する際には、次の点に注意してください。

⚠警告

- 安全のため、運転者は走行中にETCカードの抜き差し、およびETCユニットの操作を極力しないでください。
  走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

⚠注意

- ETCユニットを用いたサービス（スマートＩＣなど）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

ETCカードを挿入する前に

- ETCカードの有効期限切れにご注意ください。ETCカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちのETCカードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

ETCカードを挿入したあとは

- ETCを利用する際は、あらかじめETCカードが確実にETCユニットに挿入されていることと、ETCユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETCユニットがETCカードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前でのETCカード挿入は、エラーの原因となる場合があります。

⚠注意

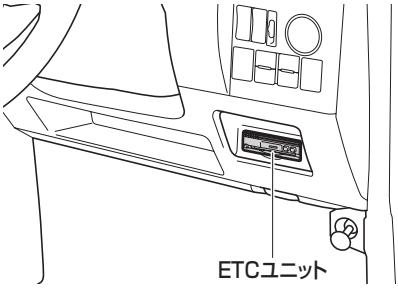
料金所を通過するときは

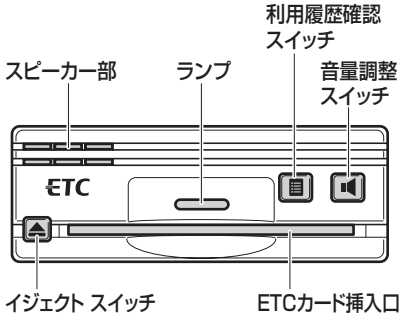
- 通行料金の請求を受ける料金所で、ETC車線が閉鎖されている場合は、係員のいる車線（一般車線または混在車線）でETCカードでの支払いが可能です。無理な車線変更は危険ですので、おやめください。
  （ETC車線の機器の点検等により、ETC車線を閉鎖している場合がありますのでご注意ください）
- ETCレーンの進入は、十分な車間距離と約 20km/h以下の安全な速度で進入してください。
- ETCレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。
- ETCレーンに設置されている開閉バーは、ETCユニットとアンテナの間の通信、あるいはETCユニットとETCカードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますので、ご注意ください。

ETCの使い方

■ ETCユニットについて

ETCユニットは、インストルメント パネル右下にあります。





⚠注意

- 車両 1 台に対して複数のETCユニットを取りつけると、開閉バーが開かない場合があります。
- 路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETCアンテナ（運転席側インストルメント パネル周辺）上方には、物を置かないでください。また、フロント ウインド ガラスの汚れや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。
- ETCユニットの内部に異物などを入れないでください。ETCユニットが故障するおそれがあります。
- ETCユニットに衝撃をあたえないでください。ETCユニットが故障や破損するおそれがあります。
- ぬれた手でETCユニットに触れたり、水（液体など）を付着させないでください。ETCユニット内部に水が入り、故障や破損するおそれがあります。
- 汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETCユニットが変形や故障する場合があります。

アドバイス

- はじめてETCシステムをご利用される前に、あらかじめETCユニットのセット アップ手続きが必要です。ダイハツ サービス工場にご相談ください。（セット アップ手続きには別途費用が発生します。）

製品に貼られているシールについて

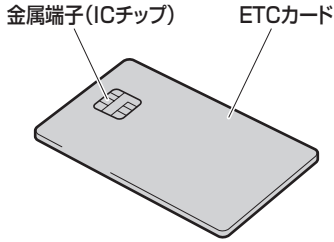
- 本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本製品を分解や改造をすると法律により、罰せられることがあります。

車のナンバー プレートを変更する場合

- 車のナンバー プレートが変更になった場合は、ETCユニットに変更手続きが必要となりますので、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ ETCカードについて

ETCカードの取得には、お客様ご自身による別途お申し込みが必要です。



⚠注意

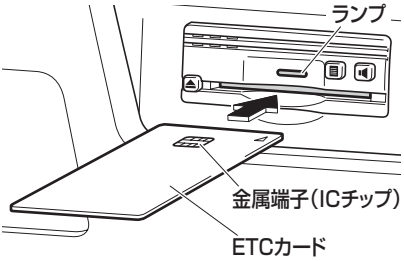
- ETCカードには、有効期限があります。有効期限内のETCカードをご利用ください。有効期限切れのETCカードでは、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETCカードの取り扱いについては、ETCカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- セロハン テープ・シールなどが貼られているETCカードや金属端子（ICチップ）が汚れているETCカードは使用しないでください。ETCユニットが正常に作動しなくなったり、ETCカードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

アドバイス

- ETCカードの盗難や紛失にはご注意ください。万一、盗難や紛失された場合は、ただちにETCカード発行会社に連絡してください。

■ 乗車時の操作

1. エンジンを始動します。
   - ETCカード未挿入の状態では、ETCユニットからブザー音が「ピーピーピー」と鳴り、「カードを入れてください」と音声案内され、ランプが橙色に点灯します。
2. 図のように正しい挿入方向でETCカードをETCユニットにしっかりと差し込みます。
   - ブザー音が「ピー」と鳴り、「カードを確認しました」、「有効期限〇年〇月です」と音声案内され、ランプが緑色に点灯します。



▼ ETCカードの有効期限が確認できないとき

ブザー音が「ピー」と鳴り、「カードを確認しました」、「有効期限確認できません」と音声案内され、ランプは緑色に点灯しますが料金所は通行できません。

▼ 正しく認証されなかった場合

- エラー コードが音声案内され、ランプが橙色に点滅します。

（統一エラー コード一覧
→ 343 ページ）

⚠注意

- 正規に発行されたETCカード以外は使用しないでください。
- 必ずETCカードに記載されている有効期限を確認してください。ETCカードの有効期限案内機能は、有効期限を確認するための補助手段として使用してください。
- ETCユニットやETCカードにエラーが発生した場合は、ランプが橙色に点滅します。状況に応じて、次のように対応してください。
  - 統一エラー コード（01～11）が音声案内された場合は、「統一エラー コード一覧」に記載されている処置にしたがってください。

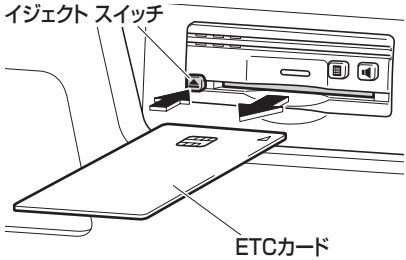
    （統一エラー コード一覧
    → 343 ページ）
  - エンジン始動時にエラーが発生した場合は、いったんエンジンを停止させ、再度始動してください。それでもエラーが続くときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  - ETCカード挿入時にエラーが発生した場合は、いったんETCカードを抜き、挿入方向を確認して再度差し込んでみてください。それでもエラーが続くときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 解約済みのETCカードをETCユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。
- ETCユニットからブザー音が「ピー」と鳴り、ランプが橙色に点滅し、「セット アップされていません」と音声案内された場合、ETCユニットのセット アップ手続きができていないため使用できません。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 降車時の操作

1. 停車させて、エンジンを停止する前に、ETCユニットのイジェクト スイッチを押します。



- ETCカードを抜く前にエンジンを停止すると、ブザー音が「ピー」と鳴り、「カードが残っています」と音声案内され、ランプが緑色に点灯したあと消灯します。

（カード抜き忘れ警告機能の設定変更 → 337 ページ）

2. ETCユニットからETCカードを抜きます。
3. エンジンを停止します。

⚠注意

- ETCカードを放置して車から離れないでください。
  - 車内の温度上昇により、ETCカードが変形したり、ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。
  - ETCカードが盗難にあうおそれがあります。

■ カード抜き忘れ警告機能

ETCカードを抜く前にエンジンを停止すると、ETCユニットからブザー音が「ピー」と鳴り、「カードが残っています」と音声案内されます。

- ランプは緑色に点灯したあと消灯します。

▼ カード抜き忘れ警告機能の設定変更

カード抜き忘れ警告機能を作動しないようにすることができます。

1. 車を停車させ、ETCユニットからETCカードを抜き取り、ランプが橙色に点灯している状態で利用履歴確認スイッチを押します。
2. 累積料金の音声案内のあと、約 2 秒以内に利用履歴確認スイッチを押すと現在の設定が音声案内されます。
3. 音声案内されたあと、約 2 秒以内に利用履歴確認スイッチを押すごとに“ON”と“OFF”が切り替わります。切り替えたあと、下記のように設定内容が音声案内されます。

カード抜き忘れ警告機能	ブザー音・音声案内
ON	ピー カード抜き忘れ案内ONです
OFF	ピー カード抜き忘れ案内OFFです

4. 音声案内が終わって約 2 秒以上経過すると設定完了になります。

アドバイス

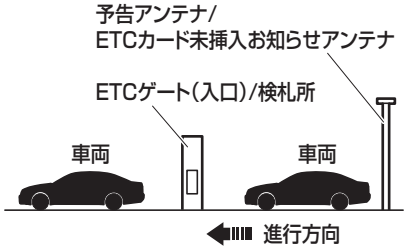
- ETCユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、「ピー」とブザー音が鳴ります。

■ 走行中の表示と音声案内について

走行中は、次のようにETCユニットのランプ表示と音声案内が行われます。ただし、安全のため運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。

▼ ETCゲート（入口）、検札所、予告アンテナ／ETCカード未挿入お知らせアンテナを通過したとき

通信が正常に行われると、ブザー音が「ピンポン」と鳴り、「ETC車線を通行できます」または「通行できます」と音声案内され、ランプは緑色に点灯したままです。



▼ ETCゲート（出口／精算用）を通過したとき

通信が正常に行われると、通行料金が音声案内されます。このとき、ランプは緑色に点灯したままです。

⚠注意

ETCゲートを通過するときは

- ETCゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ETCカードを抜かないでください。ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。
- 必ず、ETCゲート（入口）で使用したETCカードで、ETCゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
- ETCゲート進入時は、十分減速してください。
- ETCゲート通過時は、ETCゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。
- ETCゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。
- その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。
- ETCゲートで検札所の通信が正常に行われなかった場合は、ランプが橙色に点滅するとともに統一エラー コード（01～11）が音声案内されます。「統一エラー コード一覧」に記載されている処置にしたがってください。

（統一エラー コード一覧
→ 343 ページ）

通信が正常に行われない場合

- 料金所に設置されているインターフォンなどで異常があることを料金所係員に伝え、指示にしたがってください。

アドバイス

通行料金の音声案内について

- 音声で案内される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。

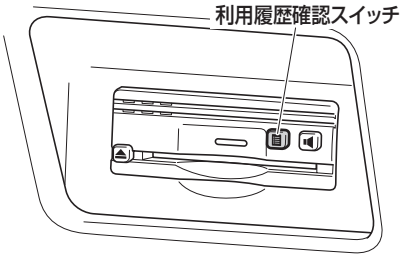
ETCゲートを通過するときは

- 道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1 つのETCゲートで 2 回通知されることがあります。
- 次のアンテナは、料金所の手前に設置され、ETCユニットと通信をすることで運転者にあらかじめ音声案内します。
  - 予告アンテナは、ETCゲートを利用できるかどうかを通知します。
  - ETCカード未挿入お知らせアンテナは、正しくETCカードが挿入されていない場合に通知します。
- 予告アンテナ・ETCカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と、設置されていない場合があります。
- ETC無線通信ができなかった際に、再度無線通信を行うためのリカバリーアンテナが設置されている料金所があります。対応方法については、料金所係員の指示にしたがってください。

■ 利用履歴の確認

ETCカード挿入時

- ETCユニットの利用履歴確認スイッチで、有料道路の利用日、および通行料金が音声で確認できます。



- ランプが緑色に点灯した状態で、停車中に利用履歴確認スイッチを押すと、最新の利用履歴が音声案内されます。
- 利用履歴確認スイッチを押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。なお、最も古い利用履歴の次は、「履歴はありません」と音声案内します。
- 利用履歴案内終了後、約 2 秒以上利用履歴確認スイッチを押さないと、次にスイッチを押したときは最新の利用履歴から案内されます。

⚠注意

- ETCゲート付近では、利用履歴の確認は行わないでください。路側無線装置との通信ができなくなるなど、ETCレーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

利用履歴について

- 利用履歴はETCカードに記録されるため、最大記録件数は使用するETCカードにより異なります。
- 利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「履歴はありません」と案内されます。

■ 累積料金の確認

ETCカード未挿入時

利用履歴確認スイッチを押すごとに、ETCユニットに記録されている現在までの累積料金を音声案内します。

- 利用履歴確認スイッチを約 3 秒以上押し続けると、ETCユニットに記録されている累積料金は消去され、「累積 0 円です」の音声案内をします。
- ETCユニットに記録できる最大累積料金の音声案内は、999,999 円以下です。
- 累積料金はETCシステムの無線通信を利用した場合のみ積算されます。

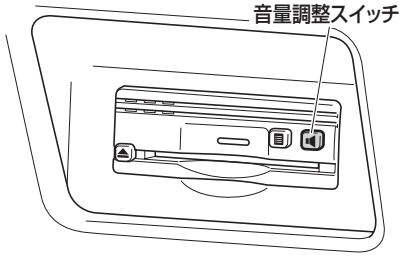
⚠注意

- ETCゲート付近では、累積料金の確認は行わないでください。路側無線装置との通信ができなくなるなど、ETCレーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 音量調整について

ETCユニットの音量調整スイッチで、音声案内の音量を 4 段階に調整することができます。

- 音量スイッチを押すごとに
  0 番→1 番→2 番→3 番の順に大きくなり、0 番（消音）に戻ります。



アドバイス

- 次の場合は、音声案内を中止（音量 0 番）に設定しても、音量 2 番で案内されます。
  - 未セット アップ状態のとき
  - エラーが発生したとき
  - ETCカードを抜き忘れたとき
  - ETCセット アップ情報を読み出すとき

ETCユニットでセット アップ情報を確認する

ETCユニットでのセット アップ情報を音声で確認できます。

1. ETCカードを挿入します。
2. 電源を“ON”または“ACC”にします。
3. 音量調整スイッチと利用履歴確認スイッチを同時に約３秒押します。
4. ブザー音が「ピンポン」と鳴り、セット アップ情報通知モードが起動します。
   - セット アップ情報通知モードに入ると、利用履歴確認スイッチを押すと、型式登録番号、型式、車載器管理番号の順に通知します。
   - セット アップ情報通知モード起動後は、以下の操作を行うことにより、モード状態を解除して、ETCユニットは通常の作動になります。
     - 電源を“OFF”にする
     - 音量調整スイッチと利用履歴確認スイッチを同時に約３秒押す
     - ETCユニットから、ETCカードを取り出す

アドバイス

車載器管理番号について

- **車載器管理番号は、19 桁の固有の番号でETCの各種割引サービスを受ける場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。**

ETCの作動状態について

■ ランプと音声案内一覧

ランプの点灯状態、ブザー音、音声案内でETCの作動状態を確認できます。

ETCユニットの作動状態	ランプ点灯状態	ブザー音	音声案内
・ETCカードが未挿入で、電源を“ON”にしたとき	橙：点灯	ピーピーピー	カードを入れてください
・ETCカードが正しく認証されたとき ・ETCゲートで正常に通信できたとき	緑：点灯	ピー	カードを確認しました 有効期限○年○月です
・ETCカードの有効期限が判定できないとき	緑：点灯	ピー	カードを確認しました 有効期限確認できません
・ETCカードを抜く前にエンジンを停止したとき	ー	ピー	カードが残っています*
・ETCゲート（入口）を通過したとき	緑：点灯	ピンポン	通行できます
・ETCゲート（出口/精算用）を通過したとき	緑：点灯	ー	通行料金を通知

*カード抜き忘れ警告機能の設定が“ON”のとき音声案内されます。

■ 統一エラー コード一覧

エラーが発生すると、ランプが橙色に点滅するとともに統一エラー コードが音声案内されます。この場合は、以下の処置にしたがってください。

エラーコード 音声案内	ブザー音	想定される要因	処置
コード01 カードを確認してください	ピー	・ETCカードが通信時に挿入されていない ・ETCカードの挿入状態が悪い	ETCカードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
コード02 カードを確認してください	ピーピーピー	・ETCカードへの読出し、書込みエラー ・ETCカードとユニットの接点不良(ETCカードアクセス中の瞬断) ・書込み中カードのイジェクト ・ETCカード以外のICカードが挿入されている	[ETCカード挿入時] 再度挿入してください。 それでも異常のときは、ダイハツ サービス工場へお問い合わせください。 [ETCゲート通過前] 料金所にて車両の停止が案内(表示)されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 [ETCゲート通過後] 次の料金所にて車両の停止が案内(表示)されることがあります。 料金所係員のいる一般レーン(ETC/一般共用レーンを含む)へ進入してください。
コード03 カードを確認してください (ピーポーピーポー ETCを利用できません カードを確認してください)	ピー (ピーポー ピーポー)	・ETCカードが故障している ・ETCカード以外のカードが挿入され、通信しない ・ETCカードの誤挿入(裏面、挿入方向違い)	正しいETCカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 それでも異常のときは、ダイハツ サービス工場へお問い合わせください。
コード04 ETCを利用できません	ピー	・自己診断結果により、ユニットが故障している	再度エンジンを始動してください。 それでも異常のときは、ダイハツ サービス工場へお問い合わせください。

エラーコード 音声案内	ブザー音	想定される要因	処置
コード05 カードを確認してください (ETCを利用できません カードを確認してください)	ピー (ピーポー ピーポー)	・ETCカードとの認証エラー ・認証中ETCカードのイジェクト ・未セットアップ状態でのETCカードの挿入 ・セットアップに失敗 ・ETCカード以外のICカードを挿入	カードが入っていない状態で橙ランプが消灯し、セットアップが正常に終了していることを確認してください。 正しいETCカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 それでも異常のときは、ダイハツ サービス工場へお問い合わせください。
コード06 ETCを利用できません セットアップされていません	ピーピーピー	・未セットアップ状態でのETCカードの挿入	ダイハツ サービス工場へお問い合わせください。
コード06 ETCを利用できません	ピーピーピー	・路側無線装置との認証エラー	料金所係員の指示にしたがってください。
コード07	ピーピーピー	・路側無線装置との通信が途中で終了	料金所係員の指示にしたがってください。
コード11 カードを確認してください	ピーピーピー	・ETCカードの書込異常	料金所にて車両の停止が案内(表示)されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。

アドバイス

統一エラー コードについて

- ETCカード未挿入お知らせアンテナ等と通信したときに、「エラー07」と通知されることがありますが、ETCユニットの故障ではありません。
- 有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、「エラー01」もしくは「エラー07」と通知されることがありますが、ETCユニットの故障ではありません。
- ETCユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラー コードが「エラー01」もしくは「エラー07」と通知されることがありますが、ETCユニットの故障ではありません。
- ETCゲート通過後にエラーが発生した場合、ETCカードを抜くとエラー音が停止します。この場合、再度ETCカードを挿入するとブザー音が「ピー」と鳴り、「カードを確認しました」の音声案内され、ランプが緑色に点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内(表示)されることがあります。

MEMO

MEMO

いざというときに

車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所 ---------- 348
ジャッキの使いかた ---------- 350

■ いざというときの処置

エンジンがかからないとき ------- 354
スタック（立ち往生）したとき----- 354
故障したとき ---------- 355
けん引されるとき---------- 356
パンクしたとき ---------- 359
タイヤ パンク応急修理セット----- 360
バッテリーあがりの処置 --------- 368
オーバー ヒートの処置 ---------- 371
ヒューズの交換 ---------- 372
電球（バルブ）交換 ---------- 376
電子カード キーが
使用できないとき---------- 390
キーを閉じ込めたとき---------- 393
車両を緊急停止するには --------- 394
事故が起きたとき---------- 395

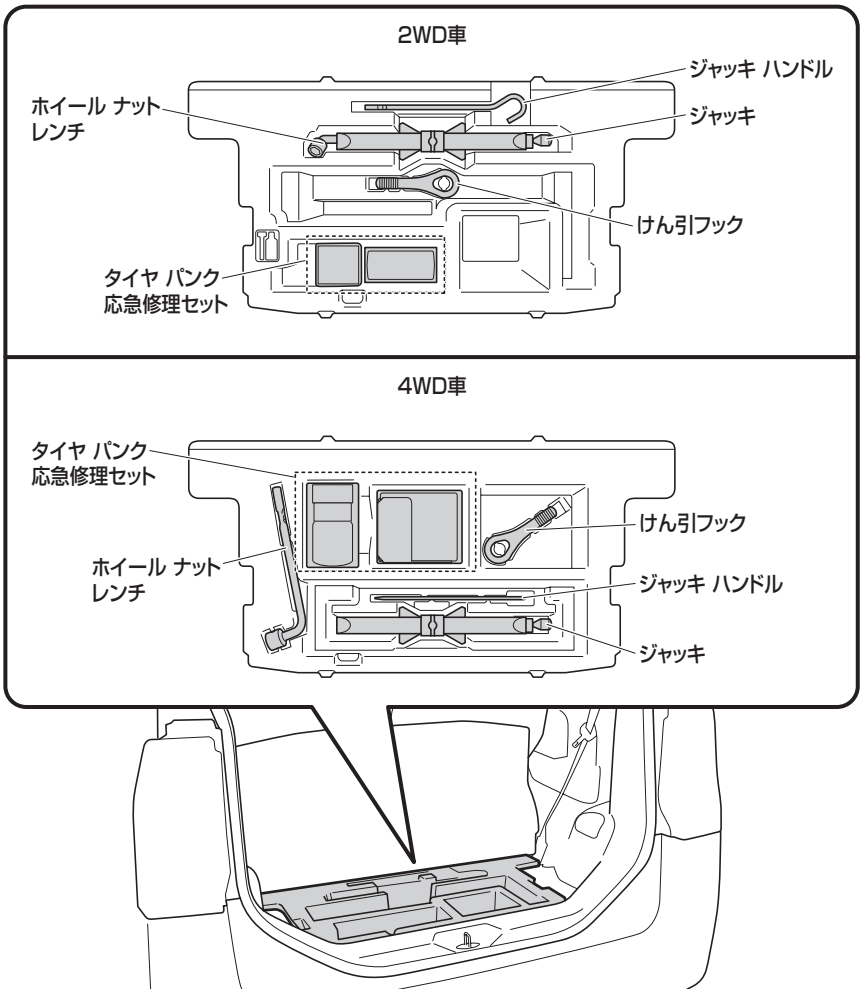
工具類

格納場所

スローパー（福祉車）以外

ジャッキ、工具、タイヤ パンク応急修理セットは、ラゲージ ルーム内のラゲージ アンダー ボックスに収納しています。

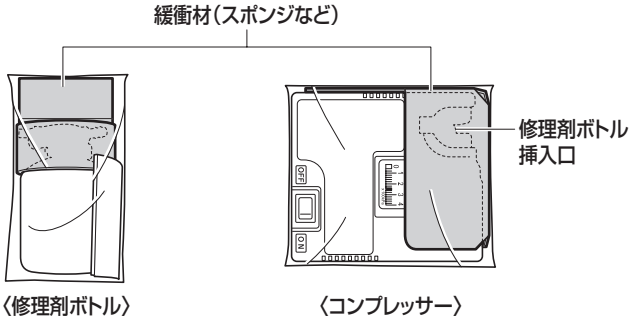
（ジャッキの使いかた→ 350 ページ）
（けん引されるとき→ 356 ページ）
（タイヤ パンク応急修理セット→ 360 ページ）



⚠注意

- ジャッキ、工具、タイヤ パンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

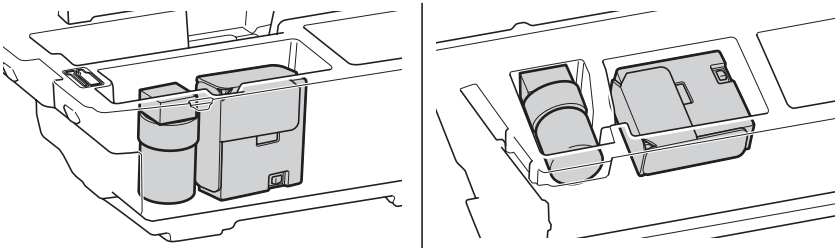
▼ タイヤ パンク修理セットについて
使用するときは、袋から出してください。



⚠注意

タイヤ パンク応急修理セットを取り出したときは

- 緩衝材（スポンジなど）が入っている場合は、元通りに取り付けて収納してください。
- 下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、ラゲージ アンダー ボックスに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。



ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤ パンク応急修理およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。

⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

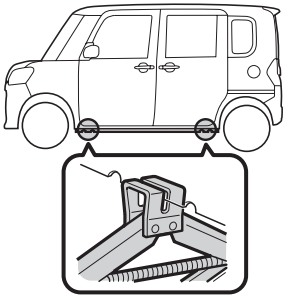
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

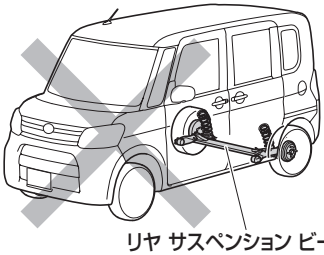
▼ セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置にセットします。



⚠注意

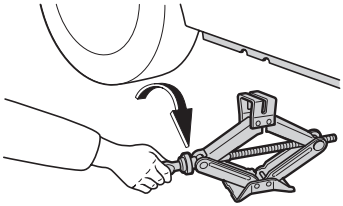
- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。



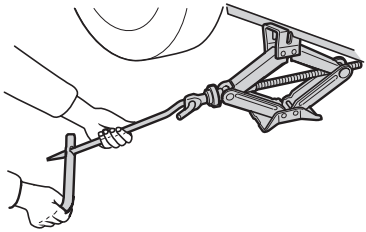
ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置まで上げます。

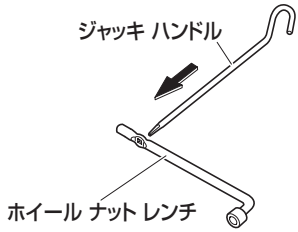


2. ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。



アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。



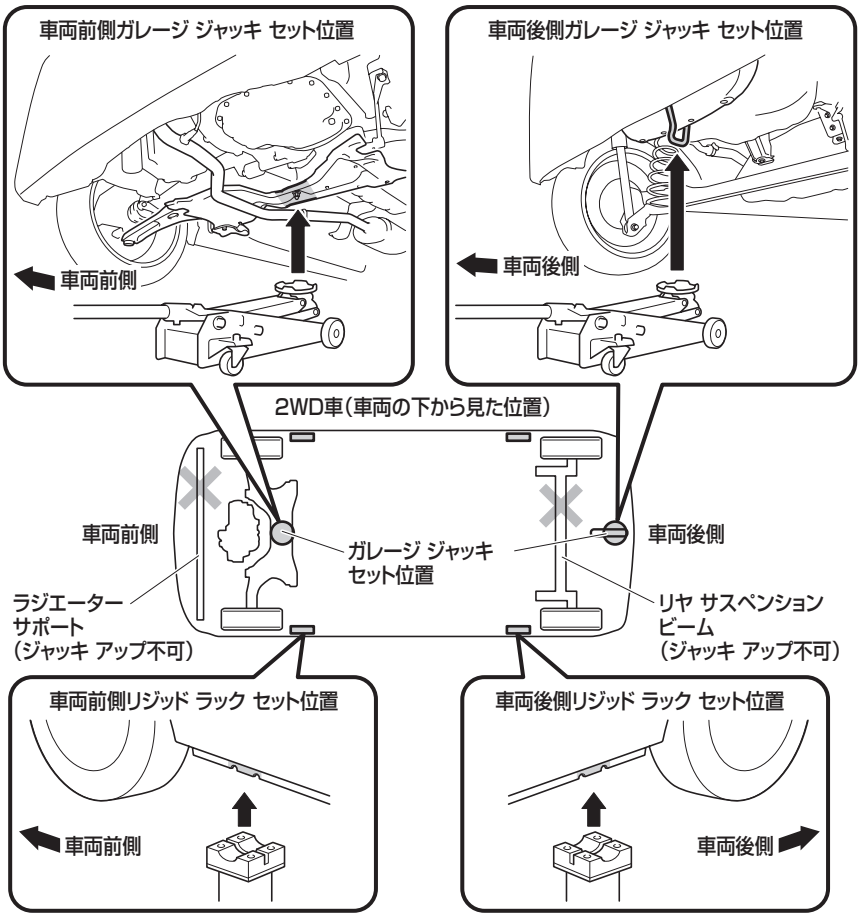
ガレージ ジャッキ（市販品）を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック（市販品）をリジッド ラック セット位置にセットしてください。

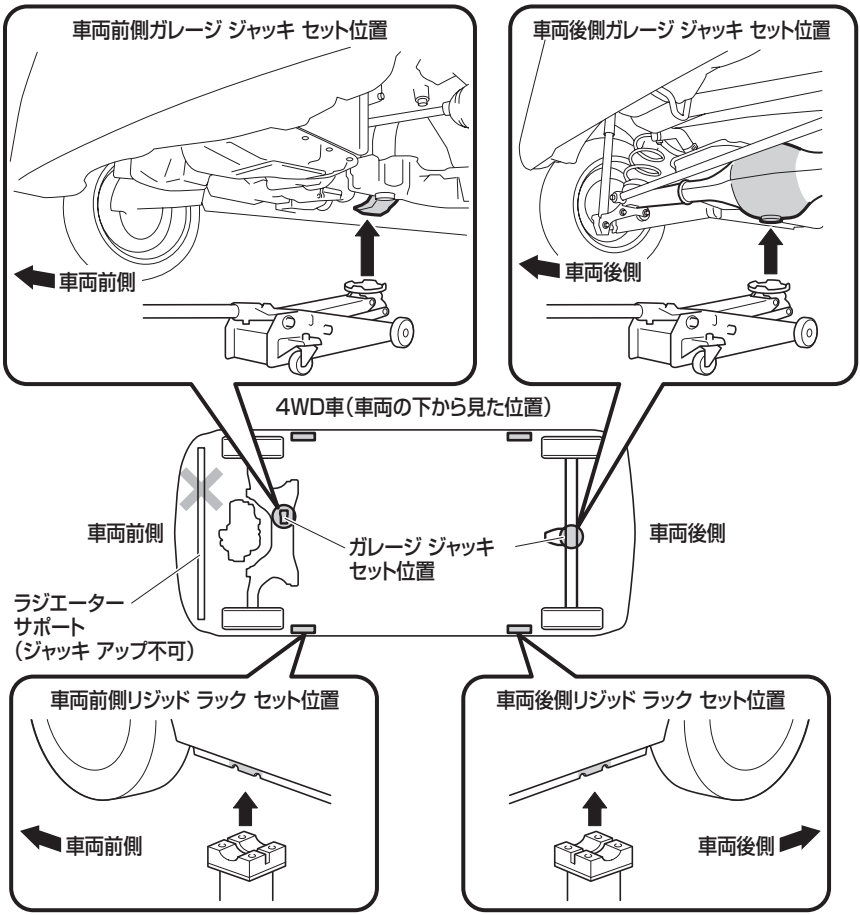
⚠注意

- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしてないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

2WD車（スローパー（福祉車）以外）



4WD車


車両前側ガレージ ジャッキ セット位置
車両前側
車両後側ガレージ ジャッキ セット位置
車両後側
4WD車（車両の下から見た位置）
車両前側
ガレージ ジャッキ
セット位置
車両後側
ラジエーター
サポート
（ジャッキ アップ不可）
車両前側リジッド ラック セット位置
車両前側
車両後側リジッド ラック セット位置
車両後側

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際には電源を“OFF”または “ACC”に戻してから行ってください。

⚠警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのダイハツサービス工場にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
  （けん引されるとき→ 356 ページ）

アドバイス

- TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCを停止してください。
  （VSC&TRC OFFスイッチ→ 96 ページ）

▼ 脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。
4. エンジンを始動します。
5. シフト レバーをⒹ、またはⓇレンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠注意

- 車を押す場合、シフト レバーはⓃレンジに入れてください。

アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

■ 踏切内の場合

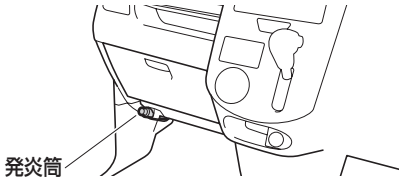
踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブ ボックス左下に設置されています。



⚠注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、ダイハツ サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

（別冊の「メンテナンス ノート」巻末のダイハツ サービス網、JAFロード サービスを参考にしてください。）

⚠警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
  前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼ けん引を行う前に

⚠注意

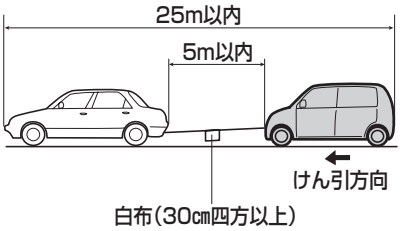
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、ダイハツ サービス工場にご確認ください。
  駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにダイハツ サービス工場にご連絡ください。
  - エンジンはかかるが車が動かない
  - 異常な音がする
- ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h以下、けん引距離は 50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュ ボタン スタート スイッチが故障したときは、ハンドル ロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。

⚠注意

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - 電源はハンドル ロックを解除させるために“ON”にし、シフト レバーはⓃレンジにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキ ペダルを踏んでください。
  - 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。



ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。
けん引フックは、ラゲージ アンダー ボックスに格納しています。

（格納場所→ 348 ページ）

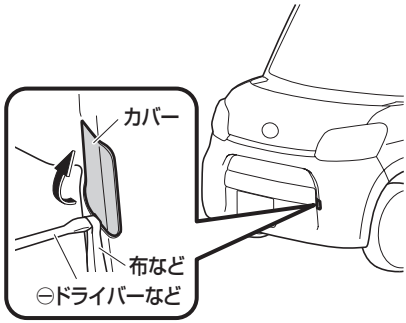
▼ けん引フックの取り付けかた

1. カバーを外します。

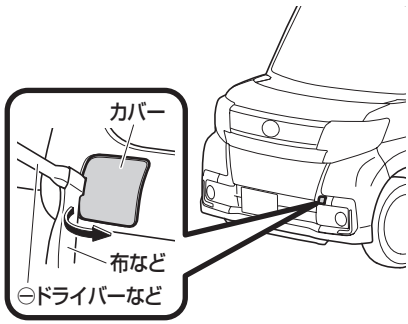
標準車

カスタム仕様車のLEDイルミネーション装着車

- カバーの切りかきに薄刃の⊖ドライバーなどを差し込み、カバーを外します。
  - ・傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻きつけてください。



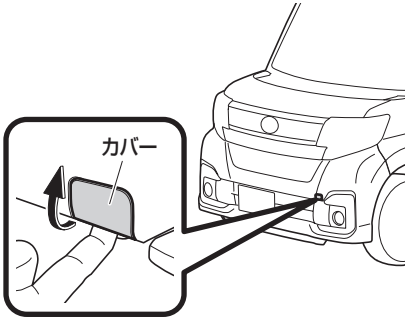
〈標準車〉



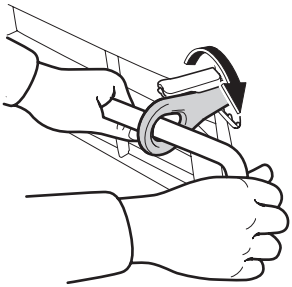
〈カスタム仕様車のLEDイルミネーション装着車〉

カスタム仕様車のLEDイルミネーション装着車以外

- カバーを図の方向に引いて外します。



2. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。



アドバイス

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

⚠警告

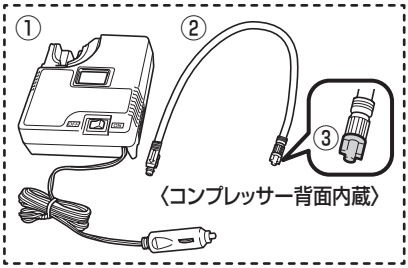
- 高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。
- パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

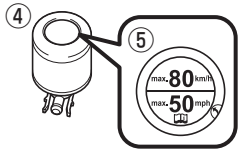
（タイヤ パンク応急修理セット
→ 360 ページ）

タイヤ パンク応急修理セット

タイヤ パンク応急修理セットは、コンプレッサーで空気とパンク穴をふさぐ修理剤を同時に充填して、軽度なパンクを応急修理することができます。

- タイヤ パンク応急修理セット装着車には、応急用スペア タイヤは装着されていません。
- タイヤ パンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはダイハツ サービス工場で、点検、修理を受けてください。





① コンプレッサー
② ホース
③ ホース栓
④ 修理剤ボトル
⑤ 速度制限シール
⑥ 早分かりシート

⚠注意

修理剤について

- 飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。
  それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 衣服などに付着した場合はすぐに拭き取ってください。衣服にしみこむと取れなくなるおそれがあります。

アドバイス

- タイヤ パンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
  （格納場所→ 348 ページ）

コンプレッサーについて

- パンク応急修理専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 40 分以上連続して使用しない
  - 降雨時など、水がかからないようにする
  - 砂ぼこりなどを吸い込ませない
  - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置する
  - 分解、改造などは絶対にしない
  - 強い衝撃や圧力を加えない

タイヤ パンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤ パンク応急修理セットの日常点検を実施してください。

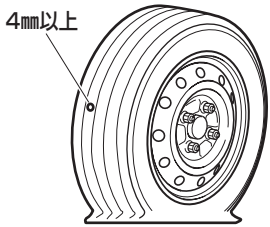
- 修理剤の有効期限の確認
- アクセサリー ソケット電源の確認
  （電化製品などを作動させて点検してください）
- コンプレッサー作動の確認
  （コンプレッサーの電源プラグをアクセサリー ソケットに差し込み、エンジンを始動します）

タイヤ パンク応急修理セットが使用できない状況

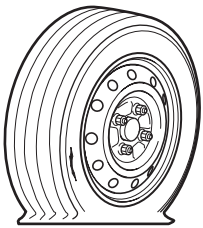
下記のような場合は、タイヤ パンク応急修理セットによる応急修理ができません。ダイハツ サービス工場またはJAF*などにご連絡ください。

- 修理剤の有効期限が切れている

- 約 4 ㎜以上の切り傷や刺し傷がある

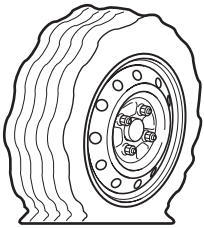


- タイヤ サイド部が損傷を受けている

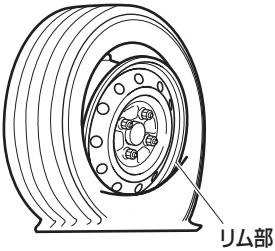


* 別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

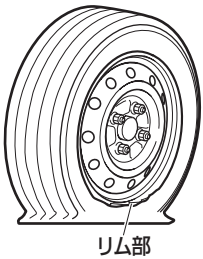
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した



- タイヤがリムの外側に完全に外れている



- リム部が破損している



- タイヤが 2 本以上パンクしている
  （修理剤はタイヤ 1 本分です）

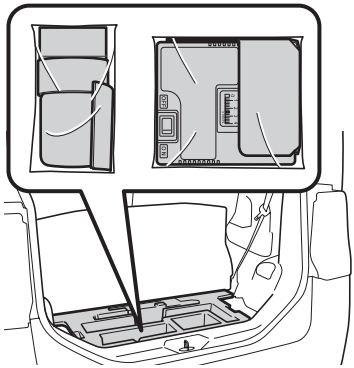
タイヤの応急修理方法

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤ パンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

アドバイス

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

▼ タイヤ パンク応急修理セットの格納場所



▼ 応急修理のしかた

⚠注意

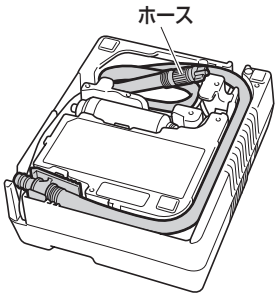
- **路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。**

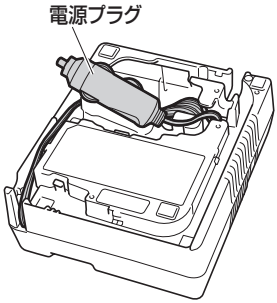
1. 修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出します。

⚠注意

- **緩衝材（スポンジなど）が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。**
  （交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていませんので再使用してください）

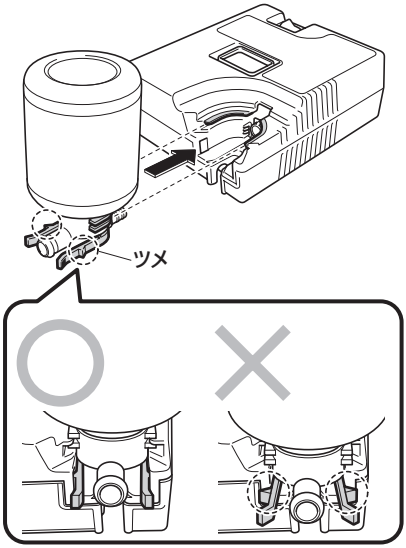
2. コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出します。





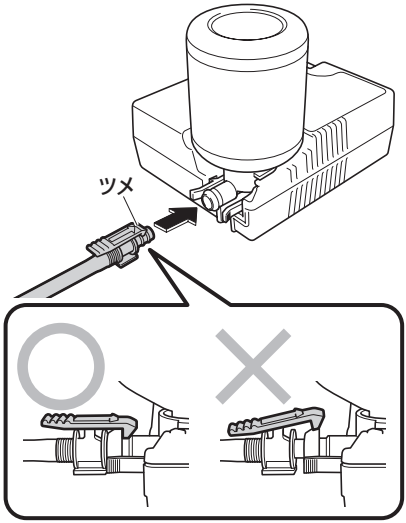
3. 修理剤ボトルをよく振ります。
- 修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

4. コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込んで固定します。
- ボトルのツメが固定されるまでしっかりと押し込んでください。



5. 修理剤ボトルにホースを差し込みます。

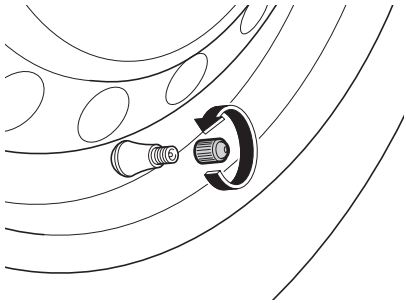
- ホースのツメが固定されるまでしっかりと差し込んでください。



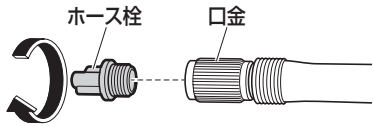
⚠注意

- **接続部が確実に固定されていることを確認してください。**

6. パンクしたタイヤのバルブ キャップを取り外します。

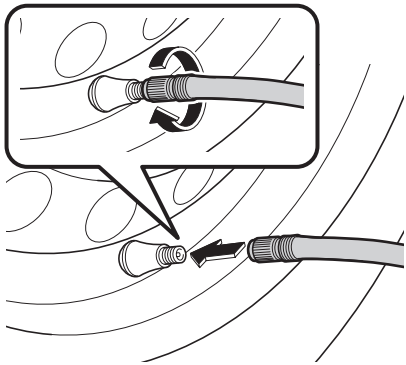


7. ホースの口金からホース栓を取り外します。

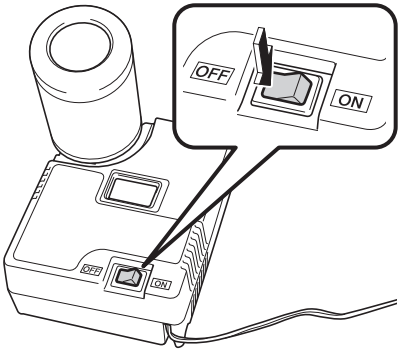


8. ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続します。

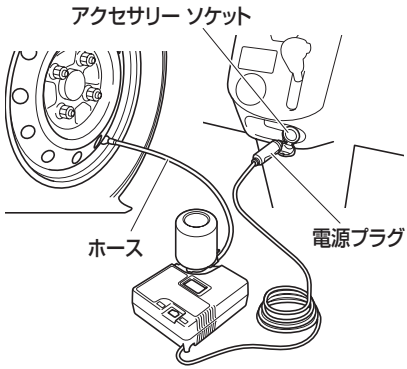
- ホースの口金を回して最後までしっかりとねじ込みます。



9. コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認します。



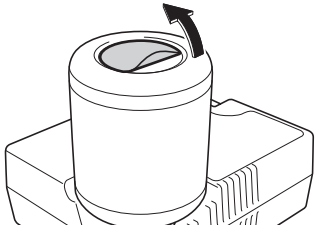
10. コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリー ソケットに差し込みます。



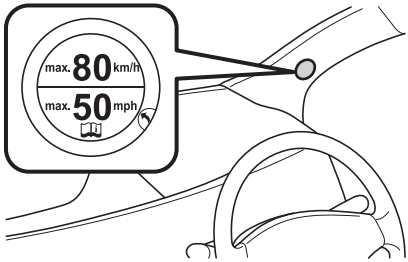
⚠注意

- 手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリー ソケットに差し込んでください。

11. 修理剤ボトルの速度制限シールをはがします。



12. 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。



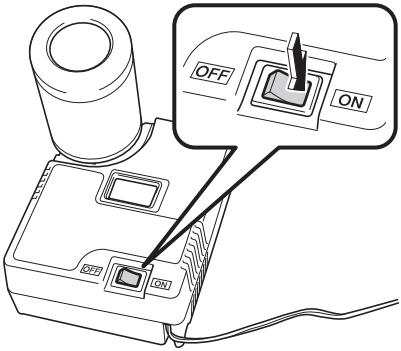
⚠警告

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  また、メーターやウインド ガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

13. タイヤの指定空気圧を確認します。
- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

14. エンジンを始動します。

15. コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填します。



⚠注意

- コンプレッサーは 40 分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

アドバイス

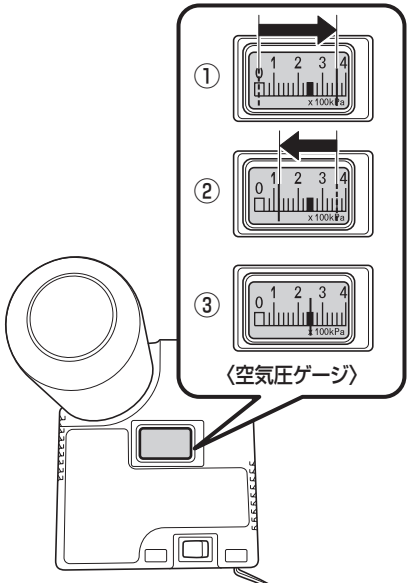
- 5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で 2 ～3 回以上回し、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。
（ジャッキの使いかた→ 350 ページ）

16. 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧します。

① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300～400kPaまで上がります。

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。

③ 指定空気圧になるまで昇圧します。



- 次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツ サービス工場、またはJAFなどにご連絡ください。
  - 修理剤が 5 分以内に充填できない
  - 25 分以内に指定空気圧まで上がらない

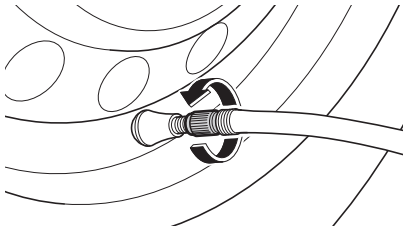
アドバイス

- **ダイハツ サービス工場、またはJAFロード サービスについては別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。**

17. 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にします。

▼ 空気を入れすぎてしまったときは

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠注意

- **タイヤの空気を抜くときに、充填した修理剤が飛散するおそれがあります。修理剤が目に入らないように注意してください。**

18. アクセサリー ソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外します。

アドバイス

- **ホースの口金を取り外すときに修理剤がもれることがあります。**

19. バルブ キャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付けます。

20. ホースの口金にホース栓を取り付けます。

⚠注意

- **コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。**

21. いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージ ルームに収納します。

22. 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始します。

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23. 約 5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、車両の電源を“OFF”にします。

24. タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認します。

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25. 指定空気圧であれば、パンク応急修理の完了です。

- 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、手順 6～23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▼ 空気圧が 130kPa 以下に低下していたら

- タイヤ パンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツ サービス工場、またはJAFなどにご連絡ください。

26. 異常がなければ、すみやかにダイハツ サービス工場まで走行します。

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

■ 応急修理後の処置

修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

- **修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤ パンク応急修理セットを使用したことを知らせてください。**
- **ホイールは、付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しい物と交換してください。**
- **修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。**

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- キー フリー システム装着車の電子カード キーでドアが解錠しない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やeco IDLEによるアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。

(eco IDLE専用バッテリー
→ 284 ページ)

- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLEによるアイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

(eco IDLE専用バッテリー
→ 284 ページ)

⚠注意

バッテリーあがりを防ぐために

- 次のことをお守りください。
  - エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
  - エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。

アドバイス

- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースター ケーブルを接続するとき、⊕端子と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

いざというときの処置

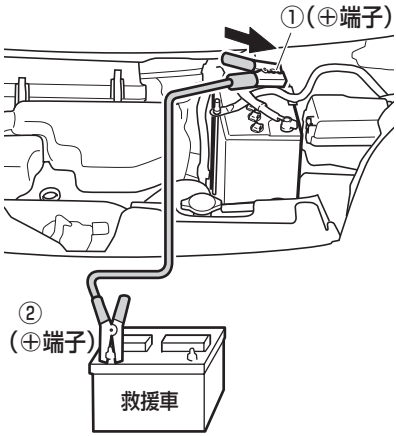
▼ 処置の手順

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- 1 本目のブースター ケーブル接続の際には、ケーブルを図の矢印の方向で⊕端子に接続してください。
  また、⊕端子をボデー金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

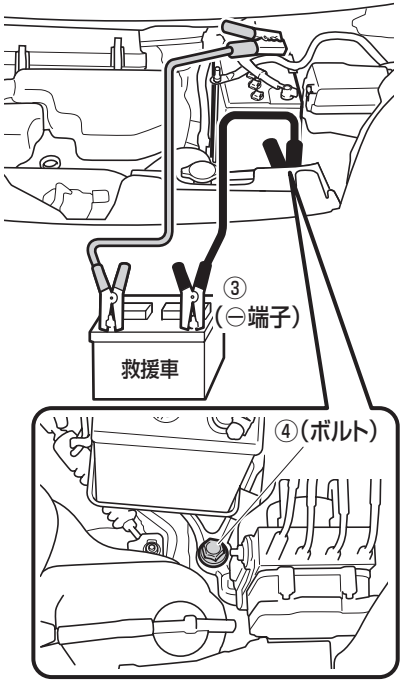
1. バッテリーの⊕端子のカバーを外します。
2. 1 本目のブースター ケーブルを①→②の順に接続します。

   ①バッテリーあがり車の⊕端子
   ②救援車の⊕端子



3. 2 本目のブースター ケーブルを③→④の順に接続します。

   ③救援車の⊖端子
   ④バッテリーあがり車の
   ミッション マウントのボルト
   （アースにつなぐ）



4. 救援車のエンジンを始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
5. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
6. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、ラジエーター キャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーター キャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。
3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてダイハツ サービス工場にご連絡ください。
   - 冷却ファンが回転していないとき
   - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
   - ラジエーター リザーバー タンクの水がないとき
   - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）

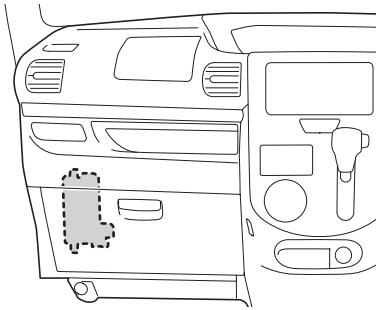
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはダイハツサービス工場にご相談ください。

ヒューズの位置

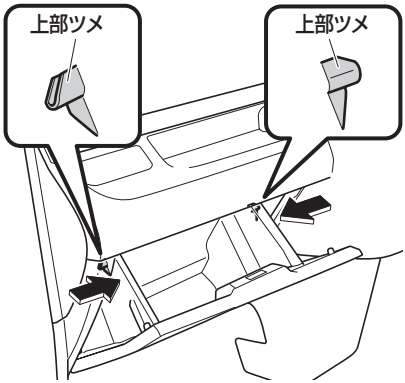
■ 助手席足元

グローブ ボックス奥に設置されています。

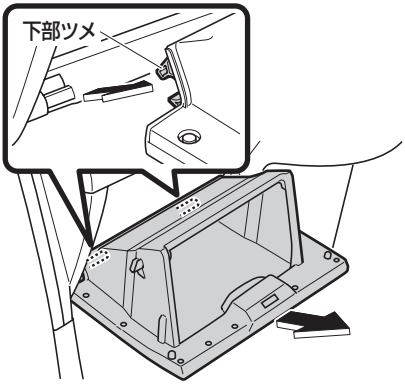


▼ グローブ ボックスの取り外しかた

1. 車両の電源を“OFF”にします。
2. グローブ ボックスを開けます。
3. グローブ ボックス側面を左→右の順で内側にたわませ、上部のツメを外します。

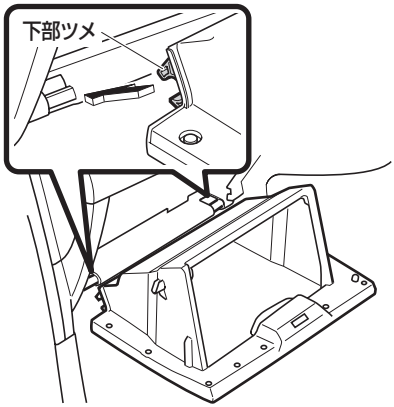


4. 図の矢印の方向へ引いて下部ツメを外し、グローブ ボックスを取り外します。

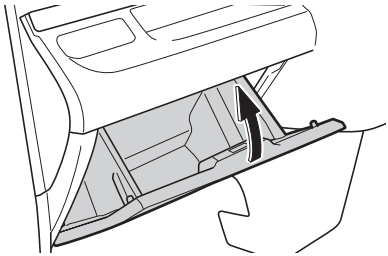


▼ グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスの下部ツメを取り付けます。



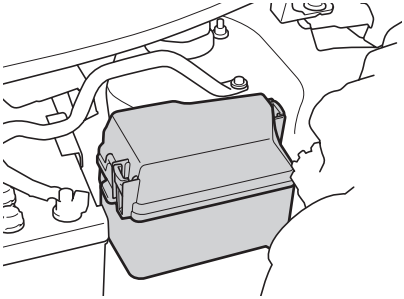
2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。



アドバイス

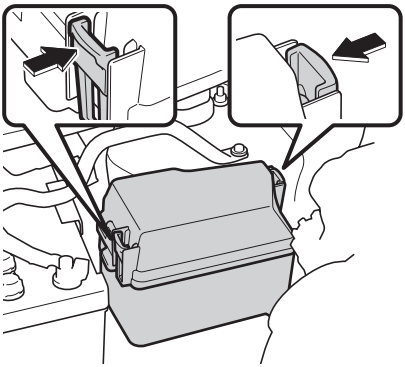
- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。

■ エンジン ルーム内



▼ カバーの取り外しかた

1. 電源を“OFF”にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを取り外します。



▼ カバーの取り付けかた

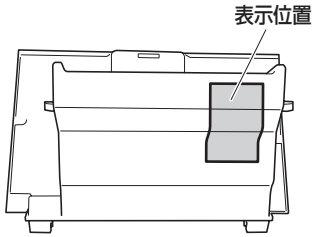
取り外すときと逆の手順で行います。

ヒューズの配置と負荷

各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

■ 助手席足元

グローブ ボックスの裏側に表示しています。



グローブ ボックス裏側

■ エンジン ルーム内

ヒューズ ボックス カバーの裏側に表示しています。

アドバイス

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。
  また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検と交換

⚠警告

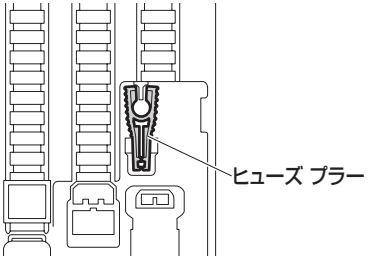
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

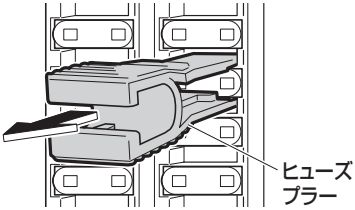
- 交換してもすぐに切れてしまうときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

▼ ヒューズの点検方法

1. 助手席足元のヒューズ ボックスから、ヒューズ プラーを取り出します。

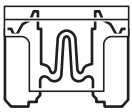


2. ヒューズをヒューズ プラーで挟んで外します。

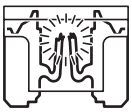


3. 取り外したヒューズを点検します。

- ヒューズが切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。
- ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。



（正常）



（切れているとき）

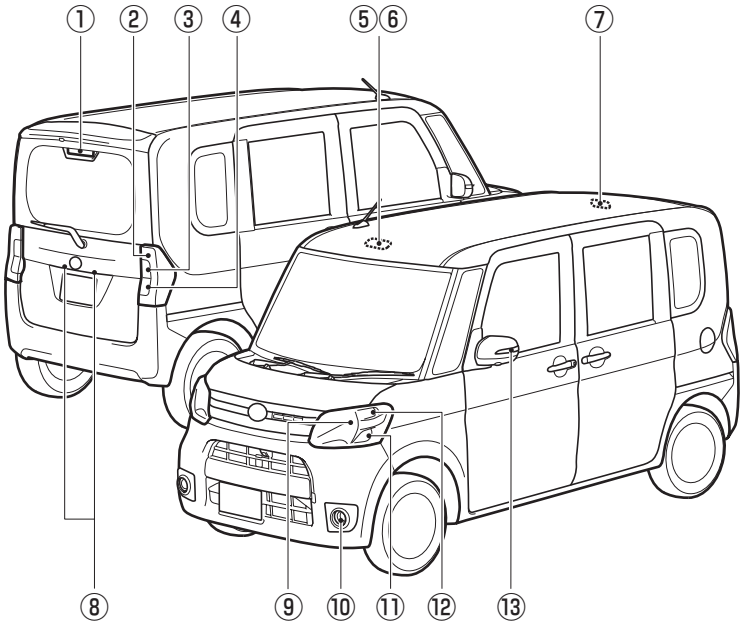
電球（バルブ）交換

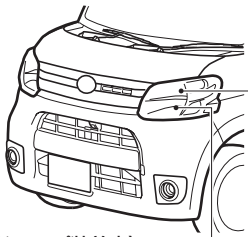
ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

標準車

グレードの違い、注文装備も記載しています。





〈LEDヘッド ランプ装着車〉

⑭ ⑮

電球(バルブ)		W(ワット)数
①	ハイマウント ストップ ランプ	LED
②	制動灯 兼 尾灯	LED
③	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
④	後退灯	16
⑤	ルーム ランプ	8
⑥	フロント パーソナル ランプ	5
⑦	ラゲージ ルーム ランプ	5
⑧	番号灯	5
⑨	前照灯(Hi / Low)(バルブ タイプ : H4)	60/55
⑩	フォグ ランプ(バルブ タイプ : H16)	19
⑪	前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
⑫	車幅灯	5
⑬	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯	LED
⑭	前照灯(Low)	LED
⑮	前照灯(Hi)(バルブ タイプ : HB3)	60

⚠注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

アドバイス

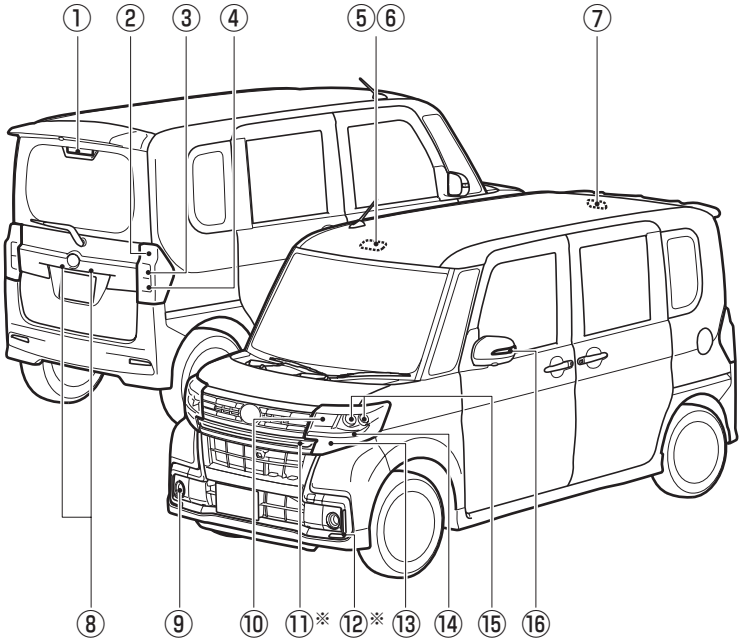
LEDランプについて

- LEDを使用しているランプは、LEDのみの交換をすることができません。点検・交換の際は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- ハイマウント ストップ ランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数のLEDで構成されています。もし、LEDが 1 つでも点灯しないときは、ダイハツ サービス工場で交換してください。

いざというときの処置

カスタム仕様車

グレードの違い、注文装備も記載しています。



※オプション/グレード別装備

電球(バルブ)		W(ワット)数
①	ハイマウント ストップ ランプ	LED
②	制動灯 兼 尾灯	LED
③	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
④	後退灯	16
⑤	ルーム ランプ	8
⑥	フロント パーソナル ランプ	5
⑦	ラゲージ ルーム ランプ	5
⑧	番号灯	5
⑨	フォグ ランプ	LED
⑩	前照灯(Hi)(バルブ タイプ : HB3)	60
⑪	フロント グリルLEDイルミネーション	LED
⑫	フロントLEDイルミネーション ランプ(オールデイ)	LED
⑬	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
⑭	車幅灯	LED
⑮	前照灯(Low)	LED
⑯	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯	LED

⚠注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

アドバイス

LEDランプについて

- LEDを使用しているランプは、LEDのみの交換をすることができません。点検・交換の際は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- ハイマウント ストップ ランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数のLEDで構成されています。もし、LEDが 1 つでも点灯しないときは、ダイハツ サービス工場で交換してください。

交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠注意

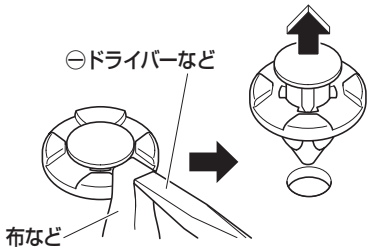
- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- 前照灯（フォグ ランプ含む）などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
  また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

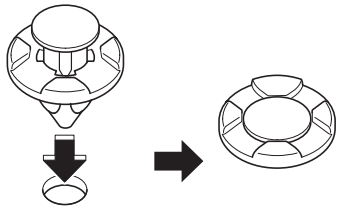
- ヘッド ランプやリヤ コンビネーション ランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

クリップの取り付け、取り外しについて

- クリップ タイプⒶ
  - 取り外すときは、⊖ドライバーなどで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。

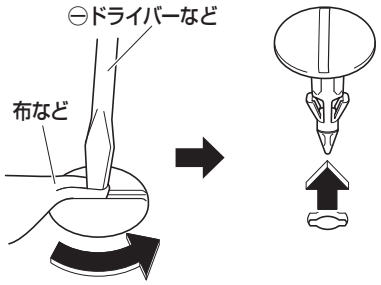


  - 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。

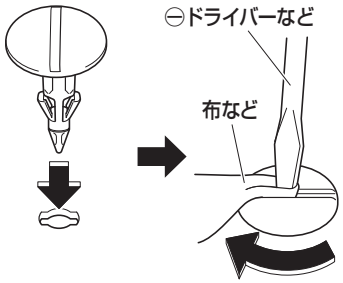


アドバイス

- クリップ タイプⒷ
  - 取り外すときは、⊖ドライバーなどで矢印の方向へ 90° 回して取り外します。



  - 取り付けるときは、差し込んでから⊖ドライバーなどで矢印の方向へ 90° 回して取り付けます。



■ 前照灯

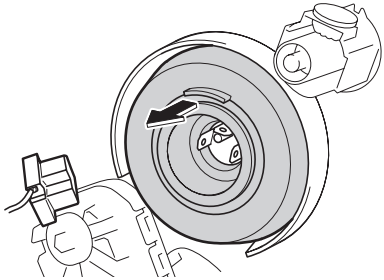
標準車のハロゲン ヘッド ランプ装着車

▼ 取り外し手順

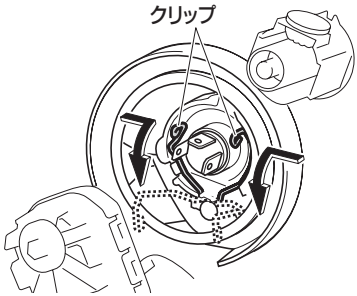
1. ボンネットを開けます。

（ボンネット→ 190 ページ）

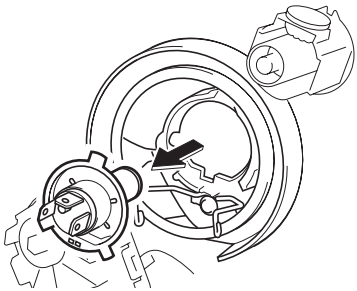
2. コネクターを取り外します。
3. ゴム カバーを取り外します。



4. クリップをフックから外します。
- 両側のクリップを矢印の方向に寄せながら手前に倒して外します。

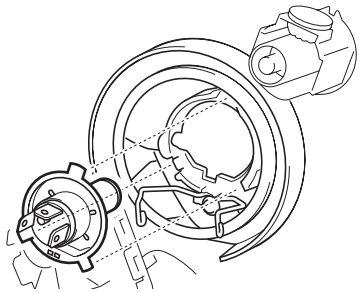


5. バルブを取り外します。



▼ 取り付け手順

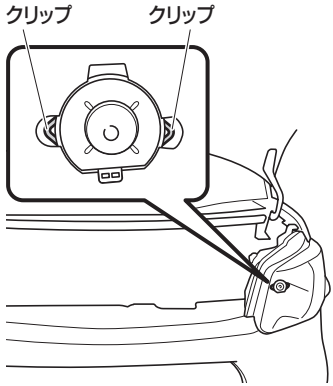
1. バルブを取り付けます。
- ヘッド ランプ本体の溝にバルブの突起部が合うように、はめ込みます。



2. バルブを確実に固定します。
- 両側のクリップを起こして中央方向にたわませ、フックに取り付けます。

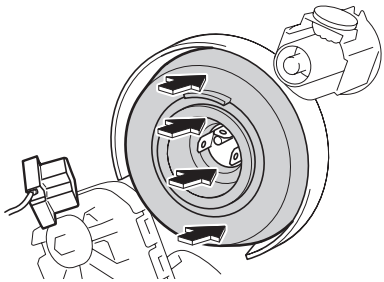
アドバイス

- **バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。確実に固定されている場合は、クリップが見えます。**



3. ゴム カバーを確実に取り付けます。
- ゴム カバーを矢印方向にしっかり押さえます。

4. コネクターを取り付けます。



■ 前照灯／ハイ ビーム

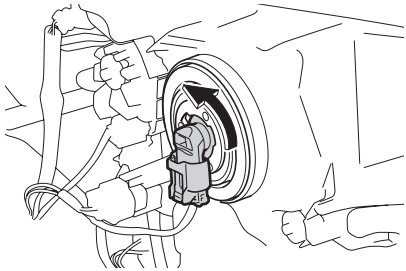
▼ 取り外し手順

1. ボンネットを開けます。

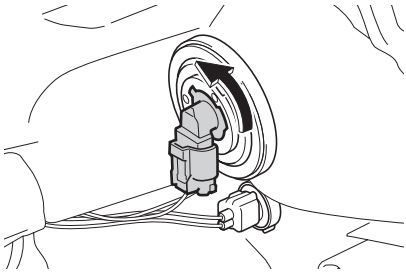
（ボンネット→ 190 ページ）

2. バルブを回して外します。

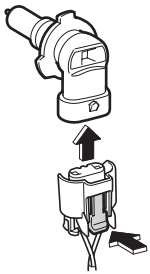
標準車のLEDヘッド ランプ装着車



カスタム仕様車



3. コネクターのツメを押して、コネクターからバルブを引き抜きます。



▼ 取り付け手順

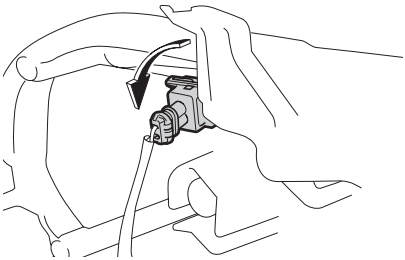
逆の手順で行います。

■ 車幅灯

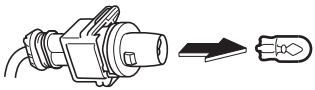
標準車

▼ 取り外し手順

1. ボンネットを開けます。
（ボンネット→ 190 ページ）
2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

カスタム仕様車

アドバイス

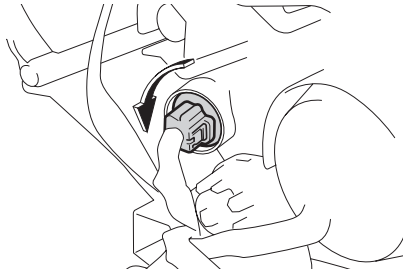
- LEDを使用しているため、電球のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

■ 前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

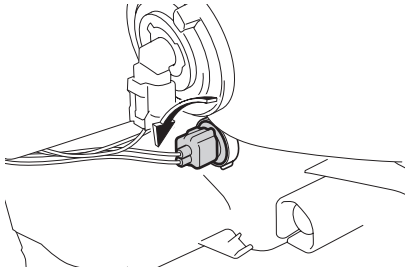
▼ 取り外し手順

1. ボンネットを開けます。
（ボンネット→ 190 ページ）
2. ソケットを回して取り外します。

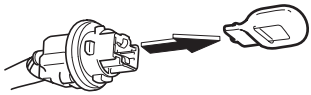
標準車



カスタム仕様車



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

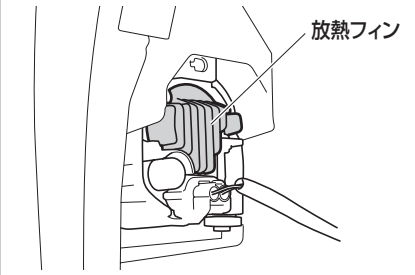
逆の手順で行います。

■ フォグ ランプ

⚠警告

LEDフォグ ランプ装着車について

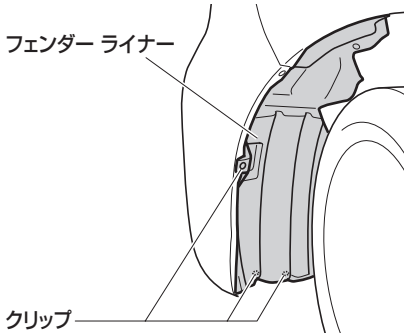
- フォグランプが点灯しているとき、および消灯した直後は、ランプの裏側の放熱フィンが高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあり危険です。
  フォグランプの点検・交換の際は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。



標準車のフォグ ランプ装着車

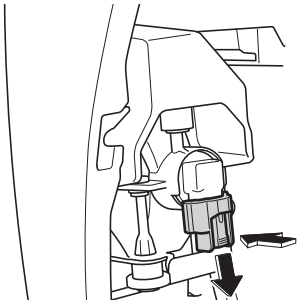
▼ 取り外し手順

1. ハンドルを
   右側の電球を交換する場合は左に、
   左側の電球を交換する場合は右に、
   いっぱいまで回します。
2. 交換する側のフェンダー ライナーのクリップ（3 個）を取り外します。



3. フェンダー ライナーとバンパーの間に手が入るくらい、フェンダー ライナーをめくります。

4. コネクターのツメを押して、コネクターを取り外します。



5. バルブを回して取り外します。

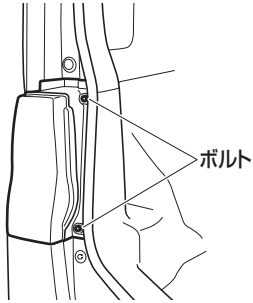
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

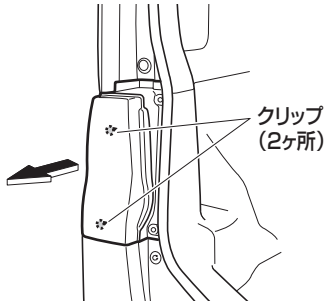
■ リヤ コンビ ランプ（後面方向指示灯 兼 非常点滅灯、後退灯）

▼ 取り外し手順

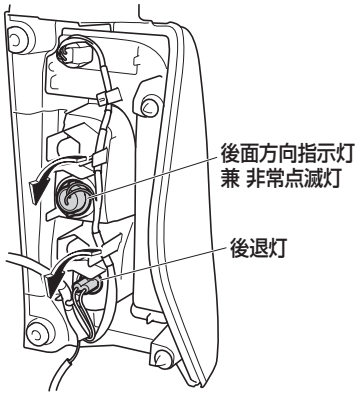
1. バック ドアを開けます。
2. ランプ本体のボルト（2 本）を取り外します。



3. ランプ本体を、車両後方に引いて取り外します。

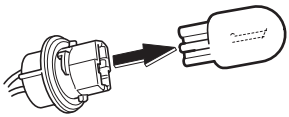


4. 交換する電球のソケットを回して取り外します。

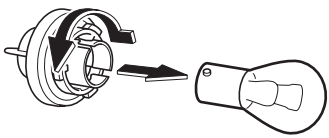


5. ソケットから電球を取り外します。

- 後退灯および標準車の後面方向指示灯 兼 非常点滅灯は、電球を引き抜きます。



- カスタム仕様車の後面方向指示灯 兼 非常点滅灯は、電球を押し回して外します。

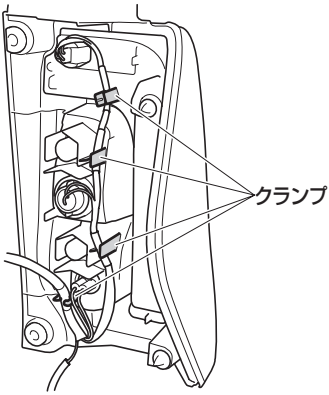


▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠注意

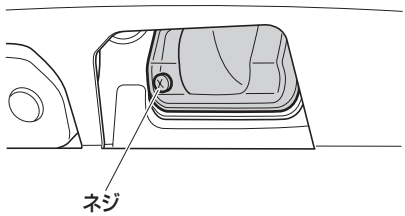
- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部を目印にしてクランプに取り付けてください。
  クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



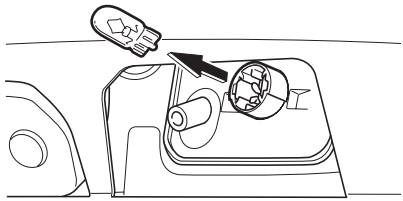
■ 番号灯

▼ 取り外し手順

1. ネジ（1 本）を取り外し、レンズを取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



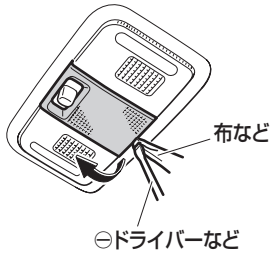
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

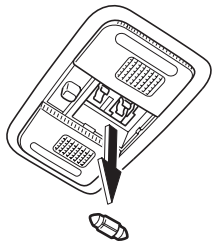
■ ルーム ランプ

▼ 取り外し手順

1. ⊖ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



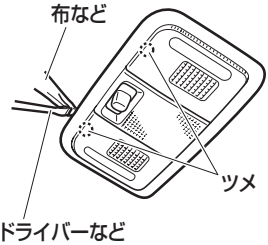
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

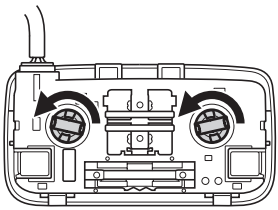
■ フロント パーソナル ランプ

▼ 取り外し手順

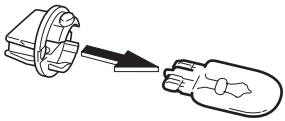
1. ⊖ドライバーなどを差し込み、ツメ（2 カ所）を外してランプ本体を取り外します。



2. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



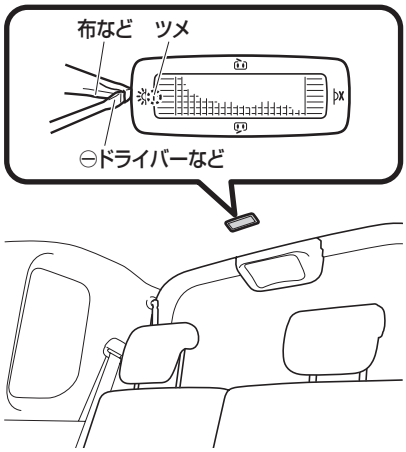
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

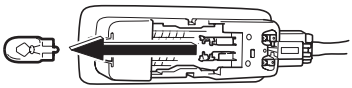
■ ラゲージ ルーム ランプ

▼ 取り外し手順

1. ⊖ドライバーなどを差し込み、ランプ本体を取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

電子カード キーが使用できないとき

キー フリー システム装着車

電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できない場合は、電子カード キー（エマージェンシー キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行うことができます。

⚠警告

- 電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できない場合でも、発信機は電波を発信していますので、植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近付かないようにしてください。

（発信機→ 148 ページ）

アドバイス

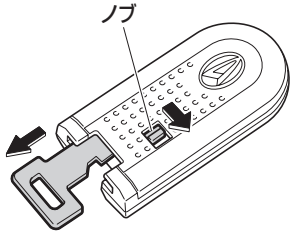
- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な処置です。電池が消耗したときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

（キーの電池交換→ 414 ページ）

エマージェンシー キーの取り出しかた

▼ 取り出しかた

電子カード キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、エマージェンシー キーを引いて取り出します。



アドバイス

- 使用後は、エマージェンシー キーを必ず電子カード キーに格納しておいてください。

ドアの施錠、解錠

▼ 操作を行う前に

アドバイス

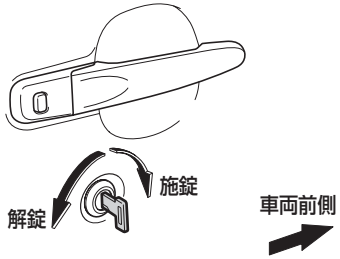
セキュリティ アラームがセットされている場合

- 電子カード キー以外でドアを解錠してドアを開けると、セキュリティ アラームの警報が作動します。
  警報が作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1～3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。
  （セキュリティ アラーム → 158 ページ）

（エンジンのかけかた→ 392 ページ）

▼ 操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。



アドバイス

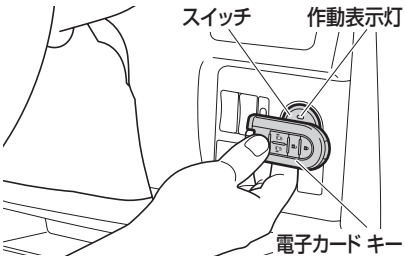
- キーは挿入口に確実に差し込んでください。
- キー挿入口は助手席側ドアには設定していません。

エンジンのかけかた

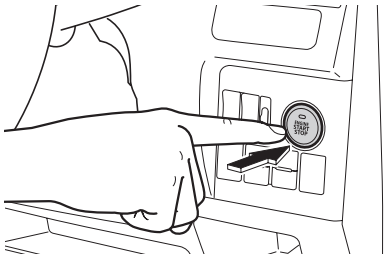
▼ 操作方法

1. シフト レバーがⓅレンジにあるのを確認し、ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを図のようにプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させます。

● 電子カード キーの中心をスイッチの中心に接触させます。



3. キーが認識されて、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
4. 作動表示灯が点灯している間にスイッチを押すと、エンジンが始動します。



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフト レバーをⓅレンジに入れてスイッチを押します。

（エンジンの停止→ 255 ページ）

▼ 電源の切り替え方法

電子カード キーをスイッチに接触させたまま、スイッチを押します。
スイッチを押すごとに
「OFF→ACC→ON→OFF」の順に電源が切り替わります。

アドバイス

● 下記の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動はできません。もう一度はじめからやり直してください。
- キーの認識後、作動表示灯が消灯した
- 電源を“OFF”にした

● 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
  ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。
別冊の「メンテナンス ノート」巻末のJAFロード サービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

キーレス エントリー装着車

キー ナンバーを最寄りのダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
  - 日頃からキーを使ってロックしてください。
  - バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

キー フリー システム装着車

保管していた電子カード キーとキー ナンバー プレートを最寄りのダイハツ サービス工場にお持ちください。

アドバイス

- 電子カード キー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ず電子カード キーを携帯していることを確認するか、キーレス操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

■ 緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2. シフト レバーをⓃレンジに入れます。

▼ シフト レバーがⓃレンジに入った場合

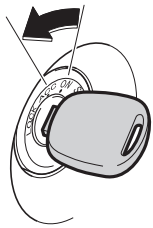
3. 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

▼ シフト レバーがⓃレンジに入らない場合

4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジンを停止します。

プッシュ ボタン スタート装着車以外

エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。



プッシュ ボタン スタート装着車

スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。

3秒以上押す、または3連打する

6. 車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

車のお手入れ

車の整備、お手入れの方法について説明しています。

■ 車のお手入れ

エンジン ルーム---------- 398
消耗品の補給、交換 ---------- 400
タイヤの点検 ---------- 403
タイヤの交換 ---------- 405
ワイパーの交換---------- 409
エアコンのお手入れ ---------- 413
キーの電池交換---------- 414
室内のお手入れ---------- 417
ボデー、塗装面のお手入れ------- 419

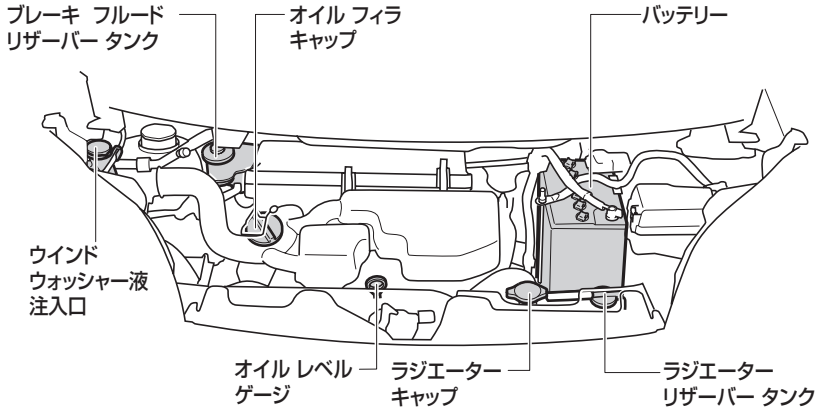
車のお手入れ

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

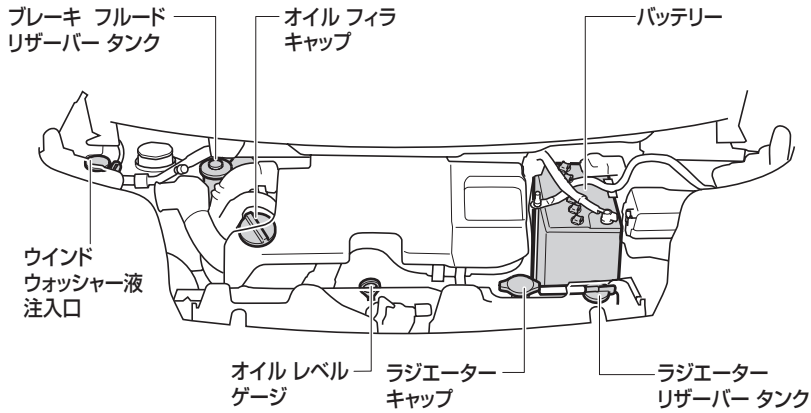
エンジン ルーム

グレードの違い、注文装備も記載しています。

ターボ車以外



ターボ車

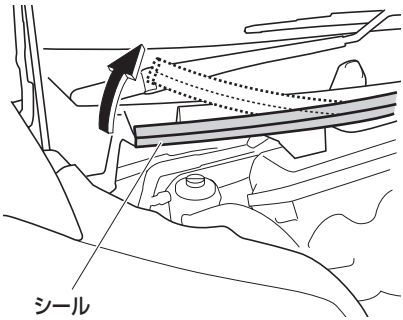


エンジン ルーム サービス カバー

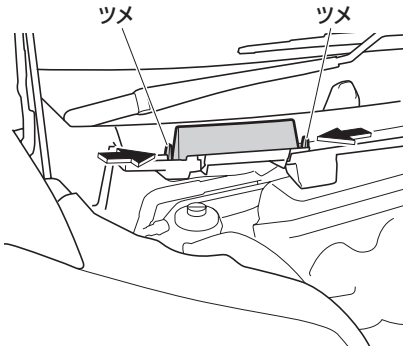
ブレーキ フルードの点検・交換をするときは、エンジン ルーム サービス カバーを取り外します。

▼ カバーの外しかた

1. 車両の中央部あたりまで、シールをめくります。



2. ツメを矢印の方向に押しながら、カバーを取りはずします。

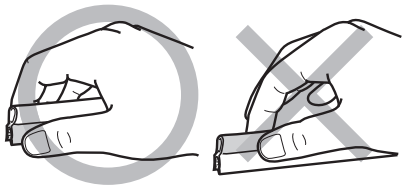


▼ カバーの取り付けかた

逆の手順で行います。

⚠注意

- シールをめくるときは、下側の取り付け部を持ってください。上側を持ってめくると、シールが破れるなど破損するおそれがあります。



- シールを元に戻すときは、中央側から取り付けてください。端側から取り付けるとシールがたわみ、ボンネットが確実に閉まらない場合があります。

車のお手入れ

消耗品の補給、交換

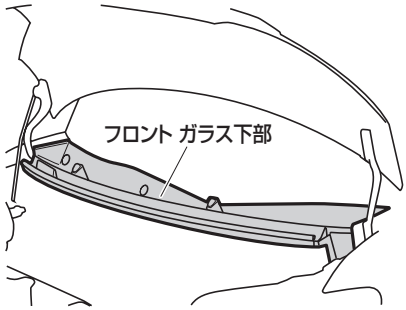
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
  オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

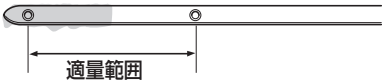
⚠注意

- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。



エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイル レベル ゲージ

アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイル フィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

ラジエーター リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠警告

- 水温が高いときは、ラジエーター キャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーター キャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

車のお手入れ

ウインド ウォッシャー液の補給

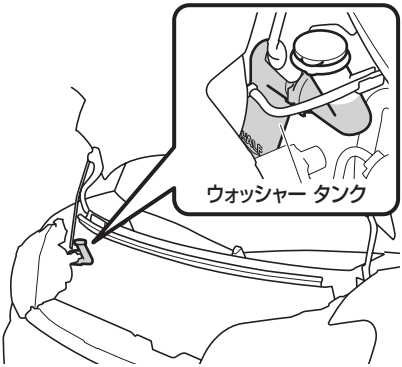
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、ダイハツ純正ウインド ウォッシャー液を補給します。

アドバイス

- ウインド ウォッシャー液はダイハツ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインド ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

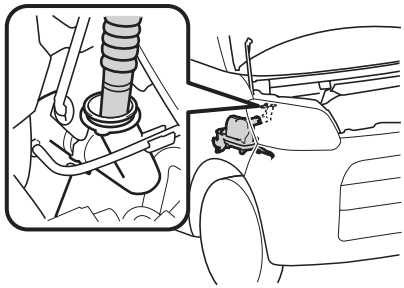
▼ 点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



⚠警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。
タイヤが冷えているときに、タイヤ ゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。
空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。
（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）

⚠警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディング ウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20～30kPa（0.2～0.3 {kgf/cm^2}）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

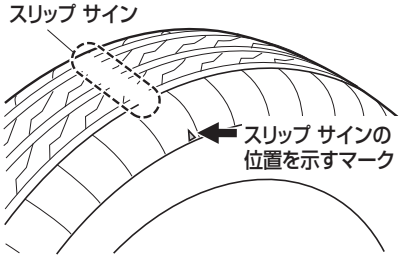
- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

車のお手入れ

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップ サイン（摩耗限度表示）により点検してください。
また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。



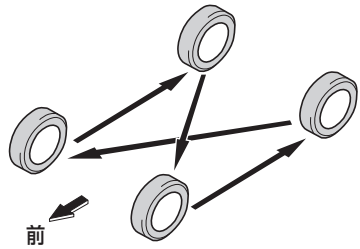
⚠警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップ サイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロ プレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。
ローテーションは 5,000km走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた
図の順にローテーションしてください。
（タイヤの交換→ 405 ページ）



アドバイス

- タイヤ パンク応急修理セット装着車では、応急用スペア タイヤが搭載されていないため、応急用スペア タイヤを利用するタイヤのローテーションができません。ダイハツ サービス工場にご相談ください。

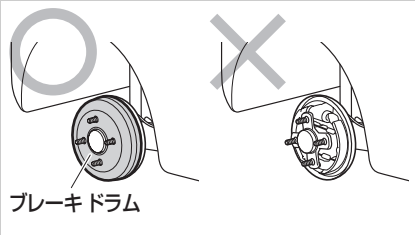
* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。
  ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



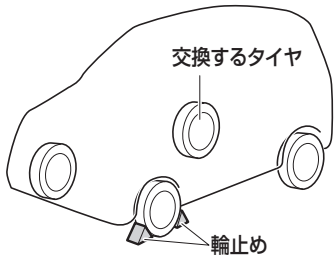
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

⚠注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- アルミ ホイール装着車は、ダイハツ純正アルミ ホイール専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
  （タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

交換の手順

1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフト レバーをⓅレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。



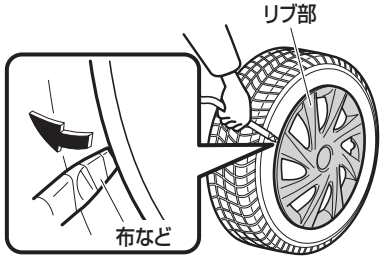
アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3. 工具、ジャッキを取り出します。

（格納場所→ 348 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 350 ページ）

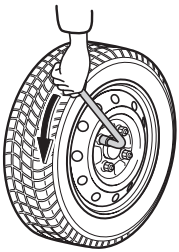
4. フル ホイール キャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキ ハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。



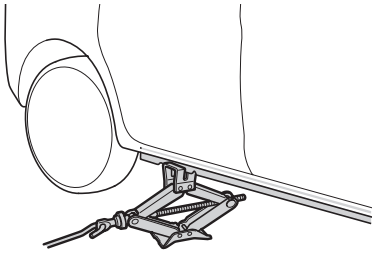
⚠注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキ ハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



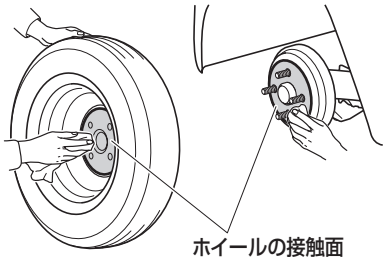
6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。
（ジャッキの使いかた→ 350 ページ）



7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。

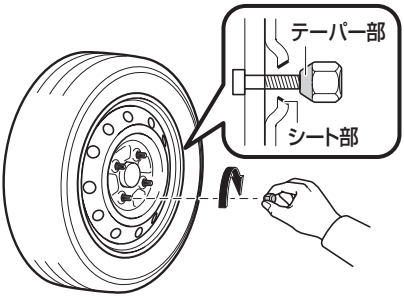
8. 取り付けるタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。



⚠警告

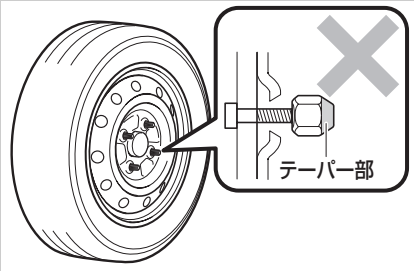
- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

9. タイヤを取り付けます。
10. ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。



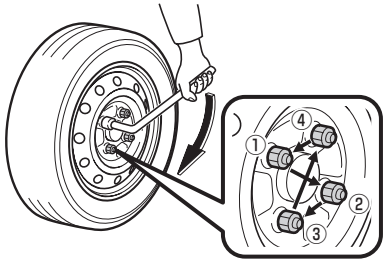
⚠警告

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3 度にわたり十分締め付けます。

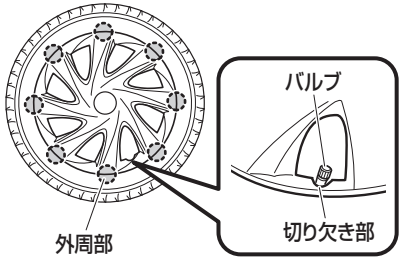


⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締付力（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N｛45～60kgf｝
- 締付トルク：103N･m ｛1,050kgf･cm｝

12. フル ホイール キャップ装着車は、フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。



13. 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。
14. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をダイハツ サービス工場で受けてください。

ワイパーの交換

⚠注意

- ワイパー ブレード、ラバーはダイハツ純正をおすすめします。ダイハツ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインド ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインド ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。

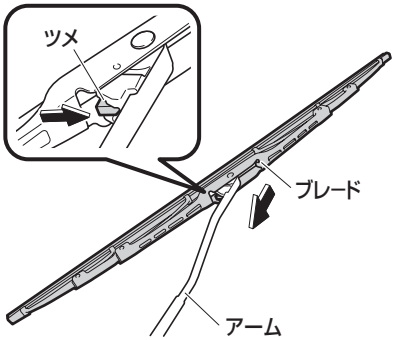
車のお手入れ

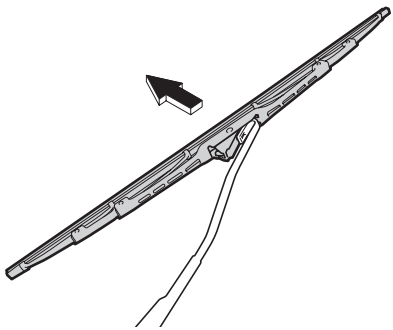
フロント ワイパー

■ ワイパー ブレード

▼ 取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードをスライドさせてアームから外します。





▼ 取り付けかた

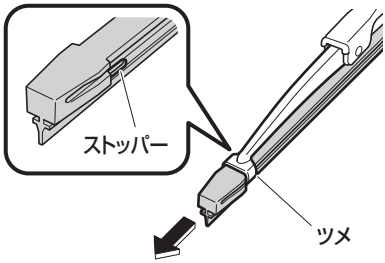
ブレードをアームに取り付けます。

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

■ ワイパー ブレード ラバー

▼ 取り外しかた

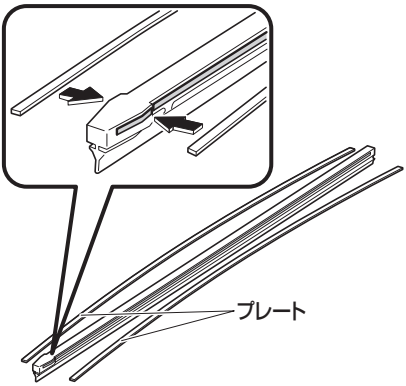
1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。



2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。

▼ 取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

⚠注意

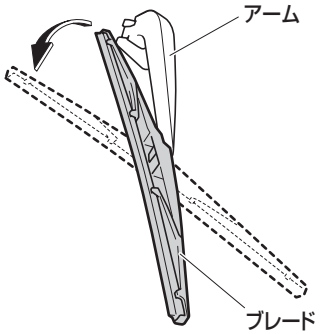
- **ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。**

リヤ ワイパー

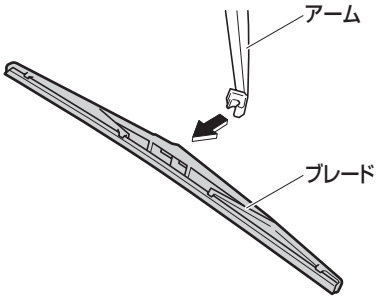
■ ワイパー ブレード

▼ 取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを図の角度まで回します。



3. ブレードを図の方向に引いて、アームから外します



▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

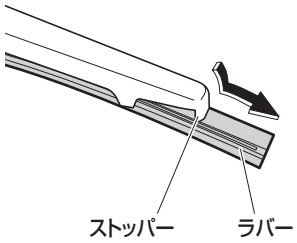
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

車のお手入れ

■ ワイパー ブレード ラバー

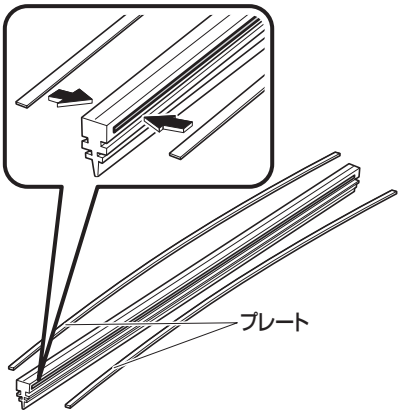
▼ 取り外しかた

1. ラバーの先端部を引き、ブレードのストッパーから外します。
2. ラバーをブレードから引き抜きます。

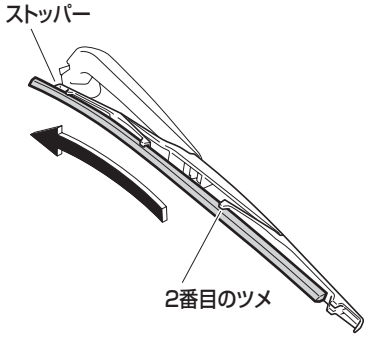


▼ 取り付けかた

1. ラバーからプレートを外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込みます。
5. ラバーをブレードのストッパーから約 2cm引き出します。



6. ブレードの 1 番目のツメにラバーを通します。
7. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して確実に固定します。

⚠注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。

エアコンのお手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒HFC134a（R134a）を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はダイハツ サービス工場にご相談ください。

クリーン エア フィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーン エア フィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

スーパー クリーン エア フィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は20,000kmです。
  （大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は10,000kmです。）

クリーン エア フィルター

- 交換の目安は20,000kmです。
  （大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は10,000kmです。）

アドバイス

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

・スイッチを押しても作動しない
・著しく作動距離が短くなった
・インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、ダイハツサービス工場での交換をおすすめします。

⚠注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
  - 濡れた手で電池交換をしない
  - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
  - 油や異物を入れない

キーレス エントリー装着車

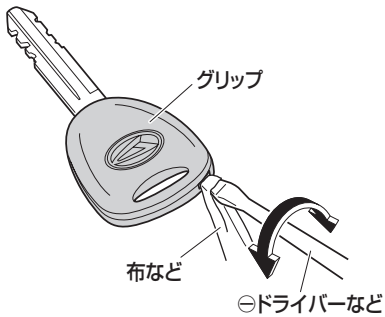
▼ 使用電池について

使用電池は「CR1620（3V）」です。

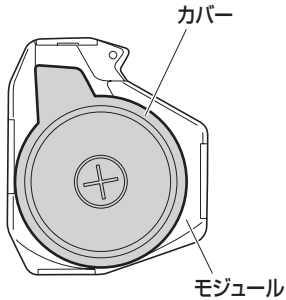
▼ 交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の幅の⊖ドライバーなどを用意します。
2. グリップを外します。

- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

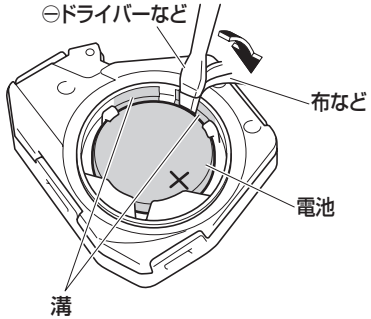


3. モジュールの裏側のカバーを外します。



4. 新しい電池と交換します。

- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込んで電池を取り出します。



⚠注意

- 取り出した電池はお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

アドバイス

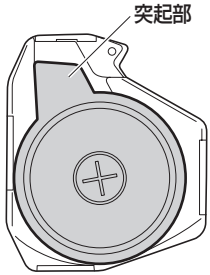
- 新しい電池は⊕極を上側にして取り付けます。

▼ 交換したあと

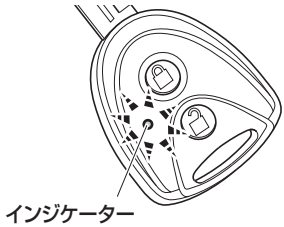
1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。



2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。



車のお手入れ

キー フリー システム装着車

▼ 使用電池について

使用電池は「CR2032（3V）」です。

▼ 交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の幅の⊖ドライバーなどを用意します。
2. ダイハツマーク側を上にしてから、電子カード キーのカバーを外します。

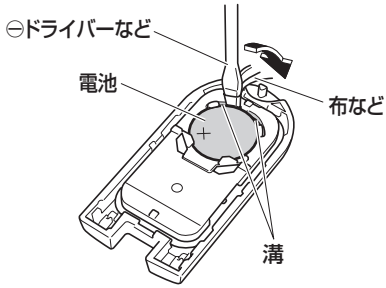
- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

⚠注意

- ダイハツ マーク側を下にしてカバーを外さないでください。電子カード キーのスイッチや電子部品などが落下して破損するおそれがあります。

3. 新しい電池と交換します。

- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込んで電池を取り出します。
  - カバーを外したときに、上側のカバーに電子カード キーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カード キーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。



⚠注意

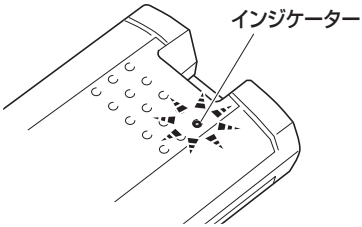
- 取り出した電池はお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

アドバイス

- 電池は⊕極を上側にして取り付けます。

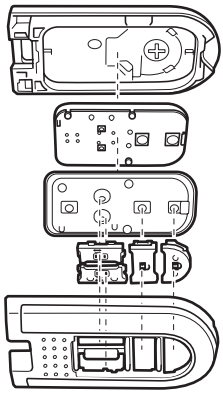
▼ 交換したあと

1. カバーを取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。



▼ 電子カードキーの部品がばらけたときは

図を参考に組み付けてください。



⚠注意

- 電子部品の基板面に触れないでください。故障の原因になります。

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインド ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- シート ベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- メーターのレンズ カバーにガラス クリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因となります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

車のお手入れ

⚠注意

- 液体芳香剤は、こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメント パネルの上やメーターの近くに置かないでください。液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズ カバーに付着すると、変色・ひび割れの原因となります。

車内に水などをかけないでください

- インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツ サービス工場にご相談ください。

フロント ウインド ガラスの内側を清掃するとき（スマートアシストⅢ装着車）

- ステレオ カメラにさわらないように注意してください。誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

⚠注意

スーパーUV&IRカット ガラス（フロント ドア）を清掃するときは（オプション/グレード別装備）

- 汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤や鋭利なもの、硬いもので清掃しないでください。室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。
- ドア ガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

アドバイス

- リヤ ウインド ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデー カバーを付けるように心がけましょう。
車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。
下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

▼ 洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカー シャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

⚠注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジン ルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキ ペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキ ペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

車のお手入れ

■ 自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- ルーフ アンテナは取り外し、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元通りに取り付けてください。
- ドア ミラーは必ず格納し、洗車機の「ドア ミラーを洗車しない」モードを選択してください。
  洗車機によっては、ドア ミラーを損傷するおそれがあります。
- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えレバー、またはスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

■ 高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キー フリー システム装着車

- フロント ドア またはバック ドア のリクエストスイッチ、またはスライドドアのワンタッチスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

バック カメラ装着車、パノラマ モニター装着車

- カメラ、またはカメラ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりカメラが破損したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠注意

キー フリー システム装着車

- フロント ドア またはバック ドア のリクエストスイッチ、またはスライドドアのワンタッチスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。

塗装部品のお手入れ

塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 塗装部品の傷の補修をする場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボデーの洗車と同じ要領で行い、ボデーと同じワックスでワックスがけをしてください。

⚠注意

- アルミ ホイールにワックスがけをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

MEMO

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ --------- 424
走行前点検と準備---------- 425
積雪、寒冷時の走行 ---------- 426
走行中の点検と注意 ---------- 428
走行後の取り扱い---------- 429

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキー フリー システム（オプション/グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をダイハツ サービス工場に依頼してください。

ウインド ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。
寒冷地用ワイパー ブレードは、ダイハツ サービス工場で各車指定のブレードをご購入ください。

⚠注意

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインド ガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインド ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウインド ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウインドガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたは冬用タイヤを装着してください。

⚠注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  チェーン装着車、冬用タイヤ装着車、また 4WD車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。4 WD車も前 2 輪に装着します。

チェーンはタイヤ サイズに合った物を使用ください。

適合するタイヤ チェーンについては、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

積雪、寒冷時の取り扱い

⚠注意

- タイヤ チェーンは車のタイヤ サイズに合った、ダイハツ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- チェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。
  - VSC
  - TRC

アドバイス

- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップやアルミ ホイールに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。

冬用タイヤの装着

⚠注意

- 冬用タイヤは必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキ パッドのしめりを乾かしてください。

⚠注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤ ハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤ パンク応急修理セットで応急修理をしてください。

（タイヤ パンク応急修理セット → 360 ページ）

積雪、寒冷時の取り扱い

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。
エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパー アームは起こしてください。雪の重みでワイパー アームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。シフト レバーをⓅレンジに入れて輪止め*を置いてください。

アドバイス

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、ルーフ アンテナを取り外してください。
（ルーフ アンテナ→ 306 ページ）

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデー カバーを使用してください。

⚠注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロント グリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

* 輪止めは、ダイハツ サービス工場で購入できます。

MEMO

サービス データ

項目			サービス データ	
点火プラグ	エンジン型式＼プラグ型式		NGK	デンソー
	KF型(ターボ車以外)		ILKR6F11 (イリジウム プラグ)	SXU20HPR11 (イリジウム プラグ)
	KF型(ターボ車)		ILKR7D8 (イリジウム プラグ)	SXU22HPR8 (イリジウム プラグ)
ファン ベルト	たわみ量(㎜) 押力98N{10kgf}時		7.9～9.7(点検時) 点検位置	
アイドリング回転数(rpm)			800	
ブレーキ ペダル	遊び(㎜)		0.5～3.0	
	床板とのすき間(㎜) (踏力294N{30kgf}時)	2WD車	99.4以上	
		4WD車	98.7以上	
駐車ブレーキ	踏みしろ (踏力245N{25kgf}時)		5～7ノッチ	
バッテリー			M-42	
フューエル タンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)		30	
ウォッシャー タンク	容量(ℓ)		1.5	

項目			サービス データ
エンジン オイル	使用オイルと交換時期	ターボ車以外	・アミックス EXTRA 0W-20*1 ・アミックス EXTRA 5W-30 ・アミックス SN 5W-30 6か月ごとまたは、 10,000kmごと(5,000kmごと*2) のどちらか早い方
		ターボ車	・アミックス EXTRA 5W-30*1 ・アミックス SN 5W-30 6か月ごとまたは、 5,000kmごと(2,500kmごと*2) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルと オイル フィルター (オイル クリーナー) 交換時	約2.9
オイル フィルター (オイル クリーナー)	交換時期		10,000kmごと(5,000kmごと*2)
トランスミッション オイル	交換時期		50,000kmごと
	使用オイル		アミックスCVTフルード- DFE*1 またはDC
	交換量(ℓ)	ターボ車以外	約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)
		ターボ車	約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)

＊1　省燃費性に優れるオイルです。

＊2　シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上／年)や短距離走行の繰り返し(8km以下／回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

CVT車のトランスミッション オイルを交換する場合

- ダイハツ純正オイル（アミックスCVTフルード-DFEまたはDC）のみご使用ください。ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。オイルの交換については、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

項目		サービス データ
トランスファ オイル	交換時期	100,000㎞ごと
	使用オイル	アミックス デファレンシャル ハイポイド ギヤ オイルSAE80W-90（API分類GL-5）
	交換量(ℓ)	約0.57
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000㎞または2年（初回は3年）
	使用オイル	アミックス ATF D3-SP
	交換量(ℓ)	約0.73
ブレーキ オイル	交換時期	2年ごと（初回は3年）
	使用オイル	アミックス ブレーキ フルード（DOT3相当）
エア クリーナー エレメント	交換時期	40,000㎞ごと（20,000㎞ごと*）
冷却水（除くリザーバー タンク）	交換時期	2年ごと（初回は3年）
	使用液	アミックス ロングライフ クーラント（高防錆力タイプ）
	規定濃度(%)	50（全車寒冷地仕様）
	全容量(ℓ)	約3.5

＊ シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大（20,000㎞以上／年）や短距離走行の繰り返し（8㎞以下／回）または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧（空車時:kPa{kgf/㎠}）				タイヤの溝の深さ（㎜）	タイヤ位置交換時期
	前　輪		後　輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	240{2.4}				1.6以上	5,000㎞ごと
165/55R15						

MEMO

さくいん

ア

アーム レスト ---------- 46
アーム レスト ボックス---------- 325
アイドリング回転数 ---------- 432
アイドリング ストップ時間--------- 215
アイドリング ストップ システム ---- 274
アイドリング ストップ積算時間----- 216
アウター（ドア）ミラー---------- 199
アクセサリー ソケット---------- 321
アシスト グリップ---------- 330
足踏み式駐車ブレーキ---------- 257
アジャスタブル ショルダー ベルト
アンカー ---------- 57
アンダー ボックス---------- 326
アンチロック ブレーキ システム
（ABS）---------- 87
アンテナ ---------- 306

イ

ELRシート ベルト ---------- 56
イージー クローザー機構 ---------- 174
イージー スタート サポート-------- 262
ETC---------- 331
EPS（電動パワー ステアリング）
警告灯---------- 233
EBD---------- 87
イグニッション（エンジン）
スイッチ ---------- 250
イグニッション キー ---------- 142
ISO FIX対応チャイルド シート固定
バー＆トップ テザー アンカー ------ 71
イモビライザー機能 ---------- 257
インジケーター ランプ
（表示灯）---------- 220
インター ロック---------- 256
インナー ハンドル ---------- 189
インナー（ルーム）ミラー---------- 199
インパネ アッパー ボックス ------- 325
インパネ アンダー トレイ---------- 324
インパネ センター ポケット ------- 324
インパネ トレイ---------- 324

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ---- 243
ウインド ウォッシャー液の補給 ---- 402
ウインド ガラス
（パワー ウインド）---------- 194
ウインド デフォッガー スイッチ---- 247
ウォーニング ランプ（警告灯） ---- 226
ウォッシャー タンクの容量--------- 432
ウォッシャー スイッチ ---------- 244
上向き表示灯 ---------- 221
運転席SRSエアバッグ ---------- 73
運転席シートバック
ポケット ---------- 326
運転席シート ヒーター
スイッチ ---------- 248
運転席シート ベルト締め忘れ
警告灯---------- 229
運転席シート リフター ---------- 46

エ

エア クリーナー エレメントの
データ---------- 434
エアコン
オート ---------- 296
マニュアル ---------- 288
エアコン ガス ---------- 413
エアバッグ
SRSエアバッグ ---------- 73
SRSサイド エアバッグ、
SRSカーテン シールド エアバッグ------ 79
エア フィルター ---------- 413
ABS---------- 87
eco IDLE（エコ アイドル） --------- 274
eco IDLE OFFスイッチ ---------- 283
eco IDLE OFF表示灯---------- 282
eco IDLE表示灯---------- 281
エコ ドライブ アシスト照明-------- 219
エコ ドライブ アシスト照明の
表示設定 ---------- 217
エコ発電制御---------- 285
SRSエアバッグ---------- 73
SRSエアバッグ警告灯 ---------- 232
SRSエアバッグ コンピューター------ 85
エマージェンシー キー---------- 143
エマージェンシー ストップ
シグナル ---------- 89
LEDイルミネーション ランプ
フロントLEDイルミネーション
ランプ（オールデイ） ---------- 241
フロント グリル
LEDイルミネーション---------- 241
LLC（冷却水）のデータ ---------- 434
エンジン オイルのデータ ---------- 433
エンジン オイル レベル ゲージ----- 401
エンジン回転計
（タコ メーター） ---------- 210
エンジン キー ---------- 142
エンジン警告灯---------- 226
エンジン スイッチ ---------- 250
エンジン フード（ボンネット） ---- 190
エンジン ルーム---------- 398

オ

オイルの交換量---------- 433
オイル プレッシャー（油圧）
警告灯---------- 226
応急修理セット ---------- 360
オート エアコン---------- 296
オート格納式ドア ミラー
（キー フリー システム連動） ----- 201
オート ドア アンロック機能 ------- 169
オート ドア ロック機能 ---------- 168
オート ハイ ビーム ---------- 237
オート ハイ ビーム“故障”表示---- 131
オート ハイ ビーム作動灯---------- 130
オート（パワー）ウインド---------- 194
オート ライト機能 ---------- 235
オート レベリング警告灯---------- 232
オーバー ヒート---------- 371
オープナー
フューエル リッド---------- 193
ボンネット ---------- 190
お子さま専用シート ----------59
オド メーター（積算距離計） ------ 212
オルタネーター（ファン）ベルトの
点検基準値---------- 432
温度調節センサー ---------- 305

カ

カーテン シールド エアバッグ ------ 79
カード ホルダー ---------- 322
外気温---------- 214
鍵（キー） ---------- 142
格納式アシスト グリップ ---------- 330
格納式リヤ ドア サンシェード ----- 323
カップ ホルダー ---------- 327
間欠ワイパー（ワイパー・
ウォッシャースイッチ）---------- 244

キ

キー ---------- 142
キー インター ロック---------- 256
キー（エンジン）スイッチ ---------- 250
キー閉じ込み防止機能---------- 167
キー抜き忘れ警告ブザー---------- 167
キーの電池交換 ---------- 414
キー フリー警告灯---------- 158
キー フリー システム---------- 146
キー フリー システムの警告-------- 153
キー フリー電池残量警告 ---------- 155
キーレス エントリー ---------- 145
機能停止コード
（スマートアシストⅢ） ---------- 132
給油口（フューエル リッド） ------ 192
緊急停止するには---------- 394

ク

空気圧---------- 435
空調 ---------- 288
クーラー（エアコン）
オート エアコン ---------- 296
マニュアル エアコン ---------- 288
クーラント（冷却水）のデータ ----- 434
区間距離計
（トリップ メーター） ---------- 212
曇り取り
フロント（オート エアコン）----- 304
フロント
（マニュアル エアコン） --------- 294
リヤ ---------- 247
クラクション（ホーン）スイッチ---- 249
クリーナー（オイル フィルター）の
データ---------- 433
クリーン エア フィルター---------- 413
グローブ ボックス ---------- 325

ケ

警音器（ホーン）スイッチ---------- 249
計器（メーター） ---------- 208
警告灯---------- 226
警告ブザー
キー抜き忘れ警告ブザー---------- 167
ライト消し忘れ警告ブザー -------- 241
警報（セキュリティ アラーム）の
停止方法 ---------- 161
けん引---------- 356

コ

工具 ---------- 348
高水温警告灯---------- 228
後席クォーター ポケット ---------- 326
後席（リヤ シート） ---------- 47
航続可能距離---------- 213
コーナー センサー（リヤ） --------- 136
固定バー ---------- 71
誤発進抑制制御機能(前方・後方） ---- 116
小物入れ
インパネ アッパー ボックス------ 325
フロント センター アーム レスト
ボックス---------- 325
コンビネーション メーター--------- 208

サ

サービス データ---------- 431
サイド エアバッグ---------- 79
サイド（ドア）ミラー---------- 199
サイド トレイ ---------- 324
サンシェード---------- 323
3点式ELRシート ベルト ---------- 56
サン バイザー ---------- 322

シ

シート
フロント ---------- 41
リヤ---------- 47
シート バック テーブル---------- 43
シート ヒーター スイッチ---------- 248
シート ベルト ---------- 53
シート ベルト締め忘れ警告灯
（運転席・助手席） ---------- 229
シート リフター---------- 46
CVT警告灯---------- 229
CVTシフト インジケーター--------- 222
CVT車---------- 264
事故が起きたとき ---------- 395
室内照明 ---------- 318
シフト インジケーター ---------- 222
シフト レバー ---------- 264
シフト ロック解除ボタン---------- 265
シフト ロック装置 ---------- 264
車載工具 ---------- 348
車線逸脱警報機能 ---------- 122
車線逸脱警報OFF表示灯---------- 130
車線逸脱警報作動灯 ---------- 129
ジャッキの使いかた ---------- 350
車両盗難防止（イモビライザー）
機能---------- 257
車両を緊急停止するには ---------- 394
集中（パワー）ドア ロック--------- 166
充電警告灯---------- 227
使用オイル---------- 433
衝撃感知ドア ロック解除
システム ---------- 168
乗降グリップ ---------- 330
照度調整 ---------- 217
衝突回避支援ブレーキ機能---------- 106
衝突警報機能 ---------- 106
照明---------- 318
助手席SRSエアバッグ ----------73
助手席シート ベルト締め忘れ
警告灯---------- 229
ショッピング フック---------- 329
ショルダー ベルト アンカー ---------57

ス

水温警告灯 ---------- 228
水温表示灯 ---------- 221
スタック（立ち往生）したとき ----- 354
ステアリング スイッチ---------- 307
ステアリング ホイール
（チルト ステアリング） ---------- 204
ステレオ カメラ ---------- 102
スノー（タイヤ）チェーン ---------- 426
スパーク（点火）プラグの型式 ----- 432
スピード メーター---------- 210
スマートアシストOFFスイッチ------ 134
スマートアシストOFF表示灯 -------- 129
スマートアシスト機能停止コード ---- 132
スマートアシスト作動灯---------- 128
スマートアシスト Ⅲ ---------- 100
スライド調整
フロント シート ---------- 41
リヤ シート ---------- 47
スライド ドア ---------- 171
スライド ドア イージー
クローザー ---------- 174
スリップ インジケーター ---------- 95

セ

積算距離計（オド メーター） ------ 212
セキュリティ アラーム ---------- 158
セキュリティ アラームの
警報の停止方法---------- 161
セキュリティ インジケーター ------ 222
セレクト（シフト）レバー---------- 264
先行車発進お知らせ機能 ---------- 125
洗車 ---------- 419
前照灯（ヘッド ランプ）の
切り替え ---------- 236
前席（フロント シート） ----------41

ソ

速度計（スピード メーター） ------ 210
ソナー---------- 105

タ

ターボ車 ---------- 258
ターン シグナル インジケーター
（方向指示表示灯） ---------- 220
ターン シグナル（方向指示）
スイッチ ---------- 243
タイヤ チェーン---------- 426
タイヤの交換 ---------- 405
タイヤのデータ ---------- 435
タイヤのローテーション ---------- 404
タイヤ パンク応急修理セット ------ 360
タコ メーター ---------- 210
暖房（エアコン）
オート エアコン ---------- 296
マニュアル エアコン ---------- 288

チ

チェーン ---------- 426
チェック エンジン警告灯 ---------- 226
チェンジ（シフト）レバー ---------- 264
チケット ホルダー---------- 322
チャージ（充電）警告灯---------- 227
チャイルド シート---------- 59
チャイルド シート固定バー ---------- 71
チャイルド シートの選びかた ------- 61
チャイルド シートの固定の
しかた---------- 66
チャイルド シートの種類 ---------- 60
チャイルド セーフティ---------- 166
駐車ブレーキ---------- 257
駐車ブレーキの点検基準値 ---------- 432
チルト ステアリング ---------- 204

ツ

ツール（工具） ---------- 348

テ

TRC---------- 92
TRC OFF表示灯 ---------- 95
D assist切替ステアリング
スイッチ ---------- 260
低水温表示灯---------- 221
ディスク ホイール（タイヤ）の
交換 ---------- 405
ディスク ホイール（タイヤ）の
データ---------- 435
テール インジケーター---------- 221
テザー アンカー ---------- 71
デッキ（ラゲージ）アンダー
ボックス ---------- 326
デッキ（ラゲージ）ルーム
ランプ---------- 319
デファレンシャル オイルの
データ---------- 434
デフォッガー スイッチ ---------- 247
デフロスター（曇り取り）
フロント(オート エアコン) ------ 304
フロント
（マニュアル エアコン） --------- 294
リヤ ---------- 247
デュアルSRSエアバッグ---------- 73
点火プラグの型式 ---------- 432
電球の交換---------- 376
点検整備項目
（サービス データ） ---------- 431
電子カード キーが
使用できないとき ---------- 390
電池の交換---------- 414
電動格納式（ドア）ミラー---------- 199
電動格納式ヒーテッド
ドア ミラー---------- 202
電動スライド ドア ---------- 175
電動パワー ステアリング警告灯 ---- 233
電力回生制御 ---------- 285

ト

ドア ---------- 163
ドア（パワー）ウインド---------- 194
ドア ポケット ---------- 326
ドア ミラー---------- 199
ドア ロック---------- 166
時計 ---------- 218
トップ テザー アンカー---------- 71
トラクション コントロール
（TRC）---------- 92
トランスファ オイルのデータ ------ 434
トランスミッション オイルの
データ---------- 433
トリップ メーター
（区間距離計）---------- 212
ドリンク ホルダー---------- 327

ナ

内気センサー---------- 305

ニ

日射センサー---------- 305

ネ

燃費（平均燃費）---------- 212
燃料カット システム ---------- 354
燃料給油口
（フューエル リッド）---------- 192
燃料計---------- 210
燃料残量警告灯 ---------- 231
燃料（フューエル）タンクの容量 ---- 432

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ ------- 257
パーキング（駐車）ブレーキの
点検基準値---------- 432
ハイ ビーム（ヘッド ランプ
上向き）表示灯---------- 221
ハザード インジケーター
（非常点滅表示灯）---------- 220
ハザード（非常点滅灯）スイッチ---- 244
挟み込み防止機構
パワー ウインド ---------- 197
パワー スライド ドア---------- 184
発炎筒---------- 356
バック カメラ ---------- 308
バック ドア---------- 186
バック（ルーム）ミラー ---------- 199
パッシング
（ヘッド ランプの切り替え）------ 236
バッテリー---------- 284
バッテリーあがり ---------- 368
バッテリーあがり防止機能---------- 320
バッテリーの型式 ---------- 432
発電制御 ---------- 285
バニティー ミラー ---------- 322
パノラマモニター ---------- 312
バルブ（電球）の交換---------- 376
パワー ウインド---------- 194
パワー ステアリング警告灯--------- 233
パワー スライド ドア
（ワンタッチ オープン機能、
予約ロック機能付）---------- 175
パワー ドア ロック ---------- 166
パンク---------- 359
パンク応急修理セット---------- 360
半ドア警告灯 ---------- 230
ハンドル（チルト ステアリング）--- 204

ヒ

ビークル スタビリティ コントロール（VSC） 90
ヒーター（エアコン）
オート エアコン 296
マニュアル エアコン 288
ヒーター スイッチ 248
ヒーテッド ミラー 202
被害軽減ブレーキ アシスト 106
非常点滅灯スイッチ 244
非常点滅表示灯 220
ヒューズ ボックス 374
表示灯 220
ヒル スタート システム 283
ヒル ホールド システム 98

フ

ファン ベルトの点検基準値 432
VSC 90
VSC&TRC OFFスイッチ 96
VSC&TRC警告灯 94
VSC OFF表示灯 95
V（ファン）ベルトの点検基準値 432
フィルターのデータ 433
フォース リミッター機構付
シート ベルト 58
フォグ ランプ スイッチ 246
フォグ ランプ表示灯 221
プッシュ ボタン スタート
スイッチ 251
フット（足踏み式駐車）ブレーキ 257
不凍液（冷却水）のデータ 434
フューエル ウォーニング
（燃料残量警告灯） 231
フューエル タンクの容量 432
フューエル（燃料）カット
システム 354
フューエル メーター（燃料計） 210
フューエル リッド 192
冬用タイヤ 427
プラグの型式 432
プリテンショナー＆フォース
リミッター機構付シート ベルト 58
フル タイム４WDシステム 259
ブレーキ（ABS） 87
ブレーキ オイルのデータ 434
ブレーキ警告灯 227
ブレーキ ペダルの点検基準値 432
ブレード（ワイパー）の交換 409
フロント シート 41
フロント シート ベルト 56
フロント センター アーム レスト 46
フロント センター アーム レスト
ボックス 325
フロント ドア 163
フロント パーソナル ランプ 318
フロント フォグ ランプ
スイッチ 246
フロント ワイパー・ウォッシャー
スイッチ 245

へ

平均燃費 ---------- 212
ヘッド ランプ上向き表示灯 --------- 221
ヘッド ランプの切り替え ---------- 236
ヘッド ランプ マニュアル
レベリング スイッチ ---------- 242
ヘッド レスト
フロント シート ---------- 43
リヤ シート ---------- 48
ベルト アンカー ---------- 57
ベルトの点検基準値 ---------- 432

ホ

ホイール（タイヤ）の交換 ---------- 405
ホイール（タイヤ）のデータ -------- 435
方向指示スイッチ ---------- 243
方向指示表示灯 ---------- 220
ホーン スイッチ ---------- 249
補給口（フューエル リッド） ------ 192
ポジション表示
（シフト インジケーター） --------- 222
ボトル ホルダー ---------- 328
ボンネット ---------- 190

マ

前倒し
フロント シート ---------- 43
リヤ シート ---------- 49
マスター ウォーニング ---------- 128
窓ガラス（パワー ウインド） ------ 194
マニュアル エアコン ---------- 288
マルチ インフォメーション
ディスプレイ ---------- 211

ミ

ミラー
ドア ミラー ---------- 199
リヤ アンダー ミラー ---------- 203
ルーム ミラー ---------- 199

メ

メーター ---------- 208
メンテナンス データ
（サービス データ） ---------- 431

ユ

油圧警告灯 ---------- 226

ヨ

予約ロック機能 ---------- 182
4WD車 ---------- 259

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー ---------- 241
ライト自動消灯機能 ---------- 240
ライト スイッチ ---------- 235
ラゲージ アンダー ボックス ------- 326
ラゲージ ルーム ランプ ---------- 319
ラジエーター液（冷却水）の
データ ---------- 434
ラバー（ワイパー）の交換 ---------- 409

リ

リクエスト スイッチ ---------- 149
リクライニング調整
フロント シート ---------- 42
リヤ シート ---------- 48
リバース連動リヤ ワイパー --------- 246
リフター ---------- 46
リモコン スイッチ
キー フリー システム ---------- 149
キーレス エントリー ---------- 145
リヤ アンダー ミラー ---------- 203
リヤ ウインド デフォッガー
スイッチ ---------- 247
リヤ サンシェード ---------- 323
リヤ シート ---------- 47
リヤ シート ベルト ---------- 56
リヤ デファレンシャル オイルの
データ ---------- 434
リヤ ドア ---------- 163
リヤ ワイパー・ウォッシャー
スイッチ ---------- 245

ル

ルーフ アンテナ ---------- 306
ルーム ミラー ---------- 199
ルーム ランプ ---------- 318

レ

冷却水のデータ ---------- 434
冷房（エアコン）
オート エアコン ---------- 296
マニュアル エアコン ---------- 288
レベリング警告灯 ---------- 232
レベリング スイッチ ---------- 242

ロ

ローテーション ---------- 404
ロー ビーム・オート レベリング
警告灯 ---------- 232

ワ

ワイパー・ウォッシャー スイッチ ---- 244
ワイパーの交換 ---------- 409
ワイヤレス ドア ロック
（キーレス エントリー） ---------- 145
W数（電球） ---------- 376
ワンタッチ スイッチ ---------- 180
ワンプッシュ式オート オープン
カップ ホルダー（前席） ---------- 327

3

3点式ELRシート ベルト ---------- 56

4

4WD車 ---------- 259

A

ABS---------- 87
ABS警告灯 ---------- 231
A/C（エアコン）
　オート エアコン ---------- 296
　マニュアル エアコン---------- 288

C

CVT警告灯 ---------- 229
CVTシフト インジケーター --------- 222
CVT車 ---------- 264

D

D assist切替ステアリング
スイッチ ---------- 260

E

EBD---------- 87
eco IDLE OFFスイッチ ---------- 283
eco IDLE OFF表示灯---------- 282
eco IDLE（エコ アイドル） --------- 274
eco IDLE表示灯---------- 281
ELRシート ベルト ---------- 56
EPS（電動パワー ステアリング）
警告灯---------- 233
ETC---------- 331

I

ISO FIX対応チャイルド シート固定
バー＆トップ テザー アンカー ------ 71

L

LEDイルミネーション ランプ
　フロントLEDイルミネーション
　ランプ（オールデイ） ---------- 241
　フロント グリル
　LEDイルミネーション---------- 241
LLC（冷却水）のデータ---------- 434

S

SRSエアバッグ ---------- 73
SRSエアバッグ警告灯 ---------- 232
SRSエアバッグ コンピューター ------ 85
SRSサイド エアバッグ、
SRSカーテン シールド エアバッグ ------ 79

T

TRC ---------- 92
TRC OFF表示灯 ---------- 95

V

VSC ---------- 90
VSC OFF表示灯 ---------- 95
VSC&TRC OFFスイッチ ---------- 96
VSC&TRC警告灯---------- 94
V（ファン）ベルトの点検基準値 ---- 432

W

W数（電球） ---------- 376

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（Aは一時使用中止時、Bは解体返納時に必要です）

- A　自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B　解体届出書
- AB　自動車検査証
- AB　車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- AB　軽自動車税申告書
- AB　印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

3番窓口

検査手数料収納

⇩

2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（Cは使用者・所有者を変更した場合、Dは引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- CD 自動車検査証記入申請書
- CD 自動車検査証
- CD 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後3ヶ月以内のもの）
- C 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- CD 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
- D 軽自動車税申告書
- CD 印鑑

CD（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認

⇩

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

7番窓口

ナンバー頒布

CD（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴ 車名および型式、登録番号
⑵ ご購入年月日
⑶ 走行距離
⑷ お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝2018年11月8日　●発行＝2018年11月15日＜非売品＞

181115-1

01999-B2468

ダイハツ工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール　フリーコール　0800-500-0182
受付時間　平日　9:00〜19:00
土日祝　9:00〜17:00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（http://www.daihatsu.co.jp/privacy/index.htm）

シートベルトを締めましょう

車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と
一致しない場合がありますのでご了承ください。